

上 平 遺 跡

第二東名No.104・105地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
掛川市-2(第1分冊)

2008

中日本高速道路株式会社 横浜支社
財團法人 静岡県埋蔵文化財調査研究会

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第187集

上ノ平遺跡

第二東名No.104・105地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

掛川市-2 (第1分冊)

2008

中日本高速道路株式会社 横浜支社
財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

静岡県掛川市の原野谷川流域の遺跡といえば、和田岡丘陵の遺跡群が良く知られている。古墳時代中期の前方後円墳や大型円墳が多く分布しており、弥生時代の集落も広く展開していることがわかってきてている。

上ノ平遺跡は、そこから4kmほど上流にさかのぼった場所にある。調査によって、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡と建物跡が多く発見された。遺跡の存在は以前より知られていたが、これほどの大集落が上流域に展開していたことは、知られてこなかった事実である。その理由としては、和田岡丘陵と比べても発掘調査の少ない地域であることがあげられる。それだけに、今回の調査成果は重要なものとして評価することができる。

大小の竪穴住居跡のほかに、周囲に溝がめぐる住居跡が多く発見されている。登呂遺跡などの低地の遺跡に多く認められる構造であるが、本遺跡は丘陵上の遺跡である。なぜ、低地に多い構造の住居を丘陵上に設けたのか、その出現経緯について検討する必要がある。また、掘立柱建物跡においては、布掘りの建物跡や大型の建物跡の発見があり、この集落が周辺地域における1つの拠点として存在していたことがわかる。

本遺跡の調査成果は、原野谷川上流域に生きていた弥生・古墳時代人の証であり、その人々の生活・文化などの諸相を示すものである。さらに、遠江の中の1つの小地域でありながら、種作の伝播と地域開発、銅鐸祭祖の伝播、古墳文化への変革といった変動する時代像との関連が指摘できることから、当時の地域的な社会動向を示す上でも貴重な資料となる。

現地調査および資料整理、本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）・静岡県教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関各位に多大なご援助、ご理解を得ている。この場をかりて深く感謝申しあげる次第である。また調査にご理解をいただいた地元の皆様、現地での発掘作業、また地道な整理作業にあたられた方々に、この機会に厚くお礼申しあげたい。

平成20年3月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤 忠

例　言

1. 本書は、静岡県掛川市寺島字上ノ平に所在する上ノ平遺跡（第二東名Na104・105地点）の発掘調査報告書である。
2. 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の作成は、地区（市町村）単位にて実施している。掛川地区では本書が2冊目であり、よって「第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書掛川市－2」とした。なお、本書は「第1分冊」と「第2分冊」によって構成されており、本冊は「第1分冊」である。
3. 調査は第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として、中日本高速道路株式会社浜松支社（平成17年途中までは日本道路公団静岡建設局）の委託を受けて、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、掛川市教育委員会の協力を得て、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。
4. 現地調査・資料整理の期間と担当者は以下のとおりである。なお、調査体制は第1章に別記した。
確認調査：平成12年1月～3月　竹原一人、深田雅一
本調査：平成12年4月～平成14年3月　松井文孝、加藤理文、岡部貢之、横山智之
　　深田雅一、中村正宏、橋田光俊
資料整理・報告書作成：平成14年4月～平成15年3月　松井文孝
　　平成15年4月～平成20年3月（中断期間あり）　田村隆太郎
平成12年度～平成16年度の調査・資料整理においては、西井　亨が当研究所主任技術員として担当した（現広島県尾道市職員）。
5. 執筆者および執筆分担は下記のとおりである。
西井　亨：第4章第2節
株式会社ジエネティック：第6章第1～3節
パリノ・サーウェイ株式会社：第6章第4節
田村隆太郎：その他（編集担当）
6. 調査における貢献・協力者は第3章および第7章末に、調査で実施した委託事項および委託先は第3章に記した。
7. 現地の写真撮影は各調査担当者が実施した。空中写真的撮影は委託したものである。遺物の写真撮影は当研究所専用室が実施した。
8. 各調査の概要是、当研究所や他の刊行になる出版物で一部公表されているが、内容において本書と相違がある場合は本書をもって訂正する。
9. 本書の編集は、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所があつた。
10. 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。

凡 例

1. 座標は、平面直角座標WGS系を用いた別土座標、日本測地系（改正前）を使用している。
2. グリッドは、1の座標を用いて1辺10mの方眼を設定している。また、方位も1の座標による方位（座標北）を基準としている。
3. 本書にある図表は、調査で測量・実測したものほか、下に記した各種地図を使用しているものがある。その他に使用した出典などは、必要に応じて各図中に記している。

国土地理院発行の地形図（縮尺2万5千分の1）

国土地理院発行の地形図（縮尺5万分の1）

掛川市役所発行の東遠広域都市計画図（縮尺5千分の1）

中日本高速道路株式会社横浜支社掛川工事事務所管轄（作成時は日本道路公団静岡建設局掛川工事事務所管轄）の第二東名高速道路掛川地区橋杭設置測量（縮尺千分の1）

4. 遺構の表記は次のとおりである。

例) SP15 (SF: 遺構の種別 15: 遺跡内の遺構種類別とおし番号)

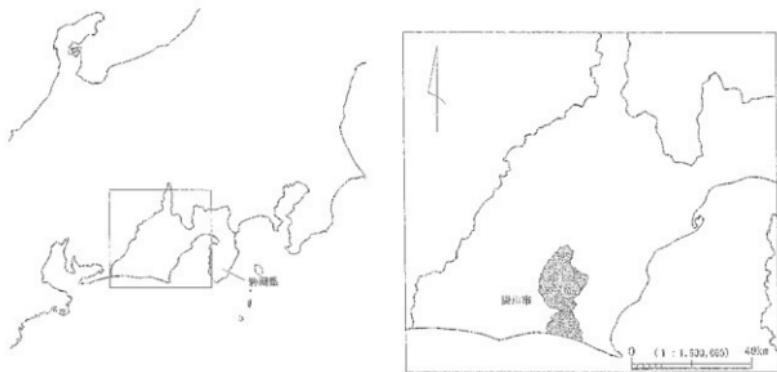
SB: 住居跡 SH: 殿立社建物跡 SP: 土坑 SP: 小穴

SD: 溝 SX: その他・不明遺構 SZ: 方形周溝墓

5. 遺物番号は、掲載遺物について種類・拝図の別に関わらず、とおし番号を付している。

6. 本書の図中に用いたスクリーントーンの使い分け等については、必要なものを各図の中で表記している。

7. 遺構平面図において、破線は遺構範囲の復元・推定線、一点破線は埴土等に影響を及ぼしている新しい遺構の範囲を示している。また、住居跡等の断面図において、太線は据方底面と床面（貼り床上面）、細線はその他の分層を示す。



掛川市および上ノ平遺跡の位置

目 次

巻頭図版／序／例言／凡例

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	5
第1節 調査の体制	5
第2節 現地調査	6
第3節 資料整理・報告書作成	7
第4章 遺構	19
第1節 墓 墓	19
第2節 住居跡	20
第3節 扱立柱建物跡	177
第4節 土坑・不明遺構	282
第5節 方形周溝墓	289

抄 錄

(第2分冊)

第5章 遺 物	
第1節 土 器	
第2節 石 器	
第3節 玉類など	
第6章 自然科学的分析	
第1節 土壌ブロックのCTスキャン分析と炭化米のDNA分析	
第2節 花粉分析	
第3節 プラント・オパール分析	
第4節 炭化材の樹種同定およびC14年代測定・穀子の同定	
第7章 まとめ	
写真図版	

挿図目次

第1回	遺跡の位置	1	第64回	SB54	92
第2回	周辺の遺跡分布	4	第65回	SD73, SD74, SD88~SD89	93
第3回	遺跡の基底と路線範囲	8	第66回	SB55~SD71~SD72	94
第4回	調査区の範囲	9	第67回	SB56~SD70	95
第5回	遺構配置の区分	9	第68回	SB57~SB58~SD67~SD68	96
第6回	遺構配置1	10	第69回	SB59, SB61~SD64	97
第7回	遺構配置2	11	第70回	SB60	98
第8回	遺構配置3	12	第71回	SB62	99
第9回	遺構配置4	13	第72回	SB63, SB64	100
第10回	遺構配置5	14	第73回	SB65, SB66	101
第11回	遺構配置6	15	第74回	SB67~SD90	102
第12回	遺構配置7	16	第75回	SB67~SD90, SB68	103
第13回	全体図(廃川地形)	17	第76回	SB69~SB70~SD84~SD85	104
第14回	全体図(遺構)	18	第77回	SB69~SD84, SB71	105
第15回	SB01, SB02	42	第78回	SB72	106
第16回	SB03~SD01	43	第79回	SB73	107
第17回	SB04	44	第80回	SB74	108
第18回	SB05~SB06~SD02~SD03	45	第81回	SB75	109
第19回	SB07~SD04~SD06	45	第82回	SB75	110
第20回	SB08~SB09	47	第83回	SB77	111
第21回	SB10	48	第84回	SB78~SB79	112
第22回	SB11~SD10~SD11	49	第85回	SB80, SB81	113
第23回	SB12~SD09	50	第86回	SB82~SD87	114
第24回	SB13	51	第87回	SB83~SB84	115
第25回	SB14	52	第88回	SB85	116
第26回	SB15~SD16~SD20 ①	53	第89回	SB87	117
第27回	SB15~SD16~SD20 ②	54	第90回	SB87~SD91~SD92	118
第28回	SB16~SD19~SD51~SD82	55	第91回	SB89~SD93	119
第29回	SB81遺物出土状況, SD76~78~80	56	第92回	SD07~SD08~SD22~SD23, SD42, SD63, SD97	120
第30回	SB18~SD24	57	第93回	SB89~SD94~SD95~SD97~SD101	121
第31回	SB19	58	第94回	SB89~SD99	122
第32回	SB17~SB20	59	第95回	SB91~SB92	123
第33回	SB21	60	第96回	SB93, SB94	124
第34回	SB22	61	第97回	SB95	125
第35回	SB23~SD25~SD26	62	第98回	SB95, SB97	126
第36回	SB24, SD25	63	第99回	SB98	127
第37回	SB26~SD33	64	第100回	SB99~SB100~SD105	128
第38回	SB27~SD32	65	第101回	SB101~SD107~SD108	129
第39回	SB27模化米出土状況	66	第102回	SB102~SB103	130
第40回	SB28~SD30~SD31	67	第103回	SB104~SD110	131
第41回	SB25~SB28, SD30~SD33	68	第104回	SB105~SB106~SB107	132
第42回	SB29	69	第105回	SB108, SB109	133
第43回	SB30	70	第106回	SB110~SD116~SD120	134
第44回	SB31~SB32	71	第107回	SD118~SD117~SD119~SD120	135
第45回	SB33, SB38	72	第108回	SB111, SB112	136
第46回	SB34	73	第109回	SB113~SD121	137
第47回	SB35~SB36	74	第110回	SB114	138
第48回	SB37~SD43~SD45 ①	75	第111回	SB115~SB117	139
第49回	SB37~SD43~SD45 ②	75	第112回	SB116, SB117	140
第50回	SB39~SB40~SD46~SD47	77	第113回	SB118	141
第51回	SB41~SD50	78	第114回	SB119~SB120	142
第52回	SB42~SD49~SD51 ①	79	第115回	SB121	143
第53回	SB42~SD49~SD51 ②	80	第116回	SB122	144
第54回	SB43	81	第117回	SB123, SB124	145
第55回	SB44	82	第118回	SB125	146
第56回	SB45, SB46	83	第119回	SB126~SB127~SD123~SD124 ①	147
第57回	SB47, SB48	84	第120回	SB126~SB127~SD122~SD124 ②	148
第58回	SB49~SB51~SD52~SD55~SD60	85~86	第121回	SB128	149
第59回	SD57	87	第122回	SB129 ①	150
第60回	SB49~SB51~SD56~SD59	88	第123回	SB129 ②	151
第61回	SB52~SD61	89	第124回	SB135	152
第62回	SB53	90	第125回	SB131~SB132	153
第63回	SB54~SD73~SD74	91			

第126回	SB133	154	第192回	SH85・SH86	225
第127回	SB134	155	第193回	SH84, SH85・SH86	226
第128回	SB135・SB136	156	第194回	SH87, SH88	227
第129回	SB137	157	第195回	SH89, SH90	228
第130回	SB138	158	第196回	SH91, SH92	229
第131回	SB139	159	第197回	SH93, SH94	230
第132回	SB140・SB141	160	第198回	SH95, SH96, SH97	231
第133回	SB142, SB144	151	第199回	SH98, SH99	232
第134回	SB143	162	第200回	SH100, SH101・SH102	233
第135回	SB145～SB147 ①	163	第201回	SH103, SH104	234
第136回	SB145～SB147 ②	164	第202回	SH105～SH108	235
第137回	SB148・SB149	165	第203回	SH109, SH110	236
第138回	SB150	166	第204回	SH111	237
第139回	SB151, SB152	167	第205回	SH112, SH117	238
第140回	SB153・SB154	168	第206回	SH113・SH114	239
第141回	SB155・SB156	169	第207回	SH115・SH116, SH118・SH119	240
第142回	SB157・SB158	170	第208回	SH120～SH122	241
第143回	SB157・SB158, SB159	171	第209回	SH123, SH126	242
第144回	SB160～SB162 ①	172	第210回	SH124～SH135	243
第145回	SB160～SB162 ②	173	第211回	SH124, SH128	244
第146回	SB163・SD125	174	第212回	SH125	245
第147回	SB164・SD125	175	第213回	SH127・SH132	246
第148回	SB165・SD115	176	第214回	SH128・SH133・SH134	247
第149回	獨立柱造跡の模倣と柱穴の複数	177	第215回	SH130・SH131	248
第150回	SH01, SH02	183	第216回	SH135	249
第151回	SH03, SH04	184	第217回	SH136, SH137	250
第152回	SH05, SH06	185	第218回	SH138, SH139	251
第153回	SH07, SH08	186	第219回	SH140, SH145	252
第154回	SH09, SH15	187	第220回	SH141, SH142	253
第155回	SH10・SH11	188	第221回	SH143・SH144	254
第156回	SH12～SH14	189	第222回	SH145～SH150, SH183・SH184	255
第157回	SH16, SH18・SH19	190	第223回	SH145・SH147	256
第158回	SH17～SH23・SH25～SH27	191	第224回	SH148	257
第159回	SH17・SH20	192	第225回	SH149	258
第160回	SH21	193	第226回	SH150・SH163	259
第161回	SH22, SH23	194	第227回	SH151, SH154	260
第162回	SH24, SH28, SH29	195	第228回	SH152・SH163	261
第163回	SH25・SH26	196	第229回	SH155・SH158	262
第164回	SH27	197	第230回	SH157	263
第165回	SH29, SH31	198	第231回	SH158, SH159	264
第166回	SH32, SH33・SH34	199	第232回	SH160・SH161	265
第167回	SH35, SH35	200	第233回	SH162, SH168	266
第168回	SH37・SH39, SH39	201	第234回	SH163・SH164・SH1185	267
第169回	SH40～SH42	202	第235回	SH166～SH168	268
第170回	SH43, SH44	203	第236回	SH169	269
第171回	SH45～SH53	204	第237回	SH170・SH171	270
第172回	SH45, SH47	205	第238回	SH172	271
第173回	SH46・	205	第239回	SH173～SH175	272
第174回	SH48・SH49	207	第240回	SH176, SH177	273
第175回	SH50, SH54・SH55	208	第241回	SH178	274
第176回	SH51	209	第242回	SH179・SH180	275
第177回	SH52・SH53	210	第243回	SH181・SH182, SH186	276
第178回	SH55・SH57, SH54	211	第244回	SH184	277
第179回	SH55・SH59	212	第245回	SH187	278
第180回	SH60・SH61	213	第246回	SH188	279
第181回	SH62・SH63	214	第247回	SH189, SH190	280
第182回	SH65・SH67	215	第248回	独立構造柱の可能性	281
第183回	SH66	216	第249回	SF01～SF05	283
第184回	SH66, SH69・SH70	217	第250回	SF08～SF10	284
第185回	SH71, SH75	218	第251回	SF11～SF16	285
第186回	SH72～SH74	219	第252回	SF17, SF18, SF21	286
第187回	SH76, SH77	220	第253回	SF19, SF20, SF22	287
第188回	SH78, SH81	221	第254回	SK01, SK03～SK06	288
第189回	SH79・SH80	222	第255回	SZ01	289
第190回	SH82・SH83	223	第256回	SZ01遺物出土状況	291
第191回	SH82・SH83, SD76～SD79	224	第257回	SZ02	292

挿表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	4	第4表	獨立性建物跡一覧	180
第2表	調査体制と調査実績内容(平成19年度まで)	5	第5表	土坑・不明遺構一覧	282
第3表	住居跡一覧	39			

写真目次

写真1	住居跡の検討	6
-----	--------	---

東名高速道路は昭和44年の開通以来、日本の大動脈の一部として大きな役割を果たしてきている。しかし、経済発展に伴って混雑が著しくなり、高連性・定時性を伴う交通需要に対応することが困難になると予測されるようになってきた。この問題に対する抜本対策として第二東名高速道路が計画、静岡県内においては、東西に貫く形で延長約170kmの路線が策定された。

この計画に伴い、静岡県教育委員会は日本道路公団から埋蔵文化財分布調査の手続きの依頼、埋蔵文化財包蔵地の所在の有無についての照会を受けた。埋蔵文化財の所在についての回答は、関係市町村教育委員会へ照会した結果を基に協議し、静岡県教育委員会が取りまとめて行った。調査対象となる地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地を中心に県内130以上に及ぶこととなった。

その後、日本道路公団に第二東名建設の施行命令が出されたことに伴って、日本道路公団、静岡県土木部、静岡県教育委員会が埋蔵文化財調査の進め方等について協議した。また、発掘調査の実施については、日本道路公団が財团法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（以下、財團法人を除いて記す）へ委託することが確認されている。平成8年度には埋蔵文化財調査の実施が具体化し、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについての確認書を締結した。さらに、静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた三者は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等を定めた協定書を締結した。この年度から、静岡県における第二東名建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査がはじまっている。なお、平成17年度の日本道路公団の民営化に伴って、日本道路公団静岡建設局による埋蔵文化財発掘調査の委託は、中日本高速道路株式会社横浜支社に引き継がれている。

掛川市域においても、同様に調査がはじまっている。市域には延長約11.5kmの路線が設定されており、12の調査対象地の確認調査を実施、その結果、9地点に8つの遺跡の存在が認められた。この結果に基づいて、各遺跡の発掘調査が行われている。全ての確認調査と8遺跡の現地発掘調査、資料整理は、静岡県教育委員会の指導のもとで、静岡県埋蔵文化財調査研究所が行っている。なお、上記の経緯についての詳細、掛川域の確認調査の内容については、既に公表したものがある（静岡県埋蔵文化財調査研究所2005）。

原野谷川の西側においては、路線に沿ってNo101地点～No105地点の確認調査を実施し、丘陵先端部上に立地する角鹿Ⅰ遺跡（No102地点）、角鹿Ⅱ遺跡（No103地点）、丘陵上に立地する上ノ平遺跡（No104-105地点）が発見・調査された。本書では、弥生時代～古墳時代の集落跡を主とする上ノ平遺跡の調査成果を報告する。



第1図 遺跡の位置

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

掛川市の北部には中部山岳地帯に続く山地が広がり、その山麓部を原野谷川・倉真川・逆川などの河川が流れる。原野谷川は、八嵩山山地中の谷より山地間を蛇行しながら南西へと流れ（上流域）、原里のあるあたりから蛇行の少ない南への流れ（中流域）となり、冲積平野の広がる下流域に至る（第1図）。

上ノ平遺跡は、原野谷川の上流域と中流域との境界付近、その西側丘陵上に立地する。立地する丘陵は北西部を最高所とし、そこから三方に分かれて西や南面にのびる（第3図）。標高は約95～120m、東側の水田面からの比高は約45～70mである。遺跡の西側には山状の丘陵が続き、その頂上に標高123.8mの三角点が位置する。三方に分かれる丘陵の内、南の丘陵は比較的緩やかである。中央と北の丘陵上には幅50m前後の平坦面があり、北西部では幅100mほどの広さとなる。多くが茶畠となっていることから、ある程度の造成はあったと推測できる。しかし、遺跡の残存などを考慮すると、本来の地形の特徴を残しているものと把握できる。

眼下の河川流域には、幅約600mの平野部がある。しかし、南と北に畠地になる部分があり、この広がりは3200mの長さに及ぶ。遺跡からは、この平野部が一望でき、さらに南側の平野部や下流域の小笠山丘陵まで見ることができる。三角点の場所まで上れば、西側の太田川流域（森町）を見ることもできる。ゴルフ場となっている北側の丘陵は、遺跡のある場所よりも高くそびえる。

第2節 歴史的環境

（1）旧石器時代・縄文時代

當山遺跡（9）では、仲屋栄一氏によって縄文時代草創期の有舌尖頭器が採集されている（掛川市教育委員会1984aなど）。仲屋氏は古くから多くの遺物を収集しており、資料館を建てて展示公開している。

荻ノ段遺跡（19）では、仲屋氏所蔵の遺物に加えて、1977年の発掘調査資料がある。縄文時代早期から中期の土器・石器・耳飾りが発見されている。発掘調査の概報では、竪穴住居跡・屋外炉跡・小形土塚状遺構の発見も報告されている（掛川市教育委員会1977など）。上ノ段遺跡（14）では、仲屋氏によつて縄文時代中期から晩期の土器・石器のほか、石剣・石棒・大珠・土偶片が採集されている（掛川市教育委員会1984aなど）。このほか、多くの遺跡で縄文時代の遺物が採集されている。和田遺跡（12）の発掘調査では溝・小穴が発見され、土器・打製石斧が出土している（掛川市教育委員会1996）。

（2）弥生時代

原野谷川中・下流域においては、比較的大きな弥生集落跡がいくつか知られている。それに対して上流域では、調査によって内容が明確になっている弥生時代の遺跡が少ない。ただし、弥生土器が採集されている痕跡はあり、規模の大小はあろうが、上流域にも弥生時代の営みがあったことがわかる。

長福寺の周辺（38～40）・荻ノ段遺跡（19）・上ノ段遺跡（14）では、弥生時代中期以前の土器片が採集されている（松井ほか2001など）。しかし、後期の遺物が認められる遺跡の方がが多い（掛川市教育委員会1984a）。荻ノ段遺跡では、中・後期の住居跡と方形周溝墓の発見が報告されている（掛川市教育委員

会1977)。また堂山遺跡(9)では、発掘調査によって中・後期の住居跡と古墳時代前期の方形周溝墓が発見されている(掛川市教育委員会2000)。その他、本遺跡や上ノ段遺跡などを含む10以上の遺跡で、後期の遺物が採集されている(掛川市教育委員会1984a)。

(3) 古墳時代

集落跡はほとんど知られていない。しかし、堂山遺跡(9)で古墳時代前期の周溝墓が発見されており、先述の弥生時代後期を主とする遺跡の中に、古墳時代前期に至るもののが含まれる可能性はある。

古墳については、本遺跡と同じ丘陵上に明神山古墳群(28)、周辺域に萩ノ段古墳(19)・長福寺古墳群(39)が分布する。いずれも、敷基の中小円墳による古墳群で、前方後円墳・大規模古墳・大群集墳などは認められない。明神山古墳群(28)は、3基の円墳で構成されている。

この中で詳細がわかるのは長福寺1号墳(39)だけである。直徑約17mの円墳で、全長約9.6mの横穴式石室を埋葬施設とする。須恵器・装身具・鉄製武器・鈴・金銅裝馬具・装飾付大刀片が出土しており、後期後半における周辺域(小盆地)の首長墓であると考えられる(田村ほか2001)。一方、この周囲には横穴群も展開しており、一部から須恵器・土師器・鉄製武器・装身具のほか、人骨が多く発見されている(掛川市教育委員会1997・静岡県考古学会2001)。横穴墓の分布はこの周辺が北限となる。

前・中期古墳に比べて後期・終末期古墳の方が多く、広く分布することを考えれば、明神山古墳群(28)などは後期～終末期の古墳群である可能性が指摘できる。なお、萩ノ段古墳(19)出土の須恵器が知られており(掛川市教育委員会1984a)、古墳時代終末期以降のものと判断できる。

(4) 奈良時代～中世

奈良時代以降の遺物が採集されている遺跡はいくつかある。堂山遺跡(9)の発掘調査では、平安時代後期の白磁碗が出土しており、墓に入れられたものと判断されている(掛川市教育委員会2000)。しかし、多くの場合はどのような遺跡が展開しているかをあまり知ることができない。調査事例の少ない原野谷川上流域においては、奈良・平安時代の遺跡について多くを述べることはできない。

中世の遺跡についても同様、発掘調査事例は少ない。ただし、城跡などについては、比較的多くを知ることができている(静岡県教育委員会1981・掛川市教育委員会1995など)。鎌倉時代以後、戦国時代まで国人領主となっていた足利氏を中心とした地域であり、原野谷川上流域の柄原城(6)・高山城(16)・寺田館(29)・古城(44)・幡鎌城(34)などはその関連のものであるとされている。

参考文献

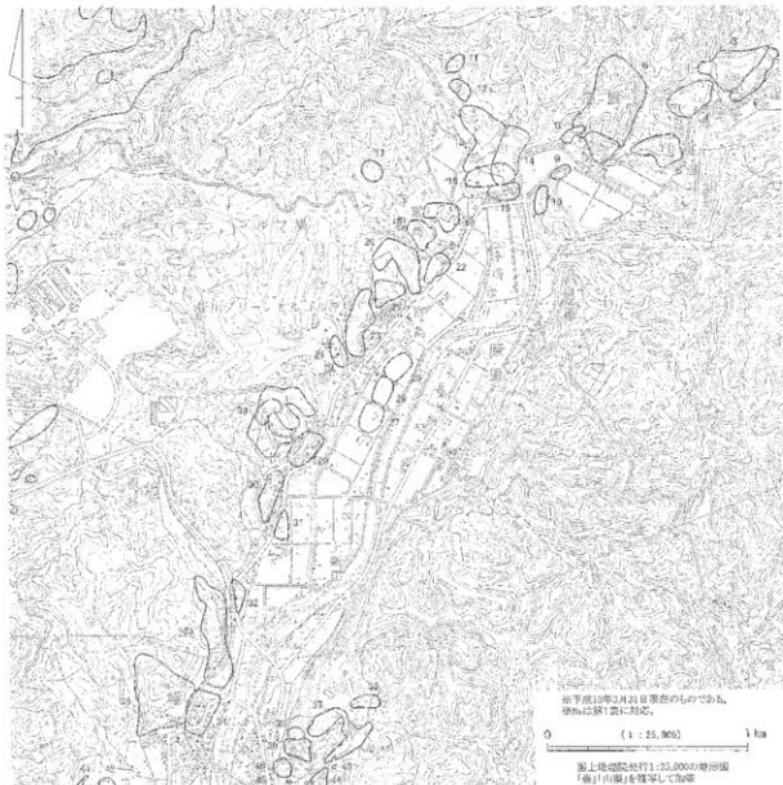
- 掛川市教育委員会 1977 「萩ノ段遺跡調査概報」
- 1984a 「掛川市遺跡分布調査報告Ⅰ」
- 1984b 「掛川市遺跡分布調査報告Ⅱ」
- 1996 「出土文化財譜」
- 1997 「出土文化財譜」
- 2000 「出土文化財譜」
- 掛川市史編さん委員会 1997 「掛川市史」上巻
2000 「掛川市史」資料編 古代・中世
- 静岡県教育委員会 1981 「静岡県の中世城跡」
- 1983 「静岡県文化財地図Ⅱ－焼津市以西－」
- 静岡県考古学会 2001 「東海の横穴墓」
- 静岡県型式文化財調査研究所 2003 「掛川市原野谷川上流域の遺跡」
- 川村隆太郎・鈴木一有・大谷治宏・井口哲博 2001 「沿江長福寺1号墳の研究」『静岡県考古学研究』No.32
- 松井一男・大谷宏治 2001 「長福寺出土の遺物について」『静岡県考古学研究』No.33

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	上ノ平遺跡	縄文・弥生・古墳	16	鳥山城	牛世	31	丁ノ仲遺跡	古墳
2	知見寺遺跡	縄文	17	秋ノ庭貝塚	縄文	32	飛比志遺跡	弥生
3	西隅戸遺跡	縄文	18	紙遺跡	山田留・縄文・弥生	33	横根山古墳群	弥生・古墳
4	鳥瀬遺跡	縄文	19	萩ノ段遺跡	縄文・弥生・古墳	34	稻原城	中世
5	寺ノ段遺跡	縄文	20	芋ノ裏跡	縄文・弥生	35	要門遺跡	縄文・弥生
6	御前城	中世	21	芋田御跡	縄文・弥生・古墳	36	八海山遺跡	弥生
7	大門遺跡	縄文	22	平田遺跡	縄文	37	又太郎遺跡	弥生・奈良・平安
8	花ノ木沢遺跡	弥生	23	角庭Ⅰ遺跡	縄文・立賀・余良	38	安里山遺跡	縄文・弥生・古墳
9	愛山遺跡	弥生	24	角庭Ⅱ遺跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	39	長福寺古墳群	古墳
10	中庭遺跡	縄文・弥生	25	火神跡	古墳	40	長福寺西遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
11	小谷沢遺跡	縄文・古墳	26	南新遺跡	弥生・古墳・奈良	41	久保山横穴群	古墳
12	利田遺跡	縄文・弥生	27	上川原遺跡	古墳	42	久保遺跡	弥生
13	大割遺跡	縄文・弥生・古墳	28	明持山古墳群	古墳	43	藤原塚古墳	古墳
14	上ノ段遺跡	旧石器・縄文・古墳	29	寺田城	平安	44	古跡遺跡	弥生・古墳
15	松下遺跡	縄文・弥生	30	原道跡	縄文	45	長福寺門前古墳	古墳

※平成18年3月31日現在のものである。

※地図は第2回に記載。



第2図 周辺の遺跡分布

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の体制

本書で報告する上ノ平遺跡の調査は、第2表にある体制で実施した。実際には、第二東名建設事業に伴う掛川工区（金谷町・掛川市・森町・豊岡村域）の掛川市内（以下、掛川地区）の埋蔵文化財発掘調査（以下、本事業）として体制を組んでおり、第2表はその一部にあたる。なお、掛川地区全体の体制については、既に記したものがある（静岡県埋蔵文化財調査研究所2005）。

第2表 調査体制と調査実施内容（平成19年度まで）

		平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
	所長	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠	齋藤 忠
	副所長	山下 晃	山下 晃	山下 晃	飼田英夫	飼田英夫	飼田英夫	飼田英夫	飼田英夫	
	常務理事兼事務局長									清水 哲
	事務局次長									
調査能務部担当	常務理事兼能務部長	伊藤友雄	伊藤友雄	栗田徳幸	栗田徳幸	栗田徳幸	平松公夫	平松公夫	平松公夫	
	次長					飼田英巳	飼田英巳	飼田英巳	飼田英巳	
	能務課長	杉本敏雄	杉本敏雄	本杉昭一	本杉昭一	飼田英巳	飼田英巳	飼田英巳	飼田英巳	大場正夫
	経理専門員	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	福嶋保幸	佐野五十三
	総務係長						芦川美奈子	芦川美奈子	芦川美奈子	及川司
	会計係長								杉山和枝	福嶋保幸
	廣主任		鈴木秀幸	鈴木秀幸			中鉢京子	中鉢京子		
	主事	鈴木秀幸			鈴木秋博	鈴木秋博				
	部長	佐藤輝雄	佐藤輝雄	佐藤輝雄	山本昇平	山本昇平	山本昇平	石川謙久	石川謙久	
	次長	佐野五十三	及川司	栗野克己及川司	栗野克己及川司	栗野克己中嶋郁夫	栗野克己中嶋郁夫	栗野克己中嶋郁夫	栗野克己中嶋郁夫	佐野五十三及川司
調査研究部	担当課長	及川司	及川司	及川司	鶴原修二	足立順司	中嶋郁夫	中嶋郁夫	及川司	福嶋保幸
	会計担当									中嶋京子
	担当課長									高橋泰志
	工区主任	鶴原修二	加藤理文	加藤理文						
	主任調査研究員				松井文泰					
	調査研究員	竹原一人 深田聰一	松井文泰 横山智之 中村正宏	松井文泰 同前貴之 飼田雅一 飼田光俊		田村隆太郎	田村隆太郎	田村隆太郎	田村隆太郎	田村隆太郎
内容実施	現地調査	確認調査	本調査	本調査						
	資料整理・報告書作成						掛田地区全体を対象として実施			

第2節 現地調査

調査区の設定 過去に本遺跡を対象とした発掘調査は実施されていない。したがって、以下に述べる調査区は、本遺跡で最初の調査区となる。

遺跡の範囲は第3図のとおりであるが、その北部が第二東名高速道路の工事範囲と重なることになった。発掘調査は工事範囲内を対象とし、確認調査によって把握した遺跡の有無と範囲に基づいて実施した。したがって、調査区（調査範囲）は工事範囲と遺跡確認範囲に規定されることになり、第4図にあるとおり、概ね遺跡の北部に該当する。調査区の東西および北側には、遺跡が広がらない。南側には遺跡が広がるが、工事の対象範囲外となる。

なお、表紙などに記した「Na○○地点」については、確認調査前に付けられた第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査事業固有の番号である。詳細は別書にて既述しているが（静岡県埋蔵文化財調査研究所2005）、実際の遺跡の名称・内容と関連するものではない。

準備 伐採の終了など調査可能な状態であることを確認した上で、平成12年4月より重機進入路の設置、作業員棟等の搬入・設置、器材などの準備を行った。

調査区内の分割 表土除去以降の作業は、廃土置場などの諸事由によって調査区全域を同時にを行うことができなかった。調査区を東・中・西に大別し、東部の調査は平成12年5月から平成13年3月、西部の調査は平成12年12月から平成14年3月に断続的に実施、中央部の調査は平成13年10月および平成14年1月～3月に実施した。さらに、調査の進捗状況をみた上で、各部内を細分して諸作業を行う場合もあった。重機による表土除去やグリッド杭設置は部ごとに実施、人力掘削や遺構検出、測量および部分的な写真撮影は随時実施している。調査区全体の写真撮影は、東部と中央部～西部の2回に分割して実施することとなった。各作業の方法は、以下のように統一している。

表土除去～遺構検出 調査区の大半は茶畠などによる削平が認められ、表土・擾乱層の下面が遺構面となっている。表土除去は、基本的に重機によって実施した。ただし、住居跡などの遺構の状態によって、遺構面上数cmの除去を人力で行った場所もある。

表土除去の後、平面的な遺構プランの検出を人力によって行った。遺構の有無・形状や數だけでなく、可能な限り切り合い関係も把握した。遺構検出は、平面プランによって確認された遺構について、新しい遺構を先行させながら人力で行った。遺構の検出に際しては、主軸（長軸）や主軸直交方向などに土層帯を設け、土層断面によって覆土の状況を観察・注記、土層断面の記録を行った。本遺跡では遺構の重なりが多かったため、平面プランおよび土層断面によって切り合い関係を把握した。また、竪穴住居跡の床面（床構築土）と廃絶以降の覆土との識別が困難な場合が多く、土層断面による検討を要したものも少なくなかった。土層断面



写真1 住居跡の検出

による検討・記録の後、土層帶を除去して遺構全体を検出した。

遺構と遺物 遺構調査（検出）に際しては、まず座標（改正前の日本測地系）に合わせた10m方眼のグリッドを設定し、グリッド杭を設置した。グリッドは、調査区全体にまたがるように設定した。遺構番号は調査中に順次付していくが、本報告に際して、全遺構に対して遺構種類別に新たな番号を付しました。遺物については、遺構内出土遺物は遺構ごと、遺構外出土遺物はグリッドごとに取り上げた。使用・廃絶の状態を示す出土状況については、実測・写真にて記録し、番号を付して取り上げている。一方、表土除去中などに散在的に出土した遺物については、東部・中央部・西部といった単位で一括している。

記録作業 現地の記録画面は、遺構図1/20、詳細図1/10以下を基本とし、主にグリッドに沿って作成した。現地記録写真的撮影は、6×7版モノクロと35mm判リバーサルを用い、作業工程撮影用に35mm判カラーネガを使用した。一部には6×7版リバーサルなども用いている。

実測や写真撮影は必要に応じて隨時実施しているが、遠景・全貌の写真撮影および最終段階（完掘状態）での遺構図作成においては、空中写真撮影・測量も利用している。なお、基準点測量、グリッド杭打設、空中写真撮影・測量、平面図作成は、株式会社フジヤマに委託して実施している。

現地報告会 依頼を受けての見学会を数度行ったほか、平成13年11月と平成14年4月に2度の現地説明会を実施した。

第3節 資料整理・報告書作成

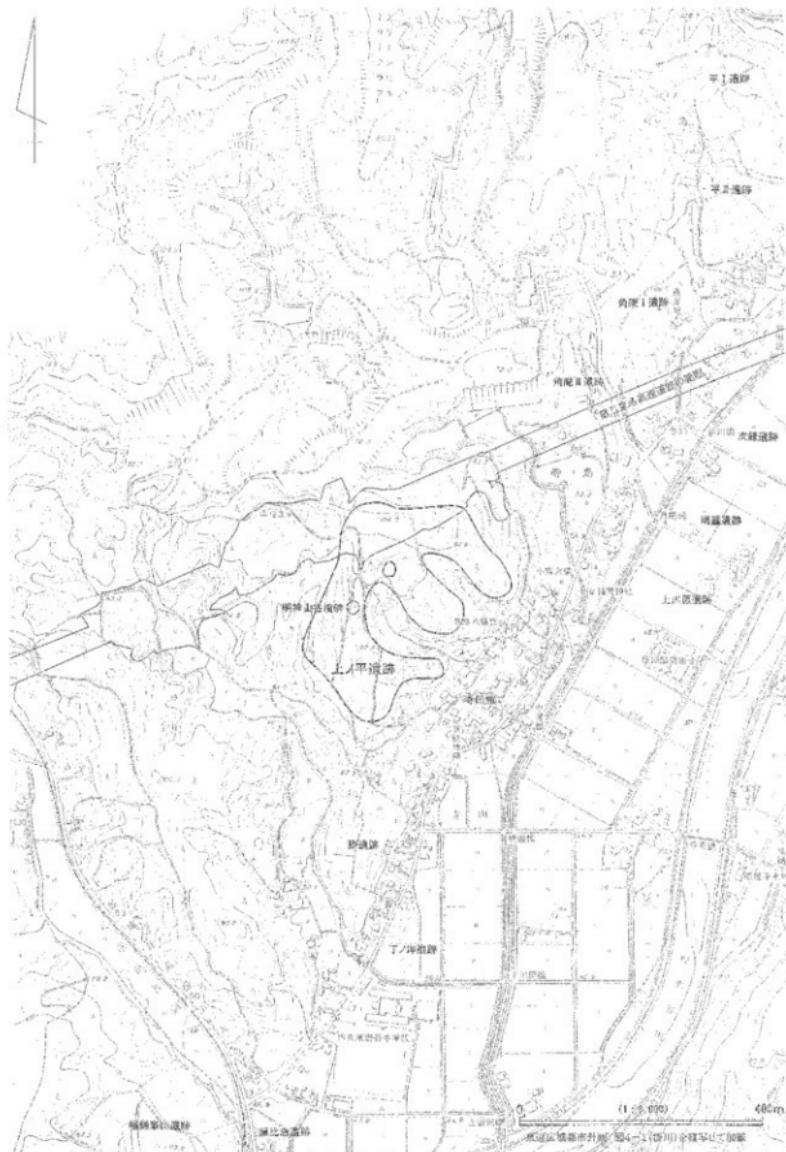
基礎整理 本事業においては、現地調査を優先するという方針であったため、多くの現地調査が終了した後に、各遺跡の資料整理を実施することになった。ただし、現地調査を実施しながらも行える、基礎的な整理作業（各種台帳作成、写真的整理・収納、図面の整理・収納、出土遺物の洗浄・注記、遺跡概要の整理など）もある（以下、基礎整理）。この基礎整理については、現地調査を実施している期間の整理作業として行った。

資料整理・報告書作成 本書に関係する資料整理を開始したのは、平成14年4月である。出土土器の接合および復元、遺物の図化作業、遺構図・遺物図等の編集、各図のトレース作業、観察表等の作成、遺物の写真撮影、報告の執筆を行った。さらに、これらを編集して報告書を作成した。本書で報告する遺跡の資料整理は、掛川工区内の他遺跡の資料整理・報告書作成作業、さらには他の現地調査の実施と重なりながら実施していく。したがって、資料整理の期間は平成19年度に至る長期なものとなったが、その間の作業進捗は極めて断続的であった。

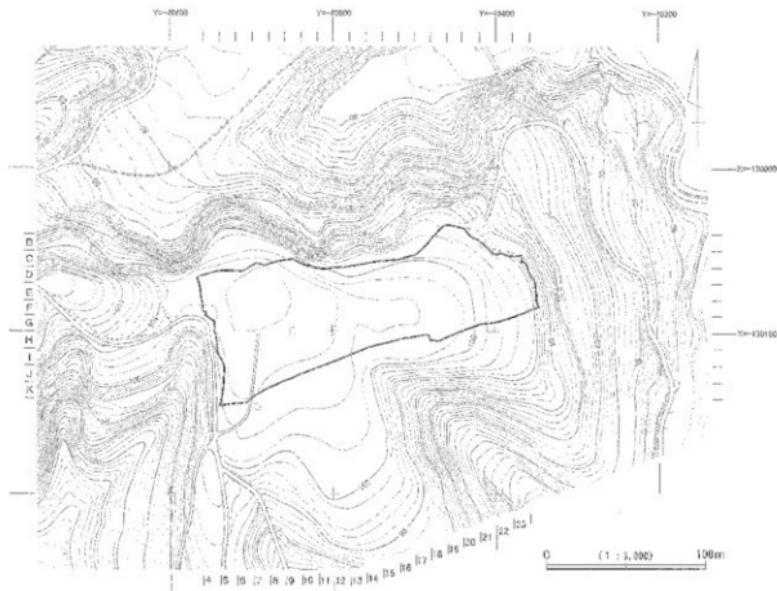
遺物写真は当研究所写真室が実施した。6×7判モノクロを基本とし、必要に応じて6×7版リバーサルや4×5判を用いた。全体図と遺構図の約半分は、編集・作成を株式会社フジヤマに委託して実施した。石器の実測・トレース・観察表作成については、株式会社アルカに委託して実施した。

分析・調査指導等 現地調査および資料整理のなかで、炭化米に関する分析を佐藤洋一郎氏（静岡大学）の御指導のもと株式会社ジェネティックに委託して実施した。また、炭化材・種子に関する同定・分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して実施した。

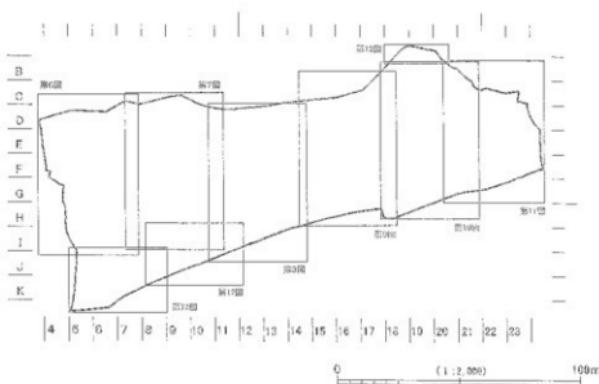
また、現地調査においては向坂鋼二氏（当研究所評議員）から御指導いただいたほか、調査区北縁部の地割れ跡について加藤芳朗氏（当研究所評議員）から御指導いただいた。その他、現地調査および資料整理の中で、多くの方々から御教示いただいた（第7章末参照）。



第3回 跡跡の範囲と路線範囲



第4図 調査区の範囲



第5図 測査配図の区分



第6図 遺構配置図

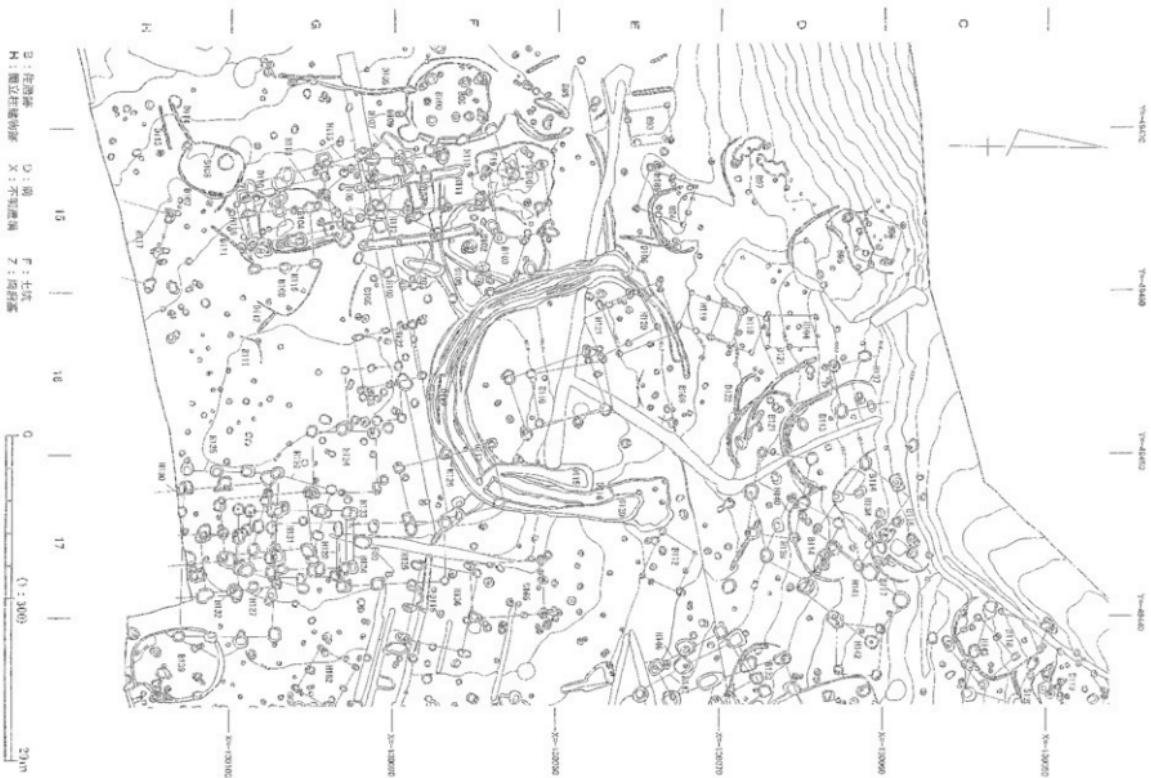


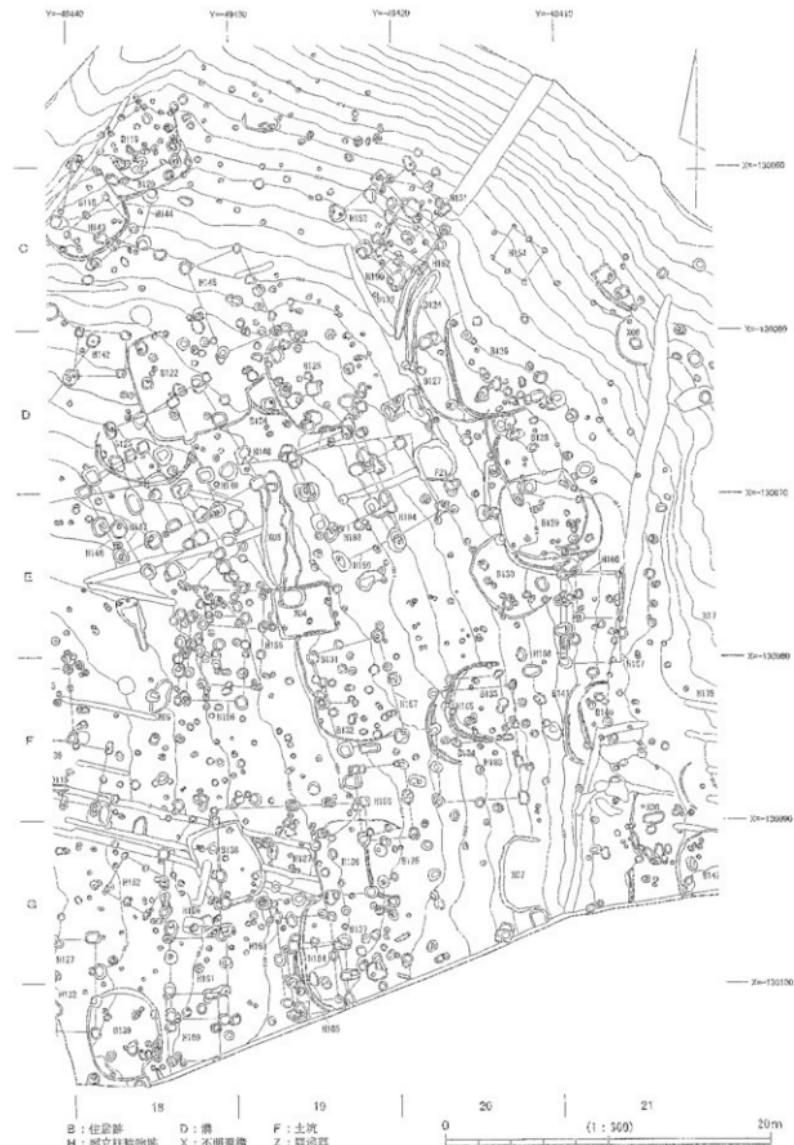
第7図 遺構配図 2



第3圖 電梯配圖3

第8圖 潛標配置図



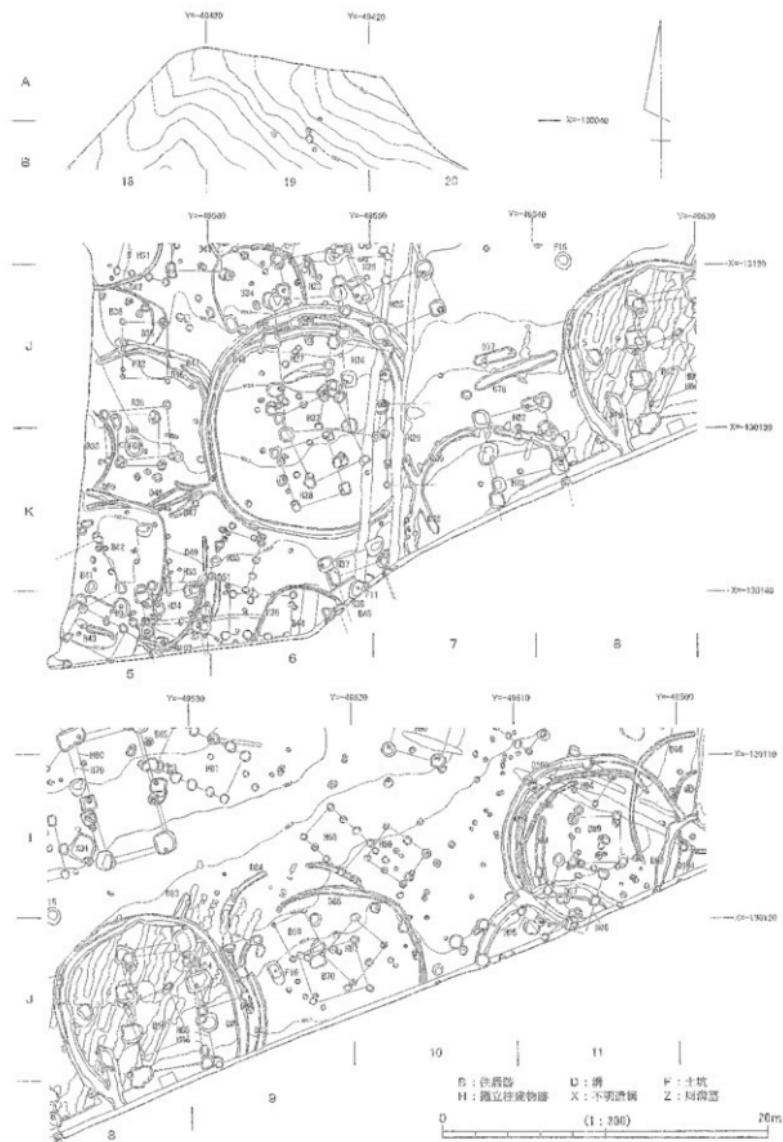


第10図 滾槽配置 5

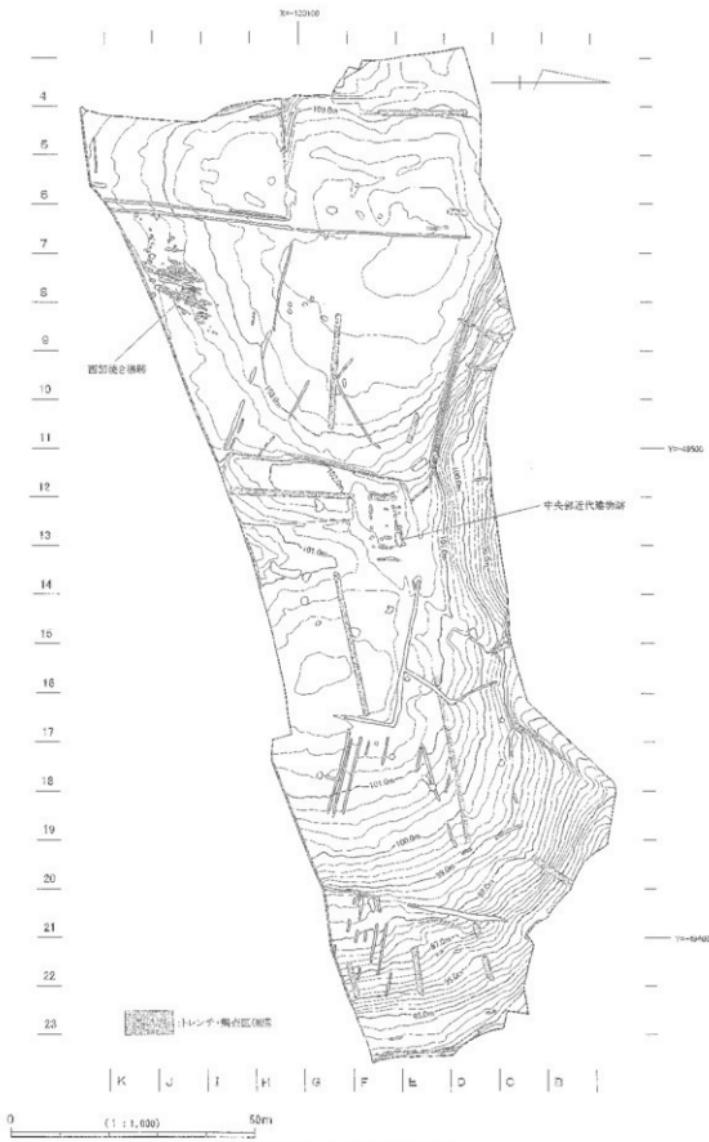
第11圖 地圖範例 6

图例：
H：居民地 D：道路 Z：河流
F：坡地 P：海岸線
比例尺：1:3000
0 25m





第12図 遺構配図 7



第13図 全体図（検出地形）



第14図 全体図 (遺構)

第4章 遺構

第1節 概要

I. 基本土層と地形

基本土層 本調査区内の基本土層は、上からⅠ層：表土・搅乱・耕作土層、Ⅱ層：暗褐色砂質土層および褐色粘質土層、Ⅲ層：黄褐色砂質土層および黃褐色粘土質土層で構成されている。

丘陵上の遺跡ではあるが、広い平坦面を伴うことから、ある程度のⅡ層の堆積はあったと判断できる。ただし、調査区全域が茶畠として利用されていたため、Ⅰ層が厚く、大半では耕作などにより層にまで達していた。堆積層の多くは造成・耕作などによって擾拌されたと推測でき、Ⅱ層は、中央部の谷と遠隔内に残されているだけであった。

以上から、遺構検出面はⅠ層を除去して現われるⅢ層上面となった。したがって、比較的容易に遺構を発見することができた。

搅乱・地滑り（第13・14図） 調査区内の各所に、茶畠の地墳による溝状の擾乱が検出された。H5～I12グリッドやH7～K7グリッドには、道を兼ねた地境跡が認められる。区画ごとに削平の度合（深度）が異なっており、地塊に段差を伴うものもある。とくに、F12～I12グリッドの段差は大きく、西側が著しく削平されていた。この部分では、本来の地形の特徴が失われ、多くの遺構が消失していると判断できる。F13グリッドの建物跡も、この削平・造成に関連する可能性が高い。その他の擾乱としては、茶畠の畝に沿った溝状の擾乱や造成時の重機の爪跡（J8グリッド付近）などが検出された。

調査区北縁の西半（C・Dの8～13グリッド）には、東西にのびる地滑りの跡が認められた（第14図）。地層の対応などを観察した結果、南北2列の地滑り跡が認められ、上段（南側）は2m強、下段（北側）は0.2m程の段差が生じていることが把握できた。下段には断面V字の深い亀裂を伴っており、その中に堆積層（暗褐色砂質土層）などが落ち込んでいた。遺構の状態やV字内に落ち込んだ土砂・遺物から、遺跡形成時期（弥生・古墳時代）よりも後の地滑りであると判断できる。また、遺構の残存状況から、調査区北縁の東部にも同様の地滑りがあったと推測できる。

地形の概要（第13図） 先述のとおり、全体的に削平の影響を認めることができ、本来の地形そのものを検出することはできなかった。しかし、遺構の残存状況などをみる限り、E・Iの12・13グリッド以外においては、本来の特徴を反映した地形が検出されたと判断することができる。

調査区内の地形は、中央部の谷を境に東西に分かれる。中央部の谷は、G14グリッドから南へと深くなり、調査区外へと続く。調査区外では南西に曲がりながら下り、原野谷川流域の平野部に至る。

西半部の地形は、東西70m強の平坦面である。最高所はE7グリッドの標高103.8m強であり、そこから南東へと緩やかに下がる。南側は調査区外へと平坦面が続き、遺跡中央の尾根につながる。北側と西側の調査区外には、遺跡の境となる谷がある。ただし、D・Eの4グリッドの西側には尾根が続き、三角点のある山へと上っていく。

東半部は、最高所がG16グリッドの標高101.8m強であり、平坦面と東の丘陵先端へと下る斜面部がある。平坦面の範囲は、東西が約55m、南北が谷によって約55mに張られる。中央～北部にあたる約3分の2が調査区内にあり、残りの3分の1（南部）は調査区外となる。斜面部は、基本的には東へと急傾斜になっていく。ただし、その傾向とは異なる傾斜の緩急があり、E～Gの21グリッド周辺とC～Fの23グリッドに比較的緩くなる部分がある。



2. 遺構について

遺構の分布（第14図） 平坦面では、密集するように多くの遺構が検出された。重複も多い。斜面部や谷部では遺構密度が低い。しかし、急斜面の際にまで遺構が分布しており、重複も認められる。

遺構の種類 検出遺構の多くは、その特徴や遺物から、弥生時代後期～古墳時代前期の集落に伴うものと把握できる。ただし、一部に縄文時代の落し穴・住居跡や古代の掘立柱建物跡も含まれる。

住居跡として認められる遺構が多く検出されている（SB01～SB165等）。の中には、周溝を伴う住居跡と伴わない竪穴住居跡がある。周溝を伴う住居跡については、周溝の内側に竪穴住居跡が検出される場合と検出されない場合とがあり、後者は平地式の住居であった可能性が指摘できる。なお、諸研究において「周溝をもつ建物跡」と称していることから、本書でもこの用語を用いる（第7章参照）。周溝のない竪穴住居跡については、排水溝を伴うものと伴わないものとがある。周溝や住居部分の形状・規模などは多種多様である。なお、調査区全体に面平を受けていていることから、その他の溝（SD）や小穴（SP）の中に、住居跡の周溝・排水溝・柱穴が含まれている可能性が考慮される。

掘立柱建物跡も多い（SH01～SH190）。間数は1×2間と1×3間が多いが、その規模は様々である。布掘りの掘立柱建物跡（SH111）も1棟ある。3×4間や2×3間の大型建物跡（SH135・187・188）については、その形状と切り合い関係などから古代の可能性も考慮される。SH66は、2×3間の總柱の建物跡である可能性があるが、2間側の柱間距離が長いことから、1×3間の建物跡2棟が重なっている可能性もある。また、SH81・111・129・150などは複数柱を伴う可能性もあるが、本遺跡は全体的に小穴が多いことから、複数柱の柱穴とした小穴が建物跡と関係していない可能性もある（第248図）。

この他に、大小の方形周溝基2基、縄文時代の落し穴などが20基、様々な土坑などがある。

第2節 住居跡

住居跡とするものは、建て替えや拡張を含めて183を数える。住居跡の認定は、床を構築する土や掘方、周溝、塩溝、炉跡、柱穴の内の2つ以上が確認できることを条件とした。したがって、柱穴のみが残存する場合は認定されない。SH06・07・14・62・64・78・90・99・103・142・152・164・177は、桁行1間以上の掘立柱建物跡としているが、住居跡の残存である可能性もある。さらに、小穴の中に住居の柱穴であったものが含まれている可能性もある。一方、方形の掘方をもつSX04、焼土を伴う可能性もある円形掘方のSX06についても、住居跡である可能性が考慮される。

住居跡には、周囲に溝がめぐるものとめぐらないものがある。周溝を伴わない住居跡は全て竪穴住居跡である。周溝を伴う住居跡（周溝をもつ建物跡）には、竪穴住居跡のほかに平地式の住居跡も存在する可能性が高い。SD90・88・97・99などは、消失した住居跡の周溝である可能性もある。

1. 周溝をもつ建物跡

SB07・SD04～06（第19図） E 6・7 グリッドに位置する。SD59によって周溝や住居跡の東側が消失しているが、その他の残存状況は良好である。

SB07は比較的小型の竪穴住居跡であり、平面形は橢円形を呈する。4つの主柱穴は壁近くに配置され

ており、建て替えの痕跡が認められる。床面は良好に残り、中央北寄りに地床炉がある。掘方は中央部が皿状に掘り込まれている。覆土から弥生土器片が出土している。

SD04～06は幅広の周溝であり、いずれもSB07の平面形に合わせて設けられている。土層の観察によつてSD04→SD05→SD06という掘り返しかが把握できる。SD04は、大半をSD05・06に切られ、平面形や埋換などは不明である。検出面からの深さは約0.07m、所面形は皿状を呈する。SD05は、SD06と全局にわたって重複しているが、SD06より深いため残存状況は良い。検出面からの深さは約0.3m、底面はSB07の掘方よりも低い。SD59との重複によって一部が消失しているが、SD53につながり北側斜面に伸びている。排水溝の機能を合わせ持っていた可能性がある。SD06は、最も新しい段階の周溝である。長軸約8.80mにめぐり、北側で留まりとなって収束する。部分的に焼土粒と炭化物の集中がみられる。出土遺物は少ないが、弥生土器片などが認められる。

SB12・SD09（第23図）F 6 グリッドに位置する。残存状況は悪く、他造構の重複も多い。

SB12は竪穴住居跡で、焼溝と床面の一部を検出した。SD08・20などに切られている。柱定で長軸約6.0m、短軸約5.1m、平面形は脇張りの小判形（楕円形）を呈する。大型の主柱穴が4つ、壁寄りに配置されており、P 1は壁溝と重複している。床面はしまりのある黄褐色土の貼床で、中央に地床炉をもつ。掘方は中央部分がわずかに高く残るドーナツ状である。

SD09は断面扇形の幅狭の周溝である。幅約0.3m、検出面からの深さ約0.2mである。東部しか残っていないため、全周していたかどうかは不明である。弥生土器片が出土している。

SD07が排水溝となる可能性がある（第92図）。幅は平均約0.3mだが、住居跡の壁から0.7m程の場所から急激に削くなり、直線状になる。この部分が暗渠状になっていた可能性が考慮される。SD07はその先で蛇行しながら、SD22・23と合流する。すなわち、SD22・23も同時期の可能性がある。出土遺物は弥生土器片などがある。

SB15・SD13～20（第26・27図）F 7 グリッドに位置する。複数回の建て替えがある住居跡と3重の円形の周溝を検出している。重複する遺構が非常に多く、第26図には時期不明の小穴・溝を含めて全遺構を示した。周溝の残存状況は比較的良いが、東側はSD59によって消失している。

SB15は、炉跡と柱穴、掘方の一部のみが検出された住居跡である。炉跡を中心にして床構築上である暗褐色土が広がっていた。しかし、その範囲は不整形であり、壁体は把握できなかった。床構築土（暗褐色土層）は上下3層に区分でき、3面の床面を把握することができる。それぞれの床面には炉跡と薄い黒色土が認められる。この床面（床構築土）の状況と柱穴の配置から、第27図のような4段階の建て替えを把握することができる。

第1段階の住居跡は、4つの主柱穴（P 14～20）だけが残る。第2段階以降のものとは位置がずれる。小型の住居跡であるが、大半が消失しているために詳細は不明である。第2段階の床構築土の下でSD13・14が発見されており、SD13・14・17が第1段階の住居跡に伴う周溝となる可能性が高い。

第2段階の住居跡は、暗褐色土の貼床を伴い、その中央には地床炉2基（炉跡3・4）が検出されている。柱穴はP 4～7が考えられる。炉跡3は、黄褐色土の周堤をもつ地床炉であり、底面には暗褐色土が貼られ、火皿状を呈する。床面上には、炉跡周辺を中心には薄い黒色土が広がる。掘方は炉跡の北側が奥くドーナツ状を呈する。溝溝としては、SD18・19が考えられるが、この2条が同時併存していたかはわからない。なお、壁体が認められず、掘方が不整形で浅いことから、SB15が竪穴式住居ではなく、平地式住居として機能していた可能性が考慮される。

第3段階の住居跡は、第2段階の床面上に暗褐色土を貼って、新たな床面を設けている。床面上には黒色土が薄く広がる。中央に地床炉（炉跡2）が検出されているが、上部が第4段階の構築によって削られている。主柱穴はP 4～7の4つが考えられる。第2段階の住居跡と同様に、平地式住居として機能

能していた可能性がある。

第4段階（最新段階）の住居跡は、第3段階の床面上に暗褐色土を貼って、新たな床面を設けている。中央やや北寄りに地床炉（炉跡1）を検出している。柱穴は、ほぼ正方形に配置されたP1～4が考えられる。この他にP8～13の六角形の柱穴配置が認められ、補助的な柱としていた可能性が考慮される。周溝としては、最も新しいSD20が伴う可能性が高く、六角形の柱穴配置を含めて拡張したことが把握できる。住居跡から弥生土器片とガラス甕の滓、骨片などが出土している。

SD18は円形にめぐる周溝で、断面箱形を呈する。西側で溝が途切れ、長さ約0.25mの陸橋部を伴う。弥生土器片などが出土しているほか、南西部の覆土に炭化物や焼土、骨片の集中が認められた。SD19はSD18の外側を円形にめぐる溝であるが、一部がSD20に切られている。断面U字形を呈する。南東部に溝が途切れる部分がある。弥生土器片などが出土している。SD20は最も外側を円形にめぐる周溝であり、一部がSD19を切っている。断面皿状を呈し、北西部が途切れる。弥生土器片と磨石などが出土している。なお、3条の周溝の東側は、SD59によって消失している。

SB16・SD81・82（第28・29図） J8グリッドに位置する。周辺に攪乱が多く、大きく削平されている。SB16は、3つの柱穴のみが検出された住居跡である。本来は4つの主柱穴が配置されていたと推測できる。遺物は出土していない。SD81・82は、この住居跡の周溝である可能性が高い。SD81には掘り返しが認められる。幅広の周溝で、梢円形にめぐる。周溝内から弥生土器がまとまって出土しており、楕ね菊川様式新段階に比定される。したがって、この遺構は弥生時代後期後葉に位置づけできる。

SD80（第29図） K7グリッドに位置する。中央～南部が調査区外となり、上部が削平されていることから、良好に把握することはできない。住居跡の検出はなかったが、SD80は住居跡の周囲を円形～梢円形にめぐる、幅広の周溝であると判断できる。

SB18・SD24（第30図） G～H6グリッドに位置する。住居跡の残存は悪く、周溝も西部の検出が断続的である。SB18は、柱穴と掘方の一部のみが検出された。弧状の掘方や柱穴間距離から、竪穴住居跡であった可能性が指摘できるが、断定は難しい。SD24は、長方形にめぐる幅広の周溝である。東辺の南端には溜まりがある。検出状況から、本来より南西部には周溝がめぐらないと把握できる。周溝の軸と柱穴配置の軸とはずれる。周溝内から多くの土器が出土しており、とくに東部に集中する。出土した高さの上下差も少なく、一括廻棄された様相を呈する。出土土器は菊川様式新段階～古式土師器に位置づけることができる。石鎚、石匙、磨石、砥石、骨片も出土している。

SB21・SD102（第33図） G6グリッドに位置する。他遺構の重複などによって、残存は良好ではない。SB22を切り、SD24に切られている。SD24より南は消失している。平面は隅丸長方形を呈し、中央北寄りに地床炉がある。床面は、炉跡尾辺にのみ残っていた。掘方は、中央部の高いドーナツ状を呈する。SD102はSB21を方形に囲む溝であり、馬渕の可能性が指摘できる。しかし、他よりも住居跡との距離が短いことから、異なる溝の可能性もある。また、SD07などが周溝となる可能性もある。遺物は弥生土器片などが出土している。

SB23・SD25・26（第35図） H6・7グリッドに位置する。住居跡の残存は悪く、周溝も南東半部が断続的となる。SB23は、非常に浅い掘方と炉跡・壁溝の一部が検出された住居跡である。平面は、円形に近い小判形（梢円形）に復元できる。中央部において、地床炉2基が重複した状態で検出された。炉跡1は掘方の底面において検出され、一方の炉跡2は、炉跡1の上に暗褐色土を貼った床面において検出された。炉跡の北西側には、2つの柱穴（P1・2）が検出できた。4つの主柱穴が配置されていた可能性が高い。掘方は、炉周辺を高く残し周縁がやや深くなる。石鎚が出土している。

SD25・26は、円形にめぐる幅広の周溝である。断続した検出は、攪乱などによる影響が大きい。ただし、検出した溝の平面形などから、南部は本来より溝がめぐらなかつた可能性が評価できる。北部はSD24

(SB16)に切られているが、当初はつながっていた可能性もある。北東部分に深くなる場所があり、比較的多くの土器が出土した。周溝の各所から土器などが出土している。出土土器などから、この遺構は弥生後期末～古墳時代初頭に位置づけできる。

SB26・SD33(第37・41図) H・I 5グリッドに位置する。他選択との重複が多く、住居跡の平面形などは把握し難かった。SB26は、炉跡と柱穴によって把握できる住居跡である。詳細な構造や規模は不明である。中央に炉跡が検出されており、周溝と炉跡を含めた位置関係から、図のような4つの主柱穴が把握できる。ただし、柱穴にはP 1～4とP 4～7の二組が抽出できる。SD33は、円形にめぐる幅広の周溝である。SD32よりも新しい、西部の迹切れは斜面の削平のためであるが、本来よりめぐっていなかった可能性もある。各所より土器などが出土している。なお、SD33上層にSB27(第38図)の炭化米サンプルAが分布している。炭化米の検出は散在的であり、SD33の自然埋没時に混入した可能性が高い。SB27の炭化米がSD33の掘削によって移動し、それがSD33に流れ込んだと想定できる。

SB27・SD32(第38・39・41図) H・I 5グリッドに位置する。他選択との重複部分が多いが、残存は比較的良好である。SB27は、調張り丸方形を呈する比較的大型の竪穴住居跡である。西壁は斜面によつて消失している。床面は、黄褐色土が既存した暗褐色土の硬い貼床であり、周縁に塗溝、その内側に4つの主柱穴(P 1～4)が検出できた。しかし、炉跡については、床面中央に焼土の分布が認められたものの、明確なものとしては把握できなかった。

床面中央からは、焼土とともに炭化米の集部が検出された。炭化米は、SB27内ではサンプルB・C周辺の二ヶ所に集中していた。とくにサンプルC付近に多く、上面においても数百粒が確認できた。また、焼土の上に分布することから、焼土との間連性が指摘できる。サンプルCの出土状態については、C Tスキャニ分析により詳細に検討している(第6章第1節)。サンプルB周辺は、壁溝内や住居跡内外の比較的広範囲に分布する。住居跡からは土器片などが出土している。

SD32は、円形にめぐる幅広の周溝である。南東部の上層がSD33に切られている。北西部に溝まり状の収束が認められ、本来より西部は周溝が迹切れていたと把握できる。周溝内から土器片と敲石、円盤形石器、骨片が出土している。

SB28・SD30・31(第40・41図) H・I 6グリッドに位置する。SB30・31を切り、SB26・27に切られている。SB28は、炉跡と柱穴のみが検出された住居跡である。掘方や床構築土は検出されていないため、規模や平面形は不明である。竪穴式住居跡ではなく、平地式であった可能性も考慮される。柱穴配置は、比較的大型のSB26と同規模となる。中央北寄りにおいて、周囲が削平された地床炉を検出した。住居内から弥生土器片などが出土している。

SD31は、円形にめぐる幅広の周溝である。開口部ではなく全周するが、南東部が浅くなる。SD30は、SD31と重複しながら全周する周溝である。SD31とは平面形が異なる。西側では突出した部分があり、そこから西側斜面向かって伸びる。排水機能が窺われる。各周溝から弥生土器片などが出土している。

SD42(第92図) J 5グリッドに位置する。円形もしくは楕円形にめぐる幅狭の周溝の可能性があるが、住居跡の把握はできなかった。SD28などにつながる可能性もあるが、判然としない。

SB37・SD43～45(第48・49図) J・K 6グリッドに位置する。住居跡の残存は悪いが、周溝は東部以外が良好に残る。SB37は、柱穴のみが検出された。掘方および床面・炉跡の検出がなく、竪穴式か平地式かの判断もできない。4つの主柱穴には、建て替えが認められる。

SD43～45は、円形にめぐる幅広の周溝である。東部は搅乱によって消失している。SD43→SD44→SD45の順に掘られたと把握できるが、基本的には同じ周溝の狸り返しである。断面は全てU字形を呈する。

SD43は、消失した東部以外は全周する。最も古い段階の周溝であり、3条の中では最も内側をめぐる。遺物の出土量は少ないが、南部に礫と土器の集中が認められた。出土土器は菊川様式新段階に比定され

る。また、モソの種が出土している（第6章第4節）。SD44は、大きくSD45に切られており、北部の一部だけしか検出できなかった。覆土には焼土や炭化物が多く含む層があり、他の2条とは異なる。菊川様式新段階に属する土器が出土している。SD45は、最も新しい段階の周溝である。南側が途切れますが、削平による可能性もある。北部の中・下層から多くの土器が出土している。廃棄されたような出土状況を示す可能性が高い。出土土器は菊川様式新段階の特徴を伴う。その他に石鐵が出土している。以上のように、各層の出土土器に大きな時期差が認められることから、これらは比較的短い期間の間に掘り直されてきたと評価できる。

SB39・40・SD46・47（第50図） J・K 5グリッドに位置する。住居跡は、柱穴と若干の床構築土・焼土の広がりのみが検出された。周溝は、西側が調査区外のため不明である以外は、良好に把握することができる。この周溝（SD46・47）は、SB37の周溝（SD43～45）やSB41・SB36を切っている。

SB39はP 5～9が主柱穴となる住居跡であり、SB40はP 1～4が主柱穴となる住居跡である。ともに4つの主柱穴であるが、SB39の方が東西に長く配置されている。中央部には焼土と床構築土が部分的に検出された。しかし、どちらの住居に属するかは不明である。床面や堀方は確認できず、焼土が炉跡であるかも判断し難い。ともに竪穴住居跡ではなく、平地式であった可能性も考慮される。

SD46・47は、梢円形もしくは不規形にめぐる幅広の周溝であり、SD47はSD46の掘り直しであると把握できる。周溝の平面形には多少の違いがあり、住居跡の平面形が反映している可能性も考慮される。なお、柱穴と周溝の位置関係からは、SB39とSD46、SB40とSD47が対応する可能性が評価できる。この評価が妥当であるならば、SB39・SD46からSB40・SD47に建て替えていくことになる。各遺構からは弥生土器片などが出土している。

SB41・SD50（第51図） K 5グリッドに位置する。西半は調査区外となり、残存は悪い。SB41は、2つの柱穴だけが検出された住居跡である。4つの主柱穴を伴うと判断できる。炉跡・床面などは削平されており、焼土・形態や構造の詳細は不明である。SD50は、梢円形にめぐる幅広の周溝である。SB42を切り、SD46に切られている。弥生土器片が出土している。

SB42・SD49・51（第52・53図） K・L 5グリッドに位置する。削平を受けてはいるが、残存は決して悪くない。西部と南部は調査区外となる。住居跡（SB42）は、2組の柱穴と2条の周溝が検出されたことから、建て替えを把握することができる（SB42B→SB42A）。SB42はSD46・SD50に切られている。

SB42Aは、平面梢円形の竪穴住居跡であり、P 1～4を主柱穴とする。床面は黄褐色土の硬い貼床であり、炉跡周辺には黒色土が分布する。中央北寄りには、南北2基の炉が並ぶ。ともにドーナツ状に土を貼って火皿状にしている。北の炉には黄褐色土が用いられているが、南の炉には黄褐色土塊を合む暗褐色砂質土が用いられている。粘土確保の条件は、南の炉の方が悪かったと評価でき、後でつくられた可能性が考慮される。ただし、南北の炉跡に切り合いや破痕は認められず、同時併存していた可能性は否定できない。南東壁際には貯蔵穴がある。覆土には多量の炭化物が含まれており、壺の破片が出土している。堀方は、底面の凹凸が少ない。

SB42Bは、SB42Aの掘方検出時に発見された住居跡である。南部の壁溝が内壁に寄っており、SB42AはSB42Bの南部を拡張してつくられたと把握できる。SB42Bの平面形は隅丸長方形に近い。床面は、土層断面の検討からSB42Aと共有していると判断できる。すなわち、拡張に伴う貼床は拡張部（SB42A南部）のみであったことがわかる。炉跡は、先述の評価が妥当であるならば、北の炉がSB42Bに伴う可能性が高いと指摘できる。主柱穴はP 5～8の4つであり、SB42Aの柱穴に比べると浅い。弥生土器片とガラス小玉、石鐵が出土しているが、どちらの住居に属するかは判断が難しい。

SD49は梢円形にめぐる幅狭の周溝であり、SD51はSD49の外側をめぐる幅広の周溝である。住居跡との関連からは、SD49→SD51に拡張した可能性が評価できる。削平のために一部の検出に留まったが、い

すれも住居跡に比べて浅いことが指摘できる。

SB49～51・SD54～60（第58～60図） E・F 7～9 グリッドに位置する。住居跡は上面の削平によつて良好な残存であるとはいえないが、周溝は良好に把握することができる。住居跡および周溝の切り合いや位置関係などから、SB49・SD56→SB50・SD57・58→SB51・SD59という段階の変遷を把握することができる。さらに、柱穴の状況などから、SB49の段階とSB50の段階には各1回以上の建て替えがあつたことがわかる（第60図）。なお、SB48とSD54は、これらよりさらに古いことがわかっている。

最も古い段階として、SB49とSD56を抽出することができる。SB49は、柱穴と掘方の一部が検出された住居跡である。SB50・51に大きく切られており、規模や平面形の詳細は不明である。床面は礫々な土による硬い貼床であり、何處か貼り直していることがうかがえる。柱穴にはP 1～8があり、SB49A（P 1～4）→SB49B（P 5～8）の武張が把握できる。中央北寄りには地灰が検出されている。炉の下部には黄褐色土が貼られ、火皿状の炉と類似した構造を示している。掘方は炉跡周辺が高く残るドーナツ状を呈し、南側がとくに深い。掘方が浅く不整形であることから、平地式に近い可能性がある。

SD56は、不整円～方形にめぐる幅広の周溝である。断面U字形を呈し、南東側は浅くなつて収束する。南東部が開口していた可能性が高い。土層断面（第58図+断面）からは、ある程度埋没した後にSD56を再掘削したことがわかる。また、最終的（SD59の段階）に埋め戻されたことも把握できる。なお、SD55もSD57に切られた溝であることから、排水などのためにSD56につながっていた可能性が考慮される。

次の段階として、SB50とSD57・58を抽出することができる。SB50は、柱穴が検出された住居跡であり、平面形や規模は不明である。柱穴は、周溝との位置関係などによって、長方形に配置されたP 9～16が把握でき、建て替えを認めることもできる。床面の認定は難しい。SB49床面上で検出した炉跡2について、SB50に伴うものとするならば、SB49の床面と共有することになる。しかし、後の段階（SB51）の炉跡である可能性もあり、SB50の床面は消失している可能性もある。

SD57とSD58は、円形にめぐる幅広の周溝である。2条は同じ場所を重複する。SD57は、SD58に切られていて、下部だけの残存である。断面形がSD58とは異なり、縦の変動もない。南東部が開口するが、SD62も同じ周溝である可能性がある。なお、SD57覆土からガラス小玉の小片、骨片が出土している。SD58は、SD57の上に重複する周溝である。断面皿形であり、南西端部が大きく溜り状となる。SD59に大きく切られているため、全体を検出することはできなかつたが、SD57と同じ範囲をめぐっていた可能性が考慮される。モソの種が出土している（第6章第4節）。

最も新しい段階として、SB51とSD59を抽出することができる。SB51は、柱穴が検出された住居跡であり、平面形や規模は不明である。柱穴は、周溝との位置関係などによって、長方形に配置されたP 17～20が把握できる。先述のとおり、炉跡2を伴う可能性があるが、跡跡・床面が消失している可能性もある。SD59は、円形にめぐる幅広の周溝である。断面皿形であり、東部から西部へと幅が広がる。南西端部では、溜り状に大きく開く。これまでの周溝と同様、南東部が開口する。覆土は他の周溝と若干異なり、マンガンを多く含む灰黒褐色土である。敲石、骨片が出土している。

各住居・周溝から土器などが出土しているが、SD57東部とSD59の南西部に集中した出土があつた。出土土器は菊川様式新段階の特徴を示すものが多いが、中段階の土器も含まれている。ただし、SB49～51よりも古い住居跡も周囲に分布しており、また、最新のSD59からも中段階の土器が出土していることなどから、SB49～51の時期については、弥生時代後期後葉～末にある可能性が評価できる。

SB52・SD61（第61図） F 8 グリッドに位置する。残存は決して良好でない。SB52は、掘方と柱穴を検出した住居跡である。床面・炉跡などは消失している。掘方は円形を呈するが、柱穴の位置などから、住居跡の範囲はより大きい可能性がある。柱穴は、長方形に配置された主柱穴（P 1～8）が把握でき、建て替えを認めることもできる。なお、SD62に切られていることから、SD62がSB50・51の周溝の一部

であるならば、SB52はSB50・51よりも古い住居跡ということになる。

SD61は、円形もしくは多角形に近い形にめぐる幅広の周溝である。断続的な検出であるが、全体的に残存が悪いことから、本来はつながっていた可能性もある。ただし、西部を含めて全周していたかはわからない。住居跡および周溝から、弥生土器片などが出土している。

SB54・SD73・74（第63～66図） D・Eの9・10グリッドに位置する。北部は地滑りなどによって消失している。それ以外の残存は良い。SB54は、梢円形の豊穴住居跡である。一部はSZ01に切られている。床面や壁溝も残存し、壁寄りに4つの主柱穴（P 1～4）が配置されている。中央部に地床炉があり、その周辺には黒色土が分布する。掘方は焼形にそって平坦に掘られている。住居跡からは弥生土器片などが出土している。なお、掘方を検出した段階で、その底面北寄りに小型の住居を検出した。当初は小型の豊穴住居跡であったものを、南側に拡張したことがわかる。拡張前の住居跡は、掘方と柱穴（P 7～9）が残存するのみであった。掘方は中央部の高いドーナツ状を呈し、とくに南東部が深い。

SD73・74は、梢円形にめぐる幅狭の周溝である。SD73南端は溜り状に広がり、SD74の北部も幅広になる。これらの端部では、上層がまとまって出土している。SD73とSD74は同じSB54の周溝であると把握できるが、つながらず南北2方向に開口していた可能性も指摘できる。

SB56・SD70（第67図） E 9・10グリッドに位置する。多くの遺構と重複しており、残存は良くない。SB56は、隅丸長方形の豊穴住居跡である。北部は消失している。SB60を切り、SB54・SD65・SD69・SD74に切られている。長方形に配置された主柱穴が2組（P 1～4およびP 5～7）検出されており、建て替えが認められる。床面は北部が消失、中央～南部が残存しており、中央寄りに地床炉がある。掘方底面の凹凸は少ない。住居跡からは弥生土器片などが出土している。

SD70は、梢円形にめぐる幅狭の周溝である。北部は地滑りのために消失している。全周していたか、北に開口していたかは不明である。溝からは弥生土器片が出土している。

SB61・SD64（第68図） D・Eの9・10グリッドに位置する。地滑りやSB54に大きく壊されている。SB61は、隅丸長方形の豊穴住居跡であり、豊溝の一部と柱穴が残存する。検出した柱穴は3つ（P 1～3）であるが、4つが長方形に配置されていたと復元できる。SD64は、SB61の南東に弧状を描く溝があり、その位置からSB61の周溝である可能性が考慮される。各所から弥生土器片が出土している。

SB64・SD63（第72・92図） 残存が悪く、掘方底面の一部と炉跡の残存、長方形に配置された柱穴（P 1～4）、豊溝の一部のみが検出できた。平面形などは不明である。P 1中から古式土器片などが出土している。明確ではないが、西側のSD63が溝である可能性が考慮される。

SB69・70・SD84・85（第76・77図） J 9・10グリッドに位置する。混乱が多いために残存は悪い。SB69とSD84、SB70とSD85という2組の住居跡と周溝が把握できる。SD85がSD81の手前で途切れるのに対して、SD84はSD81を切っている。また、床構築土と炉跡はSB69のものだけが残存している。SB69とSB70の新旧について、断定することはできないが、SB69の方が新しい可能性が指摘できる。

SB69は、柱穴とが跡、床構築土が残存する住居跡である。3つの主柱穴（P 5～7）があり、中央に炉跡が残る。床構築土も残っていたが、明確な掘り込みは認められなかった。豊穴住居跡ではなく、平地式の可能性が高い。SD84は、円形にめぐる幅広の周溝である。南部や北部の一部が、稍平によって途切れている。ただし、検出した溝の西端部が外側に曲がることから、西側の途切れは本来からであり、そこに開口部があった可能性が指摘できる。住居跡・周溝の各所から弥生土器片が出土している。

SB70は、柱穴のみが残る住居跡である。炉跡や掘方・床面が残存せず、規模・形状や構造の詳細は把握できない。柱穴は、東西に長い長方形に配置された4つの主柱穴（P 1～4）が認められる。SD85は、SB70の周溝を梢円形にめぐる幅広の周溝である。SD84と同様、全周しているかは不明であるが、西に浅くなることから、西部に開口していた可能性が指摘できる。住居跡・周溝の各所から弥生土器片などが

出土している。

SB82・85・SD87（第86・88図） H12グリッドに位置する。東部は大きく破壊されており、西部も上面が削平されていた。したがって、残存は良くない。SB82は、西部の柱穴（P1～4）のみが残る住居跡である。本来は方形に主柱穴が配置されていたと復元できる。また、各所に2つずつ柱穴があることから、建て替えを認めることができる。SB85は長方形に配置された主柱穴が残り、建て替えを認めるともできる。SD87は、隅丸方形にめぐる幅広の周溝である。北東端部は、濠り状に大きく広がる。一方、南西端部は二段に分かれている。方向からSB82に伴う可能性が高いが、SB85に伴う可能性も否定はできない。弥生土器片とガラス片、石錐、骨片が出土している。土器は菊川様式新段階に属する。

SD88・89（第65図） G11グリッドに位置する。住居跡の検出はなかったが、住居の周溝である可能性が指摘できる溝が検出された。SD89は、楕円形にめぐる幅狭の溝である。東部は削平されている。SD88はSD89の北東につづく溝であり、SD89よりも幅が広い。濠土に黄褐色土塊を含むことから、人為に埋め戻された可能性が指摘できる。弥生土器片や被熱のある石が出土している。

SB87・SD91・92（第90図） H12グリッドに位置する。大半が破壊されており、西部の一帯だけが残存する。SB87は、平面楕円形の堅穴住居跡である。床は2面あり、壁溝は外側に掘り直されている。方形に配置される主柱穴は、P1～4とP5～8の2組が認められる。以上から、建て替え（拡張）のあつたことがわかる。SD91・92は、楕円形にめぐる幅狭の周溝である。北西部のみの残存であり、非常に浅い。底面は南にむかって緩やかに傾斜する。住居跡と周溝から弥生土器片と骨片が出土している。

SD97（第92図） J11グリッドに位置する。中央～南部が調査区外となり、住居跡は把握できない。しかし、SD97は円形にめぐる幅広の溝であり、住居の周溝である可能性が高い。SB89の周溝（SD100など）に切られている。弥生土器片などが出土している。

SB89・SD94・95・98・100（第93図） I11グリッドに位置する。一部が調査区外となるが、大半の部分を良好に検出することができた。SB89は、柱穴と炉跡、床構築土の一部が残存する住居跡である。柱穴は、正方形に配置された主柱穴（P1～8）があり、建て替えが把握できる。中央に地床炉があり、その周辺に床構築土が残存している。断定はできないが、掘方が認められることから、平地式住居であった可能性が高い。

SD94・95・98・100は、いずれもSB89の周溝を円形にめぐる周溝であり、SD96・97を切っている。概ね3重に掘削でき、切り合ひ関係などからSD94・SD95→SD98→SD100の変遷が確認できる。最古段階のSD94・95は、削平によって西部のみが残存する。SD94とSD95が同時に併存していない可能性はある。また、SB89の主柱穴に近いことから、それとは異なる住居の周溝であった可能性が考慮される。次の段階のSD98は、円形にめぐる周溝であり、地形の下がる東部が開口する。削平のために断定できないが、東側への排水機能を備えていた可能性もある。SD95を切り、SD100に切られている。最新段階のSD100は、SD98の外側を円形にめぐる幅広の周溝である。底面は南東にむかって緩やかに傾斜しており、削平のために断定できないが、南東に開口する可能性もある。住居跡および各周溝から、弥生土器片などが出土している。SD100の北部ではまとまって廃棄されていた。出土土器は菊川様式新段階の特徴を示す。

SD99・101（第93図） I11・I12グリッドに位置する。SD99はSD98（SB89周溝）、SD101はSD100（SB89周溝）につながる可能性もある。しかし、溝の幅や曲がり方がSD98・100と異なることから、SB89とは異なる南東側の住居に伴う可能性を評価した。

大半が調査区外となることから、住居跡などは把握できず、周溝の西辺北寄りのみ（SD99・101）が出土されている。SD99とSD101は、ともに直線的な幅広の周溝であるが、2重になることから、別段階の周溝である可能性がある。SD99は西辺から北辺に曲がるが、SD100は北西辺にあたる場所で途切れる。双方から弥生土器片などが出土したほか、SD99内には焼土塗の集中範囲が認められた。

SB90・SD96（第94図） D12グリッドに位置する。中央～東部は破壊されている。SB90は、西部の横溝と柱穴が残る竪穴住居跡である。SD99・100・101に切られている。平面形は隅丸（長）方形に近く、4つの主柱穴が（長）方形に配置されていたと復元できる。床面・炉跡は残存していない。SD96は、円形もしくは梢円形にめぐる幅狭の周溝である。SD98・100に切られている。幅は均一であり、底面は東へ緩やかに傾斜する。住居跡や周溝から弥生土器片などが出土している。

SB101・SD107・108（第101図） F15グリッドに位置する。SB110の周溝（SD118・120）やSH111などを切る住居跡と周溝であるが、上部の削平などのために残存は決して良好ではない。SB101は、柱穴と掘方の一部が残存する住居跡である。炉跡や床面は消失している。柱穴は、東西に長い長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が認められる。掘方は西部が残存しており、長方形を呈する。

SD107・108は、ホームベースに近い形状にめぐる、軽広の周溝である。SD108は幅が均一、底面は北へと緩やかに傾斜する。SD107とSD108はつながらない。削平のために断定はできないが、南西部が開口する可能性もある。住居跡および周溝から弥生土器片や骨片が出土している。

SB110・SD116～120（第106・107図） E・F16グリッドに位置する。掘れなどのために住居跡の残存は良くないが、周溝の残りは良い。SB110は、柱穴のみが検出された住居跡である。柱穴は、長方形に配置された主柱穴が認められ、P 1～3とP 4～7の2組が把握できる。周溝との位置関係からは、P 1～3からP 4～7への拡張が評価できる。掘方や住居壁などは全く検出されなかった。断定はできないが、竪穴住居跡ではなく平地式の可能性もある。弥生土器片が出土している。

SD116～120は、梢円形にめぐる幅広の周溝である。数度の掘り返しが認められ、切り合ひなどからSD116→SD117→SD118→SD119→SD120という変遷が認められる。同一の形状を保ちながら少しづつ拡張していると把握できる。いずれも比較的良く残存しており、概ね同じ形状であることがわかる。底面が北へ緩やかに傾斜する点、北東に開口部を作り、溝の北東端部が溜り状に広がる点も共通する。

最古のSD116は、最も内側をめぐる周溝である。SB165の周溝（SD115）を切る。覆土は自然埋没の状況を示す。弥生土器片と骨片が出土しているが、出土量は多くない。次段階のSD117は、SD116とほぼ同じ場所をめぐる。深さはSD116よりも深い。弥生土器片と凹石、叩石、ガラス質の浮などが出でており、西部では礫がまとまって廃棄されていた。SD118・119は、SD117の外側をめぐる。大半がSD120と重複しており、全体の形状は不明である。覆土に黄褐色土塊を多く含んでおり、人為に埋められた可能性が高い。弥生土器片などが出土している。最新段階のSD120は、最も外側をめぐる。覆土の状況は自然埋没を示す。弥生土器片が大量に出土しており、東部～北東部の溜り状部分では、まとまった出土があった。土器は菊川様式新段階（弥生時代後期後葉）の特徴をもつ。石鏡、骨片も出土している。

SB113・SD121（第109図） D16グリッドに位置する。北部が大きく消失している。SB113は、隅丸長方形に近い梢円形の竪穴住居跡である。柱穴は、長方形に配置された主柱穴（P 1～5）が認められ、西側の柱穴に建て替えが把握できる。床面は、黄褐色土の硬い貼床が南半部で残存する。2重になる部分があることから、床の貼り直しが把握できる。西部に焼土が検出されているが、強く焼かれたものではなく、炉跡とは認定し難い。掘方は、地形にそって平坦に掘られている。住居跡からは弥生土器片と管玉、磁石が出土している。

SD121は、梢円形（小判形）にめぐる幅狭の周溝である。住居跡のように隅丸長方形には近くならない。南西部のみの検出であり、全局していたかなどは判断できない。弥生土器片と石鏡が出土している。

SB126・SD123・124（第119・120図） D20グリッドに位置する。残存状況は悪く、住居、周溝とともに一部の検出である。SB126は、隅丸長方形の竪穴住居跡である。柱穴は、長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が認められる。炉跡はなく、床面も大半が消失しているが、南西部の周溝と掘方は確認できた。掘方の底面は概ね平坦であり、残存する南西部では床構築土を厚く施していなかった可能性が高い。

SD123・124は、楕円形にめぐる幅広の周溝である。北西部のみの検出であり、全局していたかなどは判断できない。2条が平行して検出されており、掘り直しがあった可能性も指摘できる。底面は北へと傾斜やかに傾斜する。住居跡からは弥生土器片、周溝からは弥生土器片と塗器が出土している。

SB163・164・SD125（第146・147図） C23グリッドに位置する。北部と東部は調査区外となるが、削平や斜面の崩落などによって消失している可能性が高い。調査区内においても、住居跡の北部は削平されおり、周溝は一部の検出に留まっている。

SB163は、楕円形の堅穴住居跡である。SB164を切る。2つの主柱穴を検出することができ、長方形に配置されたと復元できる。壁溝と暗褐色土の貼床が残存していたが、北寄りの床面や軒跡は削平されていた。雍方の底面は平坦である。SB164も壁溝がめぐる楕円形の堅穴住居跡であるが、大半は上部がSB163によって裏されている。残存する南部の床面には、焼土粒と炭化物の集中が多く認められた。床面や壁に被熱があることから、焼失した可能性が高い。柱穴は2つの主柱穴が認められ、長方形に配置されたと復元できる。雍方の底面は平坦である。各住居跡から弥生土器片などが出土している。

SB165・SD115（第148図） F17グリッドに位置する。上部の削平によって残存は悪い。SB165は、柱穴のみが残存する住居跡である。長方形に配置された主柱穴が確認でき、P 1～4とP 5～8の2組が検出できることから、建て替えのあったことが把握できる。周辺から弥生土器片が出土している。

SD115は、楕円形にめぐる幅広の周溝である。西部がやや不整形に突出する。SD116～I20に切られている。残存部の形状などから、北に開口する周溝であった可能性が評価できる。北西端部と北東端部が大きく開く。弥生土器片などが出土している。

2. 堅穴住居跡

位置・寸法などは、各図および第3表のとおりである。以下、住居跡ごとに主な特徴や特記すべき点を述べる。

SB01（第15図） 柱穴と一部の壁溝、貼床が残る。柱穴と壁溝が2組あり、P 1～3・内側壁溝→P 1・4～6・外側壁溝という拡張が把握できる。拡張前の住居跡は楕円形に復元できる。雍方は、中央と周縁部が高いドーナツ状である。弥生土器片が出土している。

SB02（第15図） 最小級の堅穴住居跡であり、潤丸長方形を呈する。同じ深さの主柱穴が4つ、壁近くに配置されている。中央にある円形の炉跡は、床面の上に黄褐色土を薄く貼ってつくられ、周縁部が盛り上がる火皿を呈する。据方底面は平坦である。P 3に接した穴からは竈の下半部片が出土しており、貯蔵穴であった可能性が評価できる。住居跡からは、この他に弥生土器片と骨片が出土している。

SB03（第16図） SB02と同様に小規模である。平面楕円形で、北東部の床面と壁溝、4つの主柱穴、中央北寄りの地床炉が残る。柱穴の状況から、建て替えを認めることができる。雍方は中央と周縁の高いドーナツ状を呈する。西側斜面に伸びる排水溝（SD01）が付く。弥生土器片などが出土している。

SB04・05・06（第17・18・92図） 3軒が重複し、新旧はSB06→SB05→SB04と把握できる。SB04は、楕円形を呈する。床面は多くが残存せず、壁溝が全周していたかも不明である。炉跡は円形の地床炉であるが、下部に貼床とは異なる黄褐色土が薄く貼られ、火皿状を成す。雍方は中央の高いドーナツ状を呈する。SB05は、楕円形を呈する。SB04の範囲外は壁溝が残るが、北東部が途切れる。床面は部分的に残存し、地床炉と端穴が確認できた。雍方底面は平坦に掘られており、検出面からの深さは25cm程度である。SB06は、大型である。床面は北東隅だけ残存、掘り方まで消失した部分も多い。4つの主柱穴（P 5～8）は把握できた。各住居跡から弥生土器片などが出土している。

各住居には排水溝（SD02・03・08）が付いていたと判断できる。SD02はSD03を切り、SB06はSD02・SD03に切られている。新旧や溝の方向から、SD02がSD04、SD03がSB05、SD08がSB06の排水溝である可能性が評価できる。

SB08（第20図） SB07に切られ、SB09を切る。壁溝や床面の残存はわずかである。壁や床面に被窓が認められ、覆土に焼土粒と炭化物の集中が認められた。焼失した可能性が高い。中央西寄りに地床炉がある。掘方は中央がわずかに高いドーナツ状を呈する。弥生土器片と床面からガラス小玉1点が出土している。

SB09（第20図） SB07とSB08に切られ、残存は悪い。平面形は隅丸長方形である。4つの主柱穴（P 4～7）が認められ、南側2つに建て替えを認めることができる。中央西寄りに地床炉がある。掘方平面上全体的に平坦に設けられており、貼床の厚さは12cm程度である。床面については、貼り直しのあった可能性が指摘できる。

SB10（第21図） SD18～20に切られているが、残存は良好である。隅丸長方形を呈し、4つの主柱穴、2基の地床炉、壁溝、床面、底面の平坦な掘方が残る。覆土には多量の焼土粒と炭化物が含まれ、壁には強い被窓が認められた。焼失した可能性が高い。若干の炭化材が残っており、クヌギ節という樹種同定の結果とAD76～211年という年代測定の結果が出ている（第6章第4節）。また、炭化したイネの胚乳も認められている（第6章第4節）。西壁寄りの大砾石については、何らかの台もしくは出入口に関連する可能性などが考慮される。南東部から壳形に近い弥生土器が出土している。これらの出土土器は菊川様式古段階の特徴を持ち、弥生時代後期前葉に位置づけることができる。

SB11（第22図） SB12・SD07・SD08に切られている。覆土の大半は削平されていたが、床面の残存は良い。隅丸長方形に近い横円形を呈し、4つの主柱穴（P 1～4）と地床炉、壁溝が残る。掘方は、中央～南部が高い馬蹄形を呈する。なお、掘方底面においてP 5～9を検出しており、より古い住居跡があつたことがわかる。また、西側に溝が2条（SD10・11）あるが、切り合ひから古い住居跡にSD11、新たな住居跡にSD10が排水溝として付く可能性がある。覆土などから弥生土器片などが出土している。

SB13（第24図） SB14を切る、隅丸長方形の堅穴住居跡である。床面の大半と4つの主柱穴（P 1～4）、地床炉、壁溝、底面の平坦な掘方が残る。炉跡周辺の床面上には薄い黒色土（有機物？）が分布していた。弥生土器片などが出土している。

SB14（第25図） SB13に切られた堅穴住居跡である。隅丸長方形に近い横円形を呈する。主柱穴はP 1～4の4つであるが、南側に建て替えの可能性が指摘できる小穴（P 5～8）もある。SB13の範囲外には床面が残る。掘方は、炉跡周辺がわずかに高いドーナツ状を呈する。位置関係から、SD12がSB14の排水溝である可能性がある。ただし、残存が良くないため、接続は確認できなかった。弥生土器片などが出土している。

SB17・19・20（第31・32図） 3軒が重複し、SB17→SB20→SB19という新旧が把握できている。なお、これら全てもSB18・SD24（SB18周溝）やSD23（SB12などの排水溝）などに切られている。

最も古いSB17は、残存が極めて悪い。床面の残存は少なく、炉跡も認められなかった。掘方および壁溝の一部、主柱穴（P 5～7）が把握できた。弥生土器片が出土している。次のSB20は、残存が悪いが、大型の隅丸長方形であることがわかる。4つの主柱穴（P 1～4）と一部の壁溝や掘方が残る。P 5から高杯が出土し、その他に弥生土器片と石鎌が出土している。最も新しいSB19は、横円形を呈し、床面、壁溝、柱穴の多くのが残る。中央には焼土が分布するが、炉跡として把握できるものはなかった。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB22（第34図） 横円形を呈し、SB21やSD20などに切られているが、その範囲外では壁溝や床面が残る。4つの主柱穴（P 1～4）は残っていたが、炉跡は認められなかった。残存する床面上には焼土

粒や炭化物の集中部が複数みられ、焼失した可能性が指摘できる。掘方は周縁と中央の高い馬蹄形状を呈する。弥生土器片などが出土している。

SB24（第36図） SB25を切り、SD24～26・31に切られる。掘方と壁溝は多くが残り、平面は周丸長方形に近い梢円形を呈する。主柱穴は3つ（P 1～3）が残存する。床面は大半が消失し、炉跡も認められない。掘方底面は平坦である。弥生土器片などが出土している。

SB25（第36図） 多くの遺構に切られており、残存は非常に悪い。壁溝と主柱穴が残り、平面周丸方形であることがわかる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB29（第42図） 西部が消失しているが、残存は比較的良い。梢円形を呈し、床面・壁溝・地床炉と方形に配置された主柱穴が残る。主柱穴が2箇、床面が2面あることから、建て替えが把握できる。

当初（建て替え前）の住居跡は、残存部から梢円形を呈することがわかる。長方形に配置された主柱穴（P 2・3・5・7）が認められる。炉跡は把握できなかったが、中央付近に薄い黒色土が分布する。掘方底面は平坦である。弥生土器片と石鎌が出土している。建て替え後も、概ね同形態・同規模を呈する。ただし、長軸方向にやや拡張していることがわかる。主柱穴は、切り合いからP 1・3・4が伴うと判断できる。床面は、建て替え前の床面の上に土を貼って設けている。炉跡は2基あり、周囲の床面上に薄い黒色土が分布する。弥生土器片と石鎌などが出土している。

SB30（第43図） 多くの遺構に切られている。床面は消失しており、壁溝・主柱穴（P 1～4）と掘方が残存する。周丸方形に近い梢円形を呈する。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB31・32（第44図） 2軒の住居跡が、西壁を共有するように重複している。切り合いなどからSB32→SB31の新旧が把握できる。

SB32は、SB31の下で発見された。4つの主柱穴（P 6～9）と一部の壁溝・床面が残る。また、中央北寄りに地床炉を検出した。弥生土器片が出土している。SB31は、SD31～33、SB27・28に切られている。梢円形を呈し、4つの主柱穴（P 1～4）と壁溝・床面が残る。覆土には多量の焼土粒と炭化物、炭化材が含まれ、その集中部も複数把握できた。床や壁の被熱も認められ、焼失したと判断できる。掘方底面は平坦である。南北隅では、西斜面にのびる排水溝（SD34）が接続している。東壁講付近に炭化したマメ類の種子が集中して出土（第6章第4節）、その他に弥生土器片と石鎌などが出土している。

SB33（第45図） 掘方の一部と方形に配置された主柱穴が残る。平面形などは不明である。P 1～6（主柱穴）の検出によって、建て替えの可能性が指摘できる。弥生土器片などが出土している。

SB34（第46図） SD44～45、SH23・27に切られ、南部が消失している。周丸長方形に近い形を呈し、北～中央部の床面・壁溝・地床炉と3つの主柱穴（P 1～3）が残る。掘方は中央が若干高いドーナツ状を呈する。北西隅にはSD41が接続する。SD41の底面は壁溝の底面と標ね同じ高さであり、SB34の排水溝である可能性が高い。住居跡から弥生土器片と石鎌が出土している。

SB35・36（第47図） SB35は、SD46・47に切られ、SB36を切っている。規模や平面形は不明であり、掘方・床面・炉跡・柱穴がわずかに残る。弥生土器片が出土している。

SB36は、SB35に切られた住居跡であるが、SB35よりも良好に把握できる。床面は消失していたが、壁溝は残っていた。主柱穴（P 5～7）は方形に配置され、中央西寄りに地床炉の残存の可能性がある焼上が認められた。掘方底面は平坦である。弥生土器片と石鎌のほか、石の調片が多く出土している。

SB38（第45図） 大部分が調査区外となる。弧状の壁溝と貼床の一部が認められた。弥生土器片などが出土している。

SB43（第54図） SB42やSD49に切られているが、掘方および床面・地床炉跡・柱穴が残存する。壁溝はない。掘方は炉跡周辺の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片などが出土している。

SB44（第55図） SB45とSH36に切られている。大半が調査区外にあるため、規模は不明である。平面

形は、圓丸長方形に近く復元できる。覆土に多量の焼土粒と炭化材・炭化物が含まれ、床面にはその集中部が複数認められた。壁の被熱も認められることから、焼失した可能性が高い。掘方底面は平坦である。北西隅付近で、多量の弥生土器が出土した。高杯・台付壺・鉢などが完形に近い状態で検出された。その他に石礫も出土している。出土土器は菊川様式古段階の特徴を持ち、弥生時代後期前葉に位づけできる。

SB45（第56図） 大半が調査区外となる。SB44を切り、SH37に切られている。壁溝が残るが、床面は消失している。P1とP2が主柱穴となる可能性がある。

SB46（第56図） 柱穴と炉跡のみの検出である。柱穴は、方形に配置された主柱穴（P1～6）が確認でき、建て替えを指摘することもできる。炉跡は、深い掘り込みを伴うものであり、他の地床炉とは異なる。炉跡・柱穴の覆土が炭化物や焼土粒を多く含む褐色土である点も、他と異なる特徴である。炉跡の北側にも焼土があり、柱穴の配置が2通り考えられることから、建て替えが指摘できる。また、炉跡などに特異性があることから、他の住居跡とは時期が大きく異なる可能性もある。

SB47（第57図） 北半は確認調査のトレンチによって壊れてしまった。楕円形を呈し、南半では壁溝・床面が残り、中央の地床炉も残存していた。柱穴は、長方形に配置された主柱穴（P1～4）が認められたが、床面と掘方底面においてP6～14も検出されたことから、数度の建て替えを認めることができる。弥生土器片が出土している。

SB48（第57図） 小型円形の竪穴住居跡である。SB49～51に切られている。壁溝の一部と4つの主柱穴（P1～4）が残る。床面・炉跡は検出できていない。弥生土器片が出土している。

SB53（第62図） SZ01とSD59-73に切られている。床面は削平されていた。掘方・壁溝は多くが残り、4つの主柱穴（P1～4）も把握できる。中央北寄りの地床炉も残存している。炉の底面には黄褐色土が貼られていた。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片と小型磨製石斧、石鎌が出土している。

SB55（第66図） SB58・SD70を切り、SZ01・SB57に切られている。圓丸長方形に近く、とくに排水溝が付く北東隅が角張る。床面・壁溝は残存し、長方形に配置された柱穴（P1～6）と中央西寄りの炉跡も認められた。柱穴には重複があり、建て替えを認めることができる。ただし、壁体・壁溝に拡張などは認められない。西付近の壁溝底面には掘削痕が確認できる。炉跡は、黄褐色土を円形に敷き詰め、周囲に上手をつくった火皿底を呈する。炉跡周辺には黒色土が分布する。掘方は北側と中央が高く残る馬蹄形状を呈する。弥生土器片や磨製石斧、石鎌・骨片が出土している。

北東隅に排水溝が2条接続している。建て替えに伴って排水溝も掘り直された可能性が指摘できる。SD72の住居接続部周辺の覆土は黄褐色土塊を含む暗褐色土であり、人為的に埋め戻した可能性が指摘できる。この部分は住居跡から2.4m程続いている。当初の壁渠部の範囲が反映している可能性もある。

SB57（第68図） 焼土と掘方が残存する。平面形などは不明であり、柱穴も把握できない。掘方は方形を呈するが、住居の形態と異なる可能性がある。弥生土器片が出土している。

SB58（第68図） SB55・SB57に切られている。平頂潤丸方形の掘方が残り、P1～3の主柱穴と北西部の壁溝は把握できたが、床面・炉跡は残存していない。柱穴には建て替えの可能性が指摘できる。北東隅に、北斜面にのびる排水溝（SD67・68）が接続する。SD68がSD67を切り、建て替えに伴って排水溝もつくり替えた可能性が指摘できる。SD68の住居壁から0.3m程の長さの範囲は、トンネル状になっていた。弥生土器片が出土している。

SB59（第69図） 北部は消失し、さらに北東部の床面が搅乱されている。圓丸方形を呈し、P1～4の主柱穴と壁溝、中央西寄りの炉跡が確認できる。床面は2面ある。炉跡は上の床面に伴う。壁体・壁溝や柱穴に建て替えが認められないことから、床の補修や貼り替えなどが想定できる。掘方底面は平坦で

ある。弥生土器片が出土している。

SB60（第70図） SB54・56とSZ01に切られている。楕円形を呈し、南西半の握方と長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が確認できる。床面の残存は一部だけであり、炉跡は認められない。壁溝は本来よりあぐっていなかった可能性がある。弥生土器片、骨片が出土している。

SB62（第71図） SD67・68・72に切られている。楕円形に近い楕円形を呈し、北部を除く握方・床面・壁溝、長方形に配置された主柱穴（P 1～4）、中央北西寄りの炉跡が確認できる。床面は2面あり、上下面とともに同じ場所に地床炉が伴う。壁体・壁溝や柱穴に建て替えが認められることから、炉を含む床の袖修や貼り替えなどが想定できる。握方底面は平坦である。弥生土器片などが出土している。

SB63（第72図） 剥平を受けており、平面楕円形の握方・壁溝の一部と、方形に配置された主柱穴（P 1～4）だけが残存する。弥生土器片が出土している。

SB65（第73図） 壁溝の一部と長方形に配置された柱穴（P 1～4）だけが残存する。楕丸長方形を呈する。北東隅にSD75が接続している。SD75は調査区中央の谷に向かってのびており、SB65の排水溝である可能性が高い。住居跡などから弥生土器片が出土している。

SB66（第73図） 床面は消失しており、壁溝の一部と方形に配置された主柱穴（P 1～4）のみが残存する。小型の楕丸形を呈する。弥生土器片が出土している。

SB67（第74・75図） SB68、SH66に切られているが、残存は良い。平面楕丸長方形を呈する。長方形に配置された主柱穴（P 1～4）には、径0.2m程の柱痕が確認できた。覆土に多量の燒土粒と炭化物が含まれ、床面にはその集中が多く認められた。壁や床面の被熱も認められ、焼失したことがわかる。位置関係から、中央南寄りの燒土は炉跡である可能性が高い。

東部中央には、貯藏穴の可能性が高い土坑が検出された。燒土粒・炭化物の少ない下層の上面から、台付窓が出土している。南東隅には楕円形の凹みがある。出入口の施設の痕跡である可能性などが指摘できる。住居の握方は中央の高いドーナツ状を呈する。北西隅付近の床面上から数個体の弥生土器が出土したほか、多くの土器片が出土している。出土土器は菊川様式古段階の特徴を持ち、弥生時代後期前葉に位置づけできる。

北東隅にはSD90が接続する。SD90は調査区中央の谷にのびており、SB67の排水溝である可能性が高い。断面箱型であり、住居壁から1.5m程までの覆土上層は黄褐色土、その他の覆土は暗褐色土である。黄褐色土の部分はトンネル状であった可能性が高い。

SB68（第75図） SB67を切っている。残存は悪く、掘方底面の一部と炉跡、方形に配置された主柱穴（P 1～4）のみが残存する。弥生土器片などが出土している。

SB71（第77図） 握方・壁溝の一部と炉跡、2つの柱穴が残存し、楕丸長方形に復元できる。残存部では掘方底面を床としており、地床炉も掘方底面で検出できた。弥生土器片などが出土している。

SB72（第78図） 斜面崩落土の下で発見された。北半部は作業安全上のために調査区外となった。楕丸形の握方と床面・壁溝、炉跡が残存するが、柱穴は発見できなかった。本来より住居内に主柱穴を設けていない可能性が考慮される。炉跡周辺に炭化物と燒土の集中があるが、壁や床面の被熱は認められない。炉跡の脇には礎が1箇所で検出されている。掘方底面は平坦である。窓枠が口縫を下にして出土している。菊川様式古段階（弥生後期前葉）に位置づけできる。

SB73（第79図） 北部が消失している。SB74を切る楕丸長方形の住居跡である。掘方・床面・周溝・地床炉と4つの主柱穴（P 1～4）が残存する。各柱穴には重複する小穴があり、建て替えを認めることもできるが、壁や床に建て替えの痕跡はない。掘方底面は平坦である。P 9は、出入口に関係する痕跡の可能性が考慮される。炉の上などから弥生土器が出土しているほか、砾石なども出土している。なお、炭化物が残されており、マキ属という同定結果とAD135～323という年代測定の結果が出ている。

SB74 (第80図) 北部が消失しているほか、東部がSB73に切られている。西部では掘方・床面・壁溝が残存するが、東部の床面・壁溝は消失している。楕円形を呈し、4つの主柱穴（P 1～4）と地床炉は残存する。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB75 (第81図) SB76を切り、SD87に切られている。隅丸長方形の掘方は多く残存するが、床面・壁溝の残存は西部のみである。主柱穴（P 1～4）と地床炉は残る。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB76 (第82図) 北部の床面・壁溝が消失している。4つの主柱穴（P 1～4）と地床炉は残存する。掘方は中央と周縁の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB77 (第83図) SB78・79を切る。4つの主柱穴（P 1～4）と西部の掘方・床面・壁溝が残存する。平面形は楕円形に復元できる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB78・79 (第84図) ともに北東部が消失しているほか、SB77に切られている。SB78はSB79にも切られている。一部の壁溝と主柱穴（P 1～3）が残存しており、平面楕円形に復元できる。弥生土器片が出土している。SB78を切るSB79は、掘方・壁溝の一部と4つの主柱穴（P 4～7）が残存し、隅丸方形を呈することがわかる。掘方底面は中央部を深くした形状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB80 (第85図) 長方形に配置された主柱穴（P 1～9）と掘方の一部だけが残存する。柱穴の状況から建て替えを認めることができる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB81 (第85図) 残存は悪く、掘方と一部の壁溝が残る程度である。P 1・4・9などの小穴が発見されているが、主柱穴は判然としない。SD86は、SB81の北東隅から北側斜面にのびており、SB81の排水溝である可能性が高い。各所から弥生土器片などが出土している。

SB83・84 (第87図) SB83は、掘方と4つの主柱穴（P 1～4）のみが残存する。SD87・89に切られている。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。SB84は、掘方・壁溝の一部が残存しており、隅丸方形もしくは長方形に復元できる。主柱穴は判然としない。掘方底面は周縁が高くなる。弥生土器片が出土している。なお、SB83とSB84の先後について、切り合いから判断することはできなかった。

SB86 (第88図) 掘方と北西部の床面・壁溝が残り、楕円形に復元できる。主柱穴は4つ（P 1～4）が残存、炉跡は一部が残存する。掘方底面は西縁が高い。弥生土器片と磨製石斧が出土している。

SB88 (第91図) 隅丸方形の掘方と壁溝・床面・方形に配置された主柱穴と中央北寄りの地床炉が残存する。掘方底面は周縁が高い。弥生土器片などが出土している。SD93は、SB88北東隅から調査区中央の谷へとのびる排水溝である。断面U字形で、住居壁から1.4m程の範囲に黄褐色土の埋め土が認められた。この部分は暗渠状になっていた可能性が高い。台付甕が出土している。

SB91・92 (第95図) SB91はP 1～4の主柱穴と掘方底面の一部、SB92はP 5～7の主柱穴と地床炉の下部、掘方底面の一部が残る。新旧はSB91→SB92であり、SB92の方が大型であると推測できる。SB91から磨石、その他に弥生土器片が出土している。

SB93 (第96図) 壁溝の一部と2基の炉跡の下部、3つの主柱穴（P 1・2・4）のみが残る。隅丸方形の可能性が高く、2基の炉跡の底面には、黄褐色土が敷かれていた。本来は周堤をもつ火皿状であった可能性が考慮される。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB94 (第96図) 南部の掘方・床面・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）が残存しており、楕円形に近い隅丸長方形に復元できる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB95 (第97図) 楕円形を呈し、北東部を除く床面と壁溝、4つの主柱穴（P 1～4）と地床炉を検出した。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB96 (第98図) 掘方・壁溝の一部と4つの主柱穴（P 1～4）、地床炉の下部が残存する。柱穴の周囲には小穴があり、建て替えを認めることもできる。炉跡の底面には黄褐色土が敷かれていた。弥生土

器片が出土している。

SB97（第98図） 南部の掘方・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面橢円形に復元できる。床面は消失している。弥生土器片が出土している。

SB98（第99図） 掘方・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面橢円形に復元できる。床面は消失している。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片とガラス質の漆が出土している。

SB99・100（第100図） 2軒が重複しており、切り合からSB100→SB99という並びが把握できる。SB99は平面橢円形を呈し、掘方とP 1～P 4の主柱穴、中央北寄りの地床炉が残る。床面は大半が消失している。壁溝は検出できなかったが、本来よりなかった可能性もある。掘方底面は平坦である。SB100は、SB99に上面を被っている。平面円形を呈し、掘方とP 5～7の主柱穴が残存する。P 3の位置にも主柱穴があつた可能性が高い。また、P 8はSB100に伴う可能性が高い。掘方底面は平坦である。SD105は調査区中央の谷にのびるSB99・100の排水溝である。SB99から弥生土器片と骨片が出土している。

SB102・103（第102図） SB102は、SB101・SD108・SD120・SH111に切られ、SB103を切る。東部の掘方と床面が残り、断面では壁溝の存在も把握できる。隅丸長方形を呈する可能性が高い。長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残存し、建て替えを認めるこどもできる。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片とガラス小玉が出土している。

SB103は、SB102にも切られている。掘方の一部とP 6～8の主柱穴が残る。平面形などは不明である。弥生土器片などが出土している。

SB104（第103図） 平面橢円形を呈し、掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴（P 1～3）、中央の地床炉が残る。北東の主柱穴は獨立柱跡物跡の柱穴によって消失した可能性が高い。掘方底面は概ね平坦である。SD110が南西隅から調査区中央の谷に向かってのびている。SB104の排水溝である可能性が高い。SD110はSB106に切られている。各所から弥生土器片や石錠片・骨片などが出土している。

SB105（第104図） 掘方と壁溝の一部、長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残る。平面形は不明である。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB106・107（第104図） SB106は、小型の橢円形を呈する住居跡である。掘方・壁溝と中央部の床面、柱跡が残る。柱穴は認められず、本来より住居跡内に柱穴を設けていない可能性が高い。炉跡の底面には土が敷かれていた。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片などが出土している。SD114が南西隅から調査区中央の谷へのびている。SB106の排水溝である可能性が高い。

SB107は、SB106に切られているほか、上部が大きく削平されている。掘方底部と壁溝の一部、東部の柱穴（P 1～4）が残存する。弥生土器片が出土している。SD113はSB107の排水溝である可能性がある。

SB108（第105図） 掘方の一部と焼土を検出した。平面形などの詳細は不明であり、主柱穴も判然としない。焼土は炉跡の残存である可能性がある。弥生土器片が出土している。断定はできないが、SD111はSB108の排水溝の可能性がある。

SB109（第105図） 掘方・壁溝の一部と長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残り、平面橢円形に復元できる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB111（第106図） 掘方中央部と長方形に配置された主柱穴（P 1～7）が残る。平面形などは不明である。2組の主柱穴が抽出でき、建て替えなどの可能性が考慮される。弥生土器片が出土している。

SB112（第106図） 掘方底面の中央部と方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残る。住居跡の規模や平面形は不明である。柱穴の覆土には焼土や炭化物が含まれる。中央に検出された焼土は、炉跡の残存である可能性もある。弥生土器片と石錠が出土している。

SB114（第110図） 南部の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴（P 1～3）が残り、橢円形に復元できる。掘方は、中央がわずかに高いドーナツ状を呈する。掘方底面の周縁部には、平面三角形

の掘削痕が確認できた。弥生土器片が出土している。

SB115～117(第III図) 3軒が重複しており、切り合ひなどからSB117→SB116→SB115の新旧が把握できる。SB115は、南東部の掘方・床面・主柱穴が残り、平面方形に復元できる。壁溝は認められない。床面上において土師器の高坏が出土しており、古墳時代初期に位置づけできる。SB116は、南東部の掘方・床面・壁溝と主柱穴が残り、平面方形に復元できる。壁溝は南壁で途切れる部分があり、出入口との関連が考慮される。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片などが出土している。SB117は、壁溝の一端と3つの主柱穴が残り、平面椭円形に復元できる。弥生土器片が出土している。

SB118(第III図) 南部の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴(P1～6)が残り、平面椭円形に復元できる。炉跡は消失している。P7は貯蔵穴の可能性が高く、覆土に炭化物が多く含まれる。掘方底面は概ね平坦である。南西部の床面上において高坏などの土器が多く出土しているほか、貯蔵穴からほぼ完形の壺が正位で出土している。壺内部の土には多量の炭化物が含まれていた。出土土器は菊川様式中段階(弥生時代後期中葉)に位置づけできる。

SB119・120(第IIA図) 2軒が重複しており、SB119がSB120を切っている。SB119は、南半分の掘方・床面、4つの主柱穴、中央西寄りの地床炉が残存し、平面方形に復元できる。本来より壁溝はない可能性が高い。大半では掘方底面が床面となる。弥生土器片が出土している。

SB120は、南部の掘方・床面・壁溝と4つの主柱穴(P5～8)が残り、平面方形に復元できる。P9は貯蔵穴の可能性がある。壺上中や床面上には、焼土粒・炭化物の集中が多く認められた。焼失した可能性が指摘できる。床面上において、古墳時代前期の古式土師器(壺・壺)が出土している。

SB121(第IIIB図) 西部の掘方・床面・壁溝と方形に配置された主柱穴(P1～3)が残存しており、平面椭円形に復元できる。掘方は中央のやや高いドーナツ状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB122(第IIIC図) SHI148・149などを切る。掘方の多くと一部の床面・壁溝が残存しており、平面方形に復元できる。方形に配置された主柱穴(P1～4)、2基の地床炉も検出することができた。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。床面上において古墳時代前期の上師器片が出土している。

SB123(第IIID図) 南部の掘方・床面・壁溝と一部の主柱穴(P1～4)が残存しており、平面椭円形に復元できる。弥生土器片が出土している。

SB124(第IIIE図) SB122・125に切られている。一部の掘方・壁溝と4つの主柱穴(P1～4)のみが残存する。平面椭円形の可能性が高い。弥生土器片が出土している。

SB125(第IIIF図) 南西部の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴(P1～5)、中央北寄りの炉跡が残存している。平面は腰張りの隅丸長方形を呈する。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB126(第IIG図) SB126・129を切っている。SB126は椭円形(A)から方形(B)に建て替えられていることがわかっている。

Aは、Bの掘方底面において発見された住居跡であり、壁溝の一部と4つの柱穴(P3・4・9・10)、地床炉(戸跡2)の下部が残る。平面椭円形に復元できる。弥生土器片が出土している。Bは、西部の掘方・床面と方形に配置された主柱穴、中央北寄りの地床炉(戸跡1)が残る。方形の住居跡であり、壁溝は本来よりなかった可能性が高い。柱穴の一部(P4など)には、柱裏と版築による互層状の表込め土が確認できる。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片などが出土している。

SB129(第IIG・123図) SB128に切られ、SB130を切っている。さらに、SB129の中で3軒の重複が認められ、A→B→Cの新旧が把握できる。

Aは、南部の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴(P9・11・12)が残り、隅丸長方形に復元できる。断面では壁溝の存在が確認できたが、平面における検出は難しかった。Bは、南東部の掘方・

床面と長方形に配置された主柱穴（P 5～8）が残り、楕円形に近い隅丸長方形に復元できる。Aと同様に、断面では壁溝の存在が確認できたが、平面における検出は難しかった。Cは、不整形形の掘方と床面が残り、4つの主柱穴（P 1～4）、中央東寄りの地床炉も確認できる。壁溝は本来より明確でなかったと判断できる。掘方は南北が深く、馬蹄形状を呈する。弥生土器片と石核、骨片が出土している。

SB130（第124図） SB129に切られている。平面楕円形の掘方と西部の床面・壁溝が残る。長方形に配置された主柱穴（P 1～4）と中央北寄りの地床炉も確認できる。掘方は中央のわずかに高いドーナツ状を呈する。弥生土器片と磁石が出土している。

SB131（第125図） SX04に切られ、SB132を切る。西部の掘方・床面と方形に配置された主柱穴（P 1～3）が残り、平面不整形形に復元できる。断面では壁溝の存在が把握できたが、平面における把握は難しかった。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB132（第125図） SB131に切られている。南部の掘方と長方形に配置された主柱穴（P 4～6）が残り、平面楕円形に復元できる。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB133（第126図） 東部以外の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴（P 1～4）、中央西寄りの地床炉が残り、平面楕円形を呈する。炉跡周辺には廃棄されたような焼土塊の集中があり、炉跡をつくり直している可能性が指摘できる。掘方は周縁の高い形状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB134（第127図） SB133に切られている。西部の掘方・床面・壁溝と方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面形は円形に近く復元できる。弥生土器片が出土している。

SB135（第128図） SB136を切っている。西部の掘方・床面・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面隅丸長方形に復元できる。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片とガラス小玉が出土している。

SB136（第128図） SB135に切られている。平面方形の掘方と長方形に配置された主柱穴（P 5～12）が残る。主柱穴はP 5～8とP 9～12の2組が突出できる。中央北寄りに地床炉の残存が認められた。弥生土器片などが出土している。

SB137（第129図） 西部の掘方・床面・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）が残り、平面楕円形に復元できる。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片が出土している。

SB138（第130図） SH159に切られている。平面長方形の掘方と長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が良好に残る。壁溝は本来よりなかった可能性が高い。北寄りには地床炉がある。掘方底面は平坦である。弥生土器片などが出土している。

SB139（第131図） 平面楕円形の掘方と東部を除く床面・壁溝が残存する。長方形に配置された主柱穴（P 1～7）と中央北寄りの地床炉、南東隅には貯蔵穴の可能性が高い土坑が認められる。主柱穴にはP 1～4とP 5～7の2組が認められ、建て替えの可能性が指摘できる。炉跡においても、つくり直しを断面に認めることができる。貯蔵穴の可能性のある土坑は、覆土に焼土粒と炭化物を大量に含む。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。南東隅に溝が接続しており、排水溝の可能性が指摘できる。住居跡からは弥生土器片と磁石などが出土している。

SB140（第132図） SB141を切る。西部の掘方・床面・壁溝、長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面隅丸長方形に復元できる。弥生土器片が出土している。

SB141（第132図） SB140に切られている。西部の掘方・床面・壁溝と主柱穴（P 7・8）が残存しており、平面形は方形か隅丸長方形に復元できる。弥生土器片が出土している。

SB142（第133図） 平面楕円形の掘方・床面が残るが、南部と東部は把握できない。壁溝は本来より明確でなかった可能性がある。北部の東西に主柱穴（P 1・2）、中央に地床炉を検出した。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB143（第134図） 北京都を除く掘方・床面・壁溝と4つの主柱穴（P 1～4）、中央北寄りの戸跡などが良好に残る。平面横円形を呈する。覆土に多量の焼土粒と炭化物を含み、床面などに被熱があることから、焼失した可能性が高いと判断できる。西壁付近では、炭化材がまとまって残っていた。炭化材は西壁に平行のものと直交するものがあり、長さ0.5m以上、太さ0.1m程度のものも含まれている。飛木など住居構築材であった可能性が高い。樹種同定・年代測定の結果は、No.1がマキ属、No.4がクスノキ科、No.2・3・5・6がクリであり、AD243～377年である（詳細は第6章第4節に報告）。中央北寄りに地床炉が認められるが、断面（B断面）では東西2基ある可能性が指摘できる。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片が出土している。

SB144（第133図） 平面方形の掘方と方形に配置された主柱穴（P 1～3）が残る。P 4は貯蔵穴や出入り口に關わる可能性がある。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片が出土している。

SB145・146・147（第135・136図） 3軒が重複しており、切り合いなどからSB147→SB146→SB145の新旧が把握できている。なお、これらはSB148・149より古く、SB146はSB150を切る。

SB145は、西部の掘方・床面と主柱穴（P 1～3）が残る。平面形などの詳細は不明である。壁溝は断面による把握はできたが、平面における検出は難しかった。中央北寄りには地床炉を検出している。掘方底面は平坦である。SB146は、西廻廊の掘方・床面が残り、平面方形に復元することができる。主柱穴については、P 8かP 9などが抽出できるが、判然としない。壁溝は本来よりなかった可能性がある。SB147は、南北廻廊の掘方・床面と長方形に配置された主柱穴（P 4～7）が残り、平面横円形に復元できる。壁溝は断面による把握はできたが、平面における検出は難しかった。掘方底面は平坦である。各住居跡から弥生土器片が出土している。

SB148・149・150（第137・138図） 3軒が重複しており、切り合いなどからSB150→SB149→SB148の新旧が把握できている。SB149・148はSB145～147を切るが、SB150だけはSB146に切られている。

SB148は、南西部の掘方と一部の主柱穴（P 5・6）が残り、平面方形に復元できる。掘方底面は平坦である。SB149は、南西部の掘方・床面・壁溝と方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残り、平面方形に復元することができる。SB150は、南西部の掘方・床面・壁溝と長方形に配置された主柱穴（第138図 P 1～4）、中央西寄りの地床炉が残る。平面横円形を呈する。掘方は中央の高いドーナツ状を呈する。各住居跡から弥生土器片が出土している。

SB151（第139図） 南西廻の掘方、彌を描く壁溝、主柱穴の一部（P 1・2）が残る。弥生土器片が出土している。

SB152（第139図） 西部の壁溝と長方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残り、平面隅丸長方形に復元できる。弥生土器片が出土している。SB154と一部が重なるが、切り合い関係は明確でない。

SB153・154（第140図） 2軒が重複しており、SB154→SB153の新旧が把握できている。SB153は、西寄りの掘方・壁溝と方形に配置された主柱穴（P 1～4）が残存しており、平面円形もしくは隅丸方形に復元できる。柱穴の状況から建て替えの可能性が考慮されるが、明確ではない。掘方は西縁部が高くなる形状を呈する。弥生土器片が出土している。

SB154は、一部の壁溝と方形に配置された主柱穴（P 6～9）が残り、平面形などはSB153に類似する可能性が高い。弥生土器片が出土している。SB152と一部が重なるが、切り合い関係は明確でない。

SB155（第141図） SB156に切られている。西部の掘方・床面・主柱穴（P 1・2）と地床炉が残る。平面形は隅丸長方形を呈する。掘方底面は概ね平坦である。弥生土器片などが出土している。

SB156（第141図） SB155を切る。西部の掘方・床面・壁溝・主柱穴（P 3・4）が残り、平面方形に復元できる。柱穴に建て替えの痕跡が確認できる。掘方底面は平坦である。弥生土器片と鉢石などが出土している。

SB157・158（第142・143図） 2軒が重複しており、SB158→SB157の新旧が把握できている。SB157は、中央～西部の掘方・床面、方形に配置された主柱穴（P 1～4）、中央北寄りの地床炉が残る。平面形は概ね方形を呈する。壁溝は本来よりなかった可能性が高い。地床炉は東西2基ある。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB158は、西部の掘方・床面と方形に配置された主柱穴（P 5～8）が残り、SB157と同様の平面形に復元できる。壁溝は本来よりなかった可能性が高い。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB159（第143図） 西部の掘方・床面と長方形に配置された主柱穴（P 1～5）が残り、平面梢円形に復元することができる。壁溝は、断面による把握はできたが、平面における検出は難しかった。掘方底面は概ね平坦であるが、周縁部に鐵の鋸削痕が確認できた。弥生土器片が出土している。

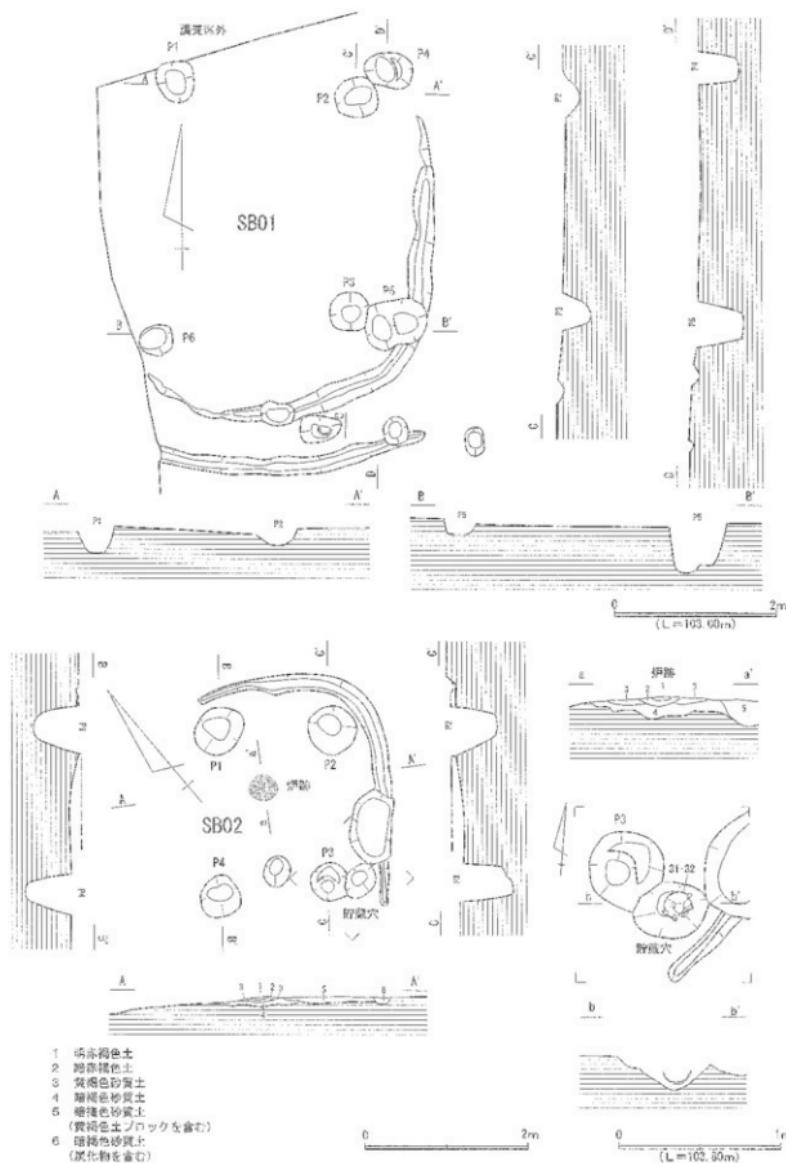
SB160・161・162（第144・145図） 3軒が重複しており、SB162→SB161→SB160の新旧が把握できている。SB160は、中央～西部の掘方・床面と方形に配置された主柱穴（P 1～4）、中央の地床炉が残る。平面形は概ね方形である。壁溝は本来よりなかった可能性が高い。掘方底面は平坦である。弥生土器片が出土している。

SB161は、西縁部の掘方・床面と方形に配置された主柱穴（P 5～8）が残る。平面形は方形に復元できる。弥生土器片が出土している。SB162は、北西部の掘方のみが残る。掘方底面を床面とした可能性はある。柱穴などの詳細は不明である。弥生土器片が出土している。

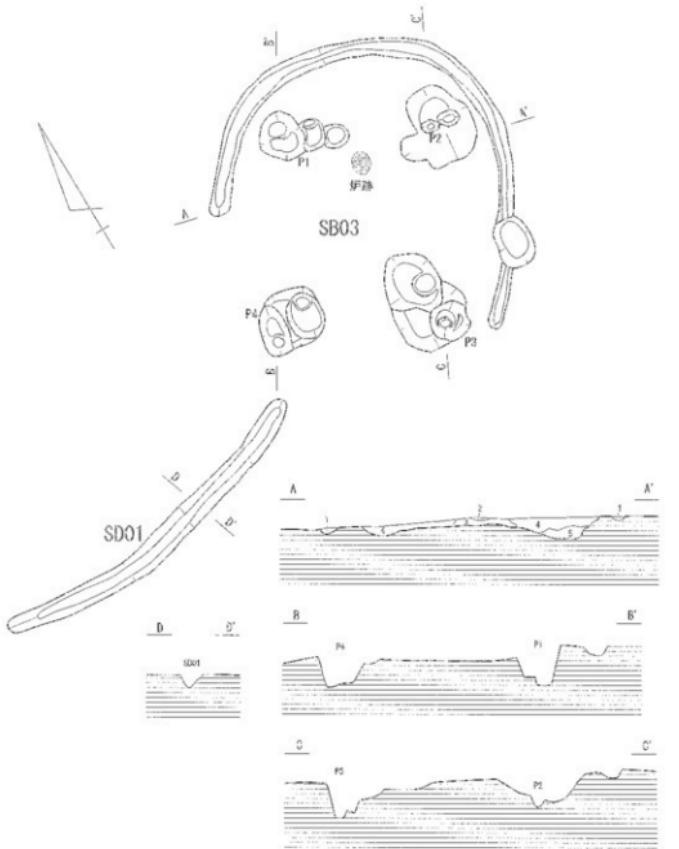
第3表 住居跡一覧

遺構名	グリッド	上記	遺構番号	前			後			左			右			露西	露西
				南北(m)	東西(m)	高さ(m)	南北(m)	東西(m)	高さ(m)	南北(m)	東西(m)	高さ(m)	南北(m)	東西(m)	高さ(m)		
SB157-A	D 3 N-1'-E	掘方		4	3.5	2.90											Ⅱ層
SB157-B	D 3 N-2'-E	掘方	(5.45) (4.30)	4	3.70	2.90											Ⅱ層
SB158	E 6 N-40'-E	掘方	(3.95) (2.93)	4	2.10	2.25	○	1									Ⅱ層
SB160	E 5 N-28'-E	掘方	(4.60) (3.80)	4	2.30	2.10	○	1									Ⅱ層
SB161	Y 5 N-34'-W	掘方	5.50	4.45	2	2.70	0.05	○	1								Ⅱ層
SB162	Y 5 N-33'-E	掘方	5.40 (5.15)	4	2.95	2.50	○	1									Ⅱ層
SB160	F 5 N-7'-E	掘方	(3.00)	6	1.10	4	4.70	3.00	○								SB04
SB161	E 7 N-4'-W	掘方	4.56 (4.10)	4	2.50	2.15	○	1									SB04・05
SB162	E 7 N-3'-W	掘方	5.20 (5.70)	2	3.60	3.00	○	1									SB07
SB160	E 7 N-29'-W	掘方	4.40 (4.10)	4	2.50	2.15	○	1									SB07・08
SB161	E 6 N-27'-W	掘方	5.16	4.00	4	2.10	1.95	○	2								SB19・19・20
SB161A	G 8 N-38'-W	掘方	(5.90)	4.80	4	2.65	2.75	○	1								SB42・SB47・09
SB161B	G 6 N-11'-W	掘方	(5.90)	4.90	4	2.40	1.80										SB12・SB47・09
SB162	F 6 H-12'-W	掘方	6.00	G 10	4	2.05	3.10	○	1								SB05・13・20
SB163	G 5 H-40'-E	掘方	4.70	3.00	4	2.25	2.60	○	1								SB05
SB164	G 5 H-1-W	掘方	5.50	G 4	2.90	(6.40)			○	1							SB48
SB165	F 7 N-21'-E	掘方	4	3.5	2.00												SB49
SB165-B-0	F 7 N-38'-W	掘方	4	3.95	5.63	4											SB16・16・20
SB166	F 3 N-29'-W	掘方	4	2.95	2.00												SB16
SB167	G 6 N-29'-W	掘方	(4.00)	4.00	4	2.50	2.00	○	1								SB08・20・SA07・23・24
SB168	H 8 N-31'-W	掘方	4	2.50	2.00												SB08
SB169	G 5 N-32'-W	掘方	(4.20)	4.00	5	2.40	2.00	○	1								SB08・T002・27・28
SB170	G 6 N-32'-W	掘方	5.60	4.95	4	2.10	2.00	○	1								SB18・19・T002・23・24
SB171	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	5	2.40	2.00	○	1								SB08
SB172	G 5 N-32'-W	掘方	5.60	4.95	4	2.10	2.00	○	1								SB08
SB173	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB174	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB175	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB176	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB177	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB178	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB179	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB180	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB181	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB182	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB183	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB184	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB185	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB186	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB187	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB188	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB189	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB190	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB191	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB192	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB193	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB194	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB195	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB196	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB197	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB198	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB199	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB200	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB201	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB202	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB203	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB204	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB205	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB206	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB207	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB208	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB209	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB210	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB211	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB212	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB213	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB214	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB215	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB216	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB217	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB218	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB219	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB220	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB221	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB222	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB223	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB224	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB225	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB226	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB227	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB228	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB229	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB230	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB231	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB232	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB233	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB234	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB235	G 6 N-32'-W	掘方	(4.00)	4.00	2	2.00	2.00	○	1								SB08
SB236	G 6 N-32'-W	掘方	(4.0														

編號	グリッド	北						南						西						
		上緯	下緯	高電導	地質	地盤	風速	風向	降水	地盤	地底水	地盤	地盤							
S0117	C37 N 43° W	高火	0.00	(4.70)	3	3.00	2.40	○										S0135 - 116, S0128		
S0118	C38 N 43° W	高火	0.00	(4.70)	3	2.75	2.60	○											S0143 - 164	高火
S0119	B15 N 43° W	高火	(4.70)	4.30	3	3.05	2.60		1											
S0120	B15 N 43° W	高火(火)	(0.20)	5.20	4	3.15	3.45	○											S0113	高火, 特火
S0121	D18 N 43° W	高火	0.80	5.00	3	3.10	3.45	○											S0113 + S0121	
S0122	D18 N 43° W	高火(火)	0.70	6.00	4	3.60	3.20	○	2											
S0123	D18 N 43° W	高火	0.90	5.00	3	3.75	3.75	○											S0122, S0136, 117, 148	
S0124	D18 N 43° W	高火	0.70	5.00	3	2.75	2.50	○											S0122, 735	
S0125	D19 N 43° W	高火	0.70	6.00	4	3.75	3.50	○												
S0126	D19 N 43° W	高火	0.70	6.00	4	3.70	3.20	○	1										S0128	
S0127	D19 N 43° W	高火	0.70	6.00	4	3.15	3.20	○											S0126 + 126, S0123 - 134	
S0128	D19 N 43° W	高火	0.70	6.00	4	3.50	3.50	○	1											
S0129	D19 N 43° W	高火	0.90	5.00	3	3.05	3.20	○											S0129	
S0130	E20 N 43° W	高火	0.80	(3.90)	4	3.80	2.50	○											S0129 + 126	
S0131	E20 N 43° W	高火	0.80	(3.90)	4	2.95	2.50	○	1										S0128	
S0132	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.30	○											S0129	
S0133	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129 + 126, S0123 - 134	
S0134	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0135	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0136	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0137	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0138	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0139	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0140	E20 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.15	3.20	○											S0129	
S0141	F21 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.05	2.65	○											S0140	
S0142	F21 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.05	2.60	○											S0140	
S0143	F22 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.05	2.60	○											S0143	高火
S0144	F22 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.05	2.60	○											S0143 + S0145	
S0145	F22 N 43° W	高火	0.70	(4.70)	4	3.05	2.60	○											S0143 + S0145	
S0146	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	3.40	3.00	○	1											
S0147	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.50	3.35	○												
S0148	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.20	2.60	○	1											
S0149	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.55	3.00	○	1											
S0150	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0151	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0152	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0153	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0154	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0155	G18 N 43° W	高火	0.00	5.00	4	2.05	2.50	○	1											
S0156	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	2.40	2.40	○	1											
S0157	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.00	○	○											S0156	
S0158	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157	
S0159	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0160	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157	
S0161	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0162	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0163	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0164	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0165	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0166	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0167	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0168	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0169	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0170	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0171	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0172	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0173	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0174	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0175	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0176	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0177	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0178	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0179	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0180	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0181	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0182	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0183	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0184	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0185	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0186	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0187	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0188	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0189	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0190	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0191	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0192	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0193	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0194	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0195	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0196	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.60	○	2										S0157, 2117, 179, 180	
S0197	E22 N 43° W	高火(火)	0.00	5.00	2	3.70	2.6													



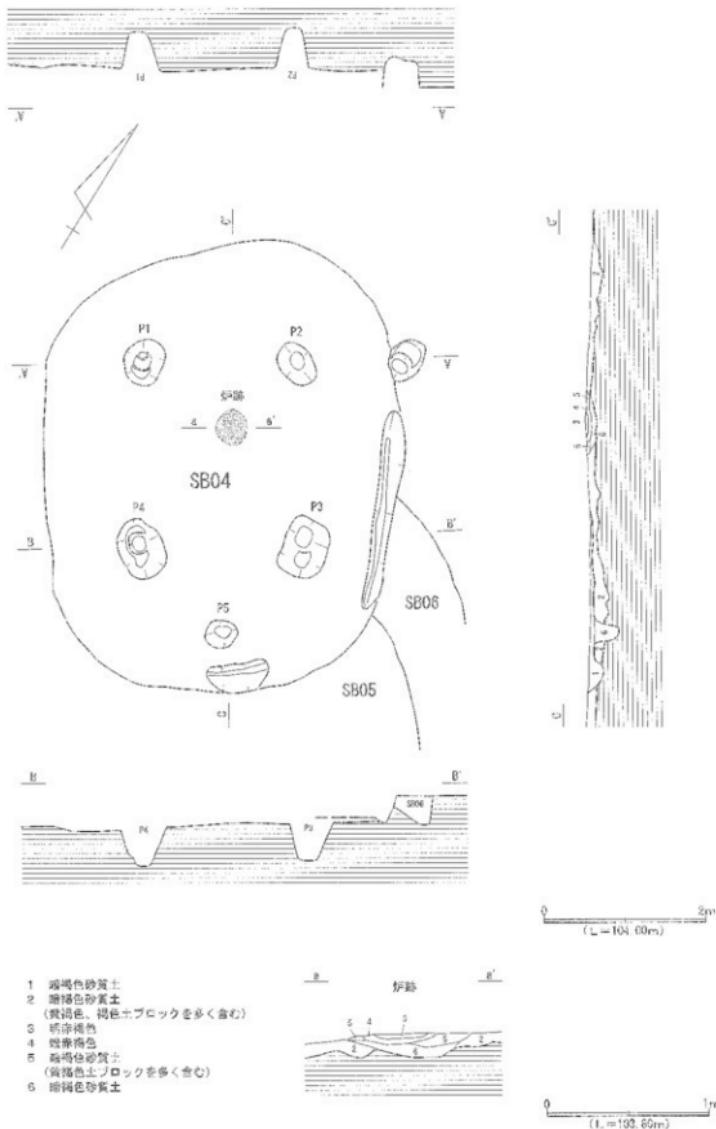
第15図 SB01, SB02



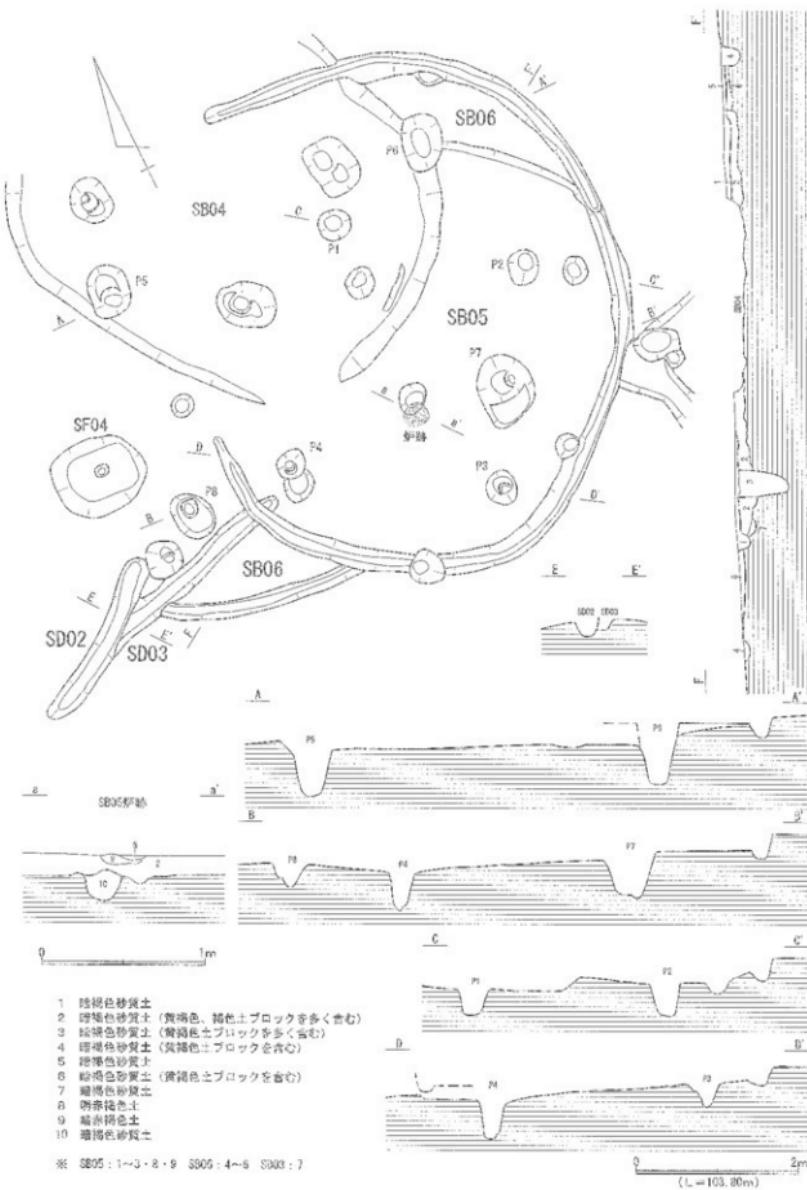
- 1 棕褐色砂質土
- 2 黑褐色土
- 3 鋼褐色砂質土（黃褐色土ブロックを多く含む）
- 4 鋼褐色砂質土（黃褐色土ブロックを含む）
- 5 黃色粘質土（鐵褐色土ブロックを多く含む）

0
(L = 102.80m) 2m

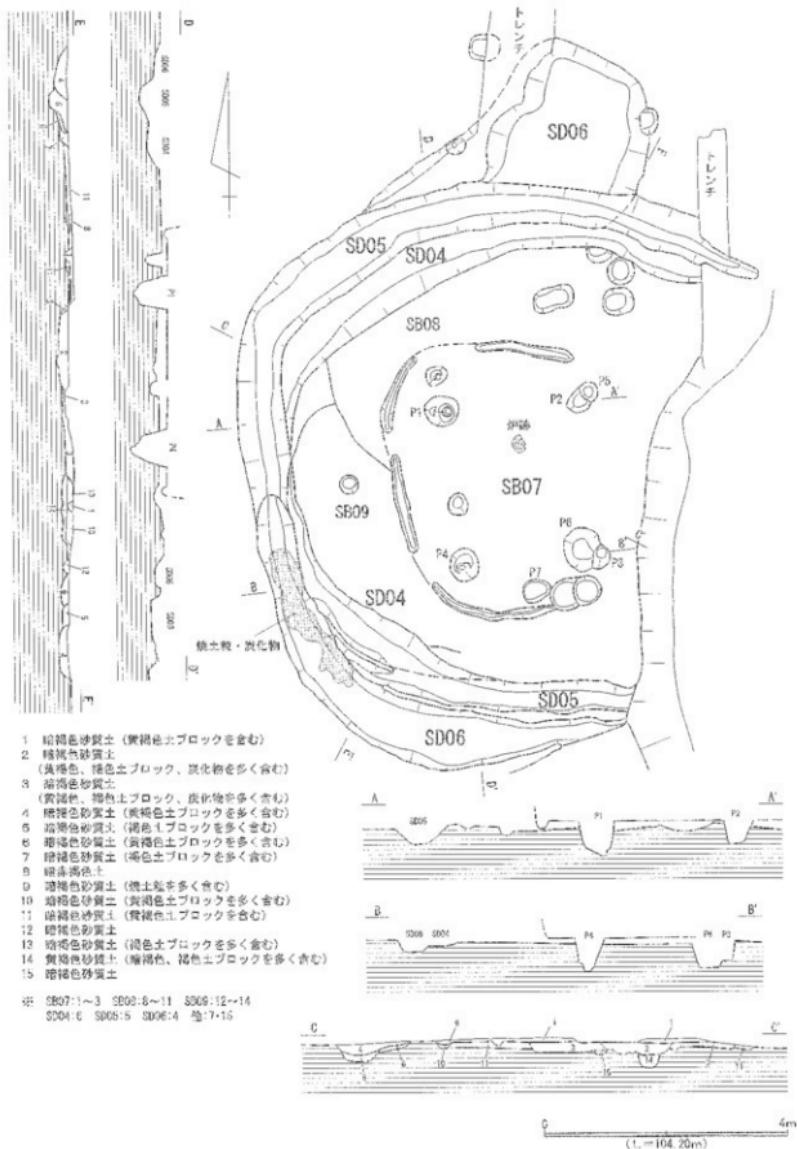
第16図 SB03・SD01



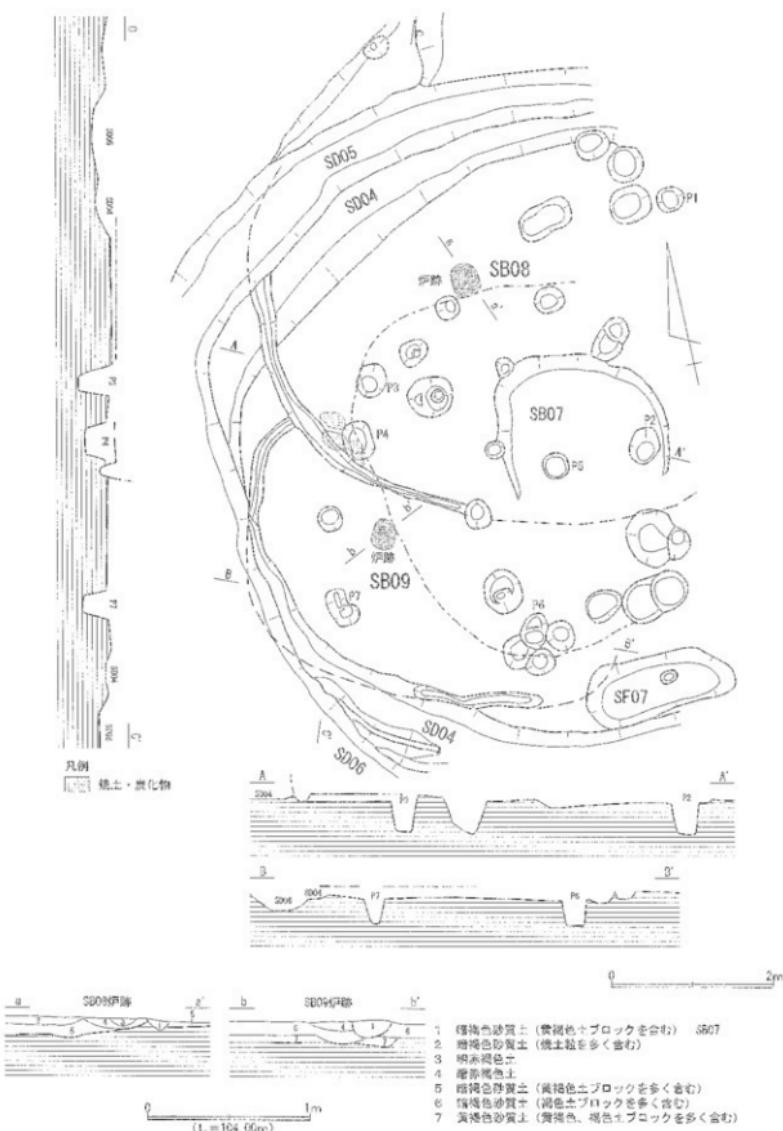
第17図 SB04



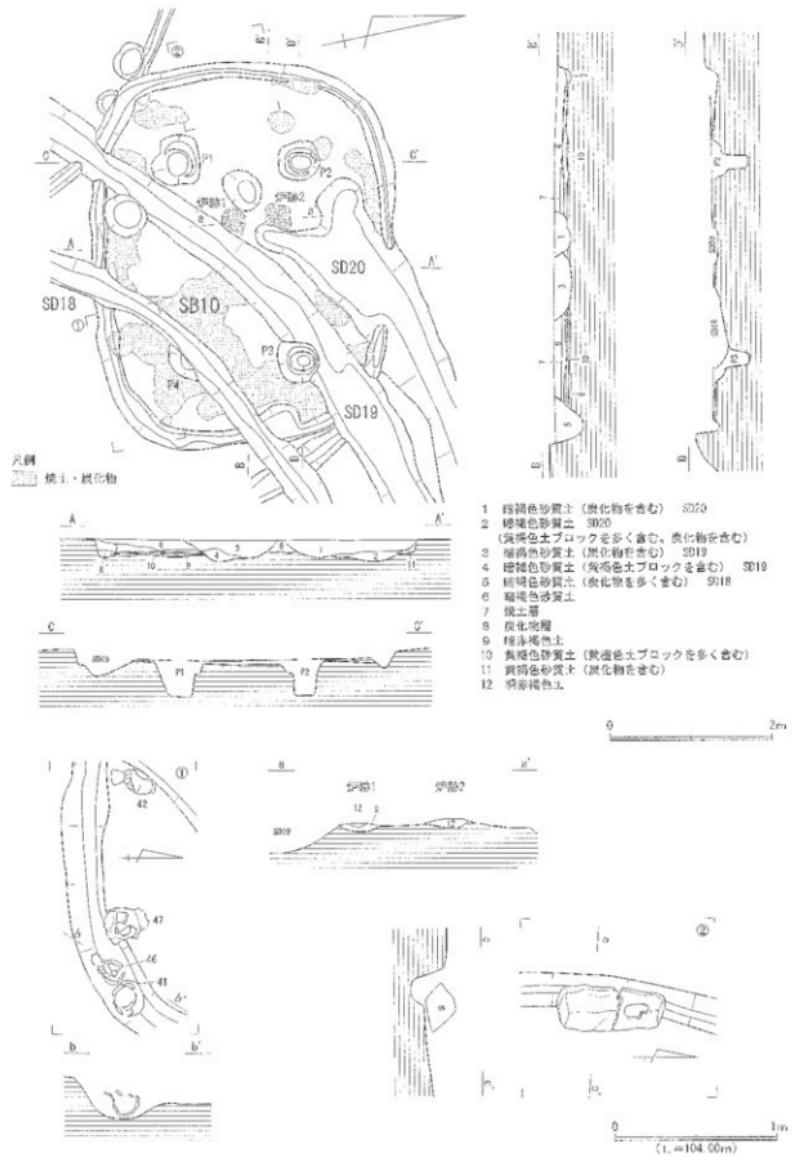
第18図 SB05・SB06・SD02・SD03



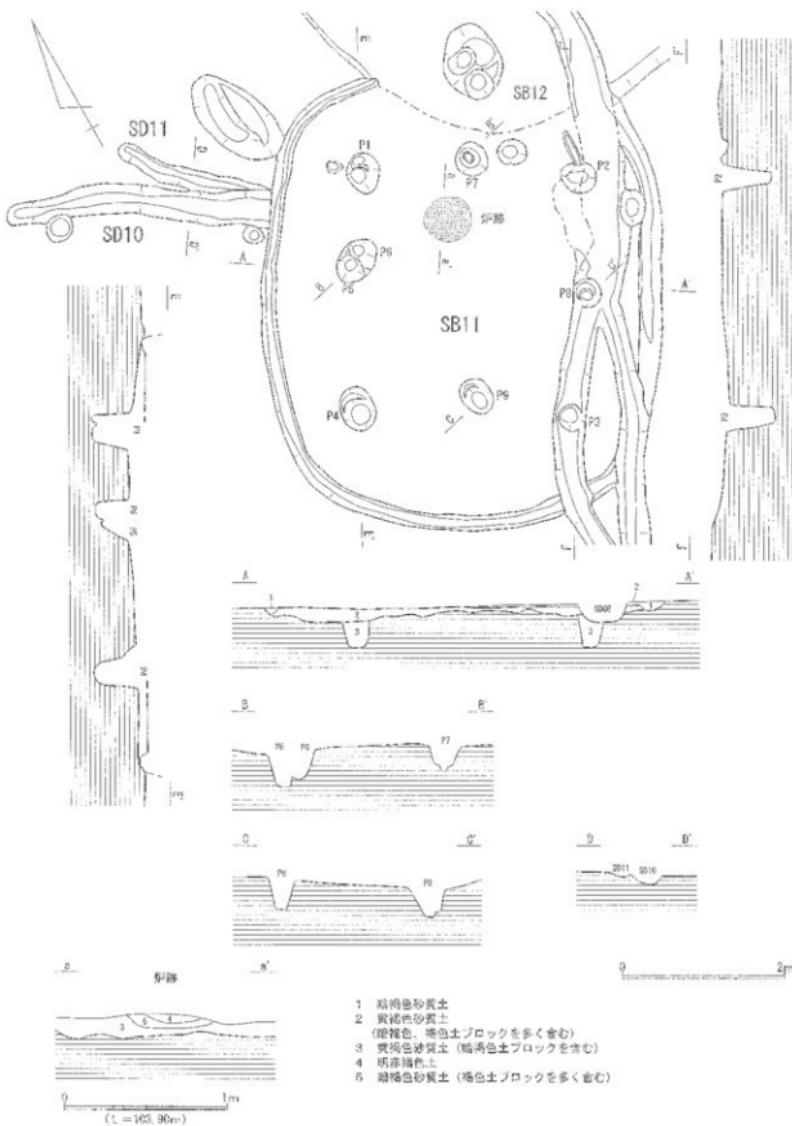
第19図 SB07・SD04～SD01



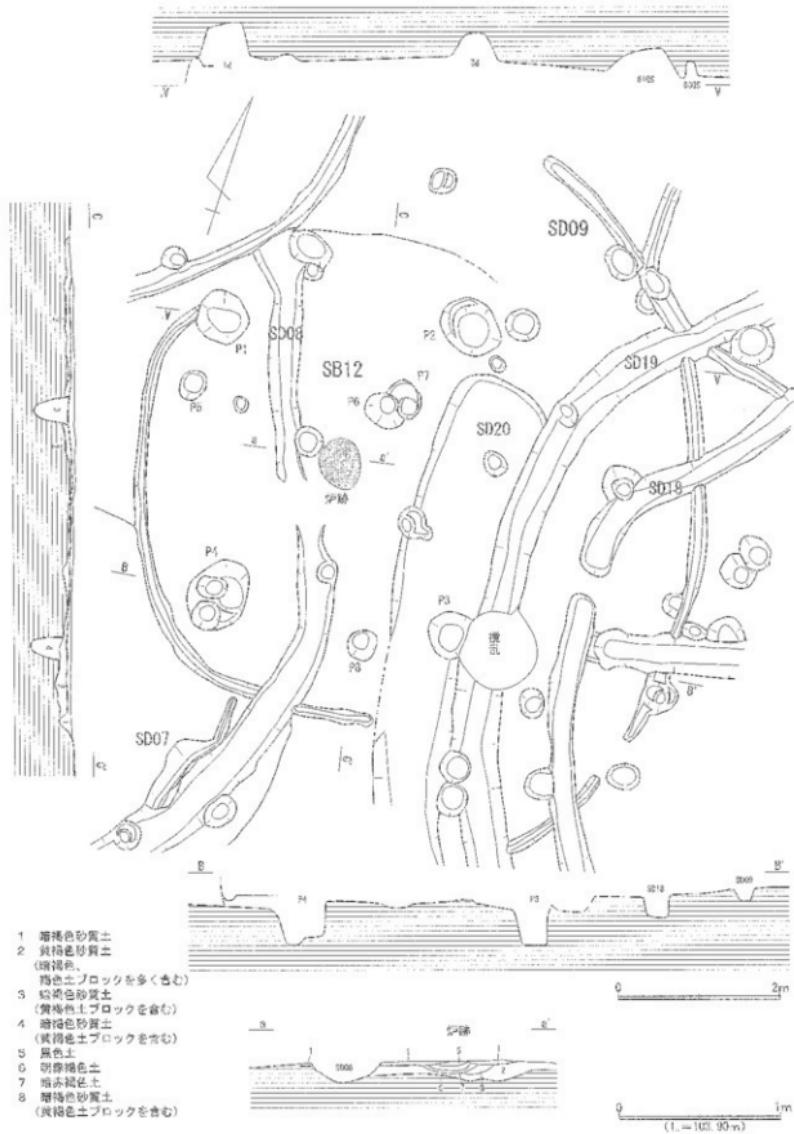
第20圖 SB08・SB09



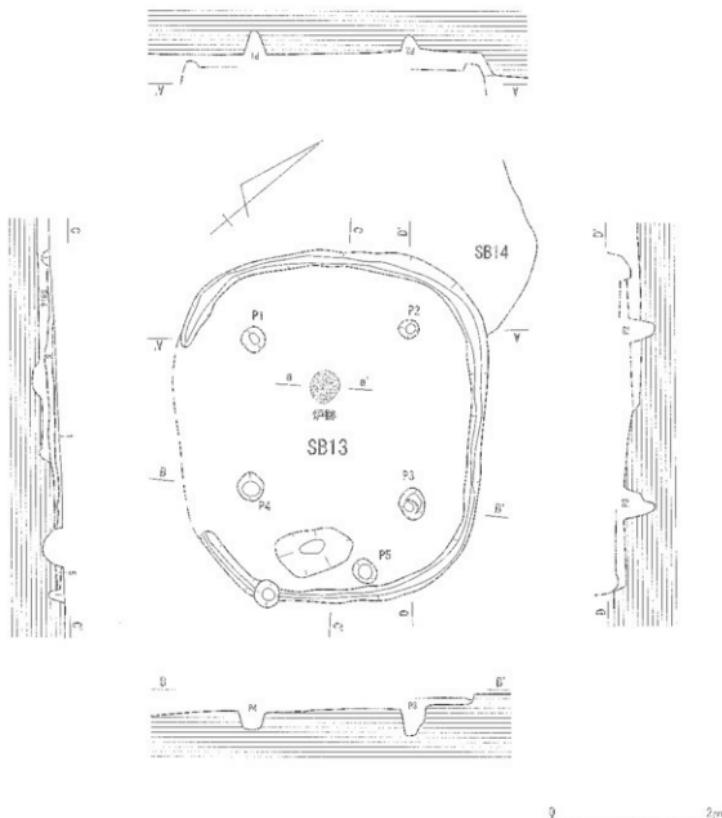
第21図 SB10



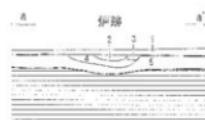
第22図 SB11・SD10・SD11



第23図 SB12・SD09

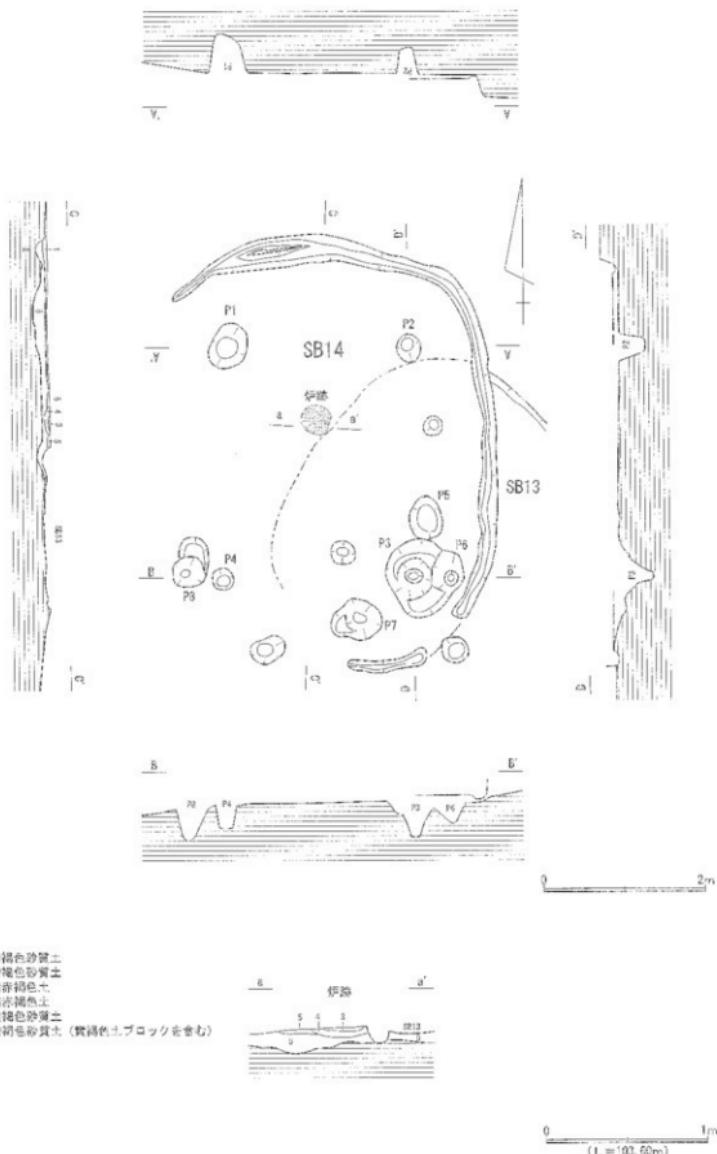


1. 黄褐色砂質土
2. 淡赤褐色土
3. 雜赤褐色土
4. 淡綠色砂質土（淡赤褐色土ブロックを多く含む）
5. 黃褐色砂質土（褐色土ブロックを多く含む）

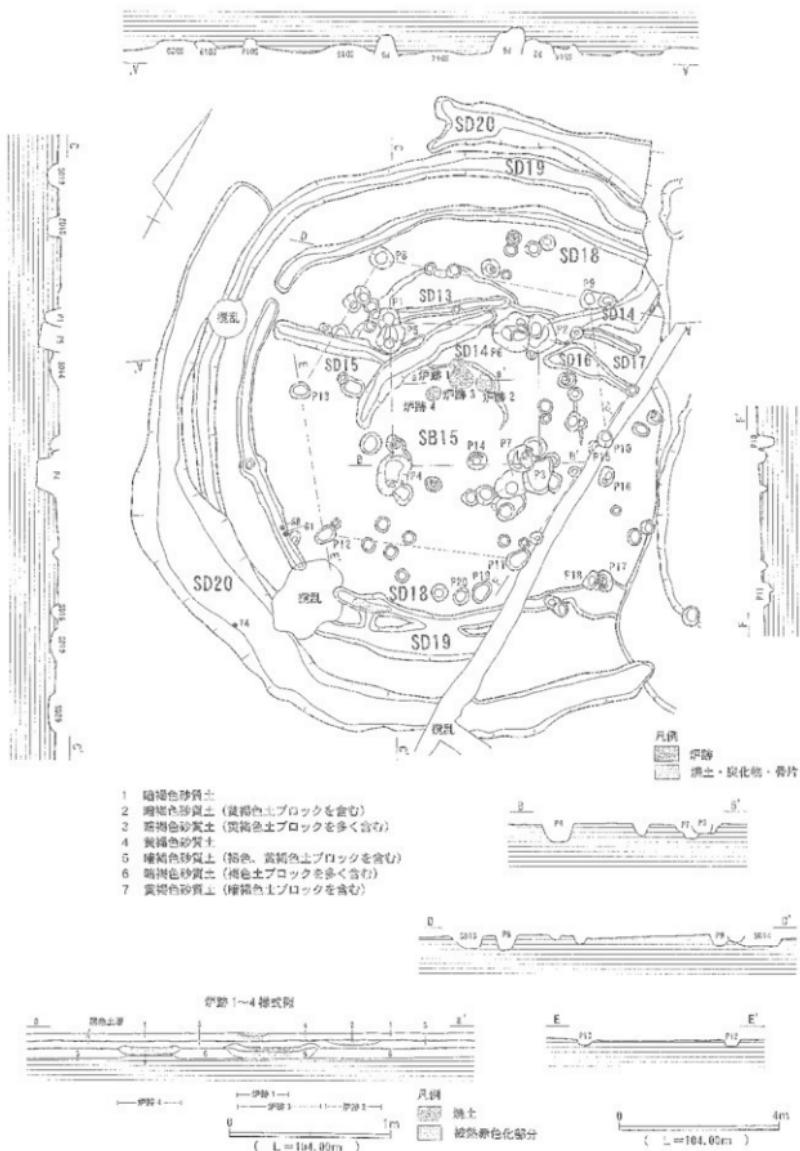


0 1m
(1m = 103.00cm)

第24図 SB13



第25図 SB14

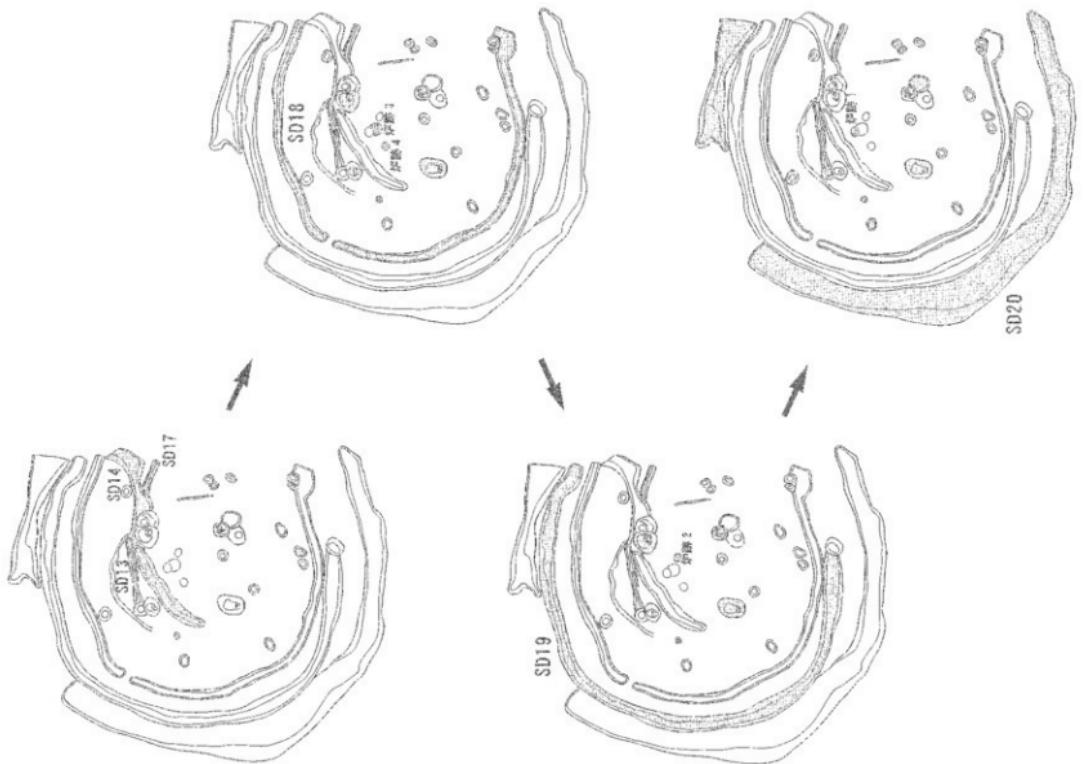


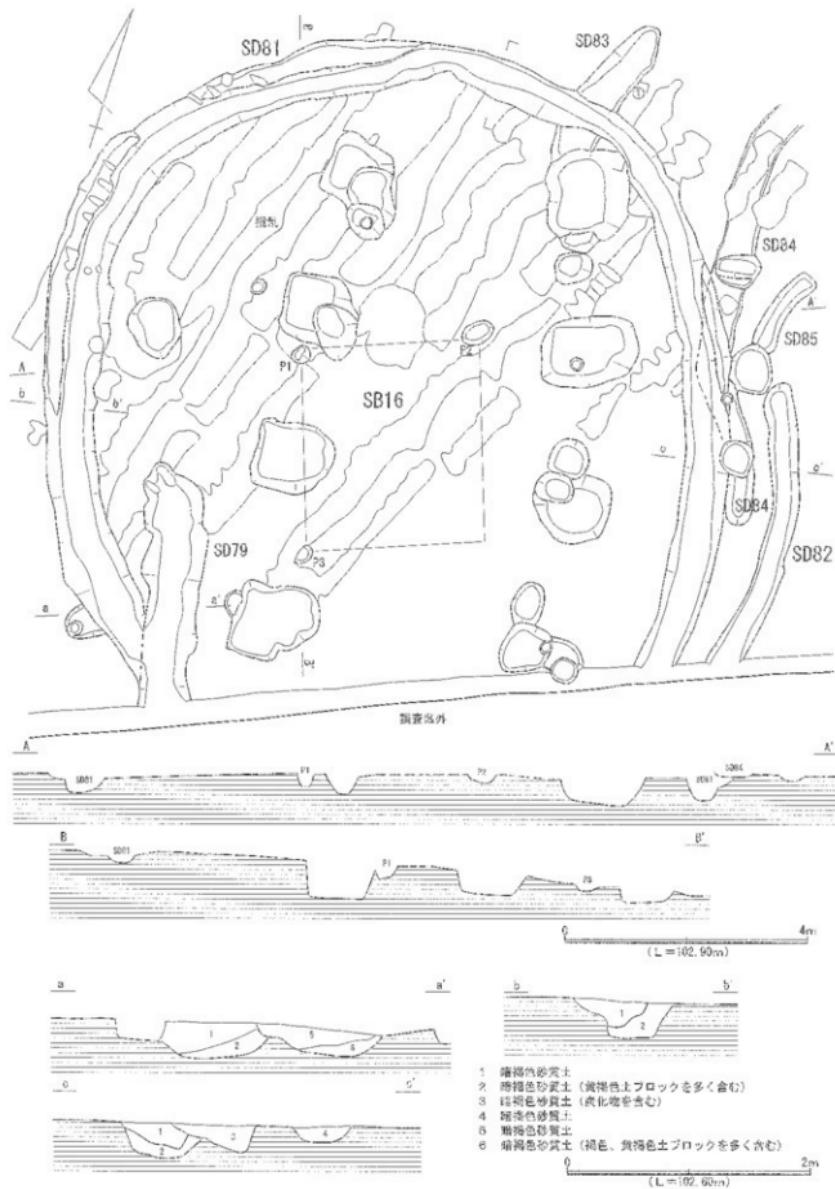
第26図 SB15・SD18～SD20 ①

6 mm

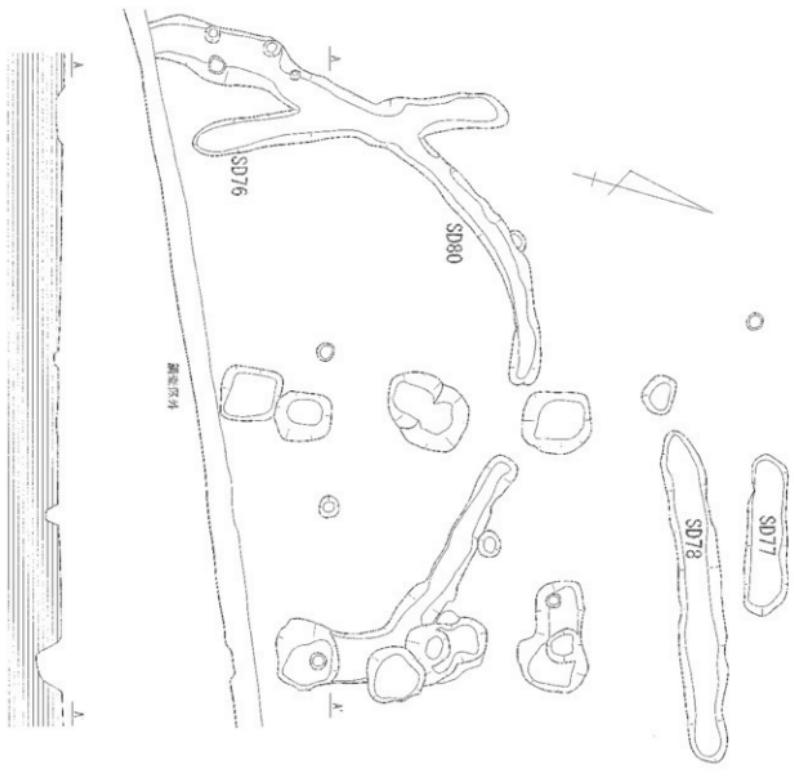
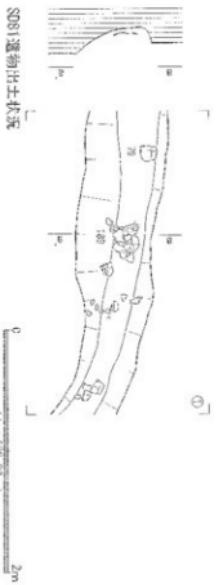
第27圖 SB15・SD18～SD20 ②

— 54 —

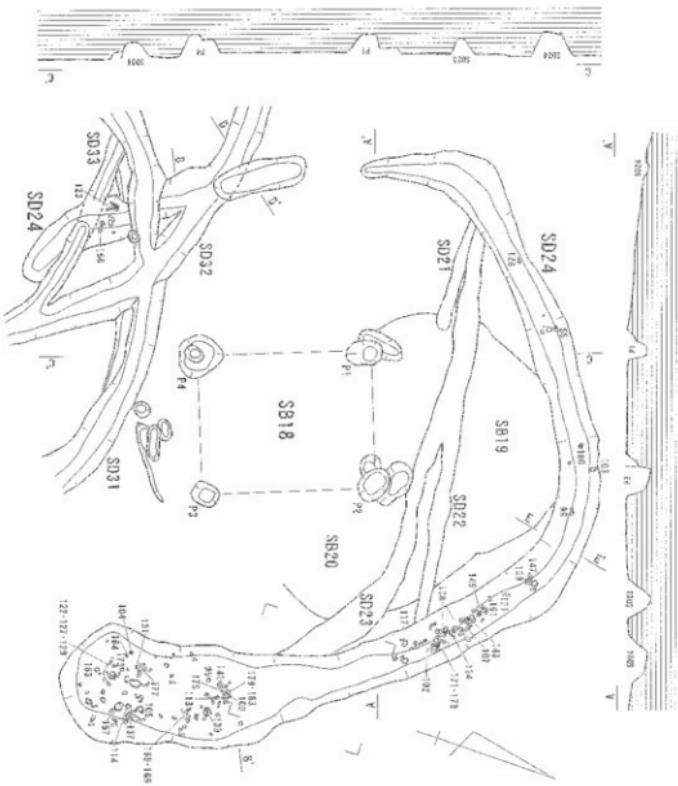




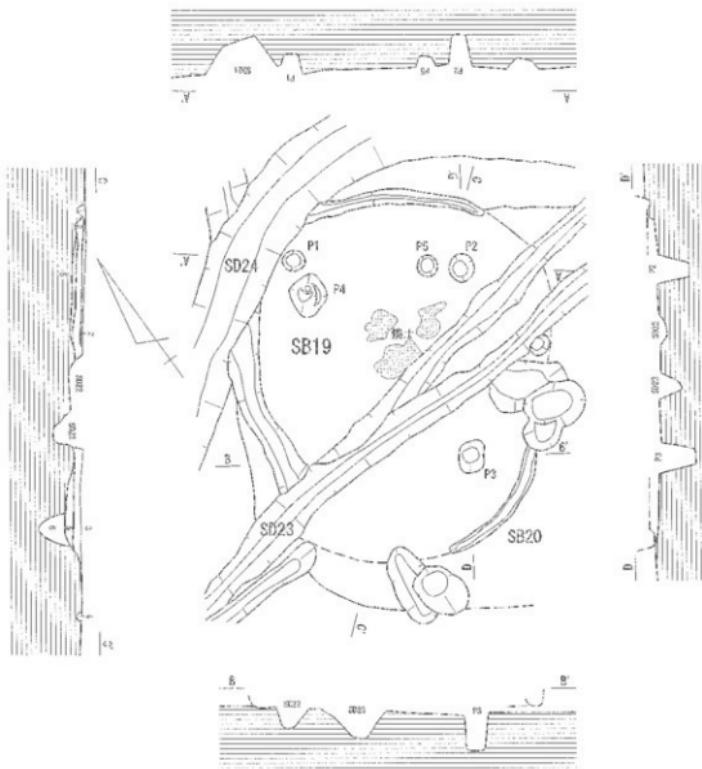
第26図 SB16・SD79・SD81・SD82



第29圖 SD81遺物出土状況、SD76~78・80

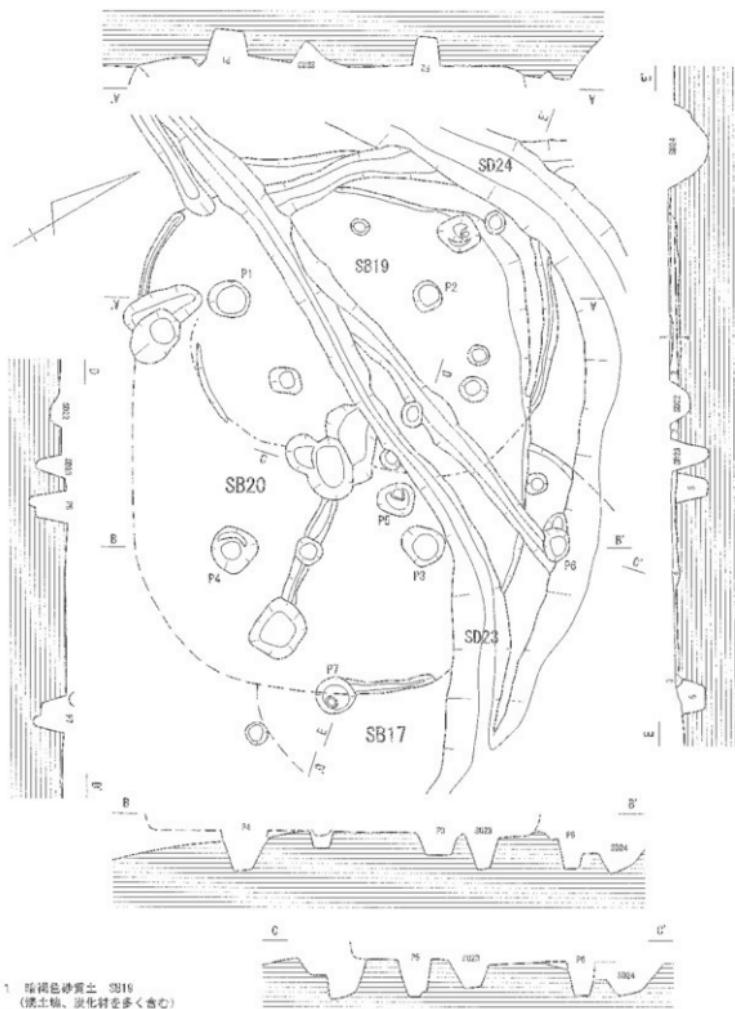


第30圖 SB18 · SD24



- 1 細緻色帶質土（粘土塊、炭化材を多く含む）
- 2 明赤褐色土
- 3 深褐色色帶質土（褐色、黄褐色土ブロックを含む。炭化物、粘土鉢を多く含む）
- 4 暗褐色色帶質土
- 5 貫褐色色帶質土（暗褐色、褐色土ブロックを多く含む）
- 6 黃褐色色帶質土（褐色土ブロックを含む）

第31図 SB19

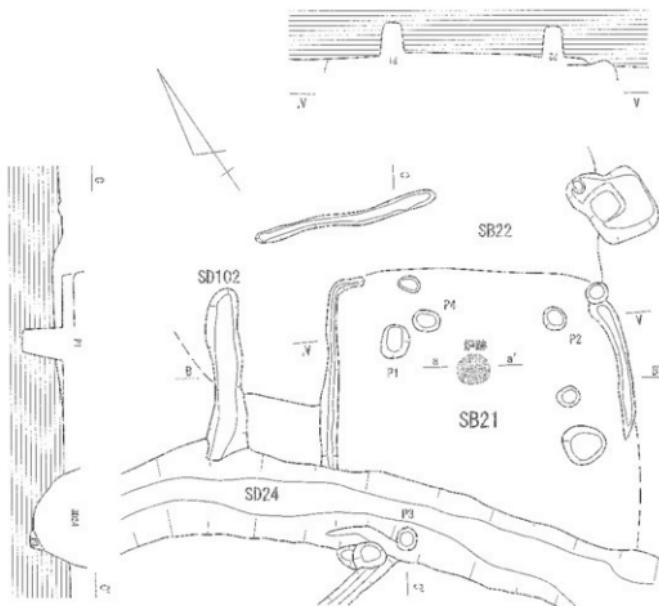


- 1 暗褐色砂質土 SB19
(鐵土塊、炭化物を多く含む)
- 2 暗褐色砂質土
(褐色、鈷褐色土ブロックを含む。炭化物、鐵土塊を多く含む)
- 3 鳥嘴褐色砂質土
- 4 貝褐褐色砂質土
(暗褐色、褐色土ブロックを多く含む)
- 5 暗褐色砂質土 (黃褐色土ブロックを含む)

※ SB17 : 5 SB20 : 2~4

0 2m
(L = 62.80m)

第32図 SB17・SB20



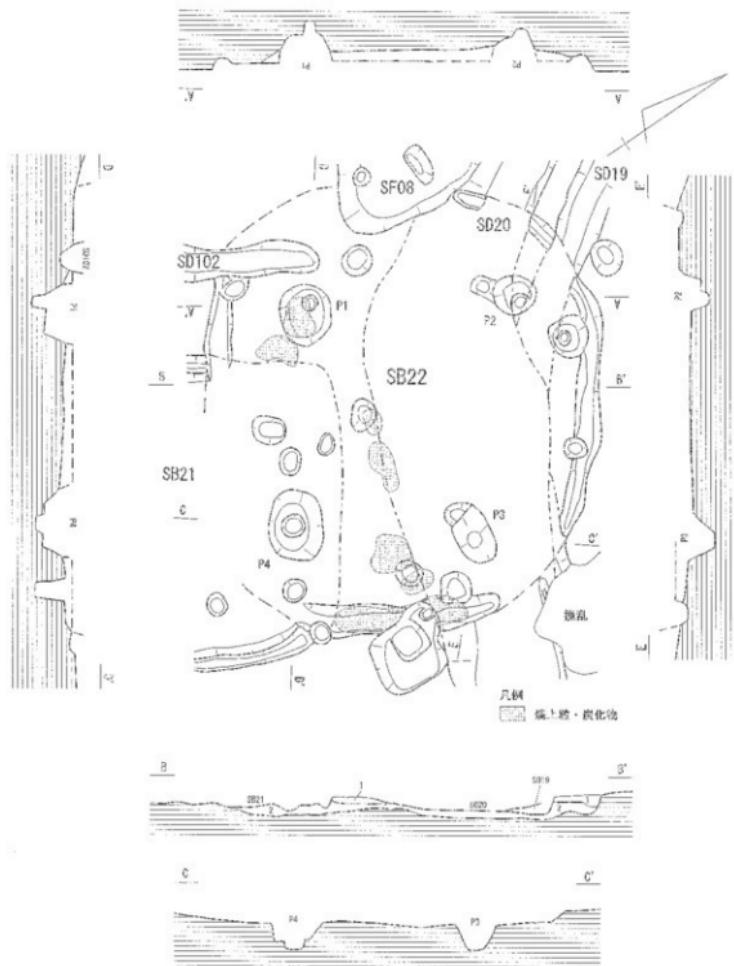
- 1 黒褐色砂質土（炭化物を含む）
- 2 明赤褐色土
- 3 四季褐色土（黄褐色土ブロックを多く含む）
- 4 褐褐色砂質土（褐色、黄褐色土ブロックを含む）
- 5 黑褐色砂質土（鉄分を多く含む） SD102
- 6 線褐色砂質土



0 2m

0 1m
(L=162.90m)

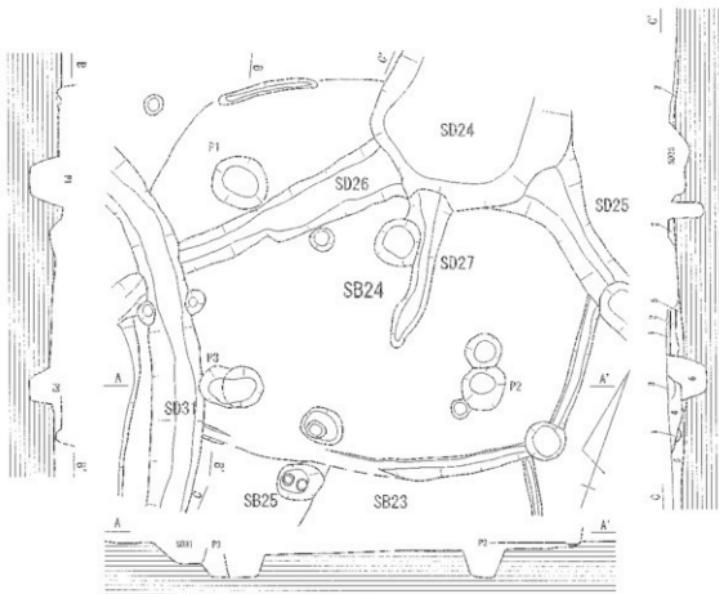
第33図 SB21



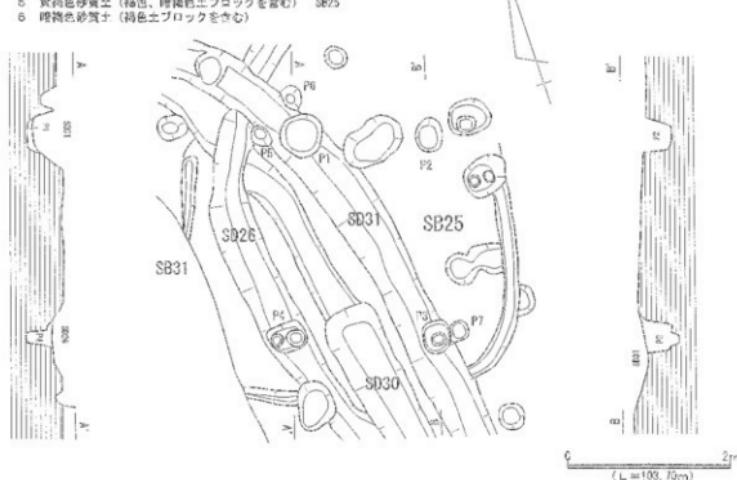
- 1 黄褐色砂質土
(黄褐色、褐色土ブロックを含む)
- 2 褐褐色砂質土
(風化物、佛土質を多く含む)

0 ?m
(L = 03, 90m)

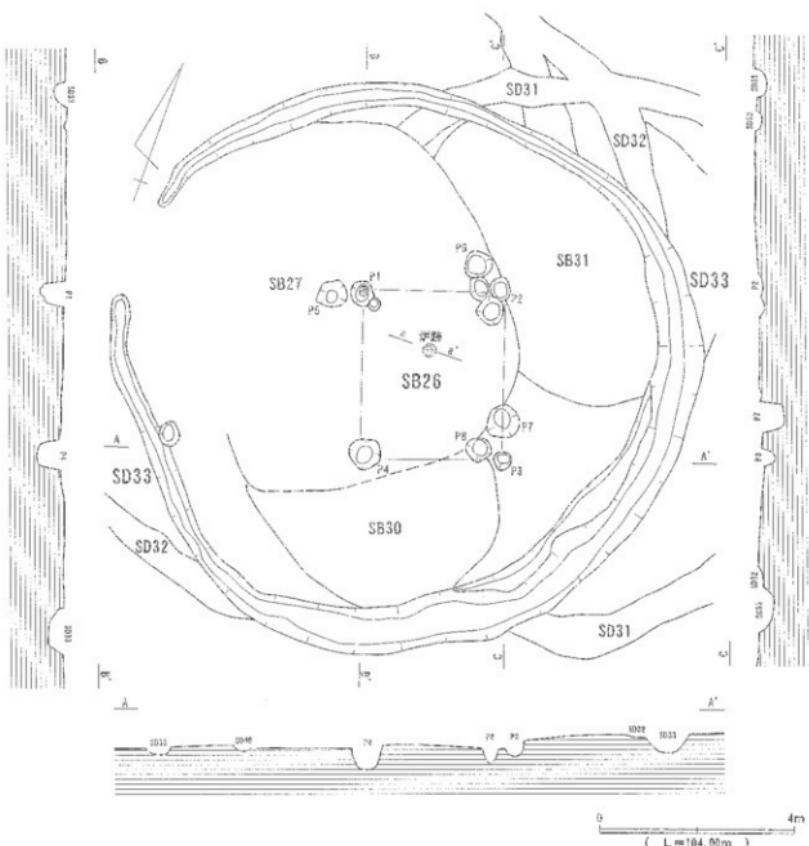
第34図 SB22



- 1 増粘色砂質土
- 2 粘着色砂質土（褐色、増粘色土ブロックを含む）
- 3 黏着色砂質土 SB23
- 4 黏着色砂質土（炭化物、植生孔を多く含む） SB23
- 5 増粘色砂質土（褐色、粘着色土ブロックを含む） SB25
- 6 増粘色砂質土（褐色土ブロックを含む）



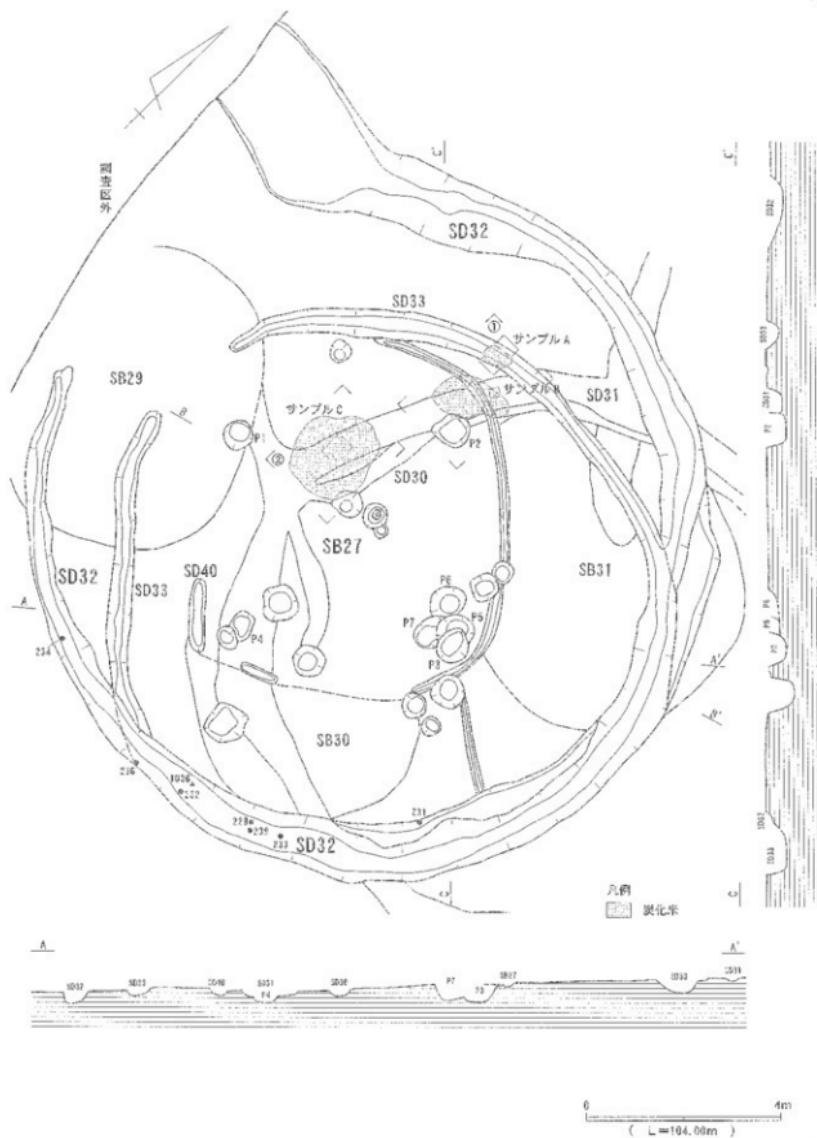
第36図 SB24, SB25



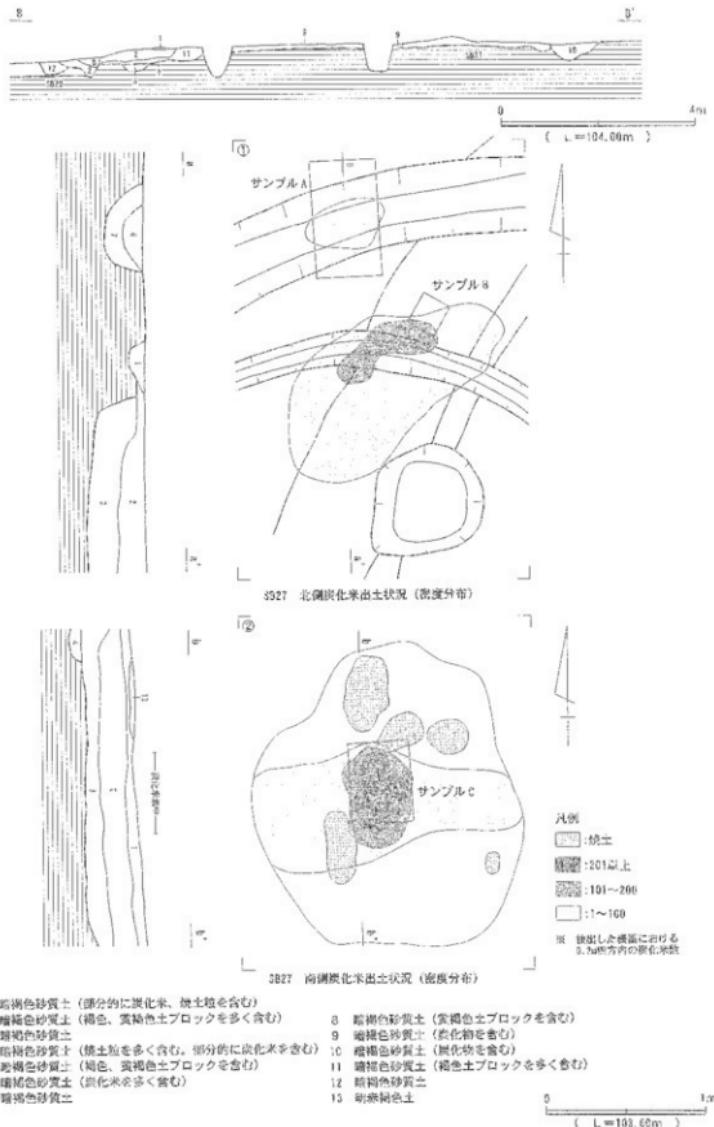
1. 灰褐色砂质土
2. 黄赤褐色砂质土
3. 棕色褐色砂质土 (块土含砾)
4. 灰褐色砂质土。

0 1m
(L = 104.00m)

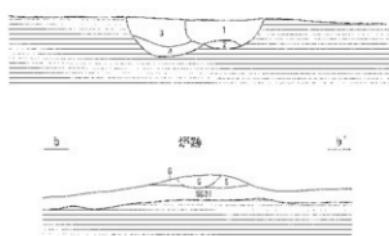
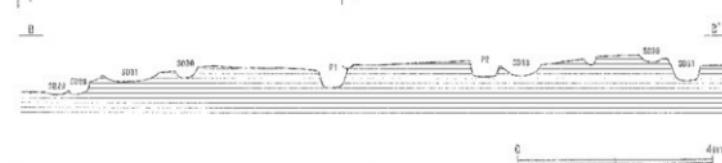
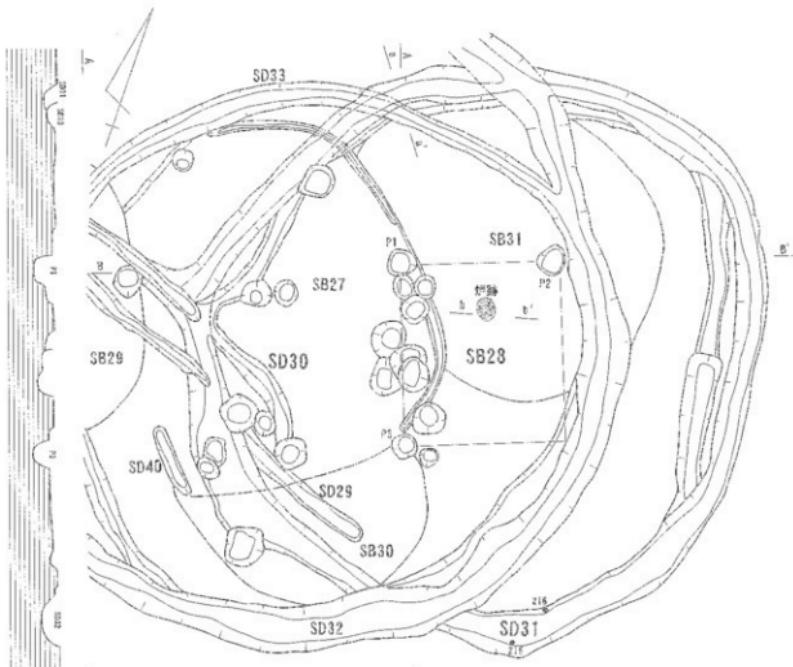
第37图 SB26 - SD33



第38圖 SB27 - SD32



第39図 SB27炭化米出土状況

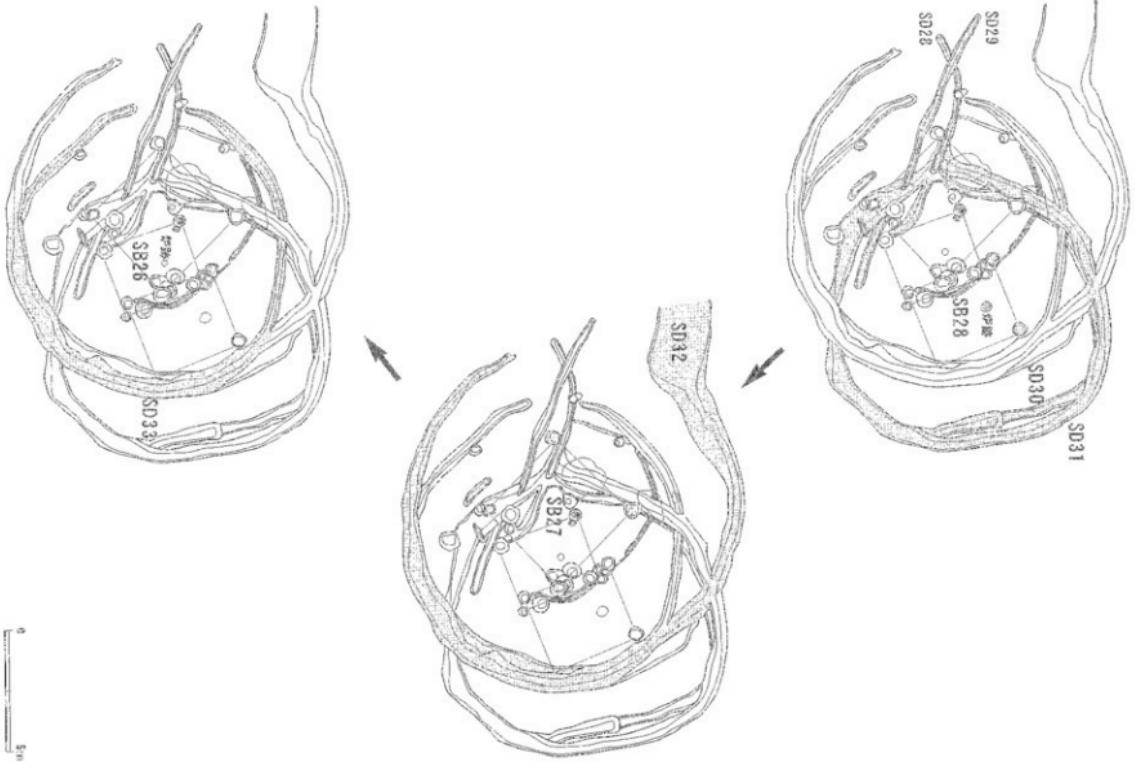


- 暗褐色砂質土
 - 暗褐色砂質土
 - 暗褐色砂質土
 - 暗褐色砂質土
 - 明赤褐色砂質土
 - 暗赤褐色砂質土

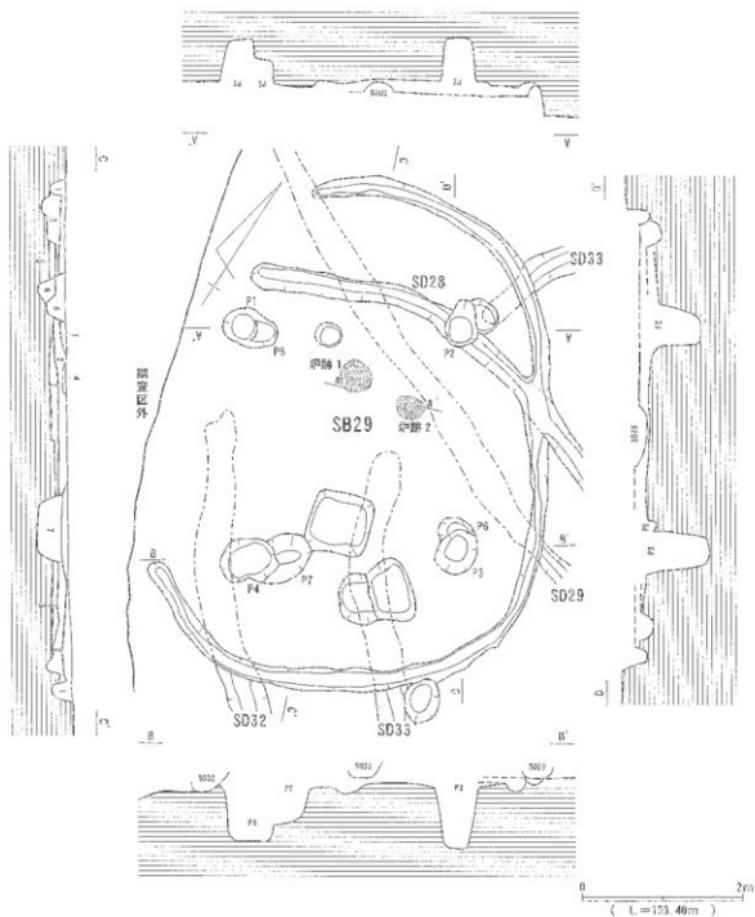
SB28 : 5 + 6 SB30 : 2 SB31 : 3 + 4
SB32 : 1



第40図 SB28・SD30・SD31



第41図 SB26～SB28, SD30～SD33



1 線鉛色砂質土 (下部に層状に炭化物が多く含まれる)
2 青銅色砂質土 (青銅色土ブロックを多く含む)

3 貴緑色砂質土

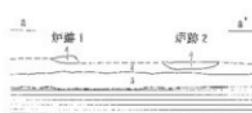
4 明赤褐色砂質土

5 砂褐色砂質土

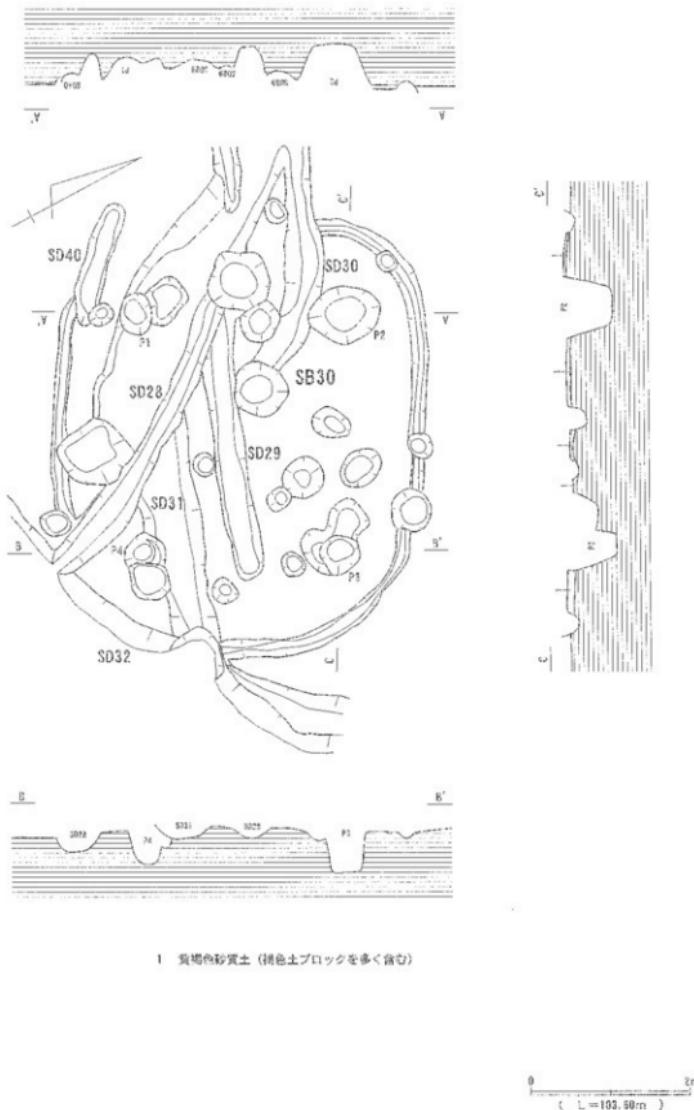
6 暗褐色砂質土

7 黄褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む) ピット

※ SB29 : 1~4 SD28 : 6 SD29 : 5

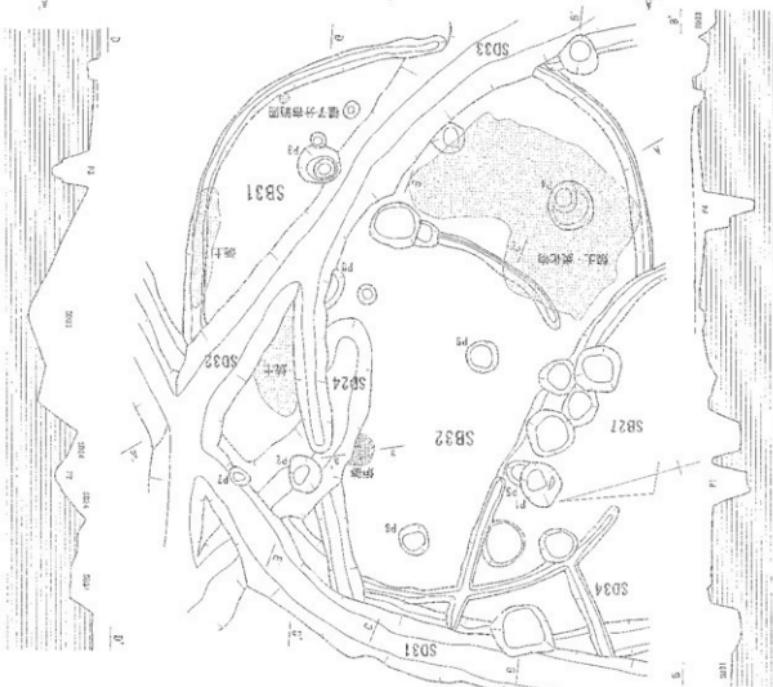


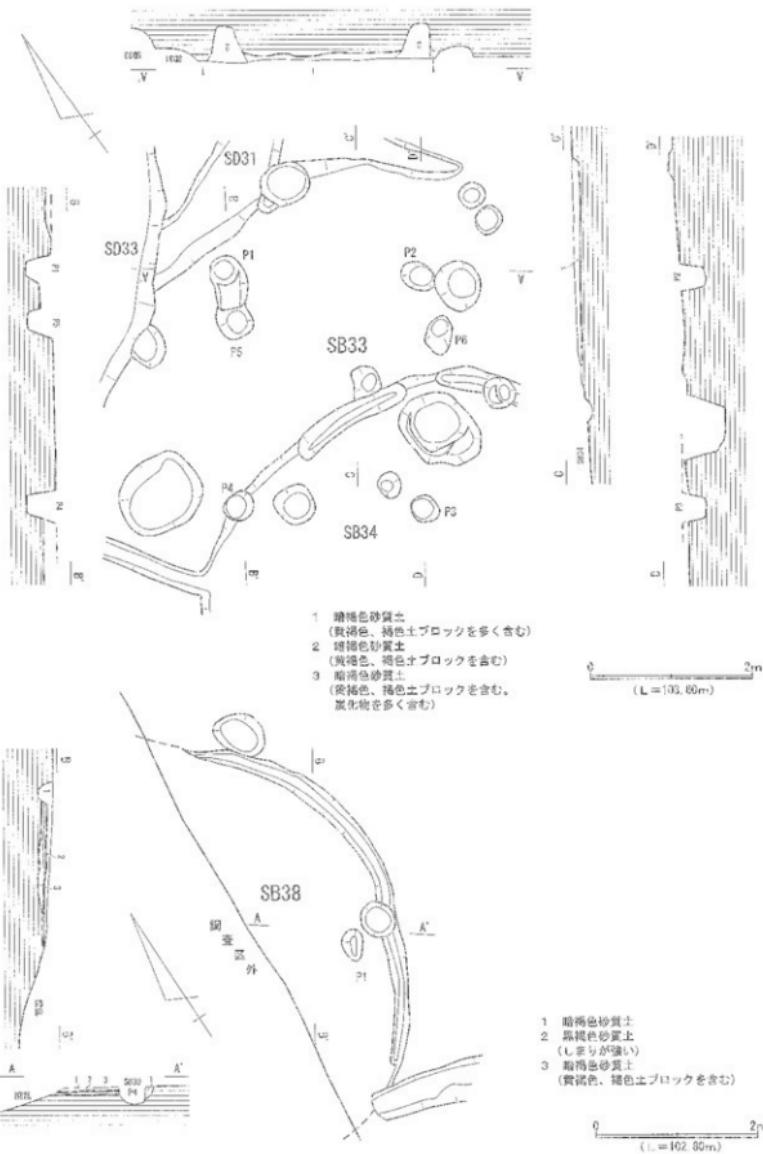
第42図 SB29



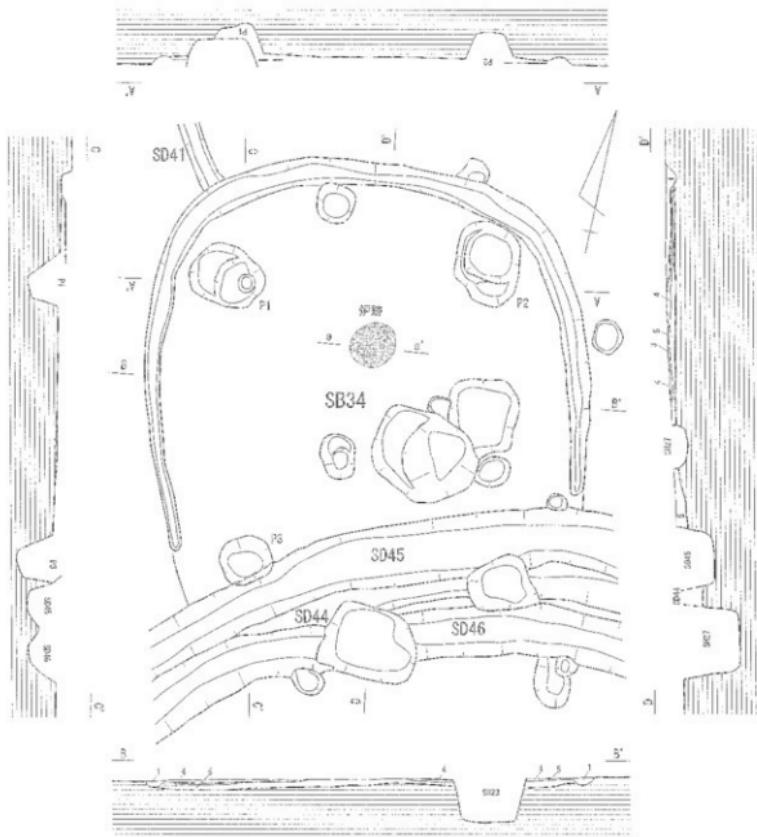
第43図 SB30

第44回 SB31・SB32





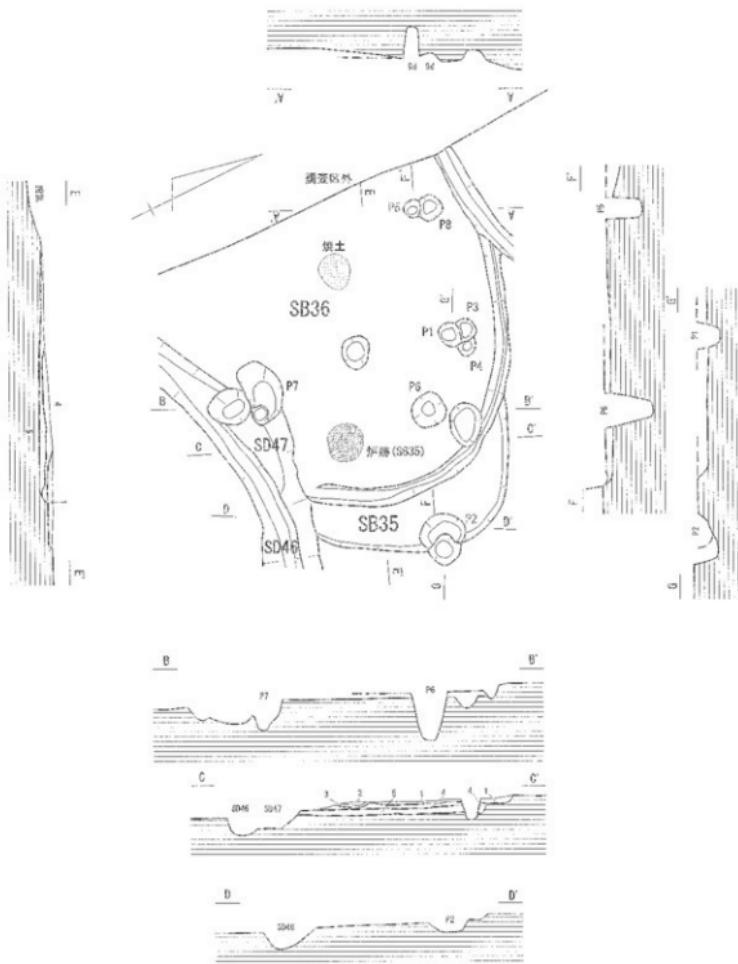
第45回 SB33, SB38



- 1 淡褐色砂質土（炭化物、澆土粒を含む）
- 2 明る褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 深褐色砂質土（しまりが強い）
- 5 貫褐色砂質土（暗褐色、澆土ブロックを多く含む）



第46図 SB34



- 1 淡褐色砂質土
- 2 明帶褐色土
- 3 綠帶褐色土
- 4 褐褐色沙質土
- 5 黃褐色砂質土
(筋縫色、白色土ブロックを多く含む)

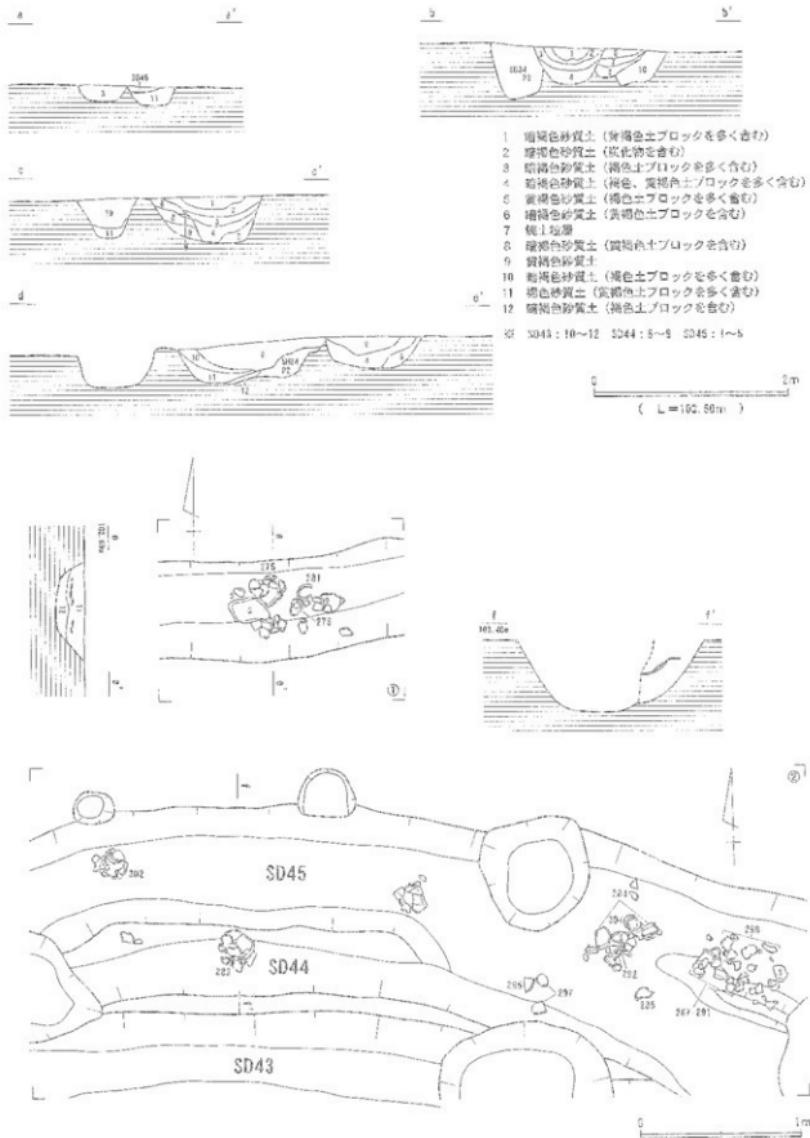
※ SB36 : 1~3 SB36 : 4~5

0 2m
(L=103.40m)

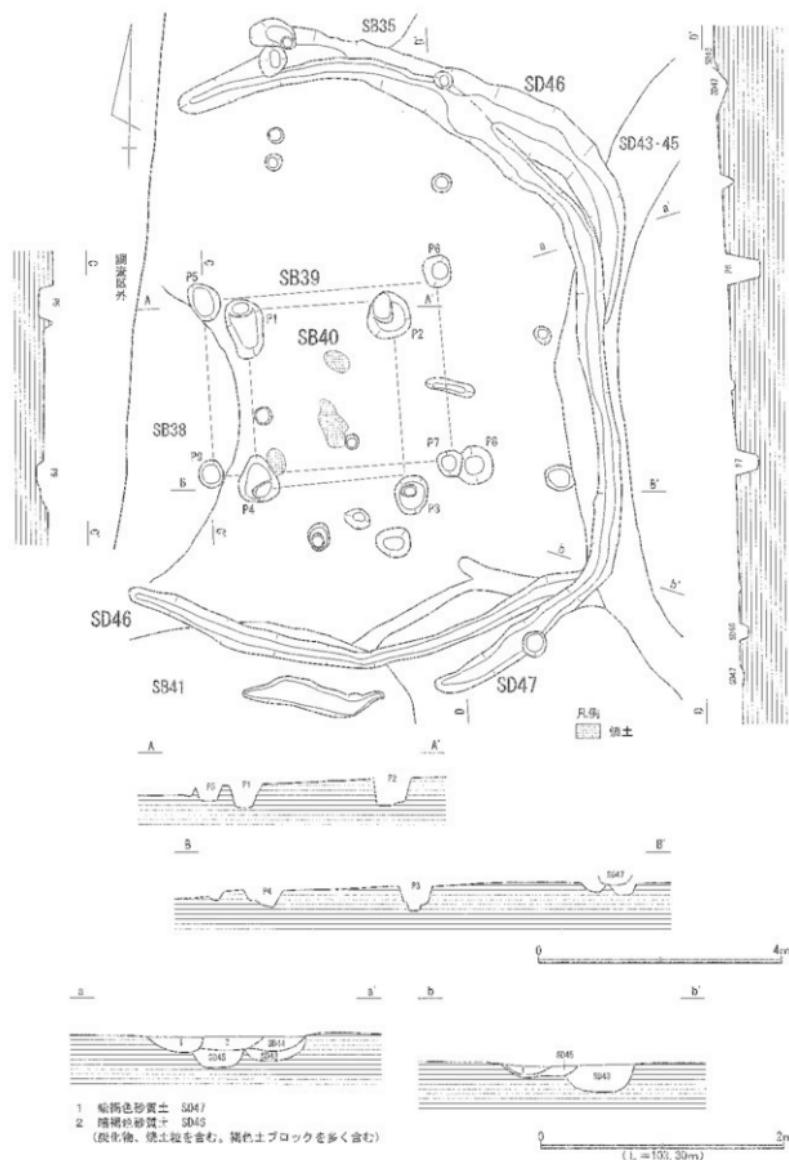
第47図 SB35・SB36



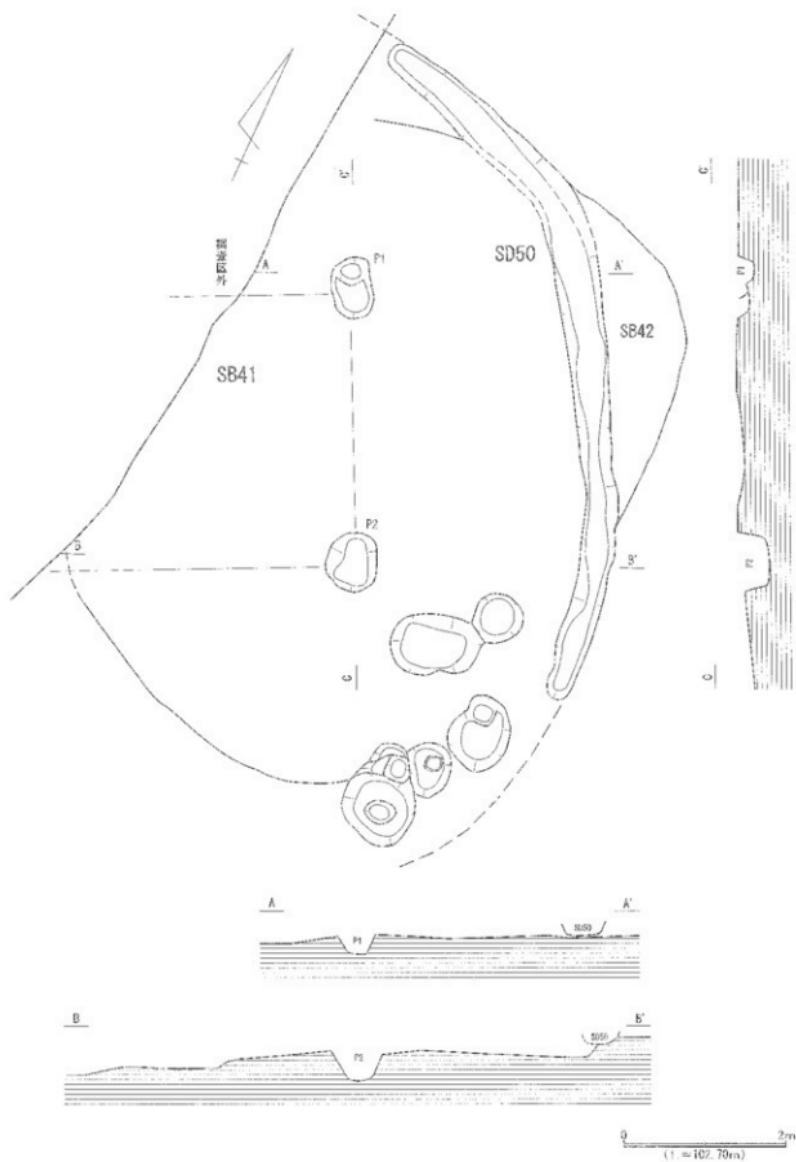
第48図 SB37・SD43～SD45 ①



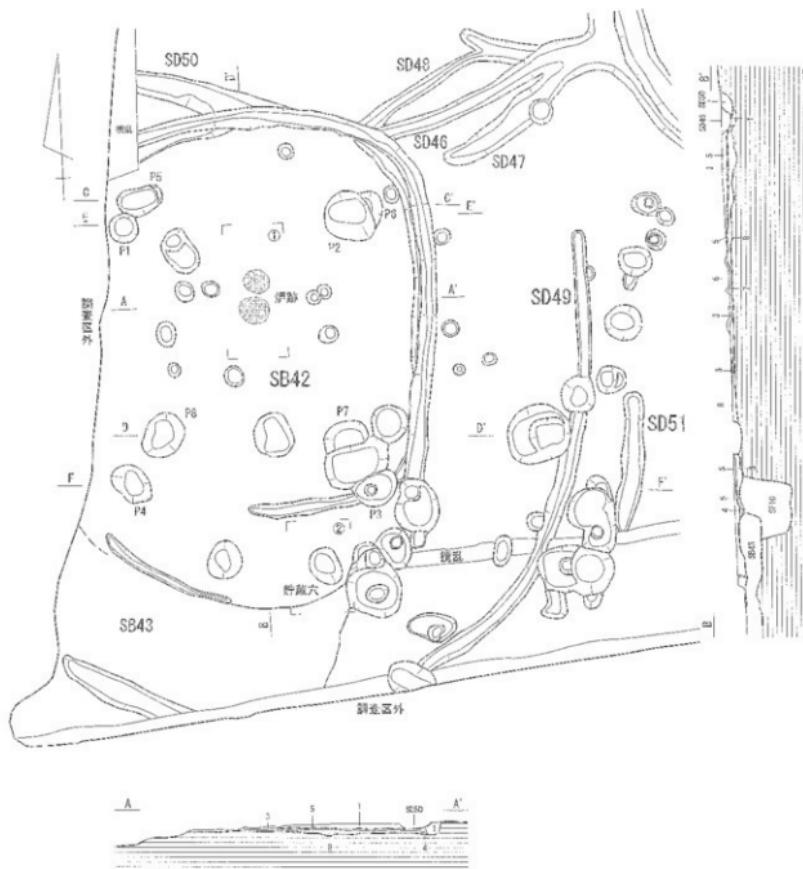
第49図 SB37・SD43～SD45 ②



第50圖 SB39・SB40・SD46・SD47

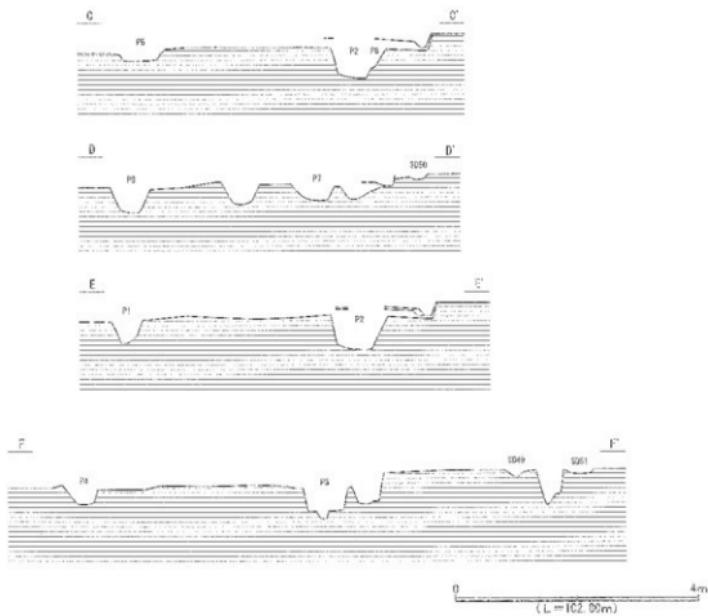
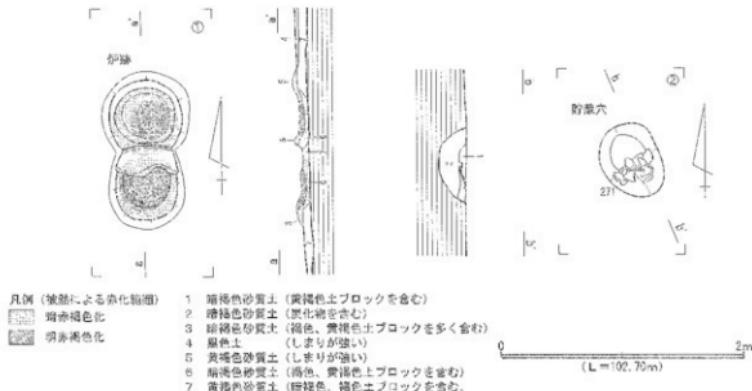


第51図 SB41・SD50

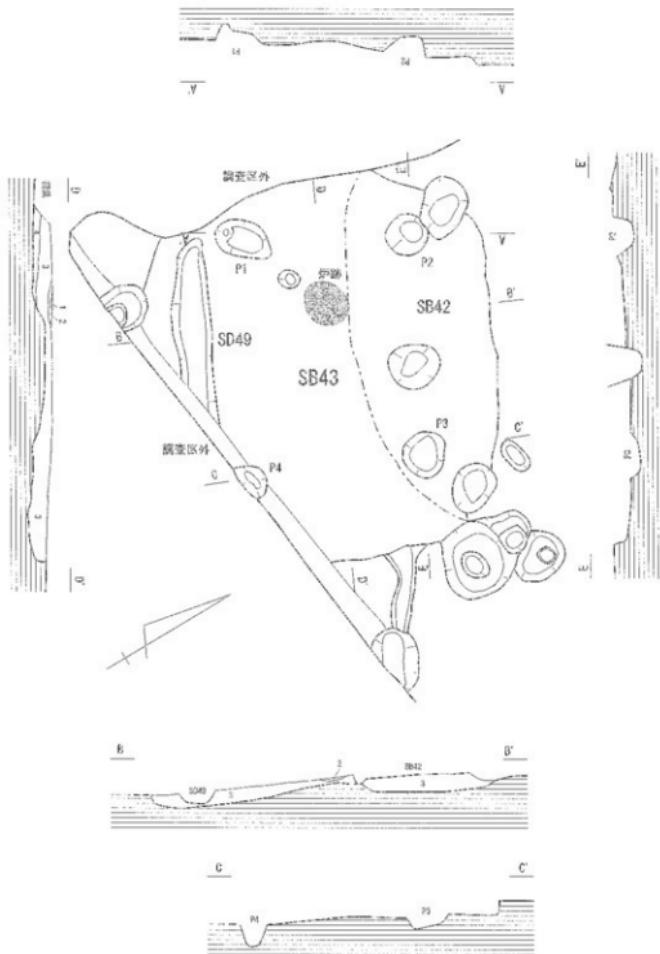


- 1 黄褐色砂質土 (灰化物を含む)
- 2 黑褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロックを含む)
- 3 黑褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロックを多く含む)
- 4 黄褐色砂質土
- 5 黑色土 (しまりが強い)
- 6 黄褐色砂質土 (しまりが強い)
- 7 黑褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロックを含む)
- 8 黄褐色砂質土 (褐色、褐色土ブロックを含む、しまりが強い)

第52図 SB42・SD49・SD51 ①



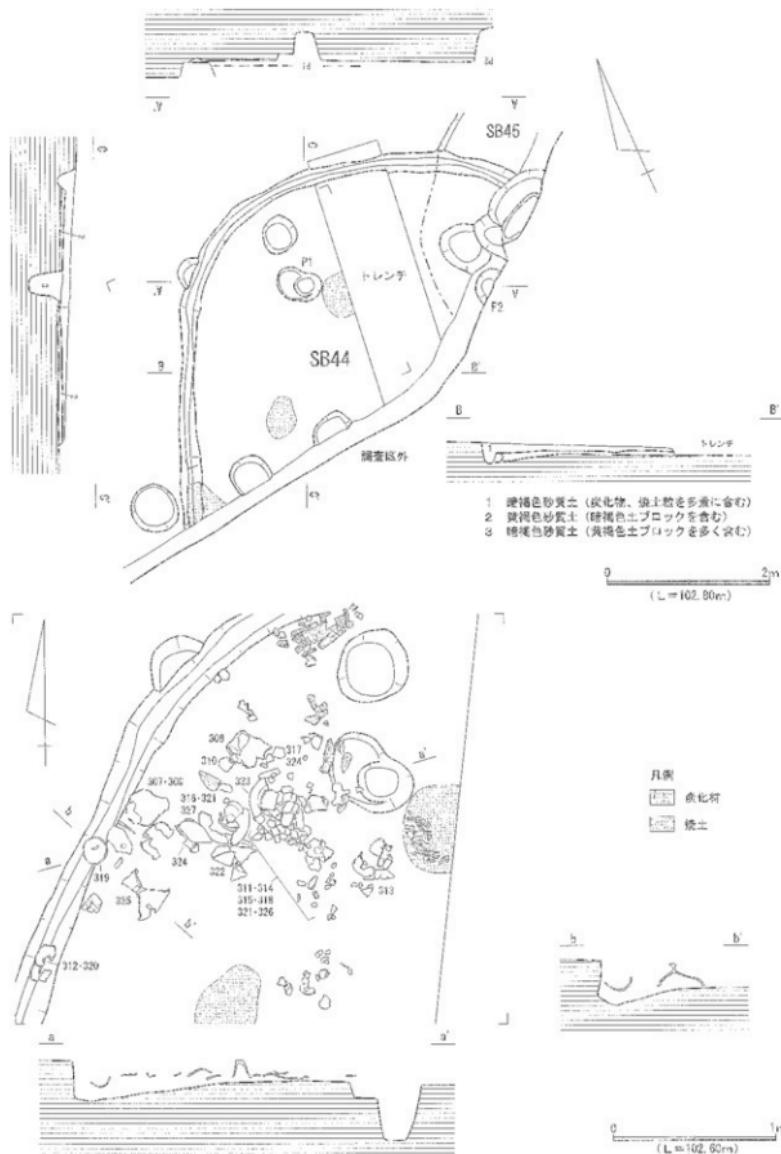
第53図 SB42・SD49・SD51 ②



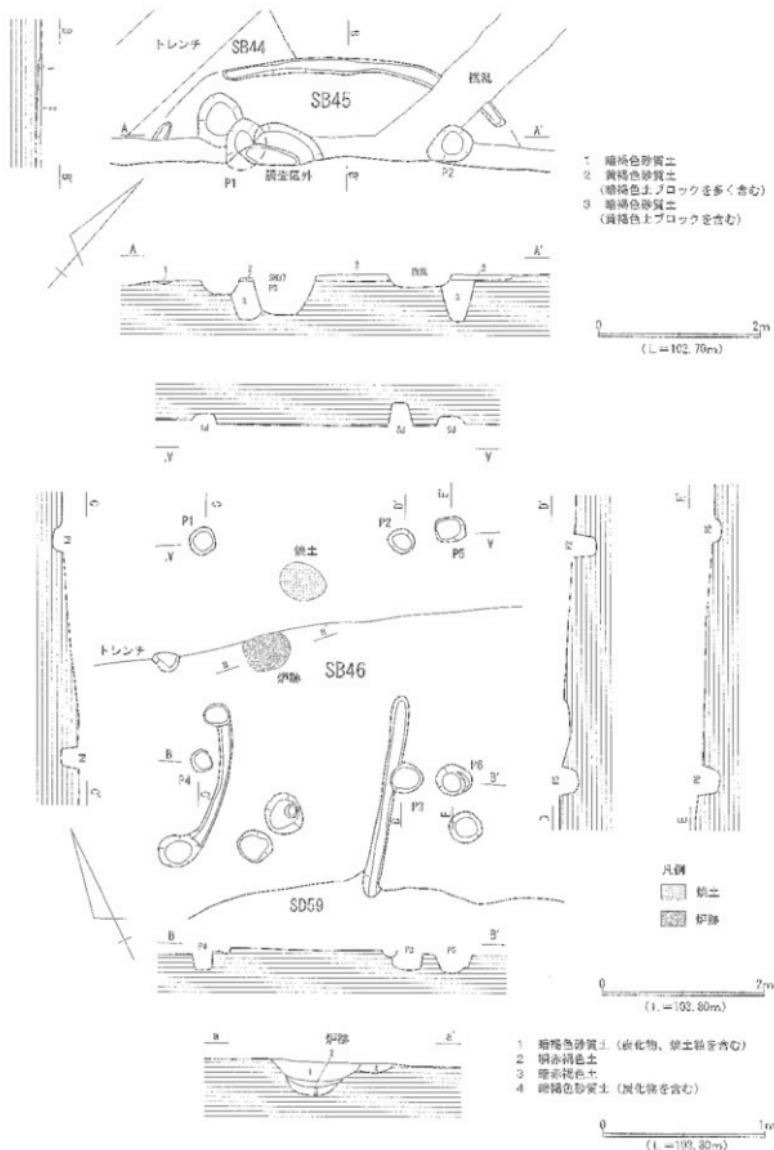
- 1 劣等褐色土
- 2 褐赤褐色土
- 3 暗褐色沙質土
(黃褐色、褐色土ブロックを多く含む)
- 4 淡褐色沙質土

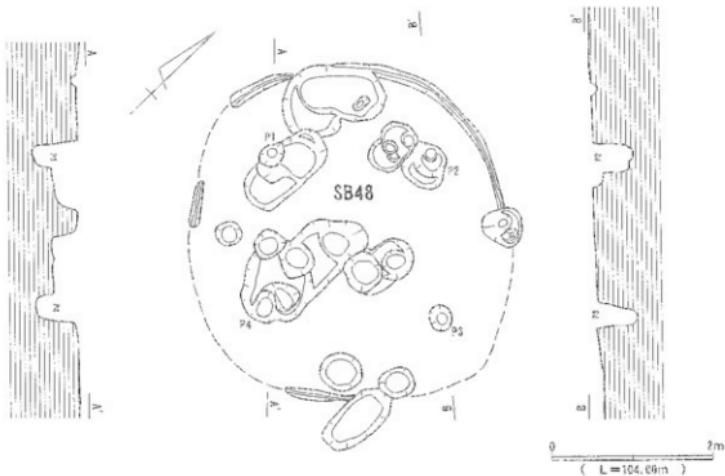
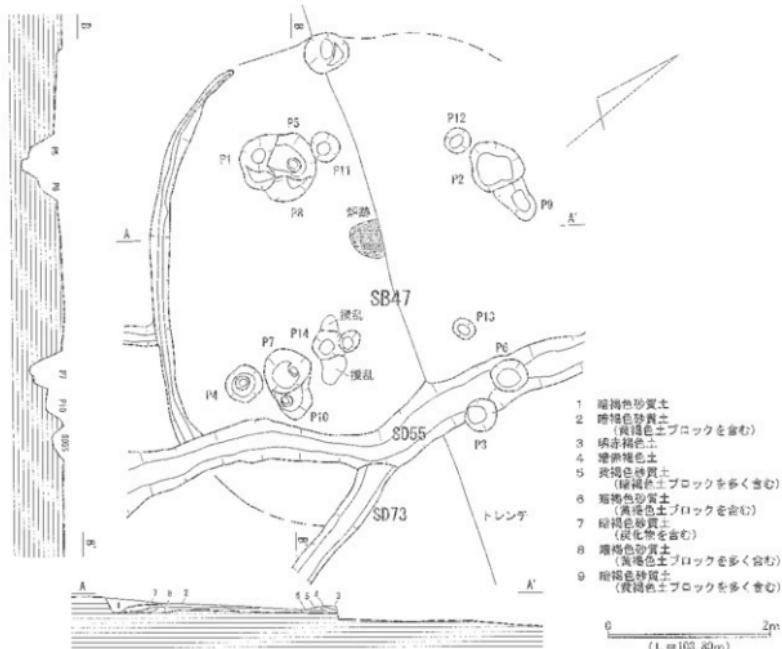
0 2m
(1 = 1C2.50m)

第54図 SB43



第55図 SB44

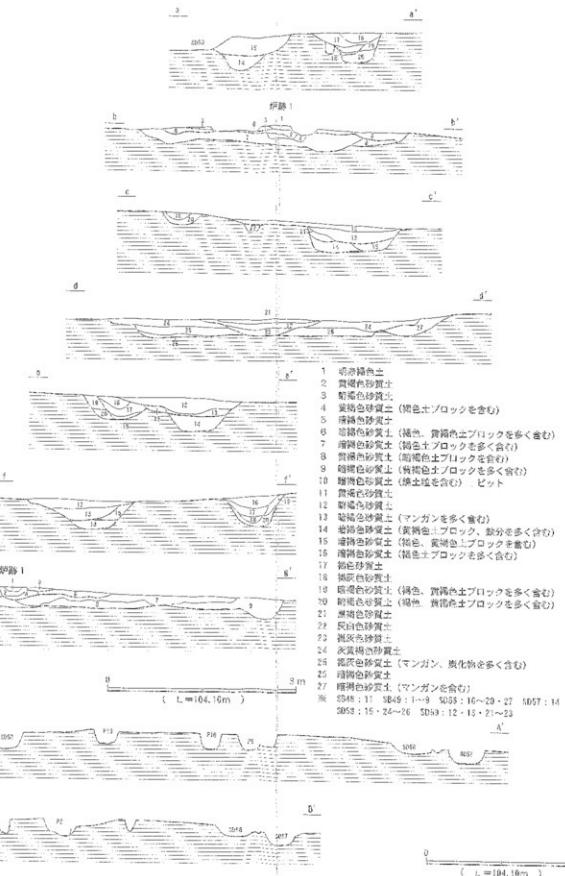




第57図 SB47, SB48

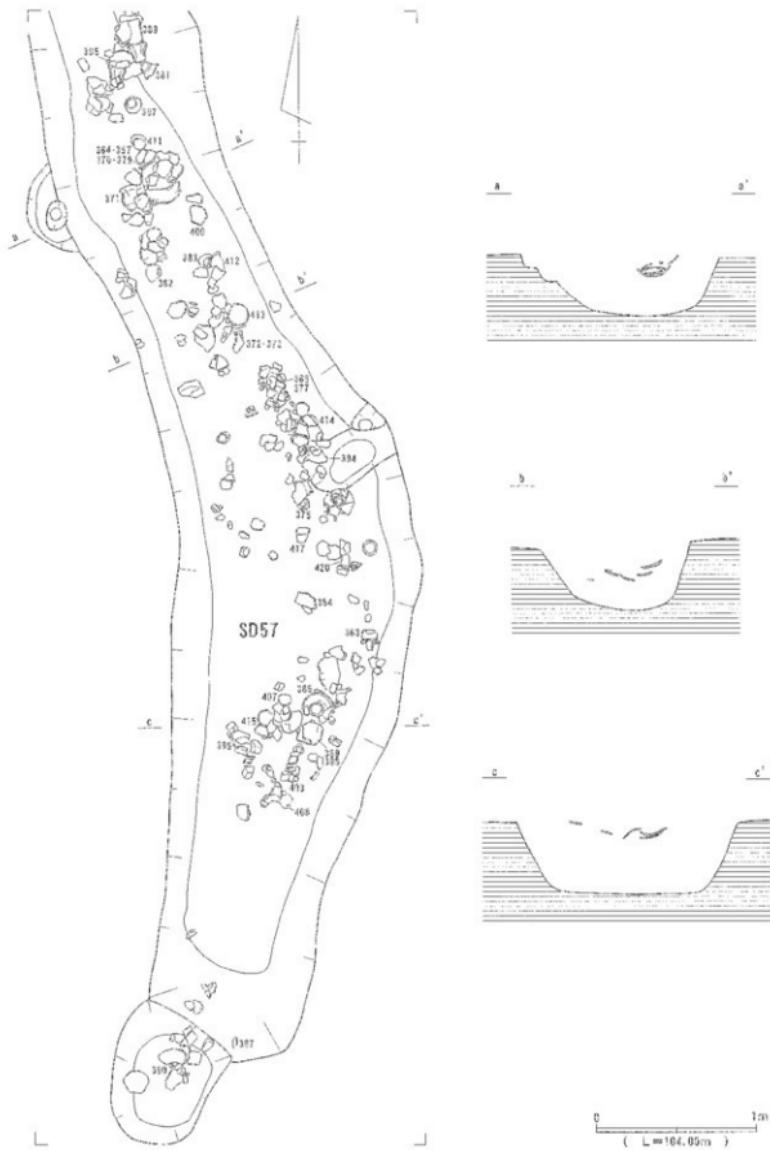


第58図 SB49～SB51・SD52・SD55～SD60

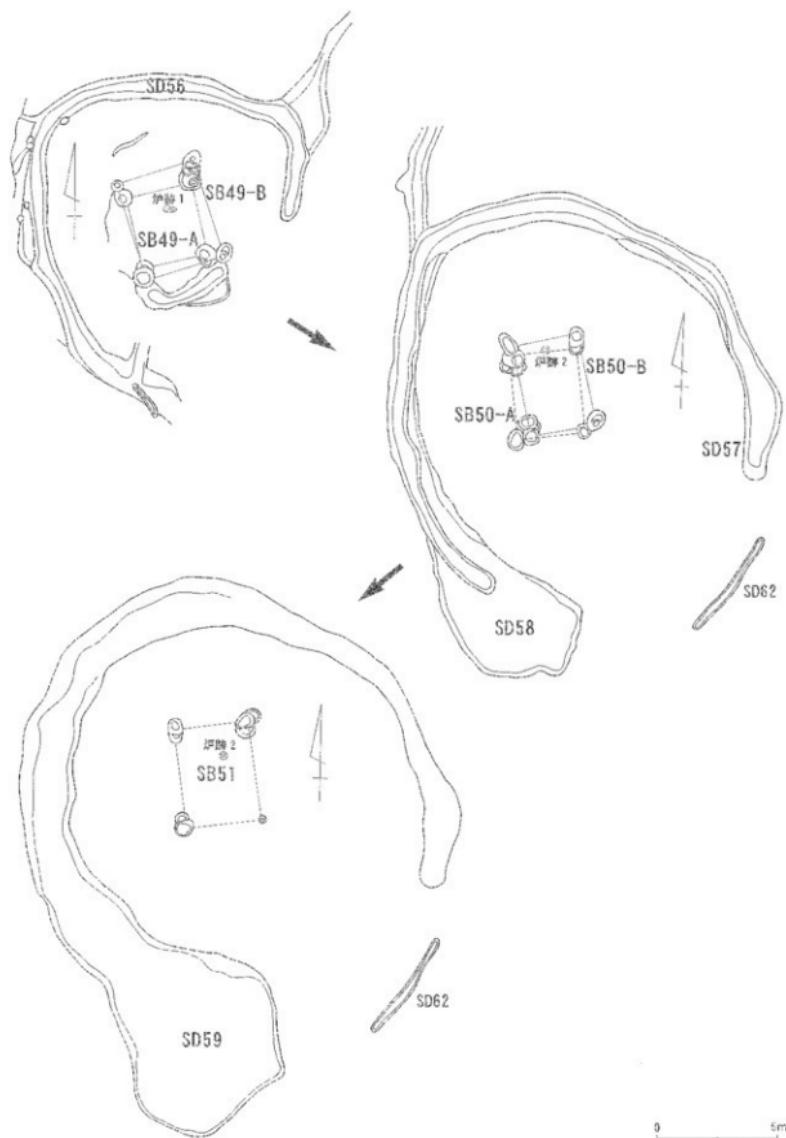


- 1 深赤褐色土
 - 2 貫入砂利質土
 - 3 黄褐色砂質土
 - 4 黄褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
 - 5 黄褐色砂質土
 - 6 砂質砂利質土 (褐色、黄褐色土ブロックが多く含む)
 - 7 黄褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
 - 8 黄褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
 - 9 刹進化砂質土 (特異な土ブロックを含む)
 - 10 磁鐵色砂質土 (褐色土層を含む) ヒット
 - 11 黄褐色砂質土
 - 12 黄褐色砂質土
 - 13 砂粘化砂質土 (マンガンを多く含む)
 - 14 砂粘化砂質土 (黄褐色土ブロック、鉄分が多く含む)
 - 15 砂粘化砂質土 (褐色土ブロックを含む)
 - 16 磁鐵化砂質土 (褐色土ブロックを含む)
 - 17 鉄走砂質土
 - 18 深灰褐色土
 - 19 深褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロックを多く含む)
 - 20 黄褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロックを多く含む)
 - 21 黄褐色砂質土
 - 22 黄褐色砂質土
 - 23 黄褐色砂質土
 - 24 次黃褐色砂質土
 - 25 磁鐵化砂質土 (マンガン、樹化物を多く含む)
 - 26 磁鐵化砂質土
 - 27 磁鐵化砂質土 (マンガンを含む)
- SB49 : 11 SB49 : 1~9 SD55 : 16~20・27 M057 : 14
SD55 : 15~24~26 SD59 : 12~21~23

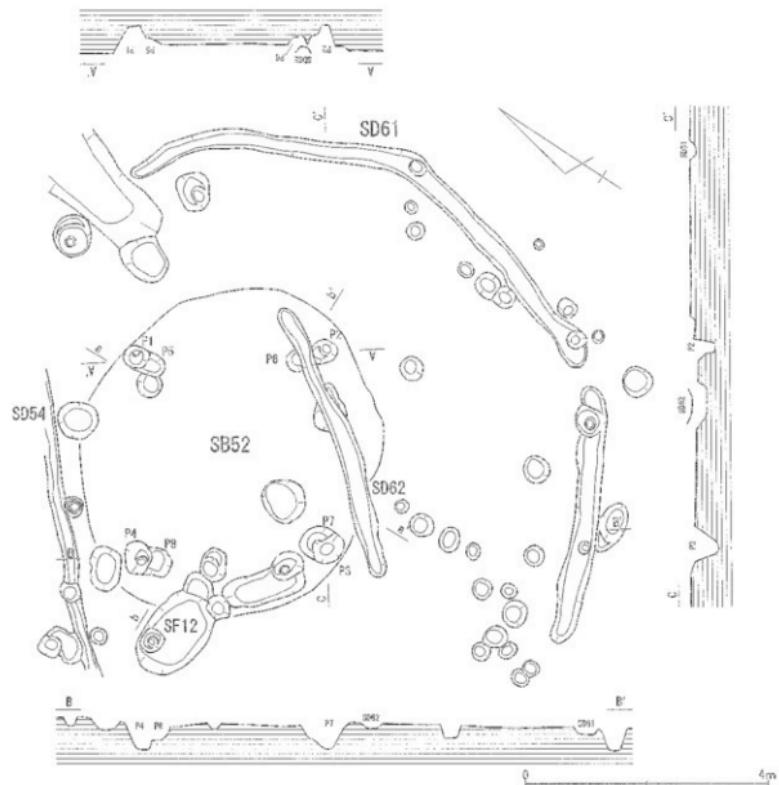
(L = 104.16m) 4m



第59圖 SD57



第60図 SB49～SB51・SD56～SD59



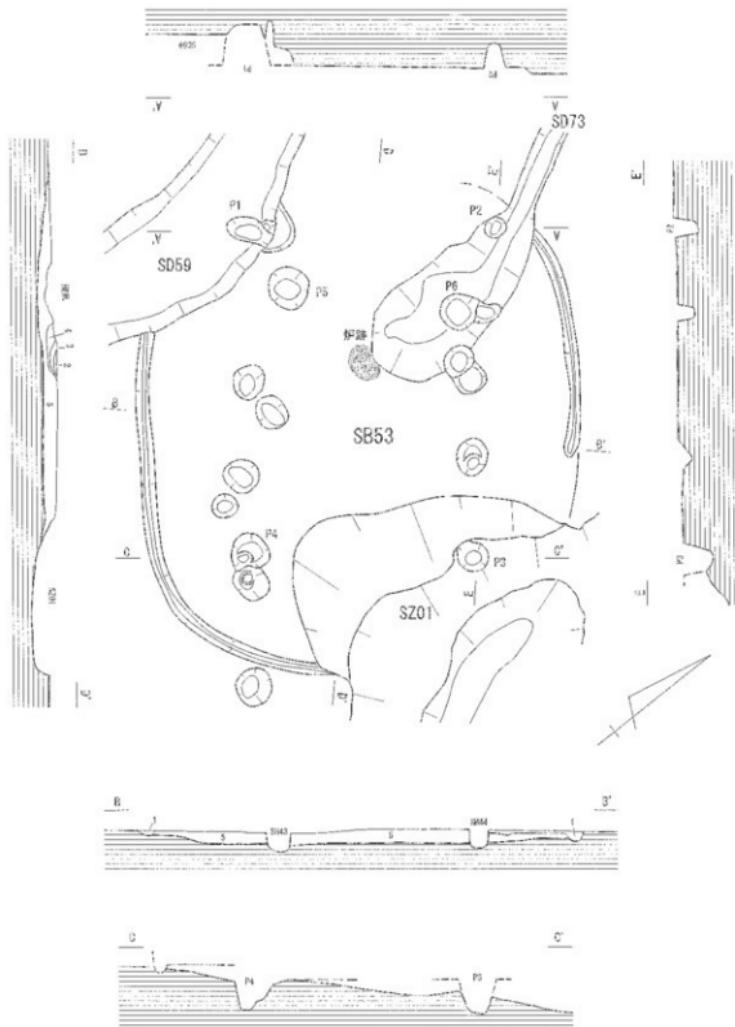
- | | |
|--|---|
| a'

b

b'
 | <ol style="list-style-type: none"> 1 蘭褐色砂質土 2 鹽褐色砂質土
(褐色土ブロックを多く含む) 3 鹽褐色砂質土
(黃褐色土ブロックを多く含む) 4 鹽褐色砂質土
(褐色土ブロックを含む) 5 蘭褐色砂質土
(褐色、黃褐色土ブロックを多く含む) 6 蘭褐色砂質土 SD62 7 蘭褐色砂質土
(褐色、黃褐色土ブロックを多く含む) |
|--|---|

0 2m
(1 = 104.00m.)

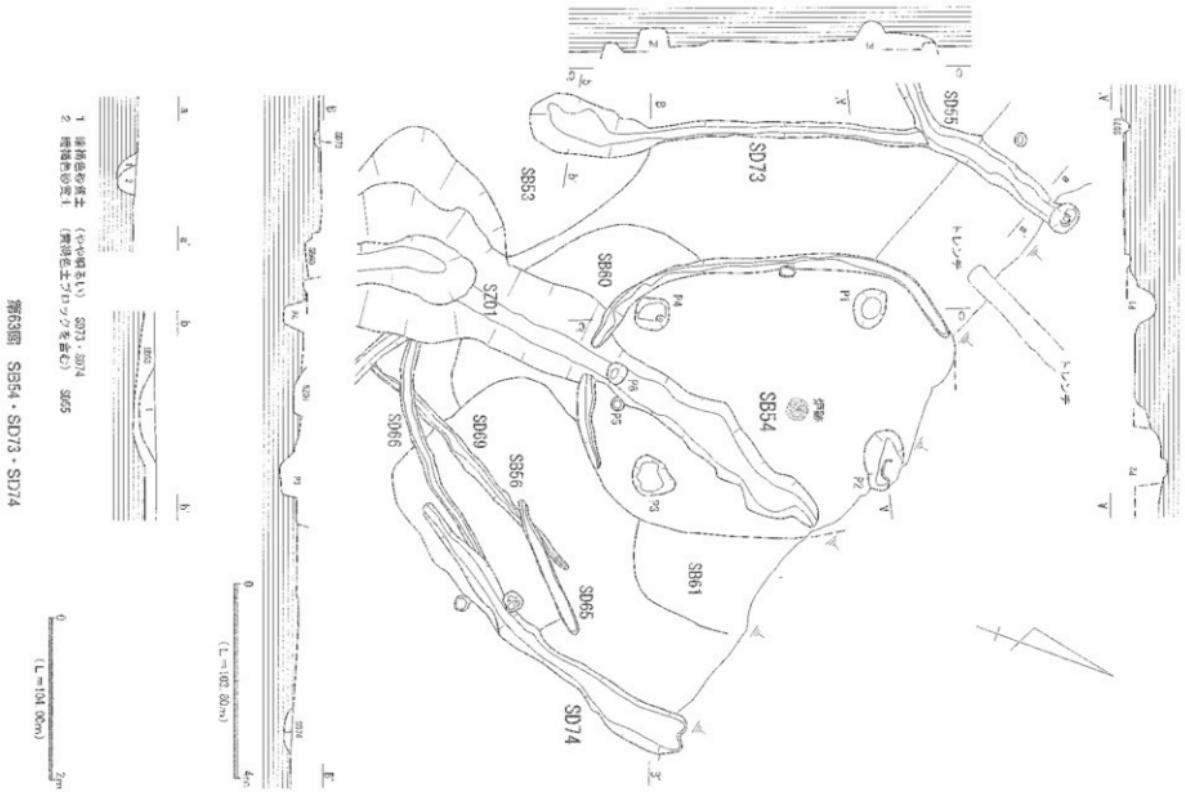
第61図 SB52・SD61



- 暗褐色砂質土
 - 暗赤褐色土
 - 暗赤褐色土
 - 黄褐色砂質土 (暗褐色、褐色土ブロックを含む)
 - 黄褐色砂質土 (褐色土ブロックを多く含む)

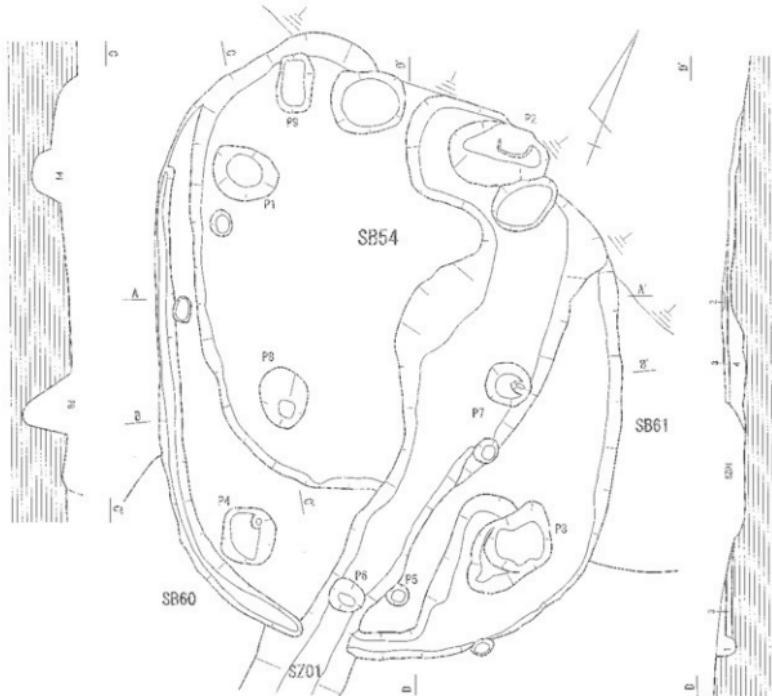
$t_1 = 100.00 \text{ sec}$

第62回 SB53



第63図 SB54・SD73・SD74

1 混凝岩質粘土 (やわらかい)
2 岩溶岩質粘土 (硬い)
(黄褐色の部分を含む)

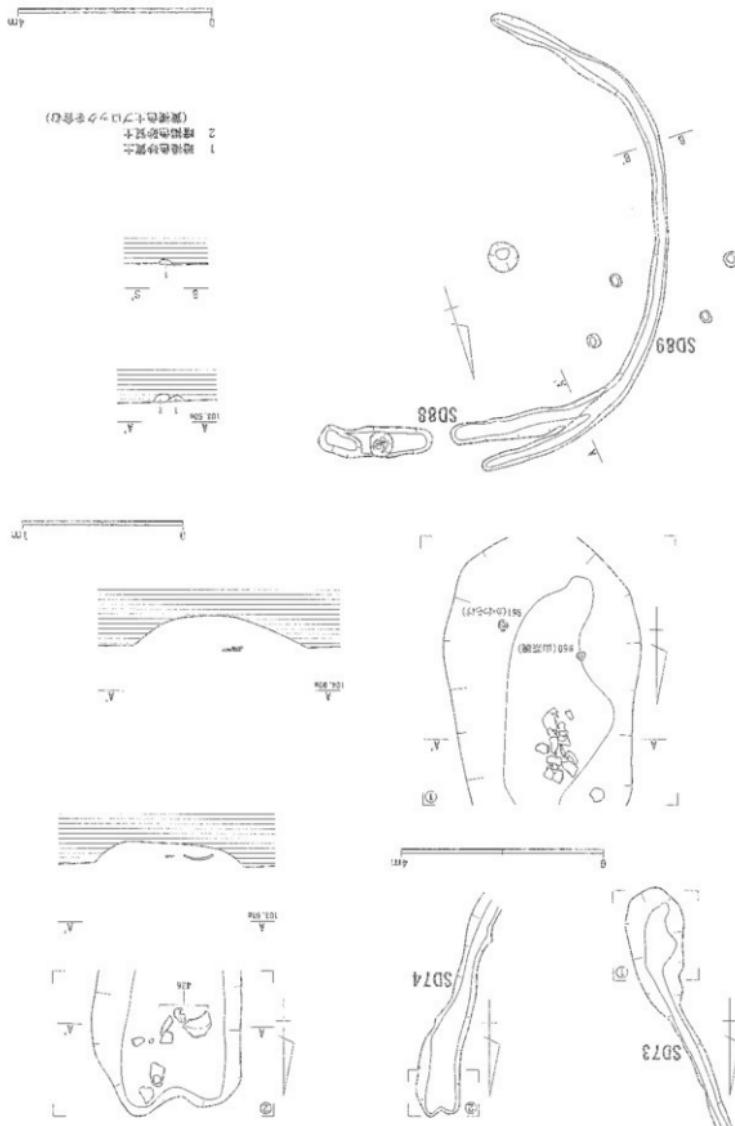


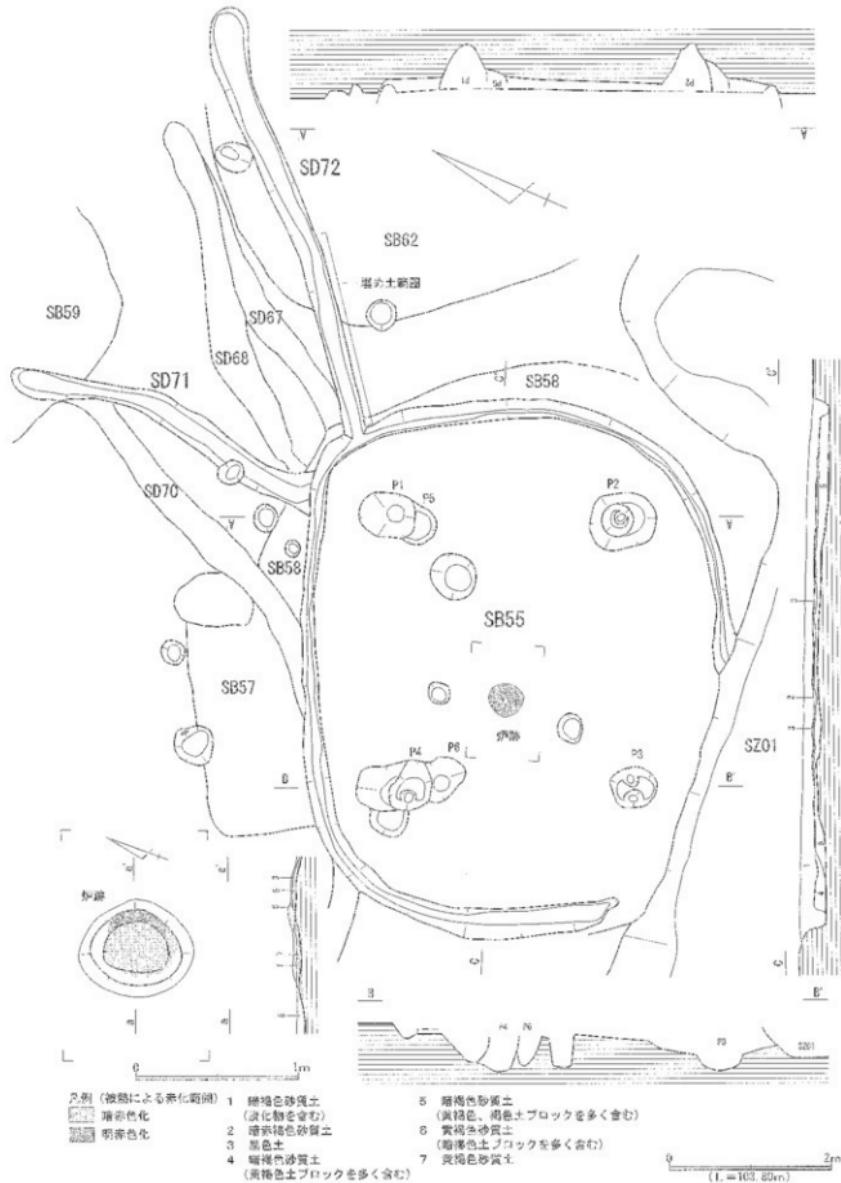
- 1 磨耗色砂質土
- 2 明新褐色土
- 3 变淡色砂質土 (褐色、浅褐色土ブロックを含む)
- 4 磨耗色砂質土 (黄褐色土ブロックを含む)
- 5 黄褐色砂質土
- 6 浅褐色砂質土

0 2m
(L = 103.80m)

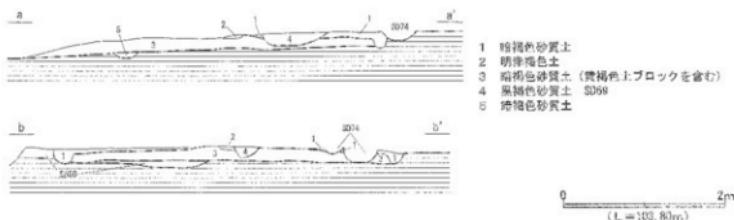
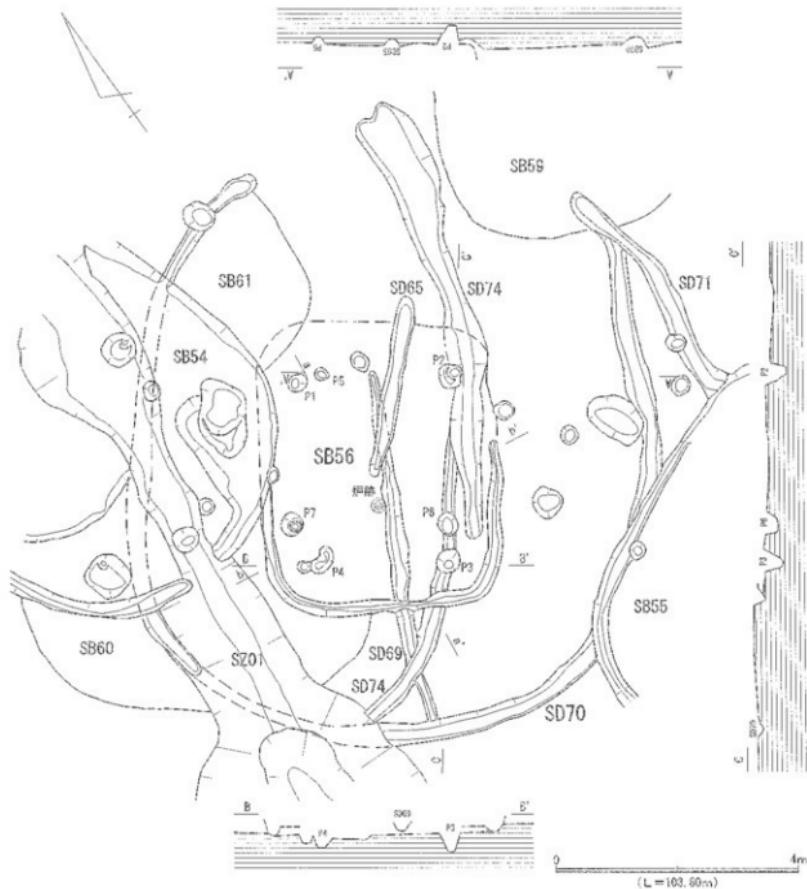
第64図 SB54

圖66 圖 SD73, SD74, SD88・SD89

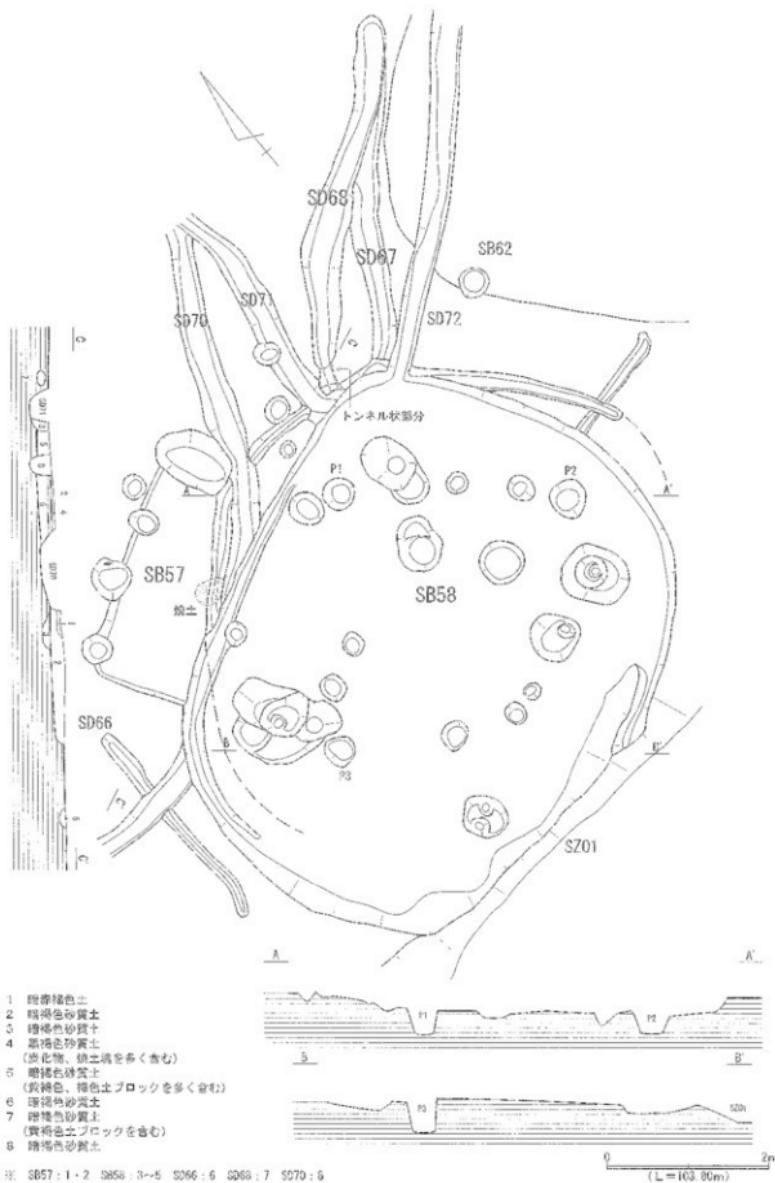




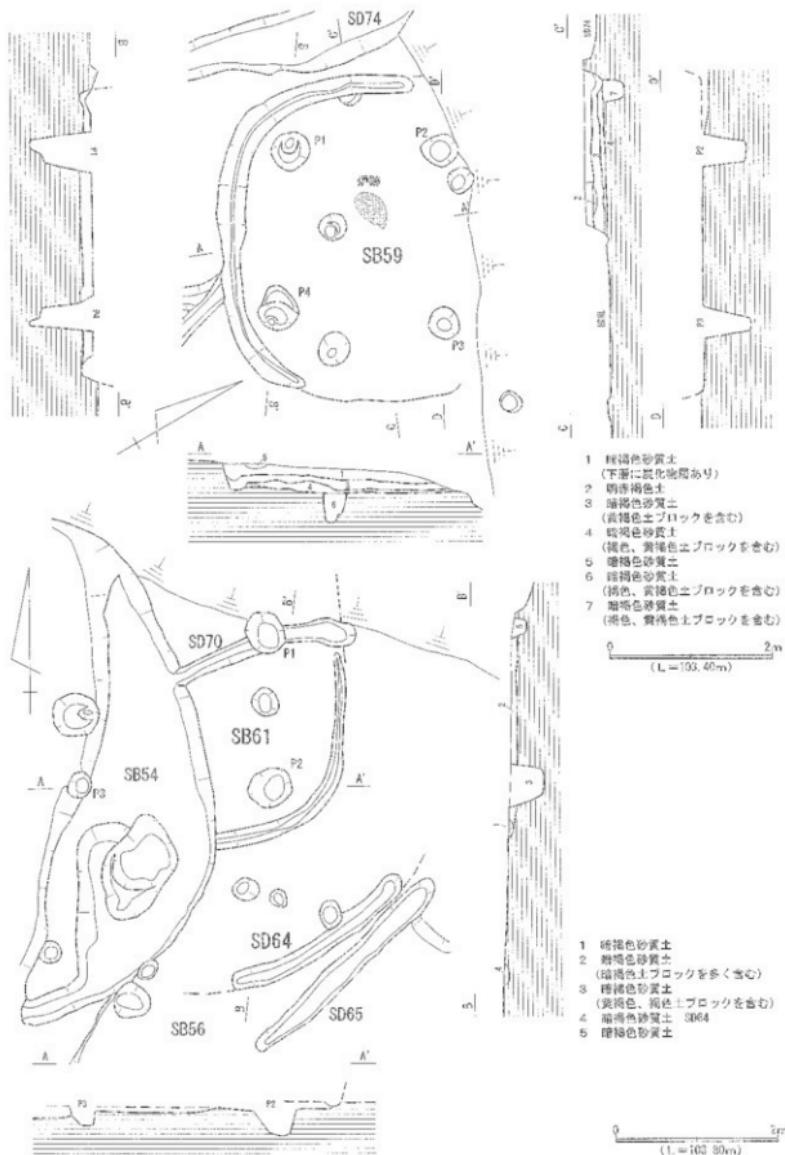
第66回 SB55・SD71・SD72



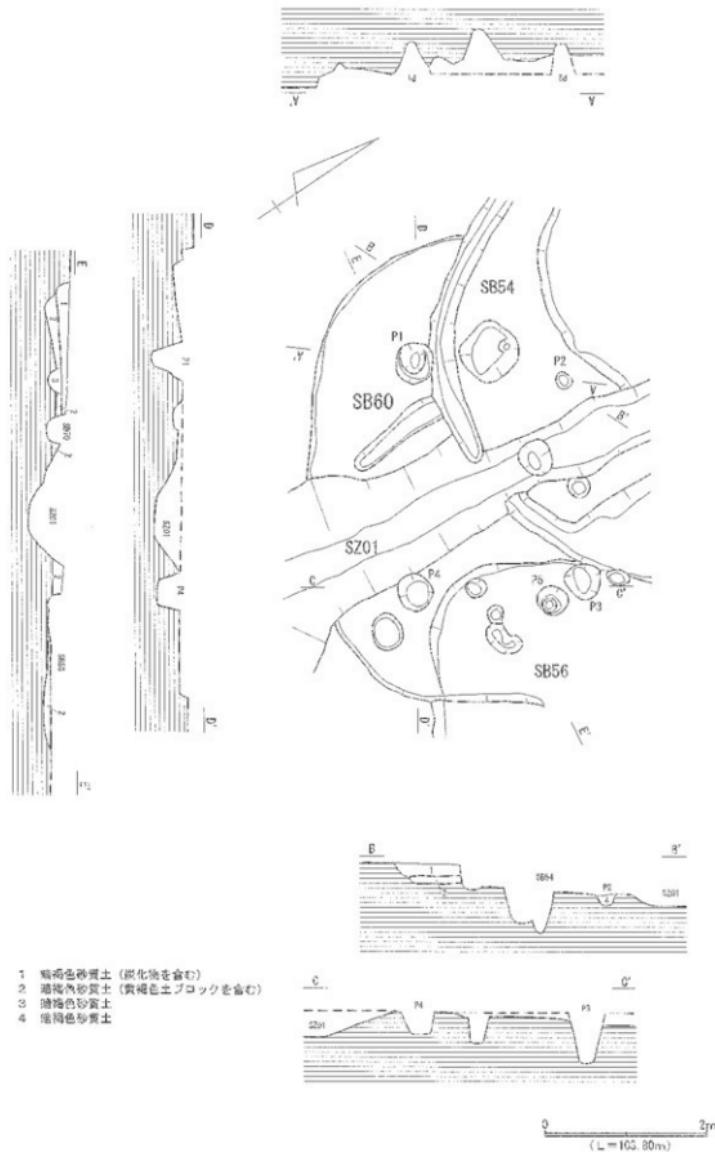
第67図 SB56・SD70



第68図 SB57・SB58・SD66・SD67・SD68

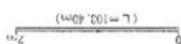


第69図 SB59, SB61・SD64



第70図 SB60

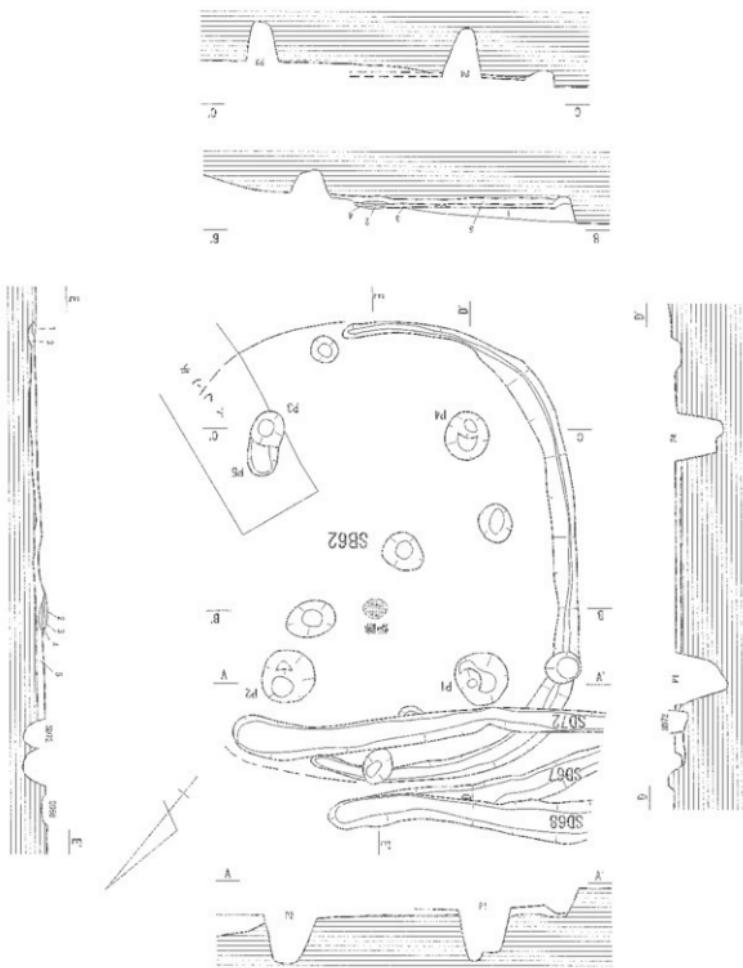
第77回 SB62

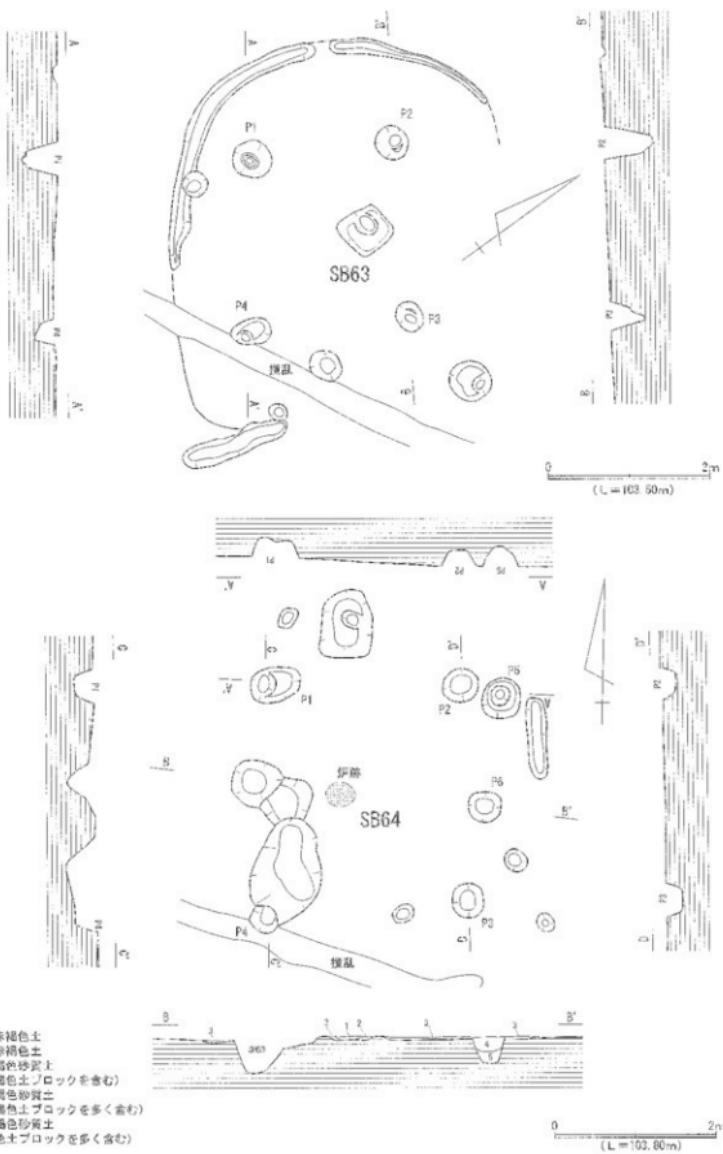


實地考察調查（褐色、綠褐色土）

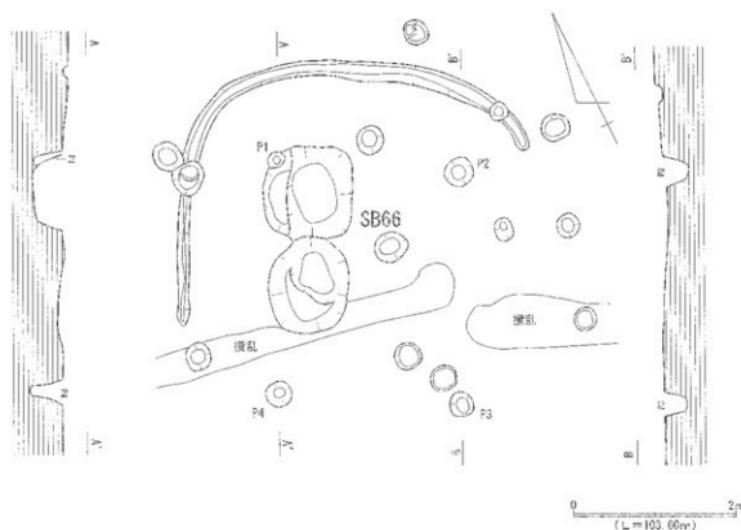
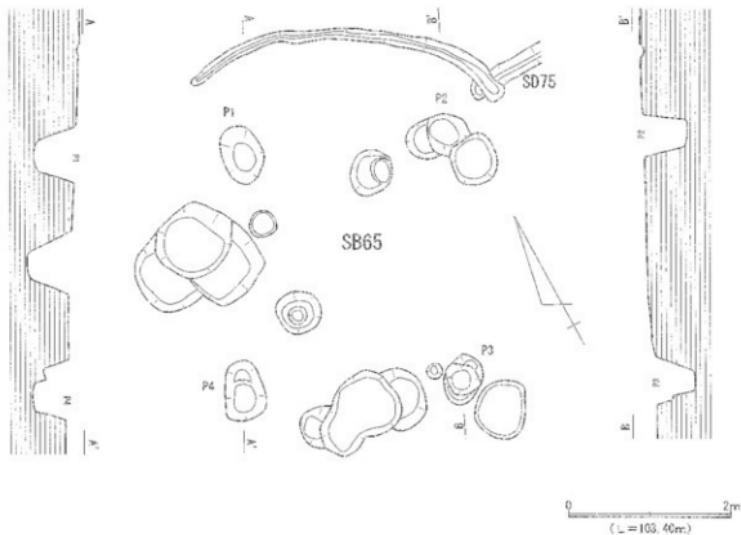
基础教育评价与改革

• 100 道題測驗卷二

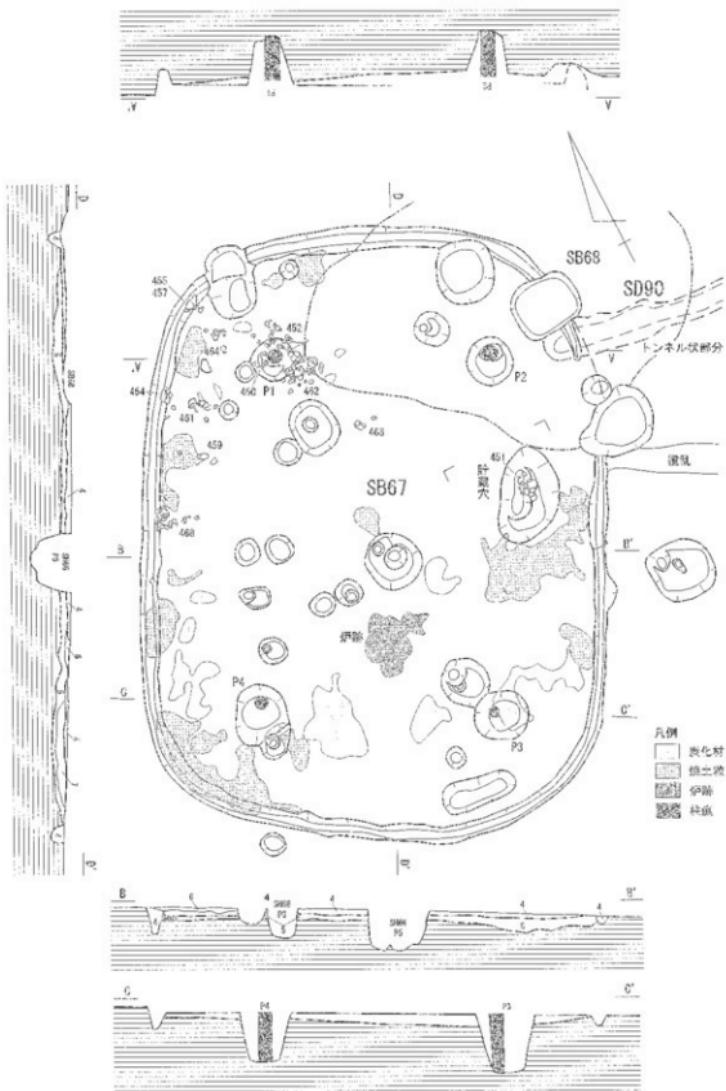




第72図 SB63, SB64



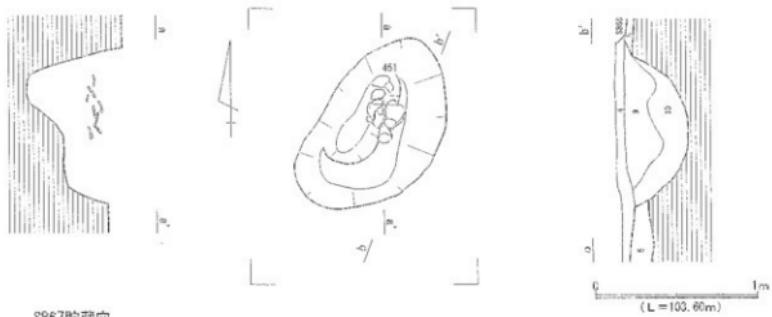
第73図 SB65, SB66



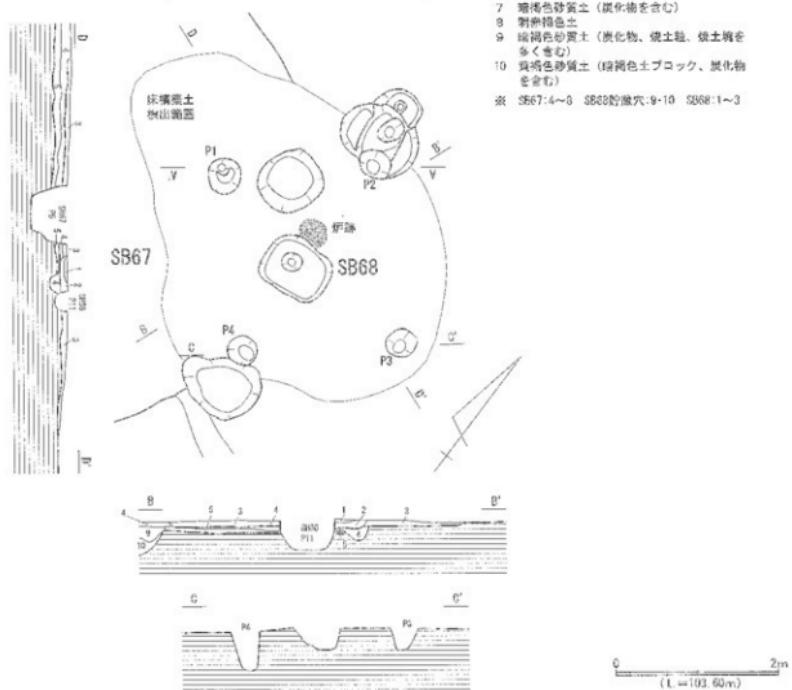
※ 土磨注記は8888と同じ

$$(L = 103, 60\text{m})$$

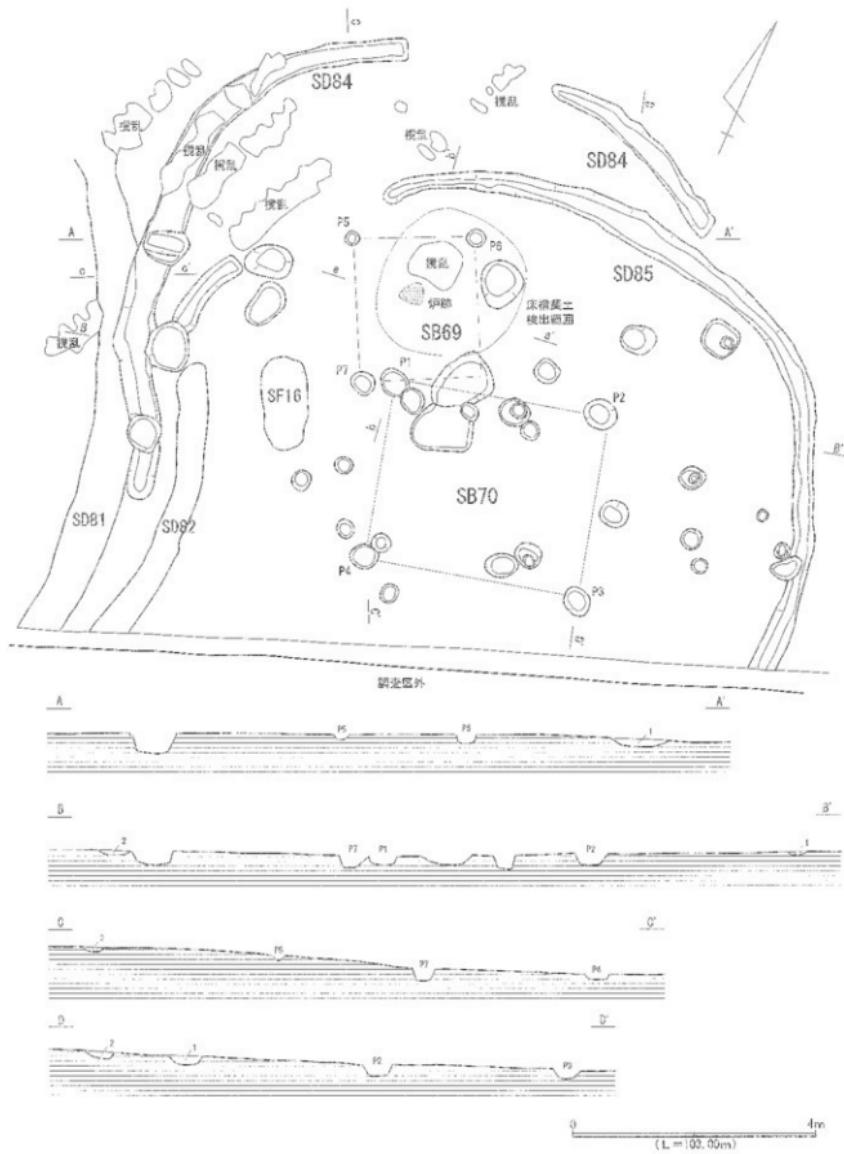
第74回 SB67・SD90



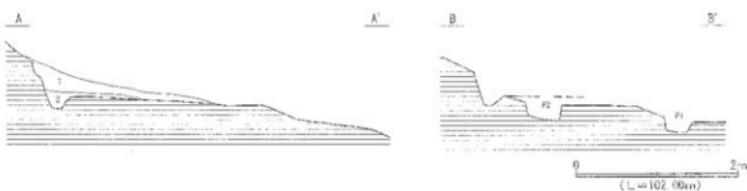
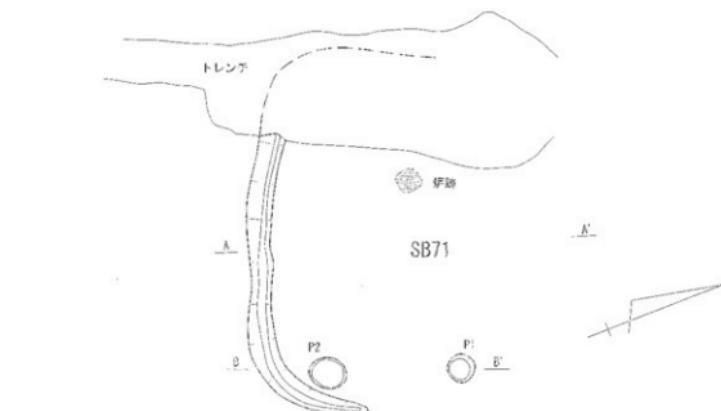
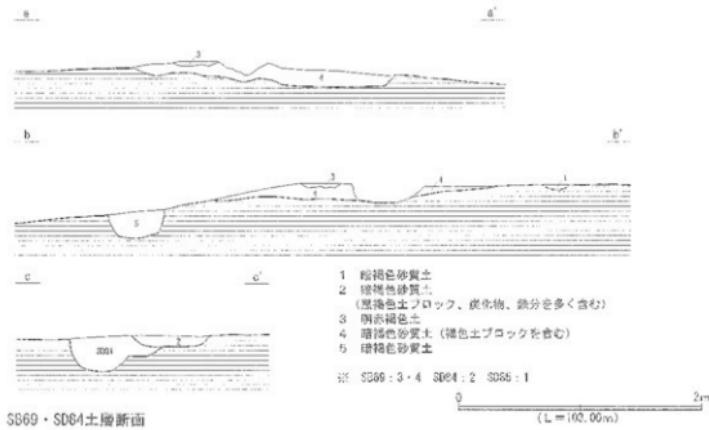
- 1 刷削褐色土
 - 2 黄褐色砂質土 (帶褐色土ブロックを含む)
 - 3 砂褐色砂質土 (黄褐色土ブロックを含む)
 - 4 灰褐色砂質土 (炭化物、燒土粒、燒土塊を多く含む)
 - 5 黄褐色砂質土
 - 6 純褐色粘土
 - 7 帶褐色砂質土 (炭化物を含む)
 - 8 刷削褐色土
 - 9 純褐色砂質土 (炭化物、燒土粒、燒土塊を多く含む)
 - 10 黄褐色砂質土 (帶褐色土ブロック、炭化物を含む)
- ※ SB67:4~6 SB68貯藏穴:9~10 SB68:1~3



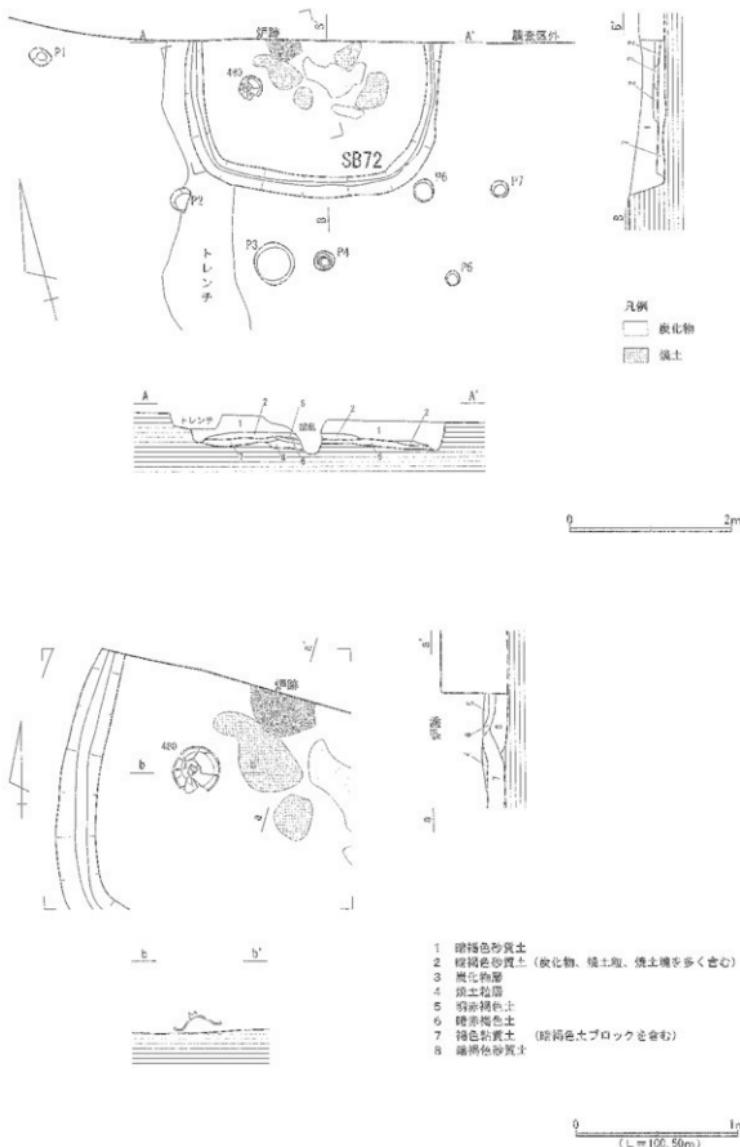
第75圖 SB67貯藏穴, SB68



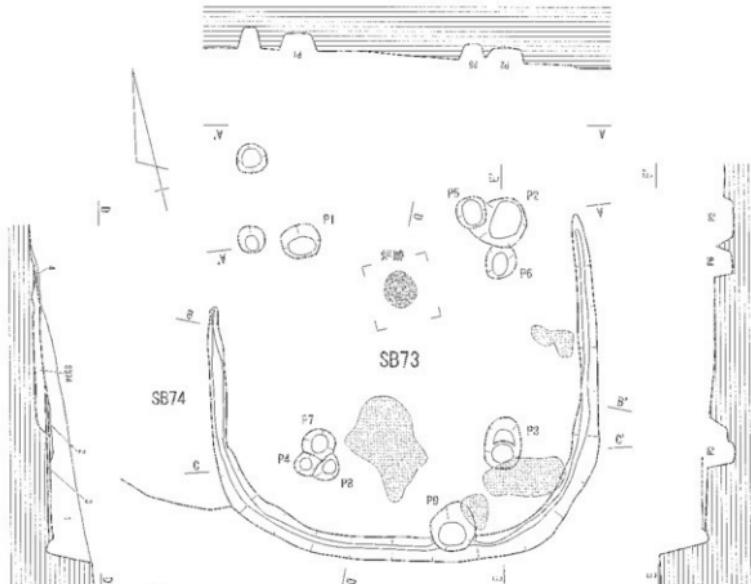
第76圖 SB69・SB70・SD84・SD85



第77図 SB69・SD64, SB71

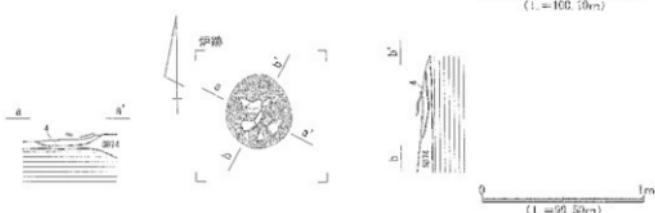
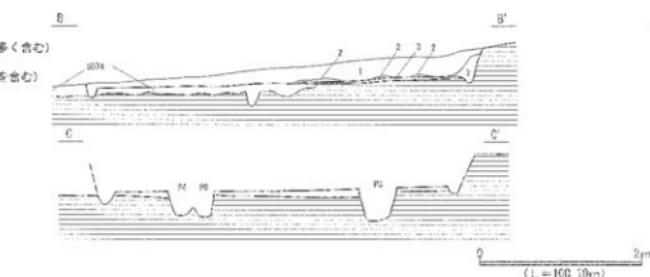


第78図 SB72

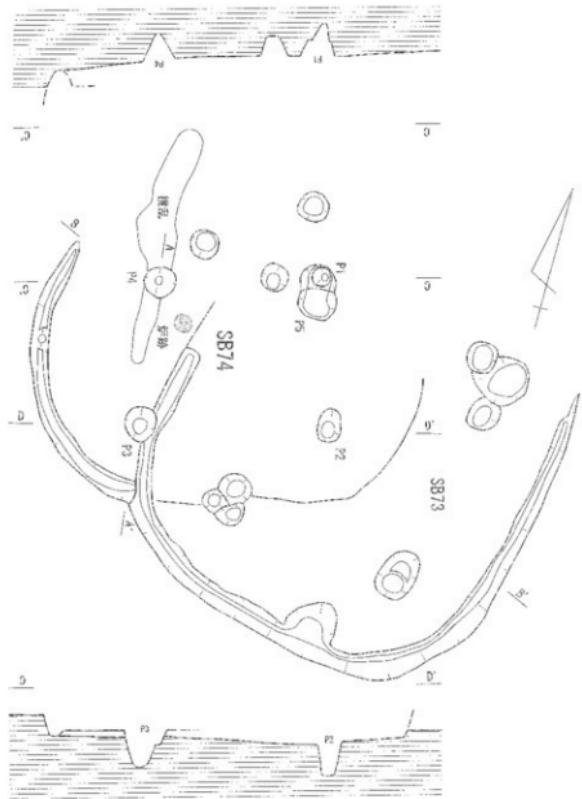


■ 粘土質、炭化物

- 1 暗褐色砂質土
- 2 暗褐色砂質土
(炭化物、焼土質を多く含む)
- 3 黄褐色砂質土
(暗褐色土ブロックを含む)
- 4 灰色褐色土



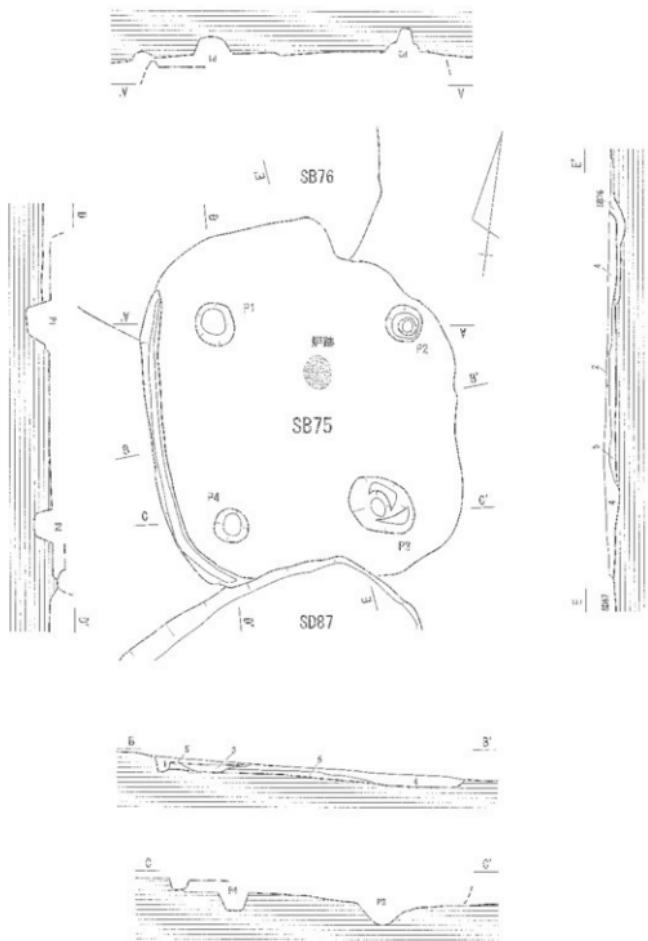
第79圖 SB73



- 1 明るい褐色土
- 2 暗褐色土 (黄褐色フロソックを多く含む)
- 3 深褐色沙質土 (黄褐色土フロソックを多く含む)

第80圖 SB74

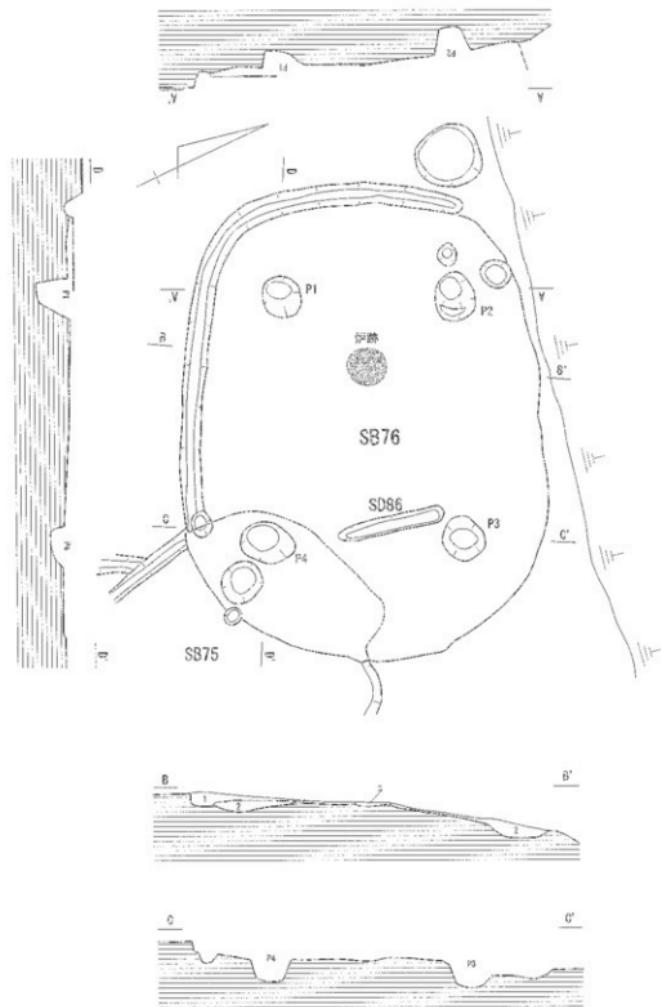
0
(1 = 100 m)
2m



- 1 黄褐色砂質土（黄褐色ナブロックを含む）
- 2 線条構造土
- 3 西緑色砂質土（黄褐色、褐色エプロックを多く含む）
- 4 褐色粘質土（暗褐色、上フロックを多く含む）
- 5 黄褐色砂質土（暗褐色、褐色土ブロックを含む）

0 2m
(L = 162.50m)

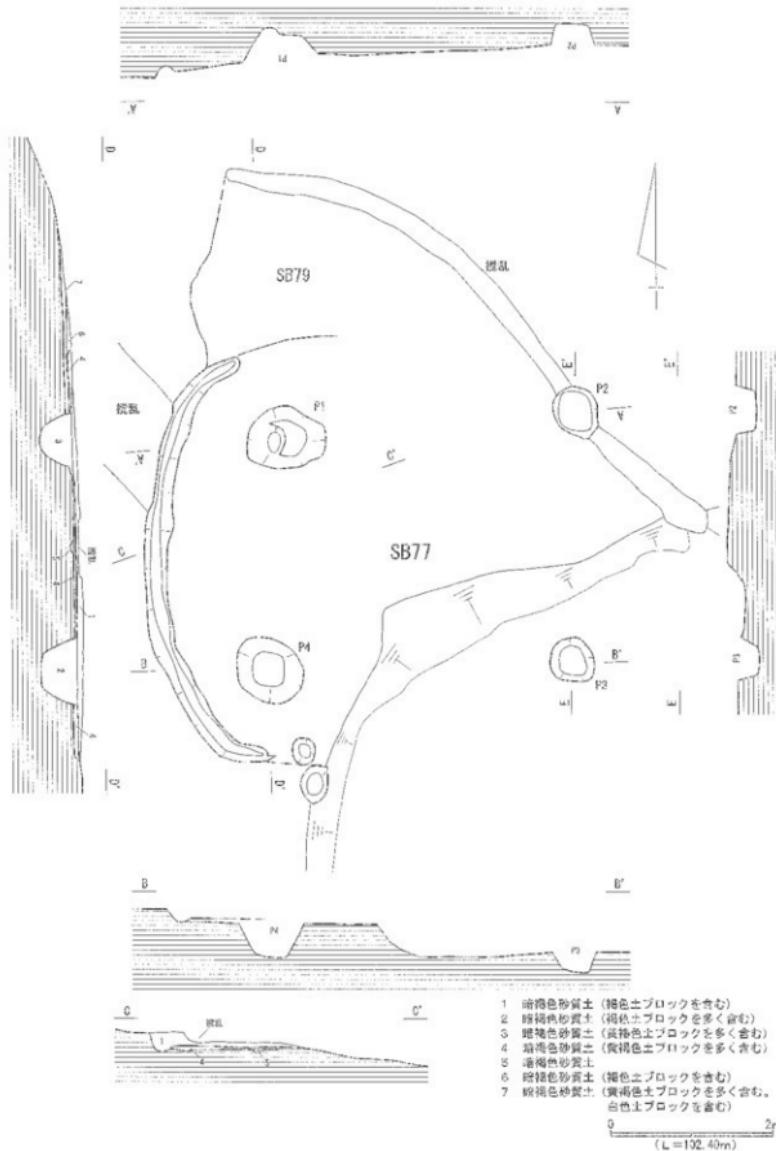
第81図 SB75



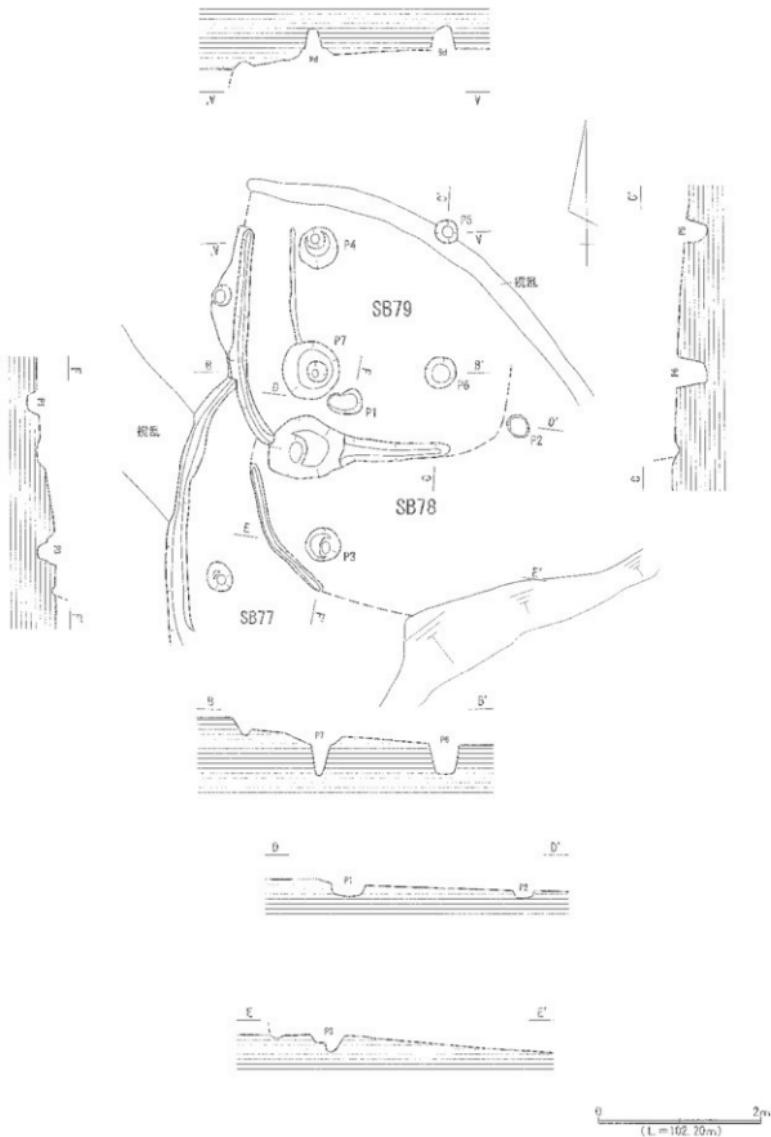
- 1 淡褐色砂質土（黄褐色、褐色土ブロックを含む）
- 2 黄褐色砂質土（褐色、黄褐色土ブロックを多く含む）
- 3 緑褐色土土

0 2m
(1 = 102.60m)

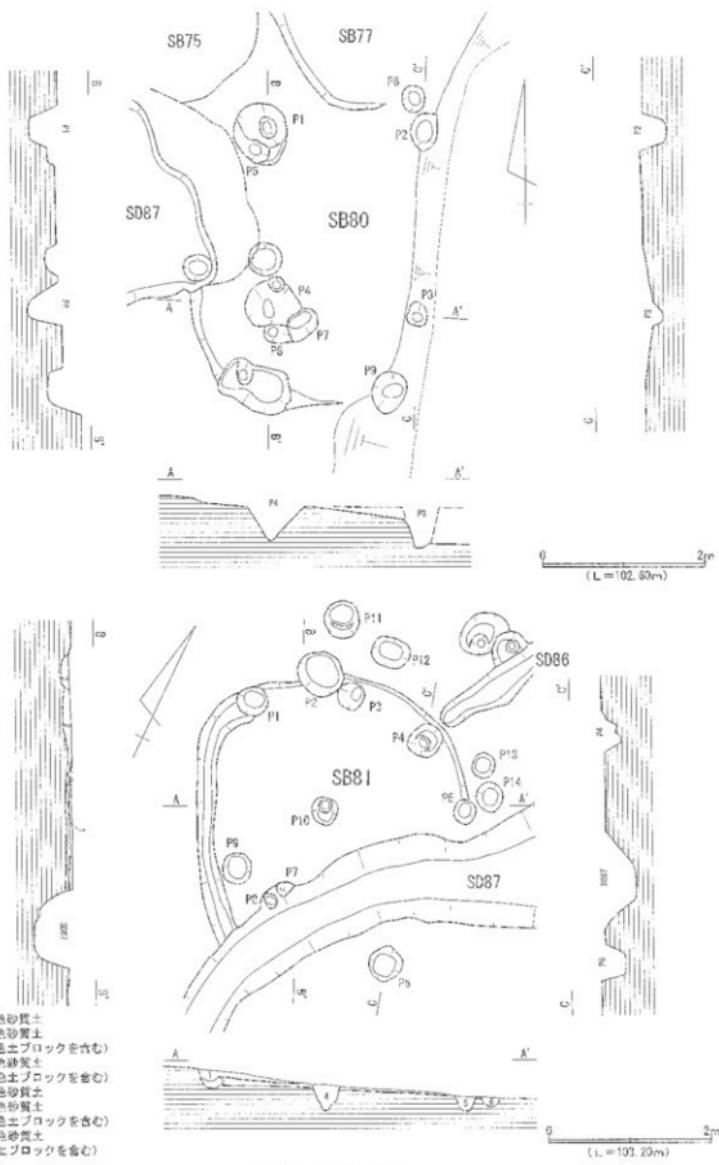
第82圖 SB76



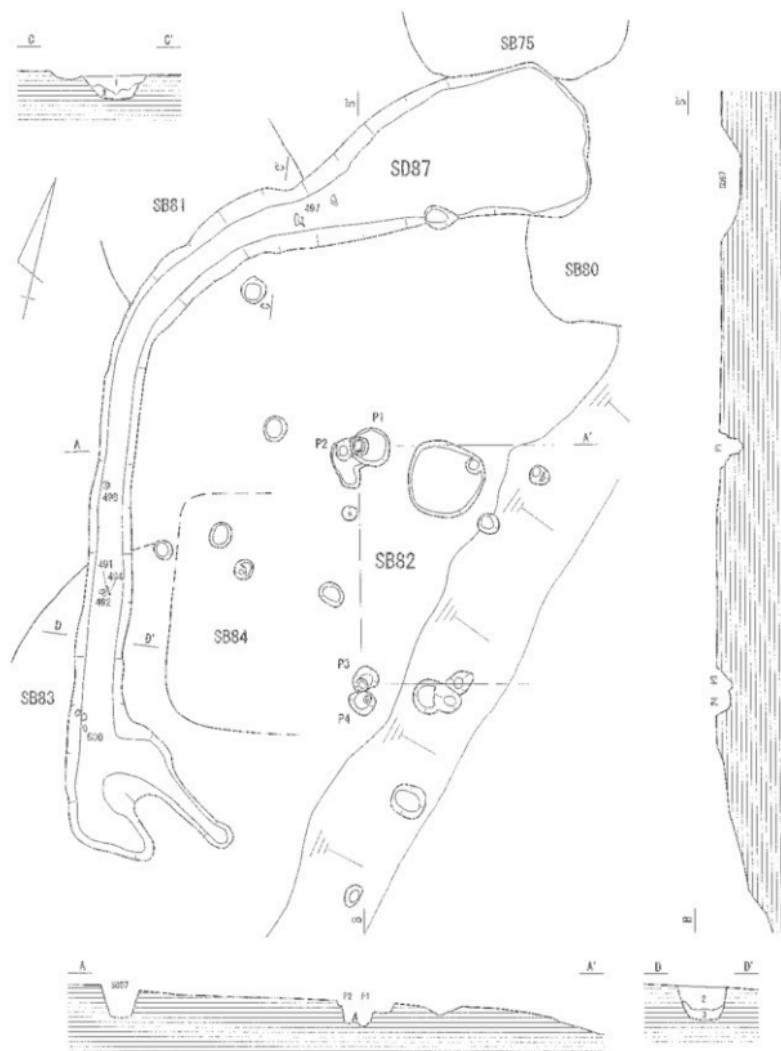
第63図 SB77



第64図 SB78・SB79



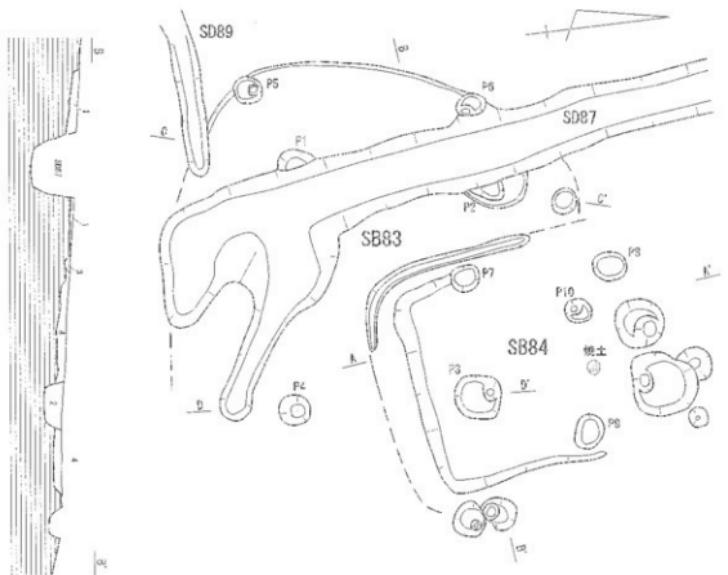
第85圖 SB80, SB81



- 1 棕褐色砂質土 (褐色・黄褐色土ブロックを含む)
 2 褐褐色砂質土 (鐵化物を含む)
 3 黑灰色砂質土 (鐵化物を含む)

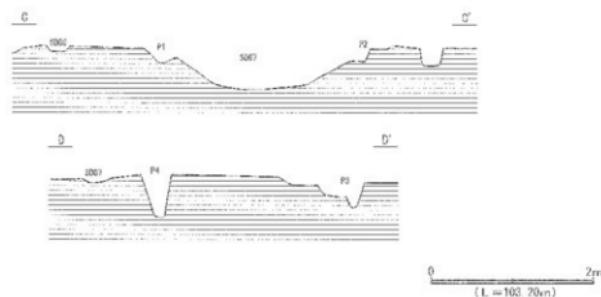
0 $\frac{2m}{(L=193.20m)}$

第86図 SB82・SD87

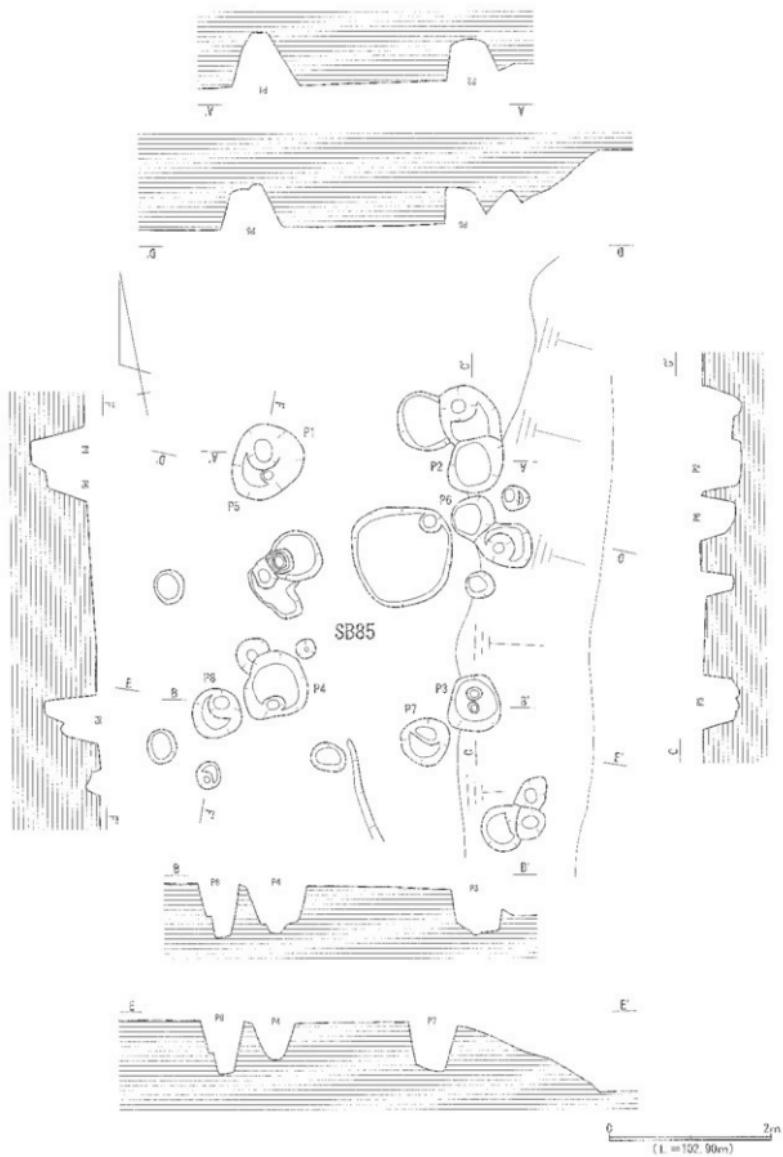


- 1 糙褐色砂質土
(褐色、黄褐色土ブロックを含む)
- 2 碱褐色砂質土
- 3 硫褐色砂質土
- 4 鹽褐色砂質土
(硫酸化物、塩土粒を含む)
- 5 糙褐色砂質土

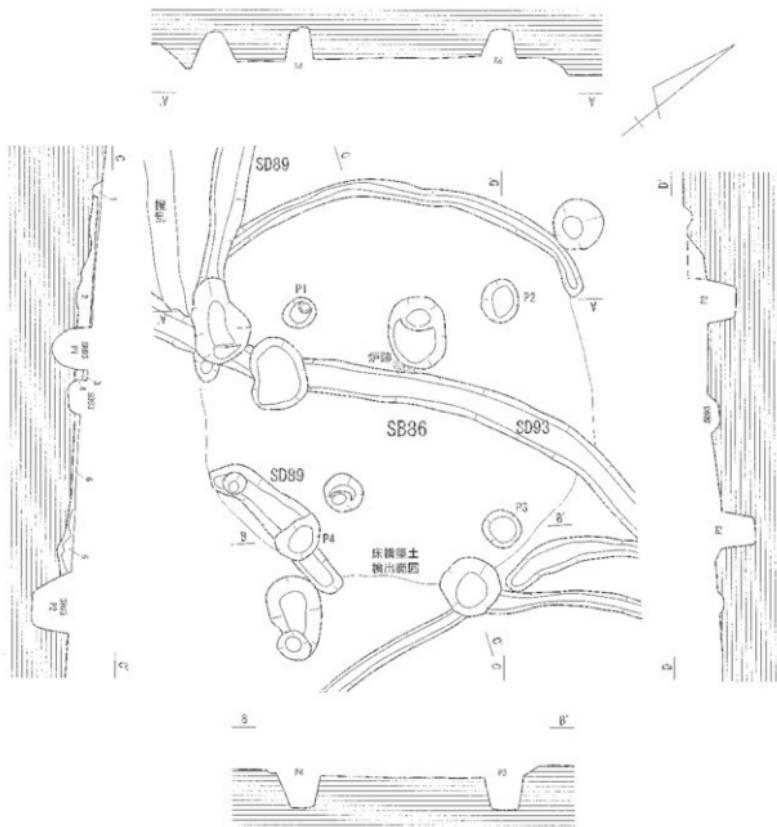
※ SB83 : 1・2 SB84 : 3~5



第37図 SB83・SB84



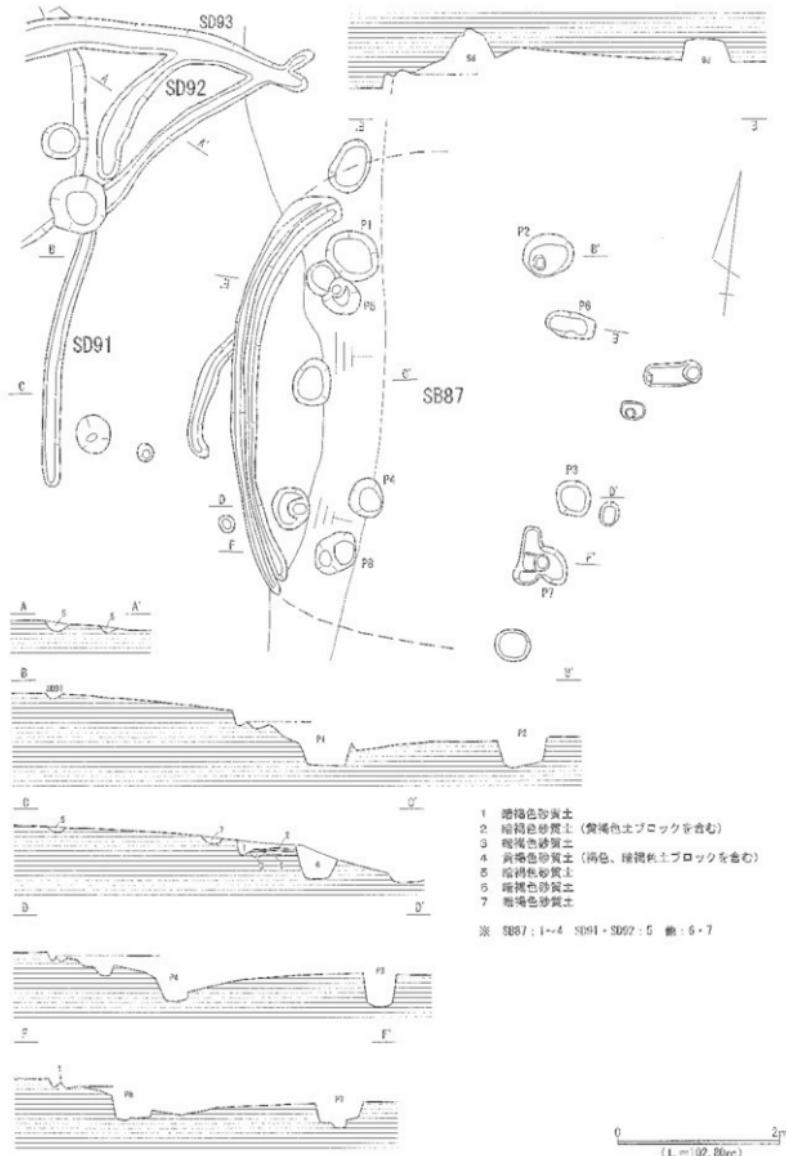
第88回 SB35



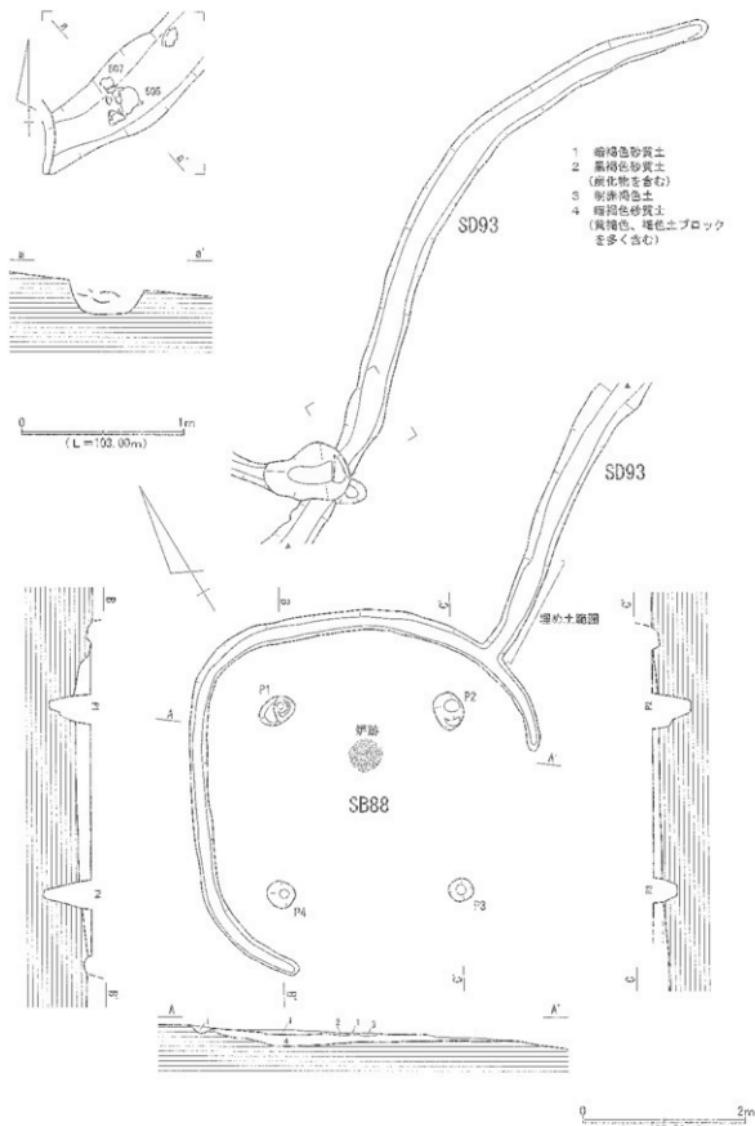
- 1 暗褐色砂質土（黄褐色土ブロックを含む）
- 2 黄褐色砂質土
- 3 紅赤褐色土
- 4 暗褐色砂質土（黄褐色、褐色土ブロックを含む）
- 5 暗褐色砂質土
- 6 黄褐色砂質土

0 2m
(L = 103.20m)

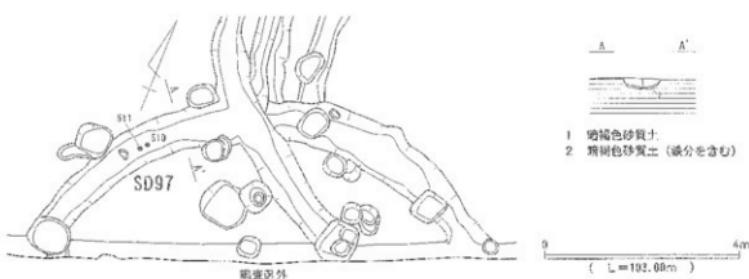
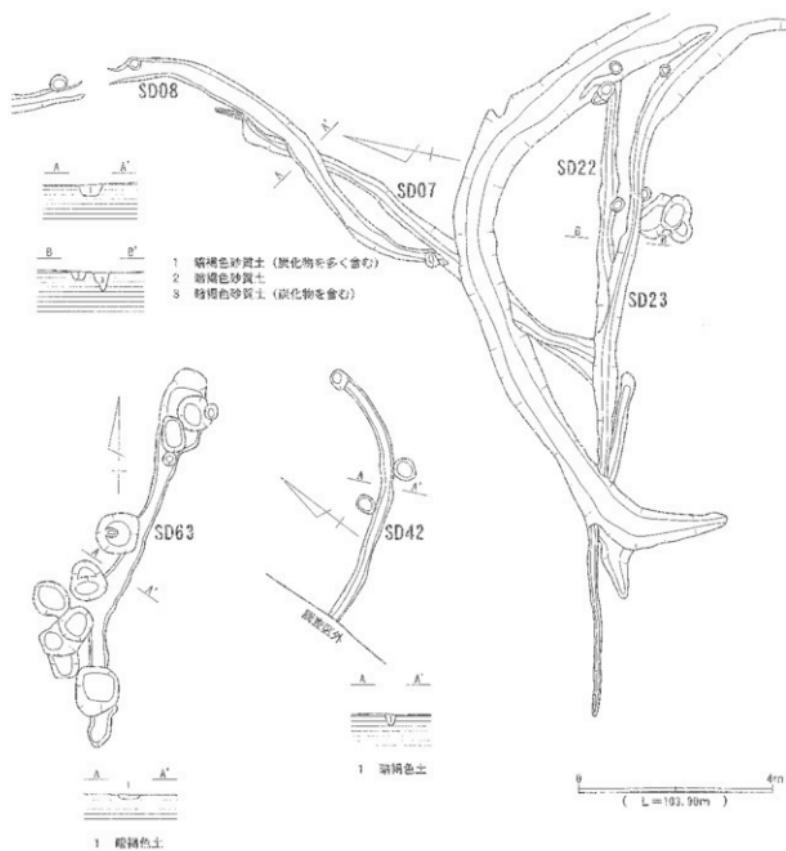
第89圖 SB86



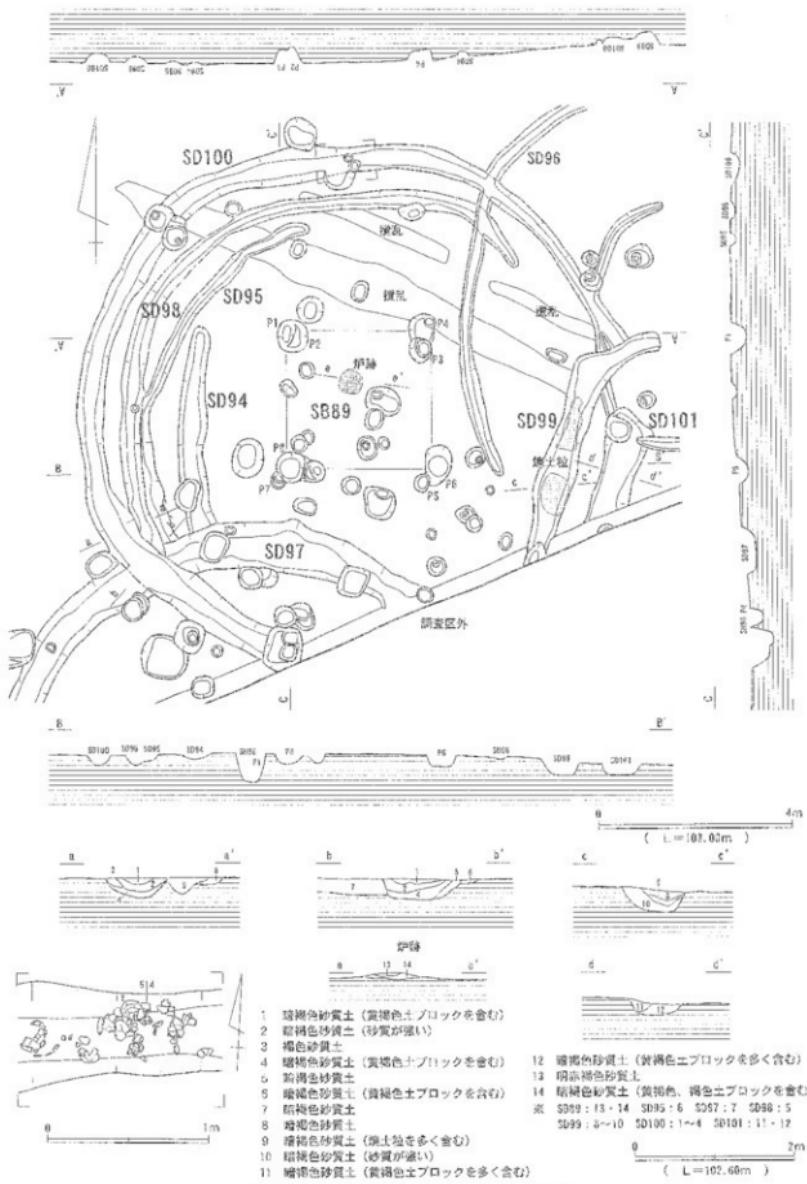
第90図 SB87・SD91・SD92



第91図 SB88・SD93



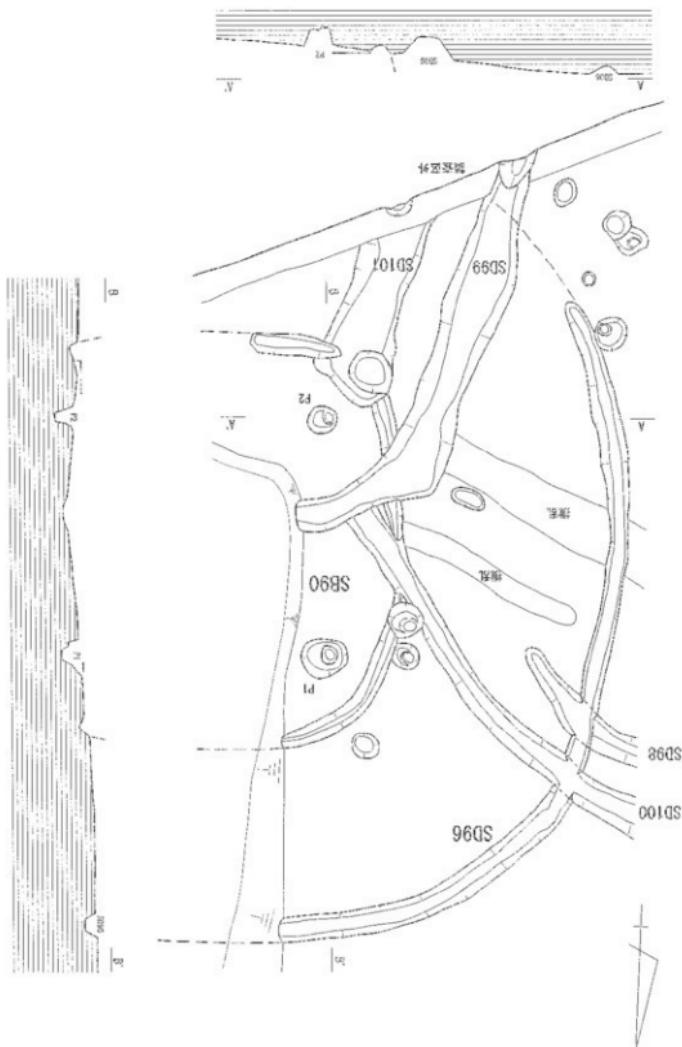
第92図 SD07・SD08・SD22・SD23・SD42・SD63・SD97

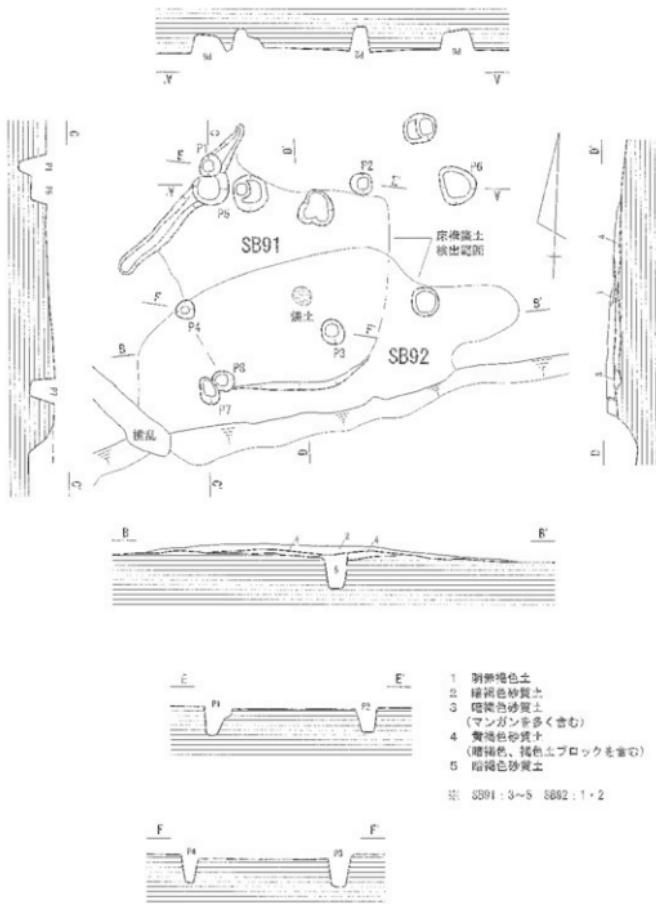


第93回 SB89・SD94・SD95・SD97～SD101

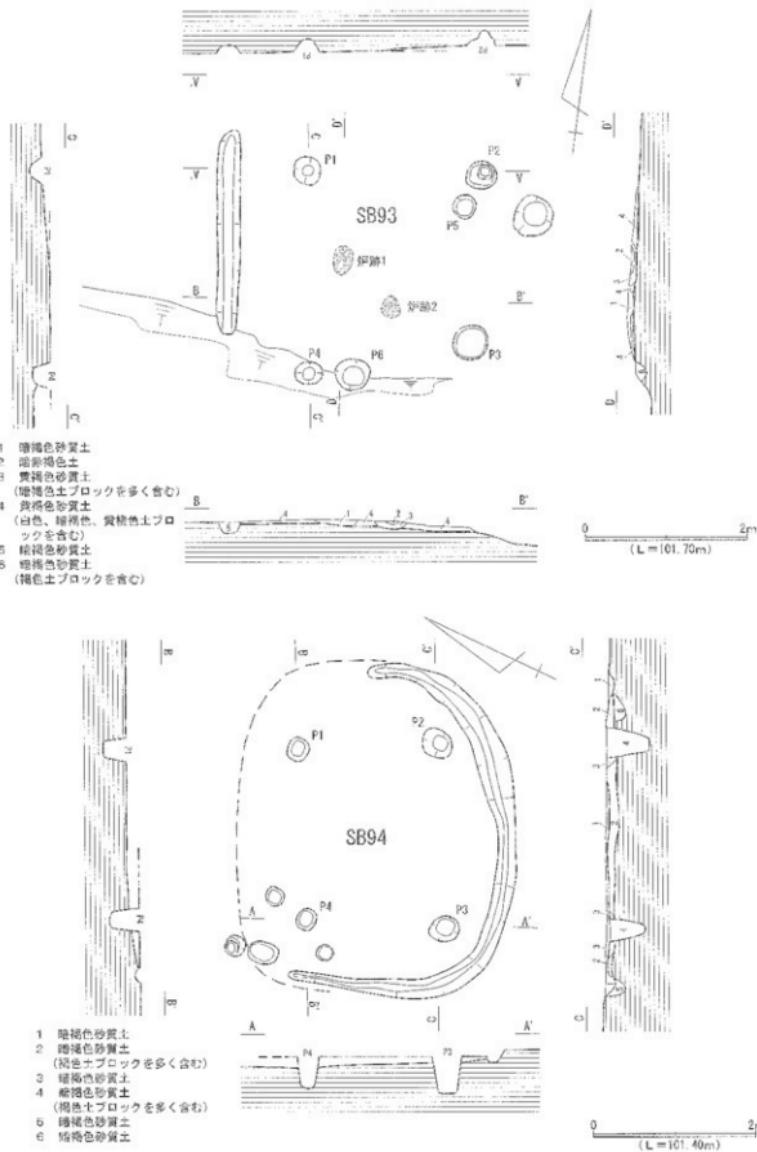
寒旱层 SB90 · SD96

(L = 102.50 mm)
0 25 mm

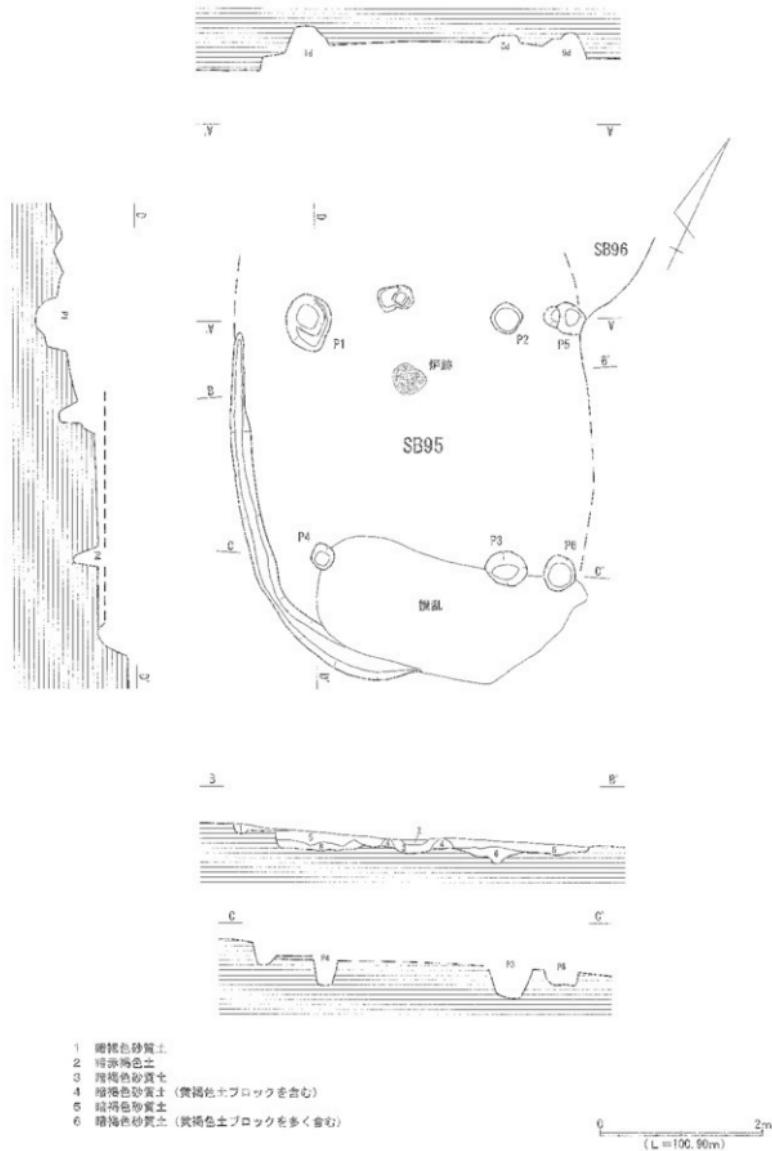




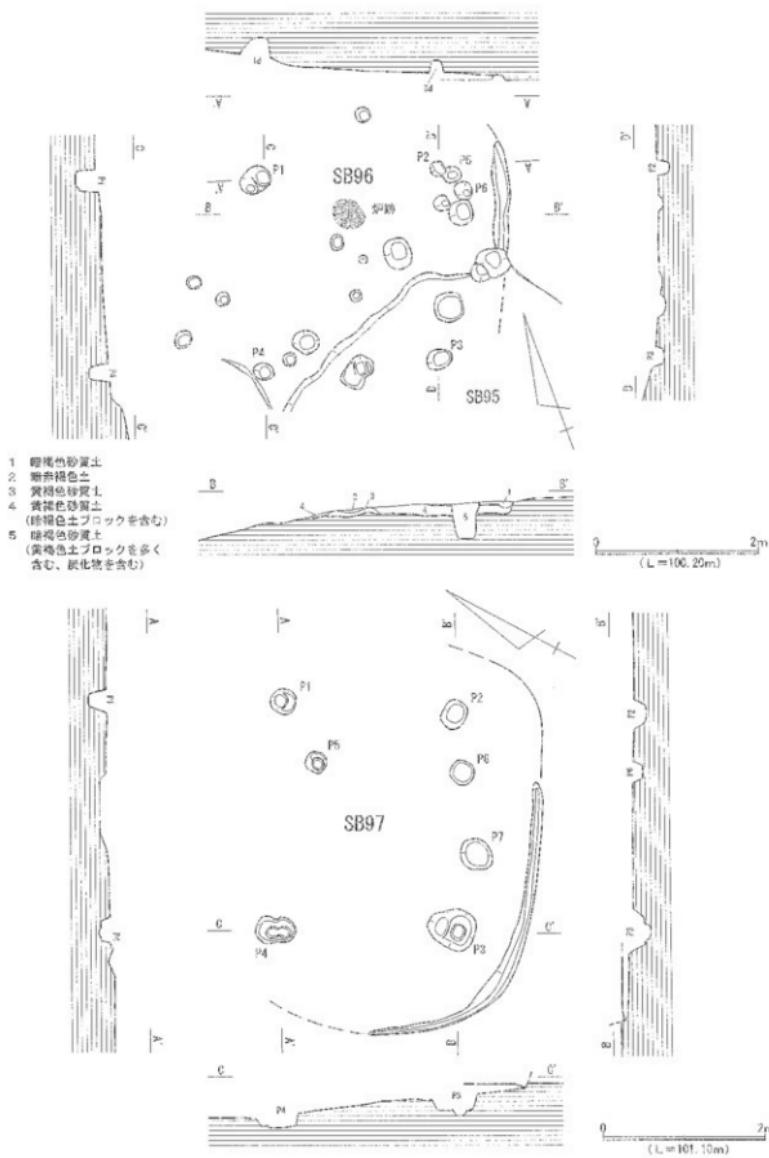
第95図 SB91・SB92



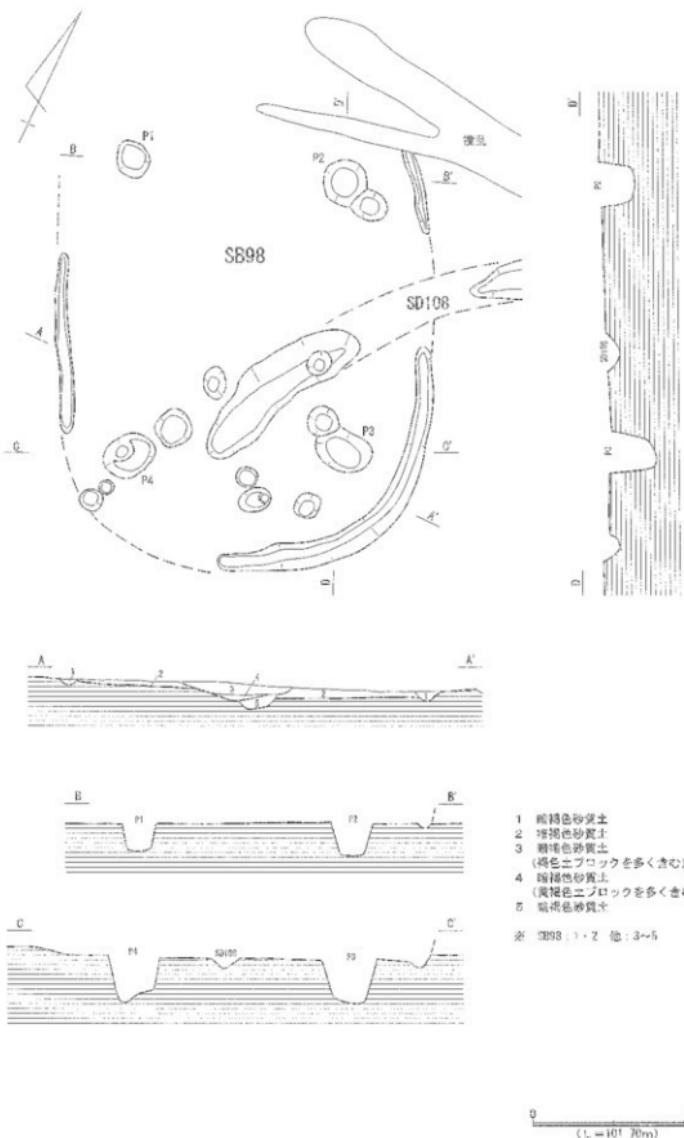
第96図 SB93, SB94



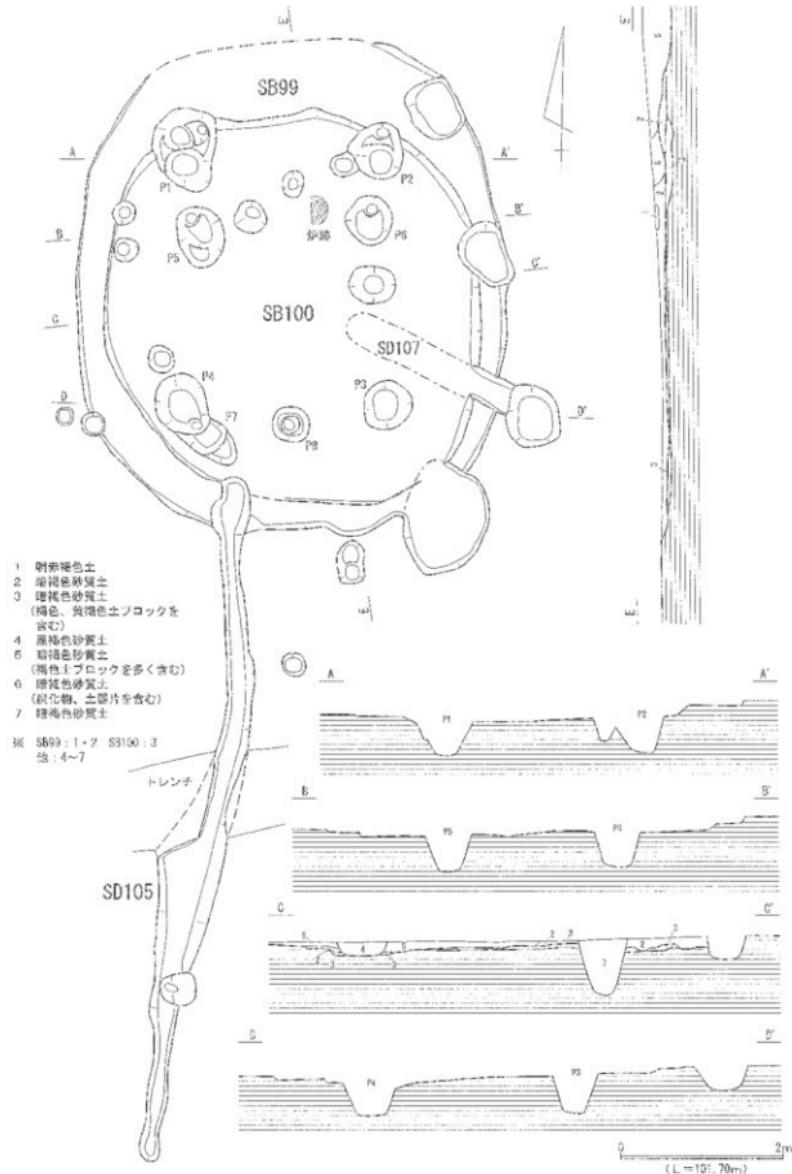
第97図 SB95



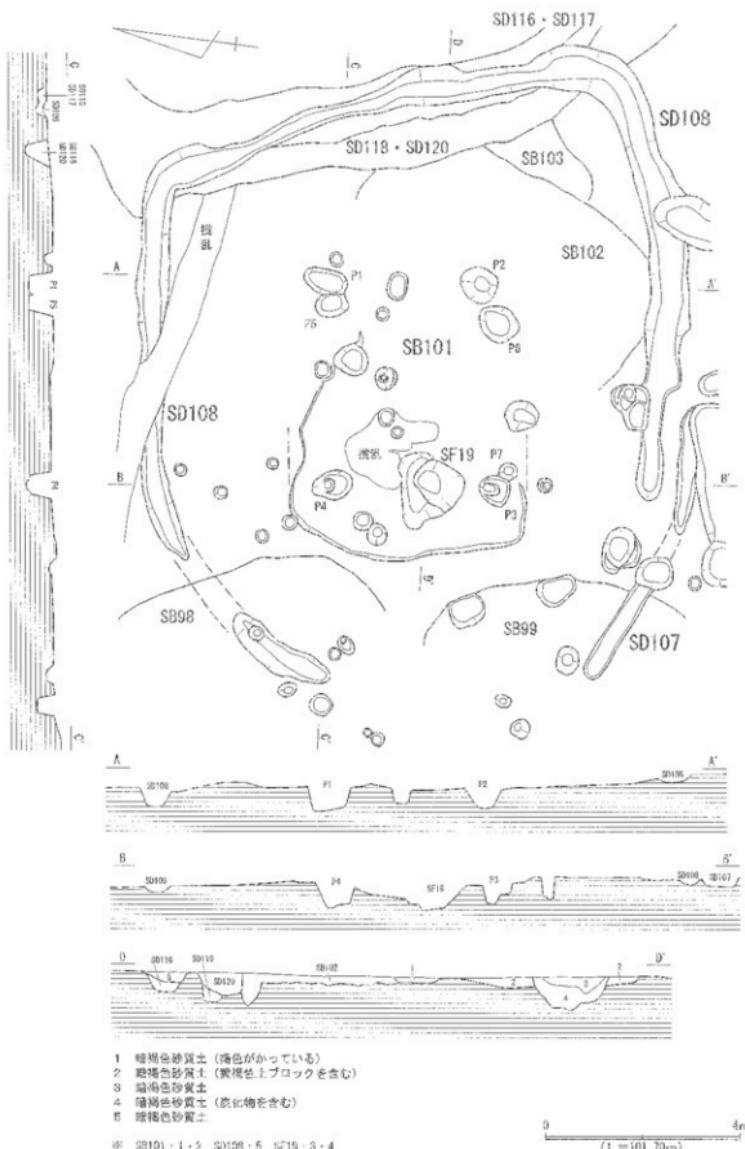
第98図 SB96, SB97



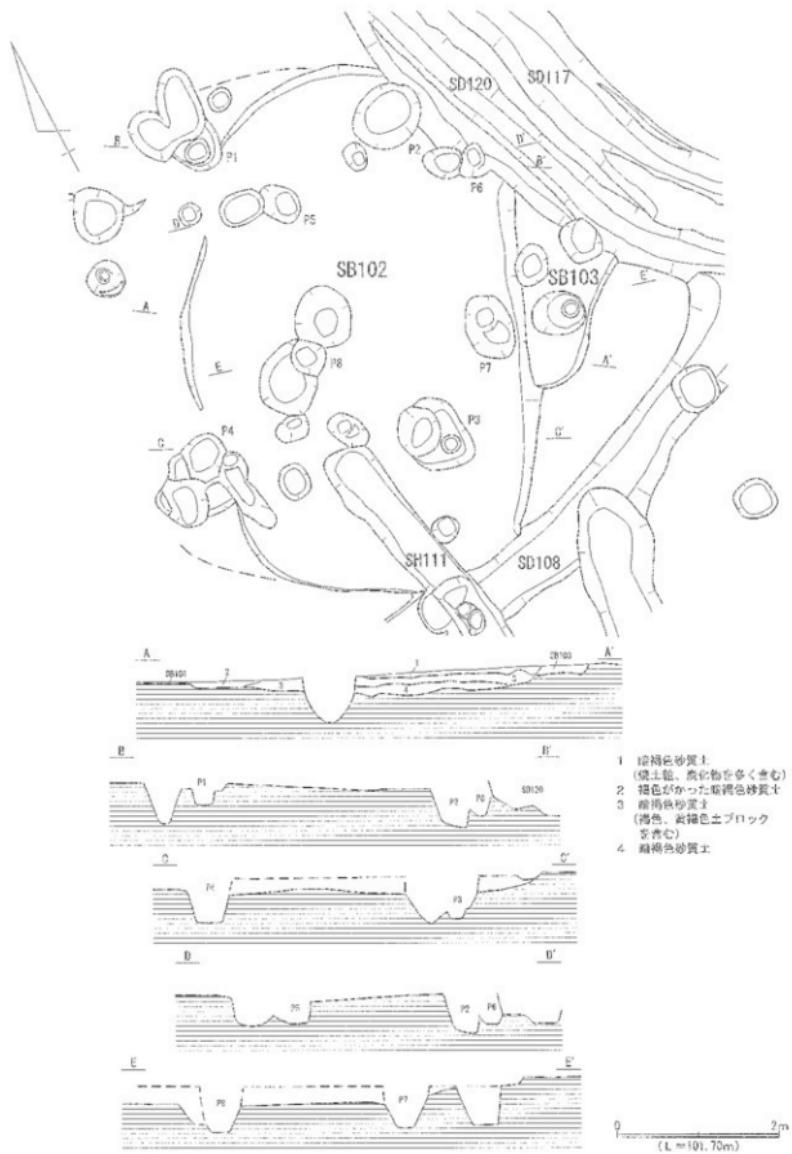
第99圖 SB98



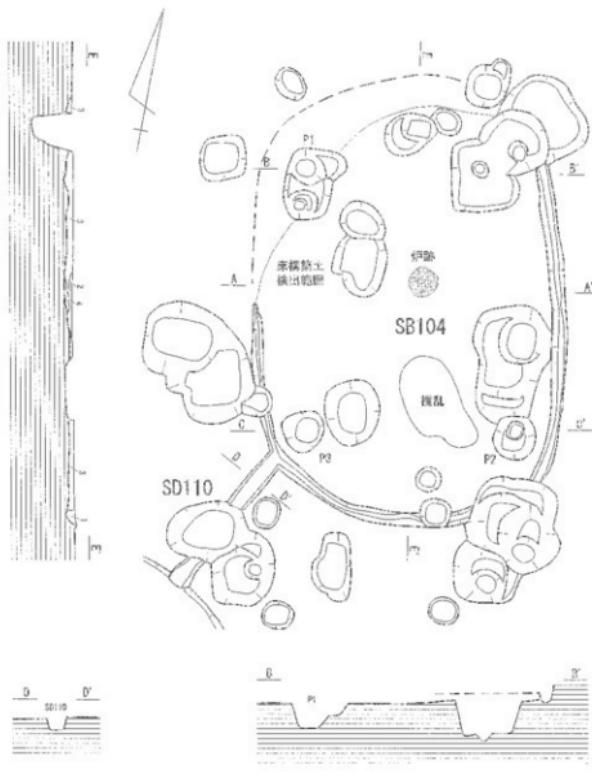
第100図 SB99・SB100・SD105



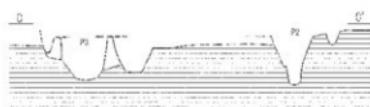
第101図 SB101・SD107・SD108



第102図 SB102・SB103

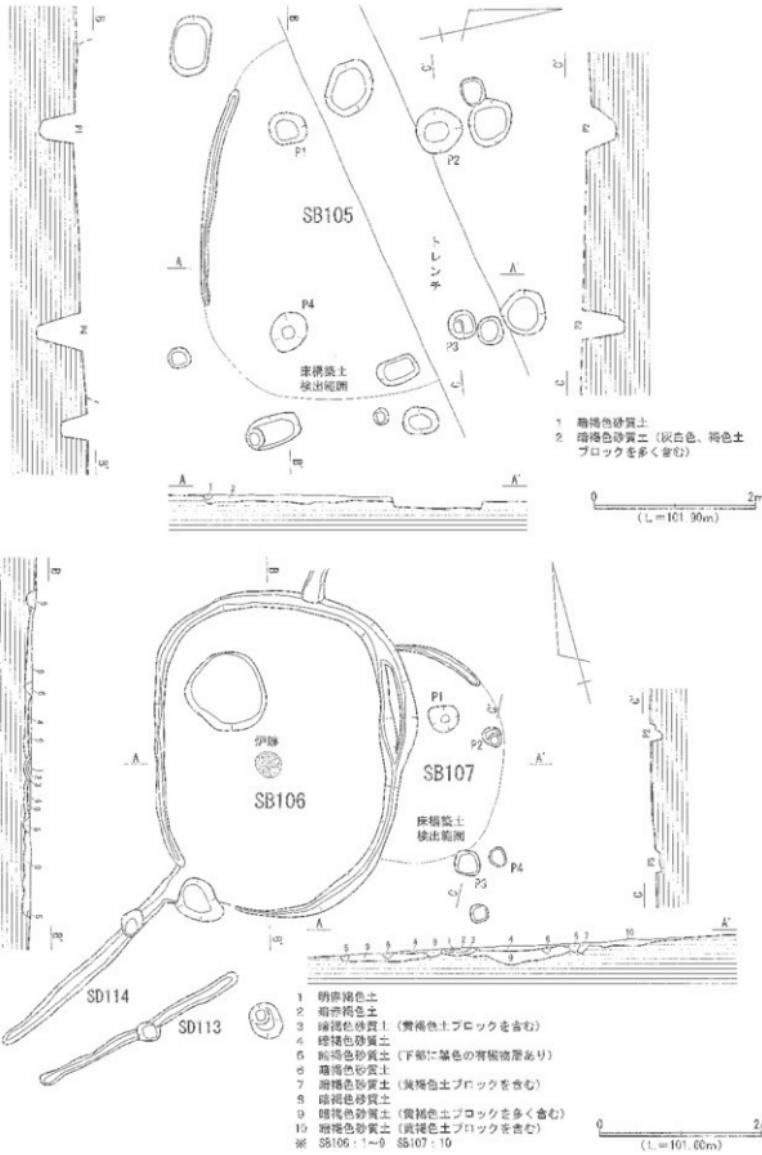


- 1 暗褐色砂質土
- 2 明赤褐色土
- 3 暗褐色砂質土
(褐色、黃褐色土ブロックを多く含む)
- 4 黃褐色砂質土

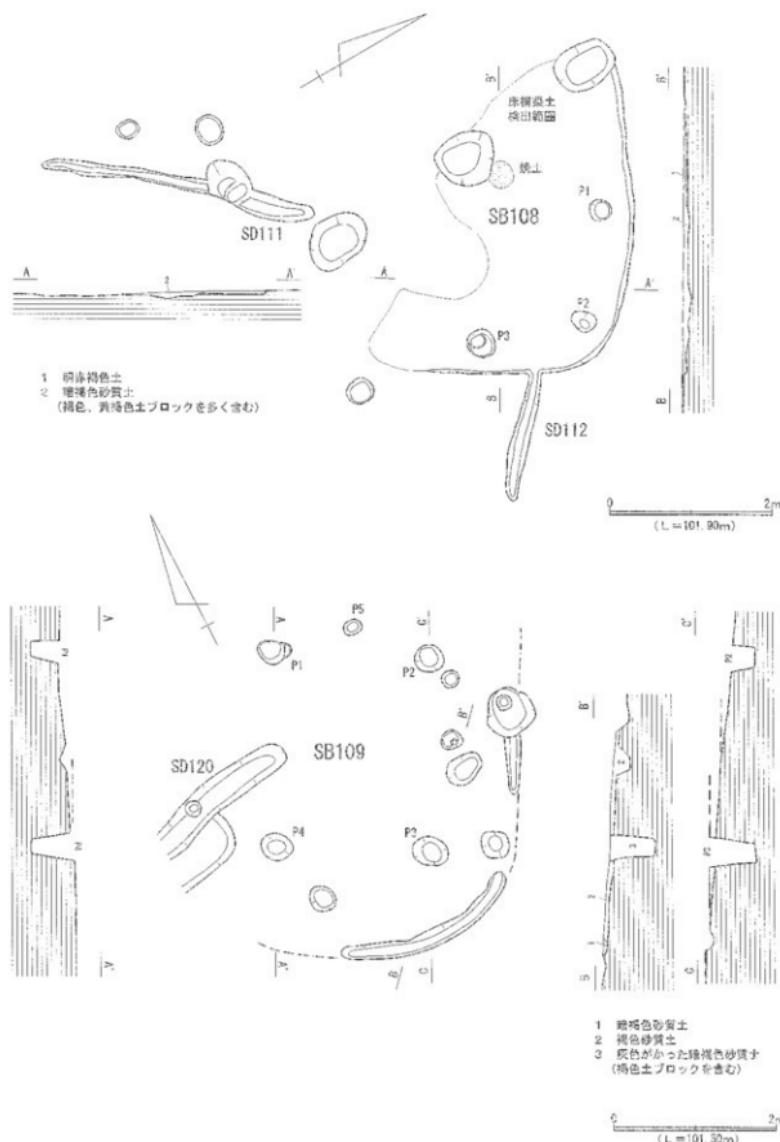


($L = 101.80 \text{ nm}$)

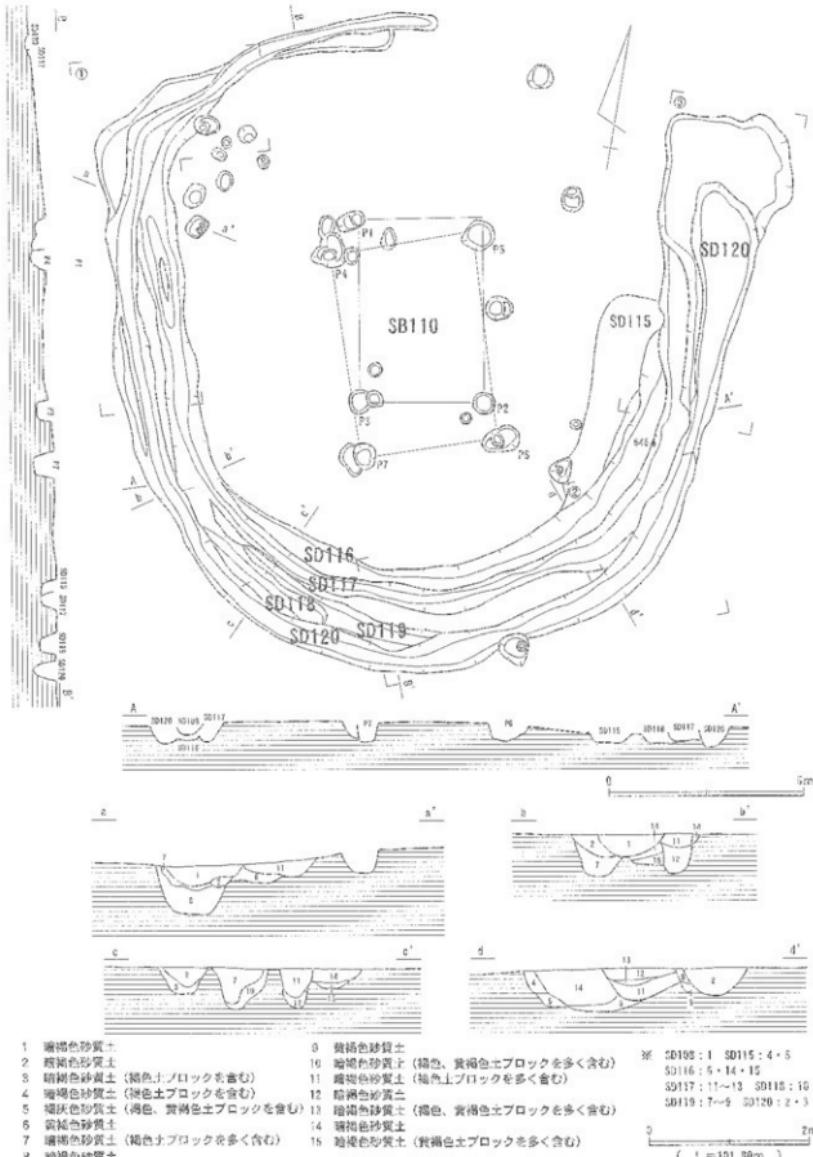
圖103 SB104・SD110



第104図 SB105, SB106・SB107



第105図 SB108, SB109



第106図 SB110・SD115～SD120

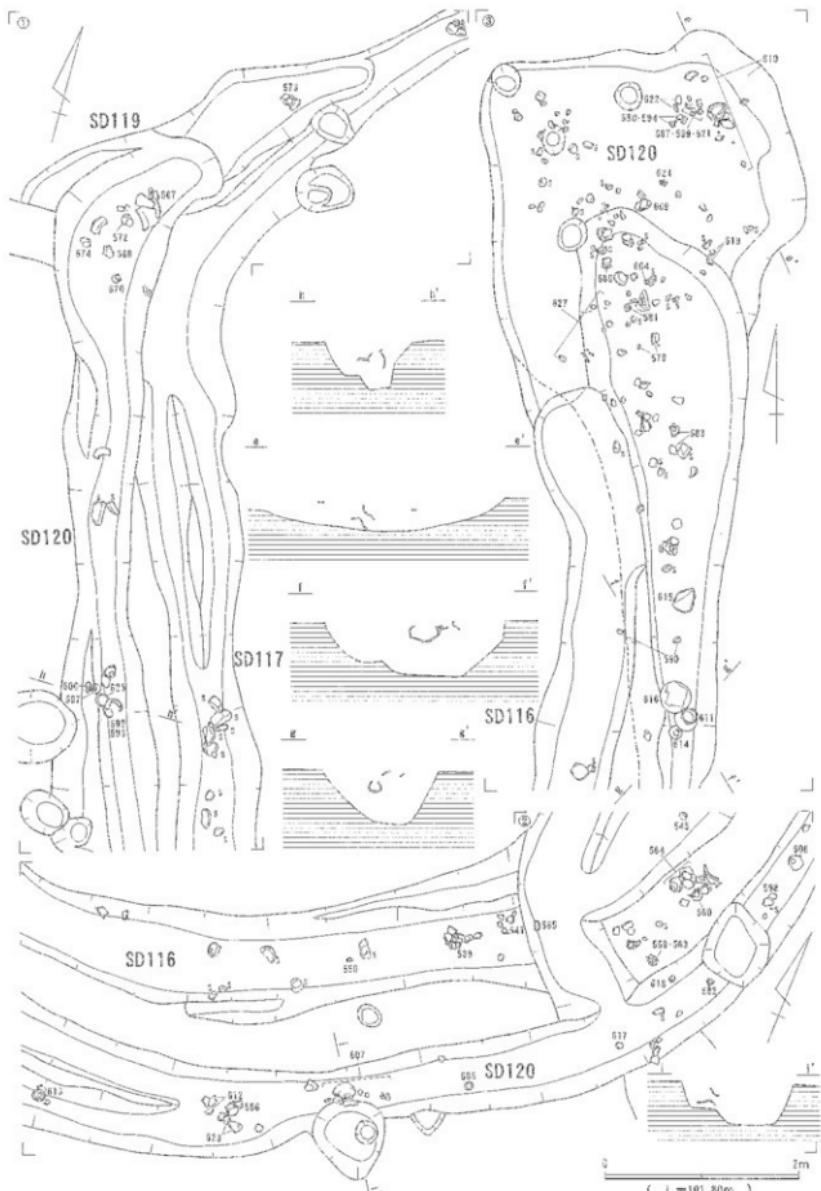
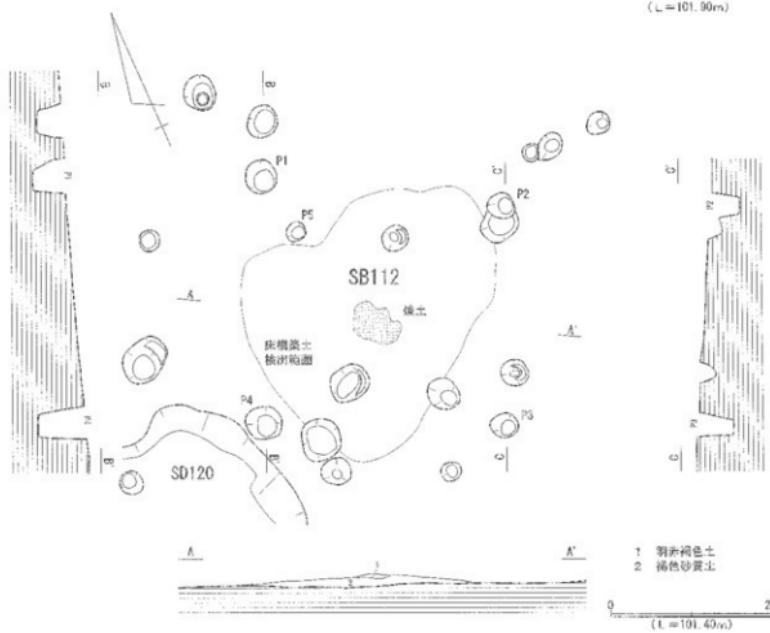
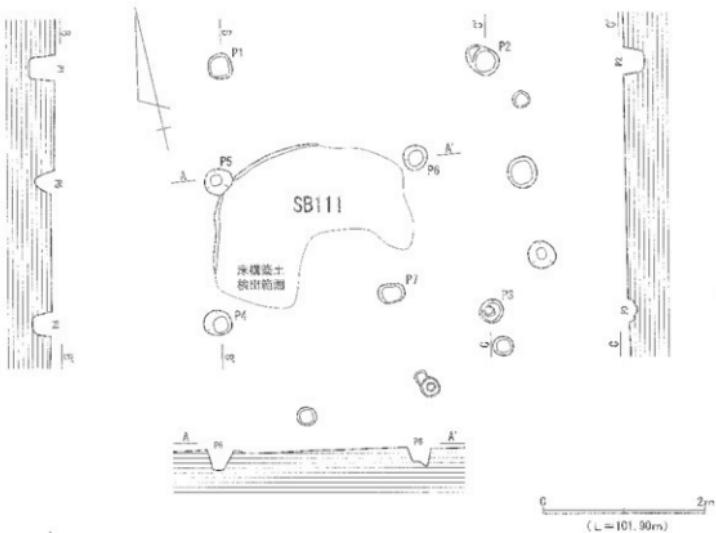
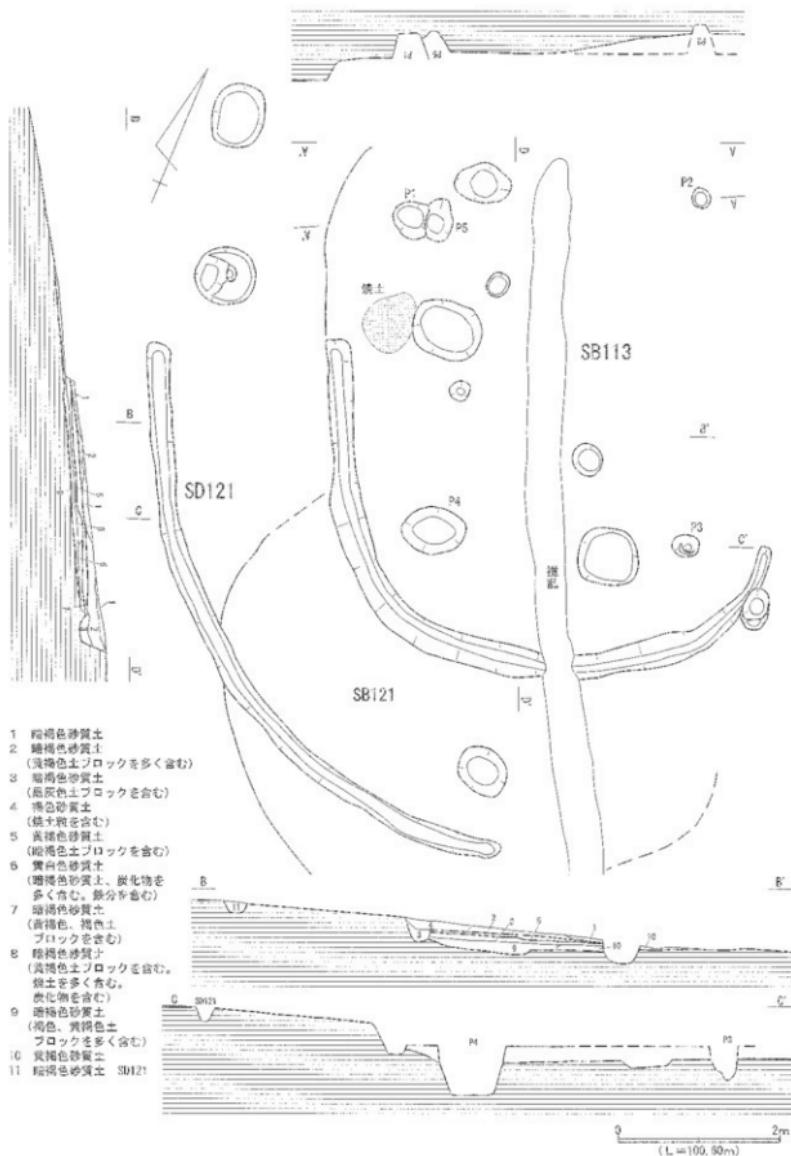


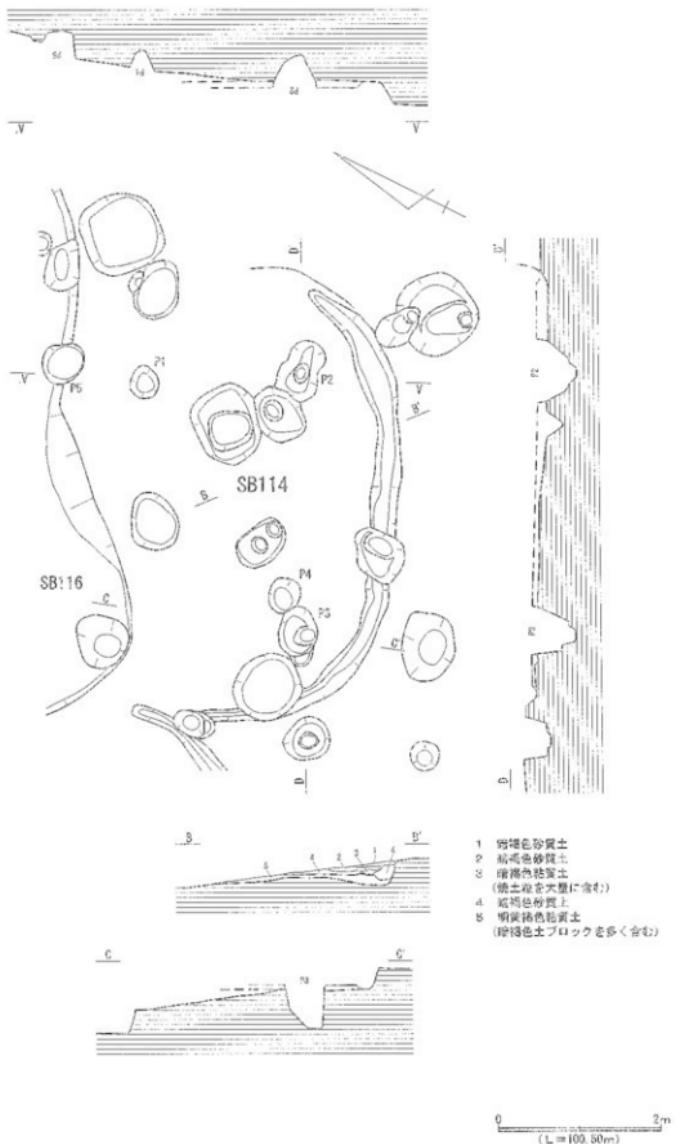
図107 SD116・SD117・SD119・SD120



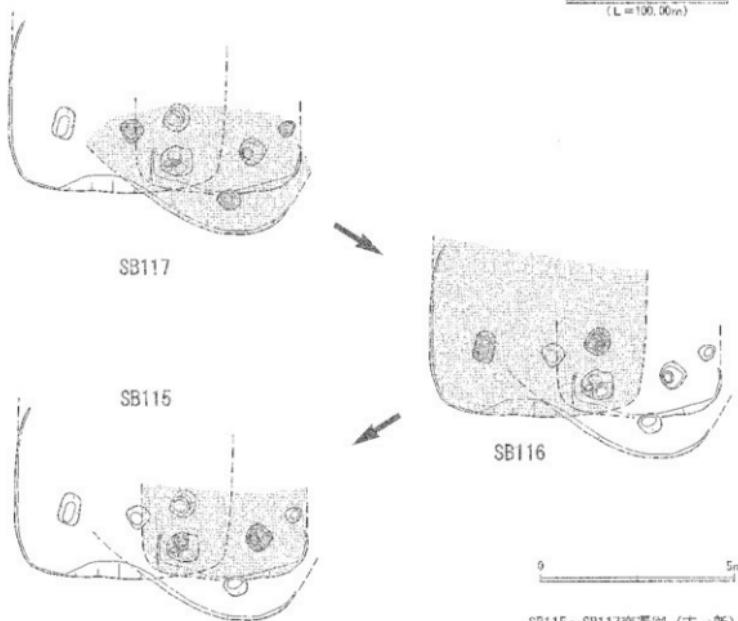
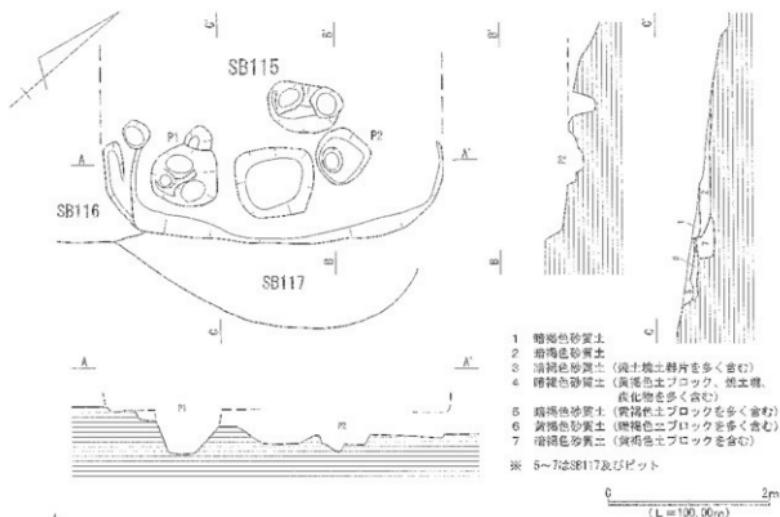
第108図 SB111, SB112



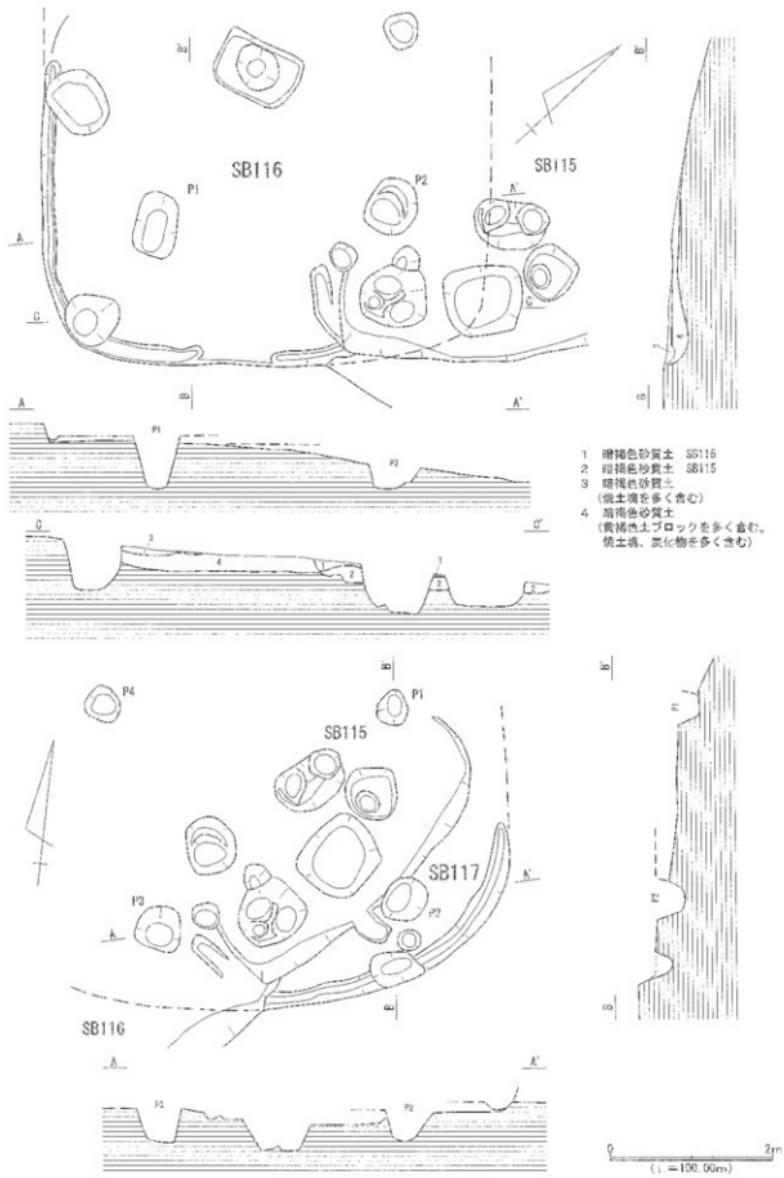
第109図 SB113・SD121



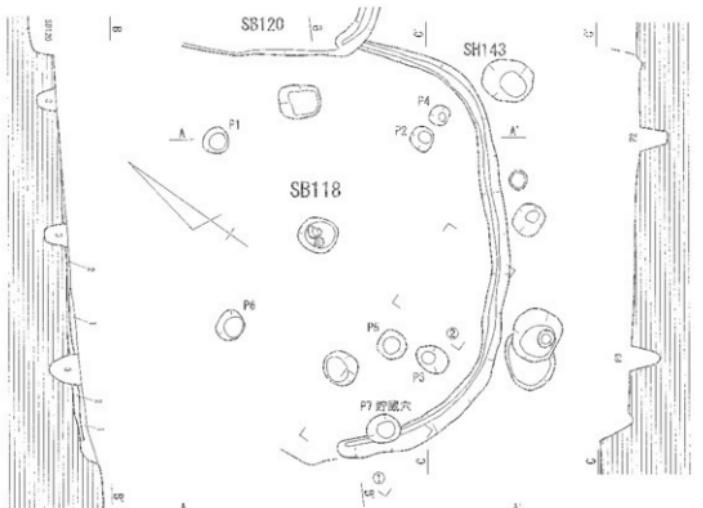
第110図 SB114



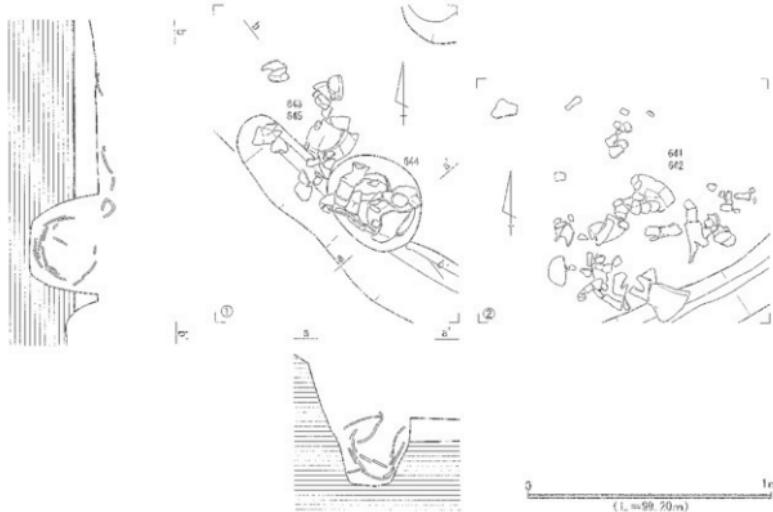
第111図 SB115~SB117



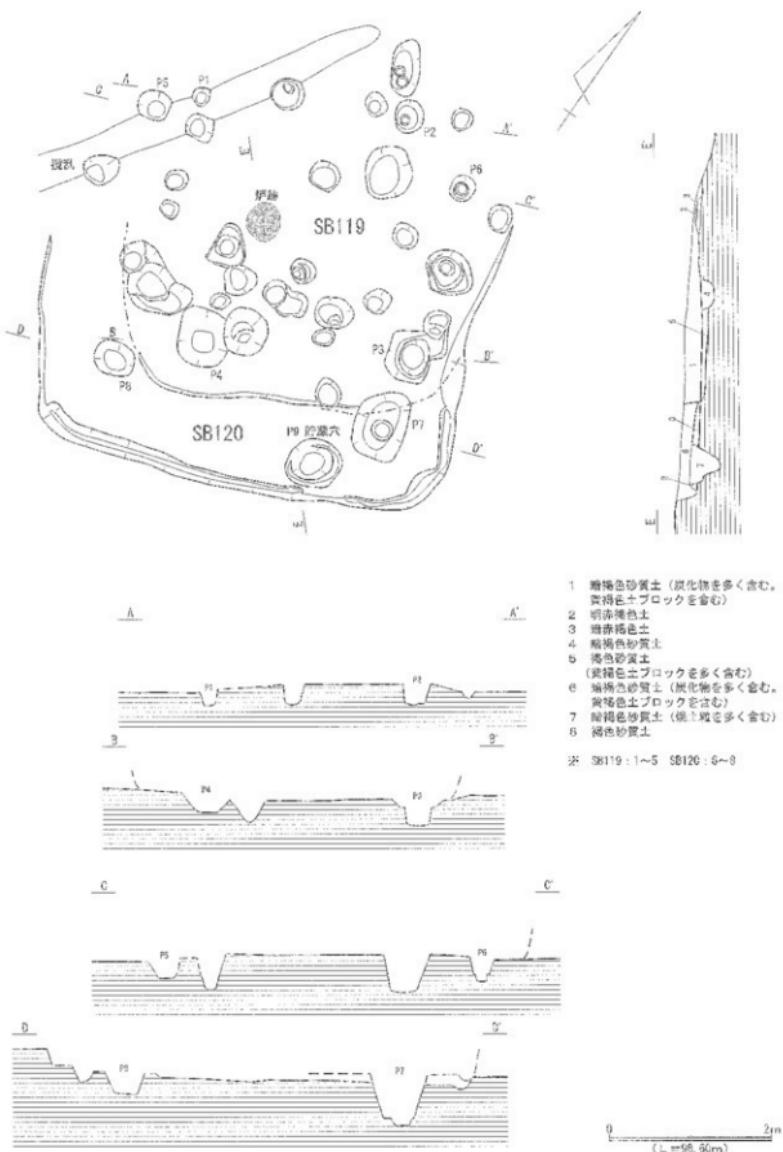
第112図 SB116, SB117



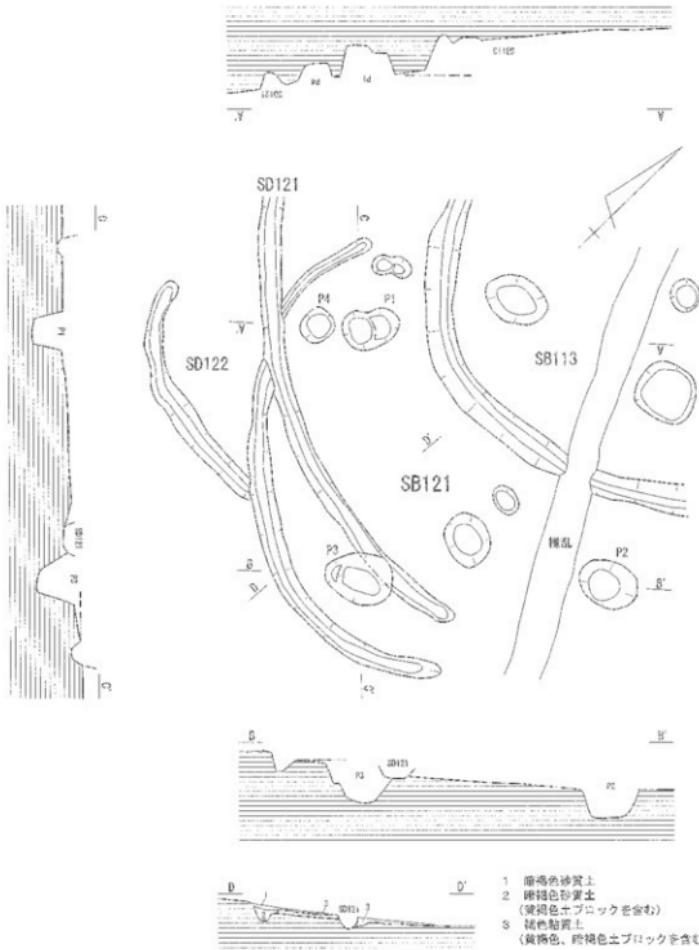
1 暗褐色砂質土
(炭化物、焼土粒を含む)
2 黄褐色砂質土
3 暗褐色砂質土



第113圖 SB118



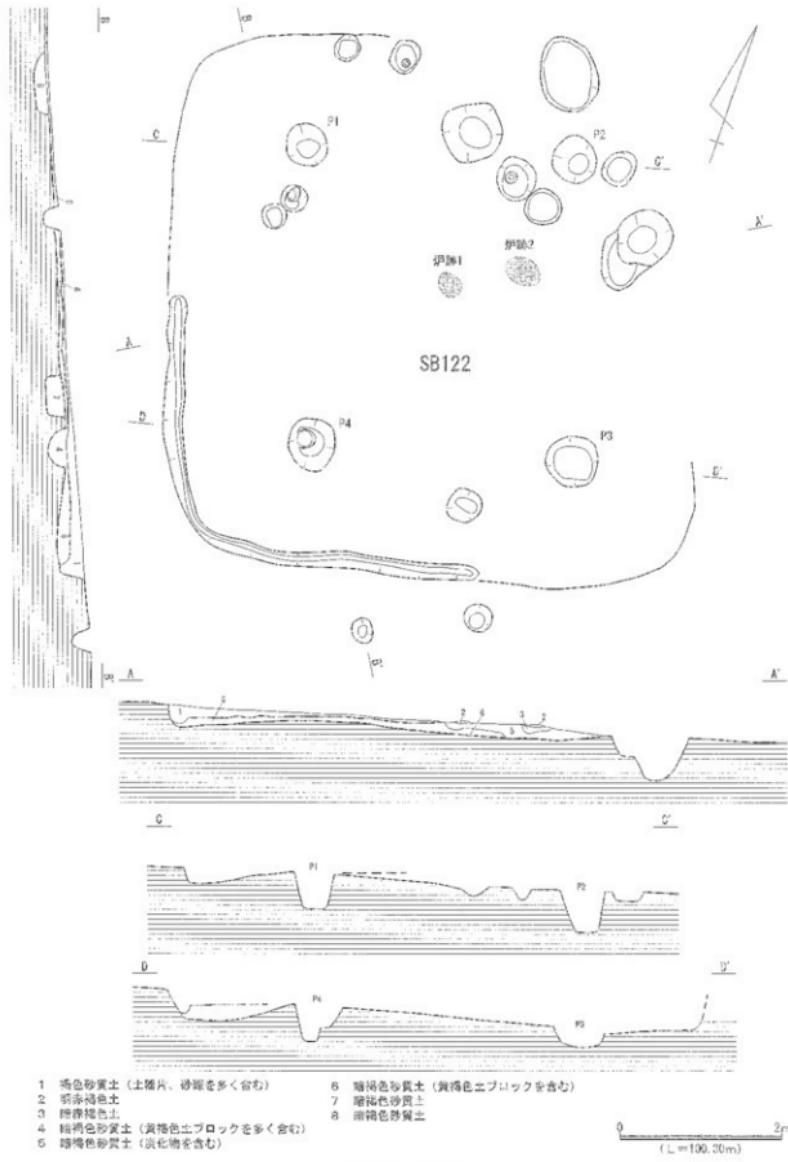
第114図 SB119・SB120



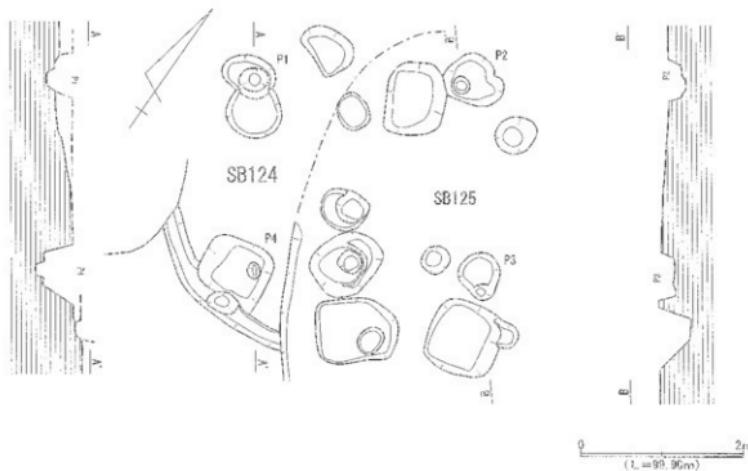
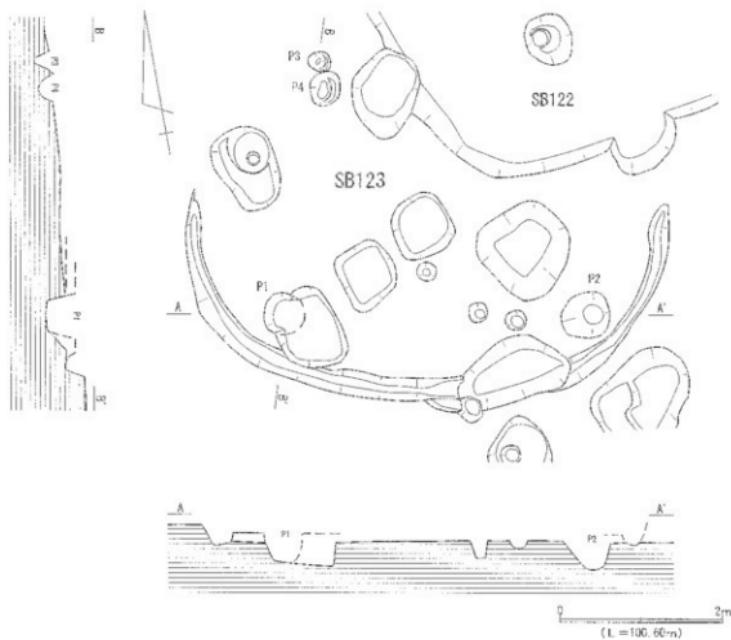
- 1 深褐色砂質土
- 2 伸褐色砂質土
(褐褐色土ブロックを含む)
- 3 褐褐色粘質土
(黄褐色、棕褐色土ブロックを含む)

0 2m
(L=100.0mm)

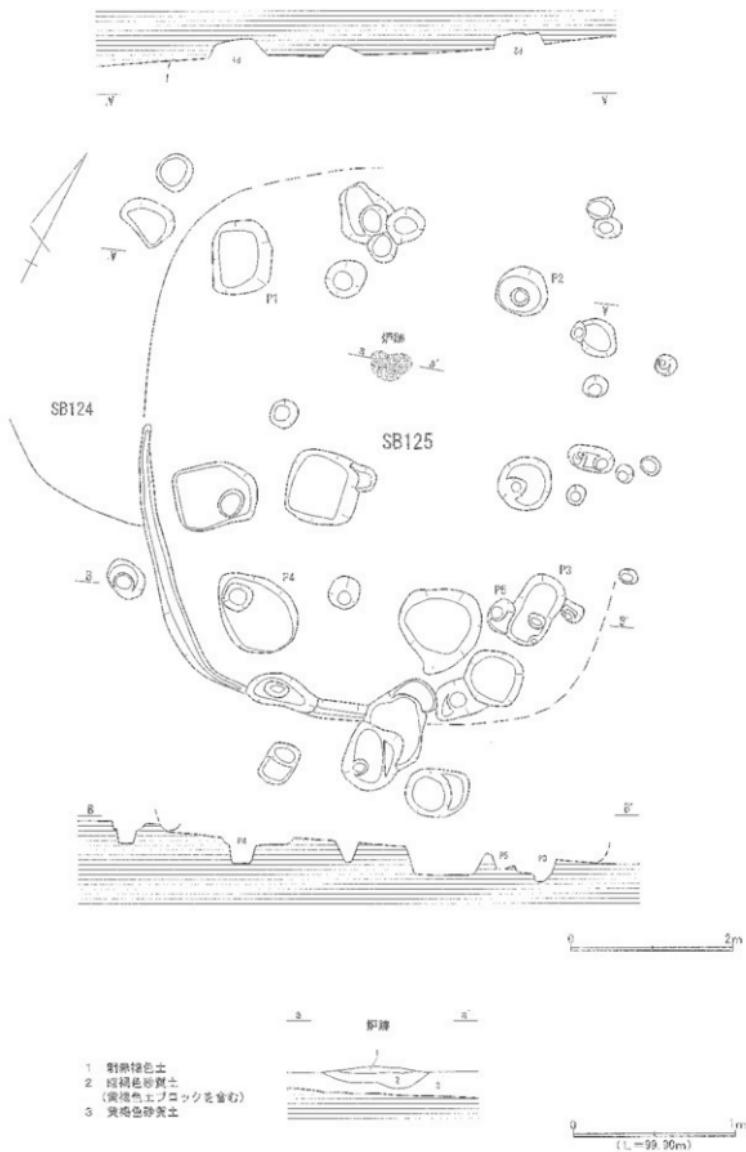
第115図 SB121



第116図 SB122



第117図 SB123, SB124



第118図 SB125

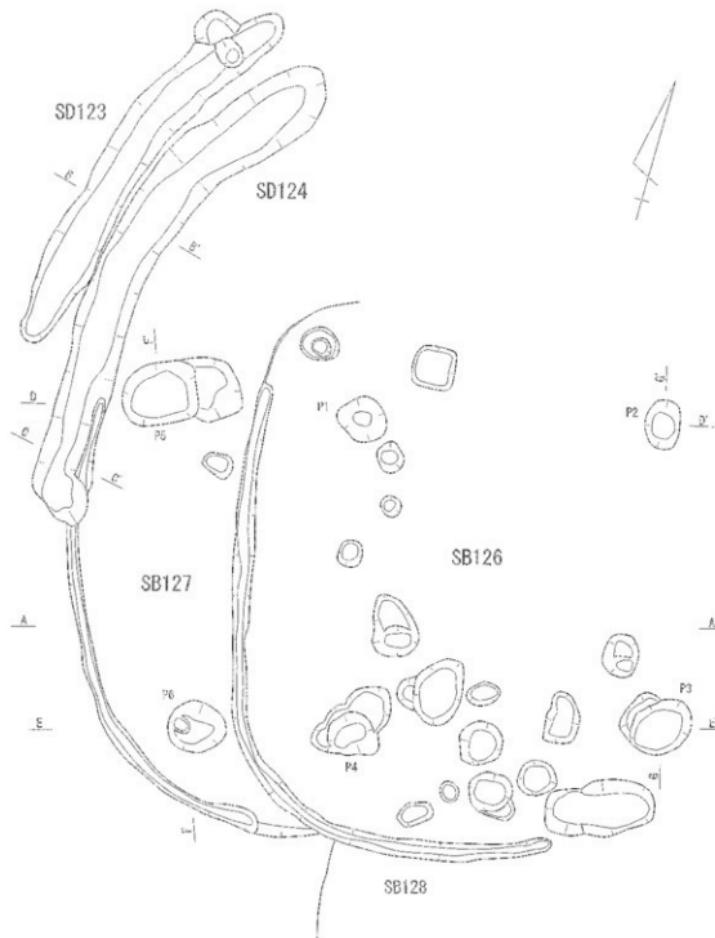
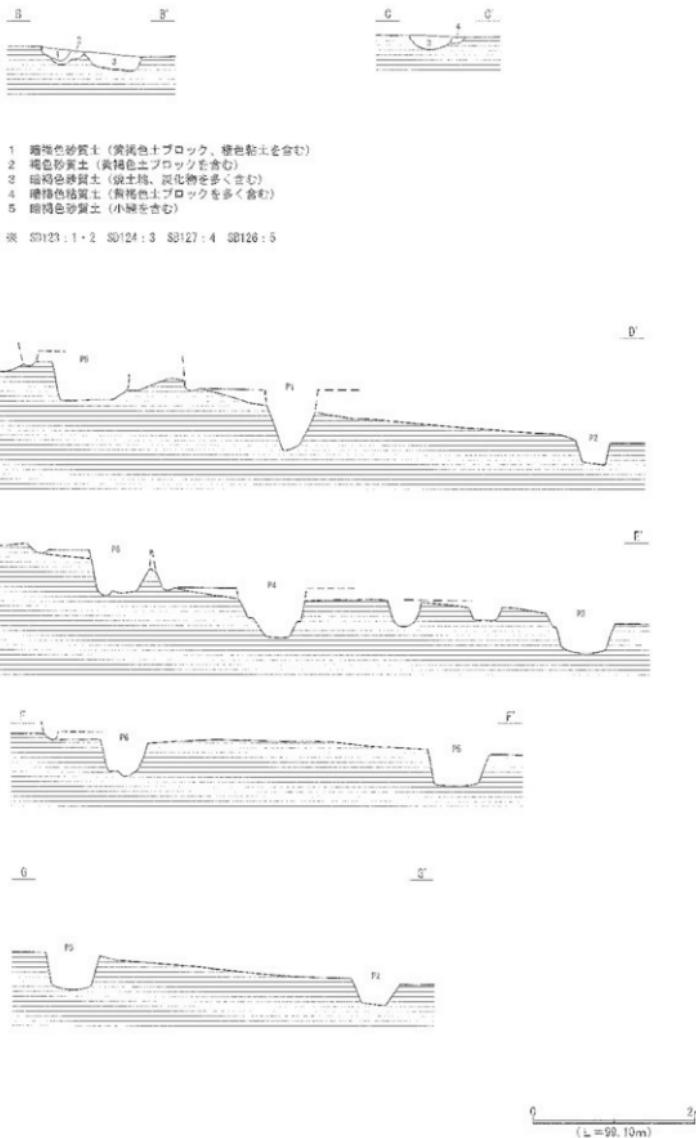


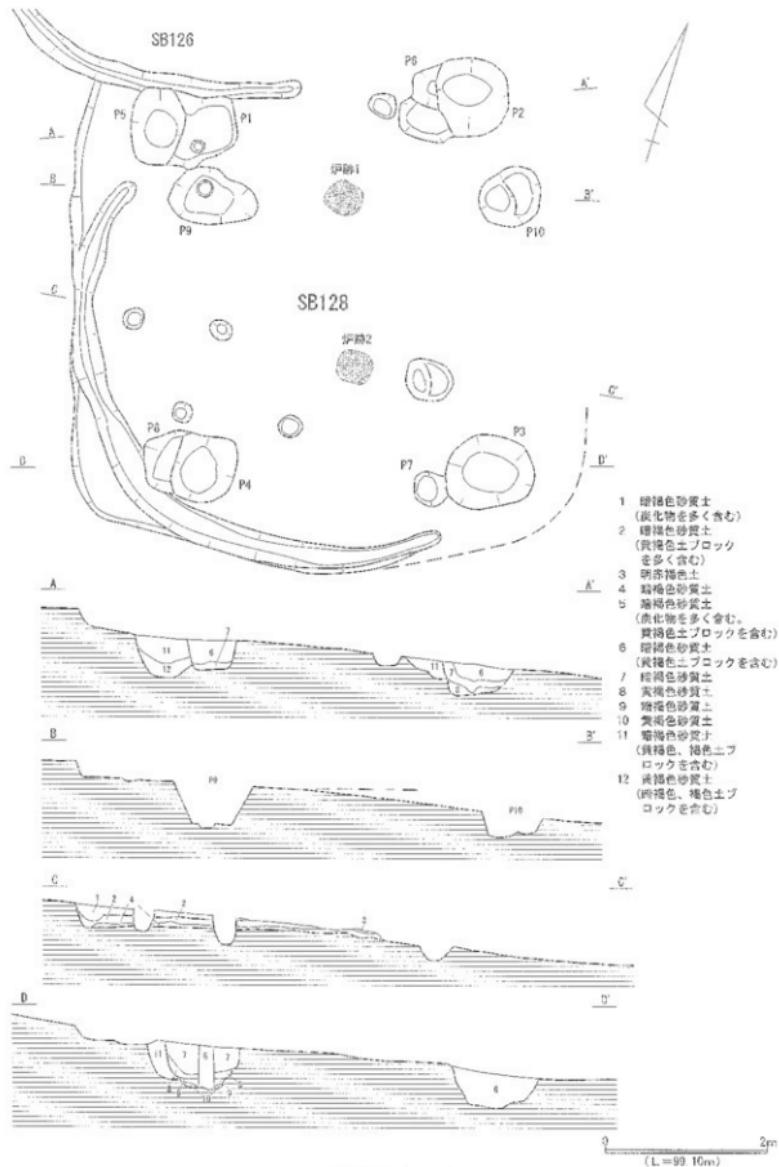
表 二層性配子別図 (2) 上海七

0 2m
(1 = 0.10mm)

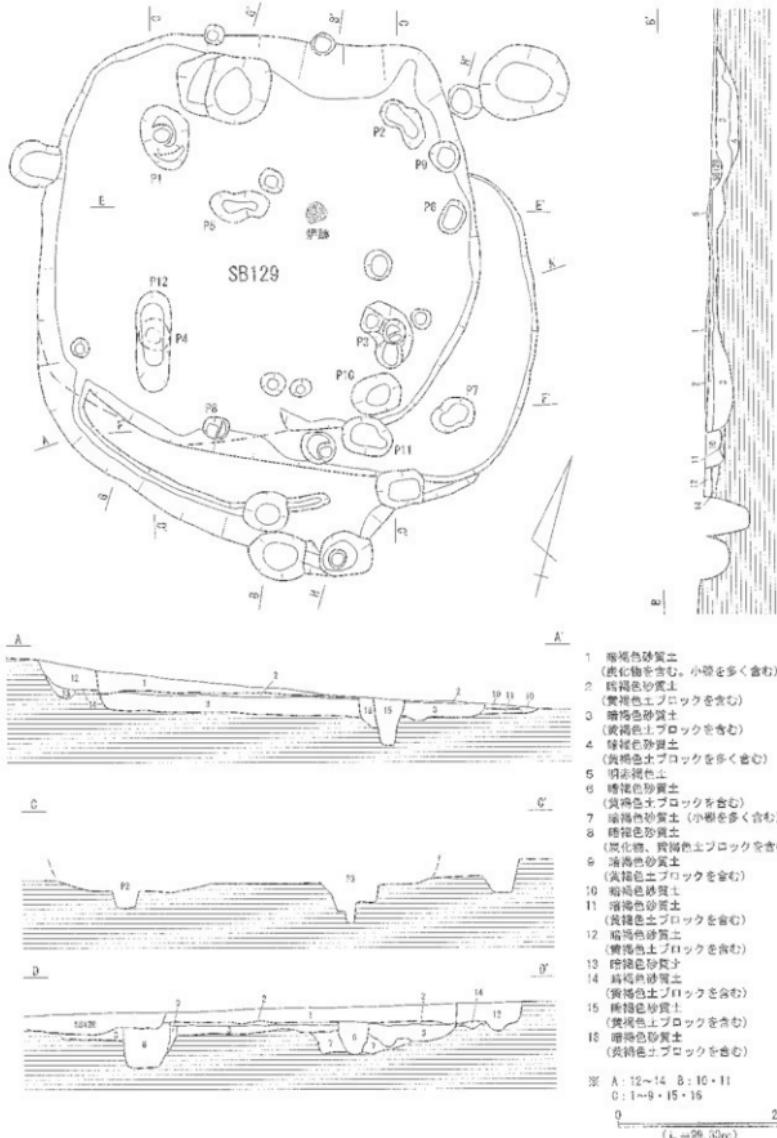
第119図 SB126・SB127・SD123・SD124 ①



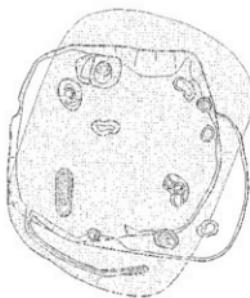
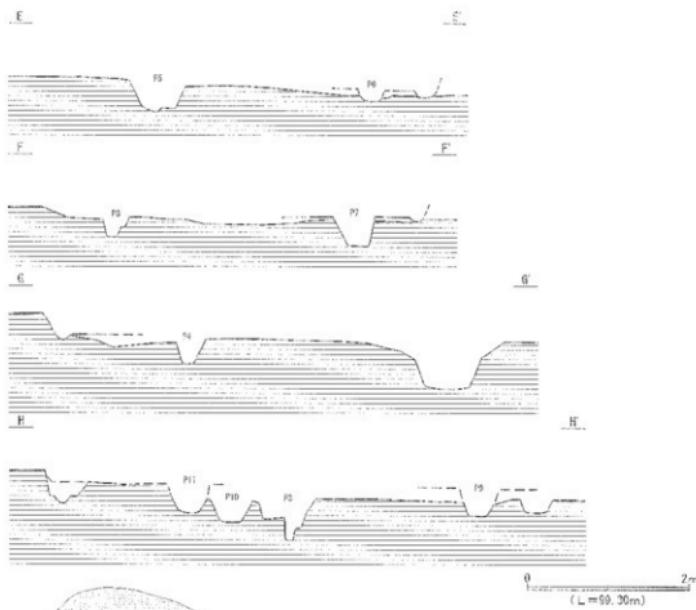
第120図 SB126・SB127・SD123・SD124 ②



第121圖 SB128



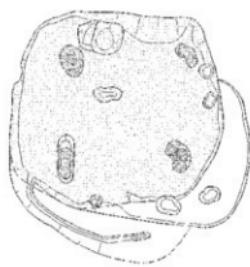
第122回 SB129 ①



SB129-A



SB129-B

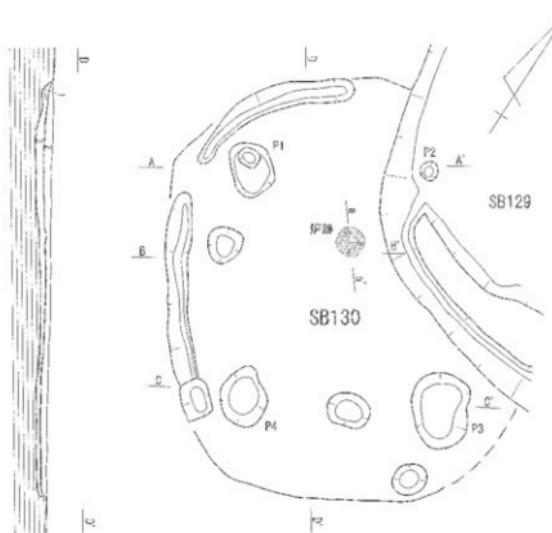


SB129-C

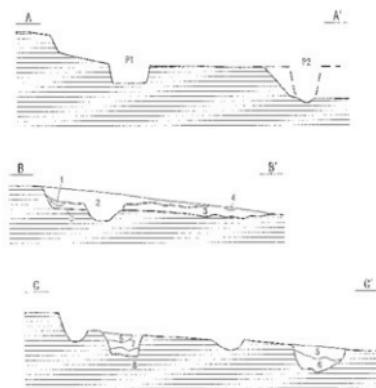


SB129-A~C変換図（古一新）

第123図 SB129 ②



- 1 黄褐色砂質土
- 2 黄褐色砂質土
(黄褐色土ブロックを含む)
- 3 黄褐色砂質土
(褐褐色土ブロックを含む)
- 4 明赤褐色土
- 5 褐褐色粘質土
(黄褐色土ブロックを多く含む)
- 6 褐褐色粘質土
- 7 黄褐色粘質土
(褐色土ブロックを多く含む)
- 8 黄褐色粘質土
(黄褐色土ブロックを多く含む)
- 9 明赤褐色土

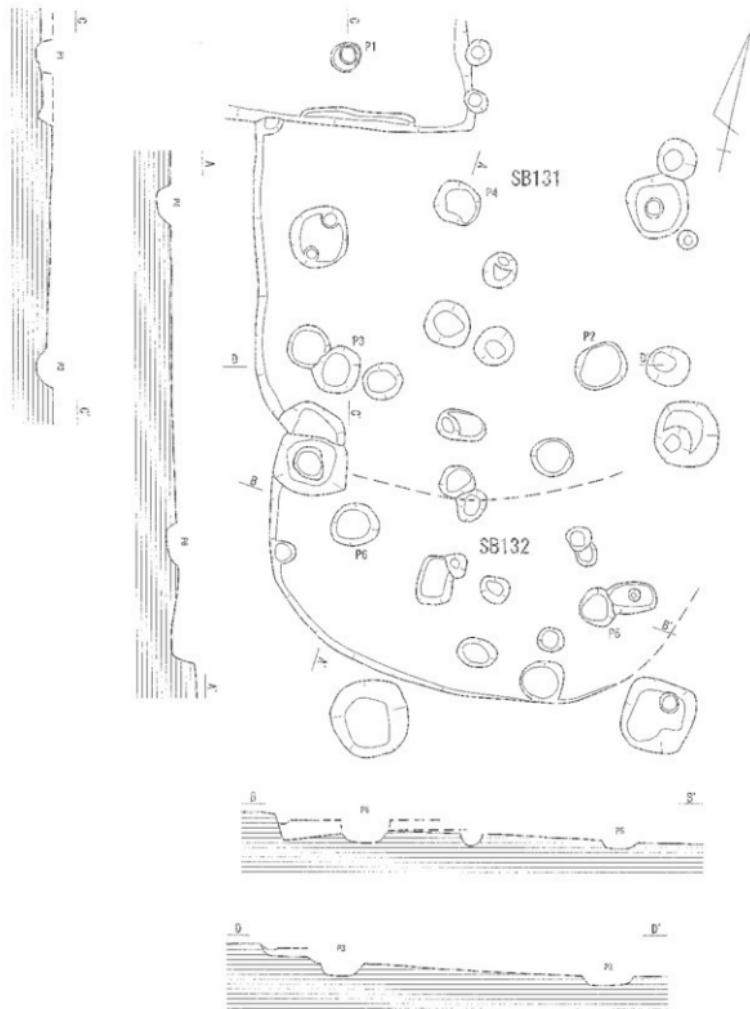


伊跡

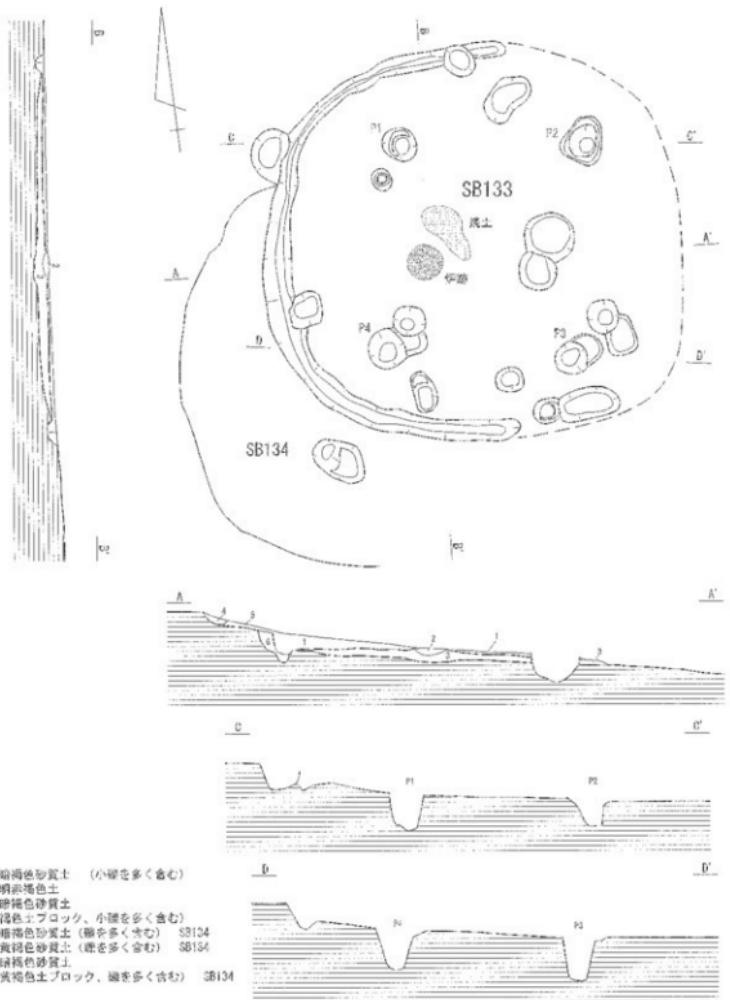


0 2m
(L = 99.60m)

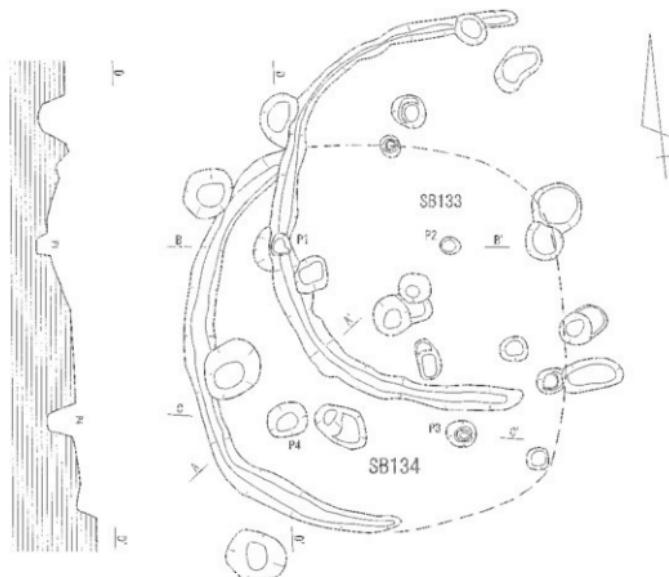
第124図 SB130



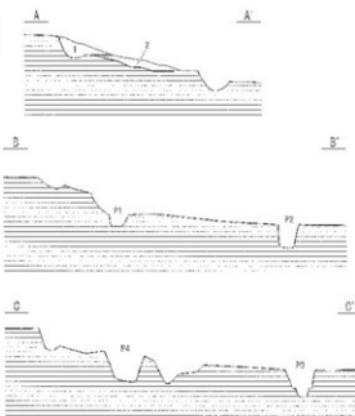
第125図 SB131・SB132



第126図 SB133

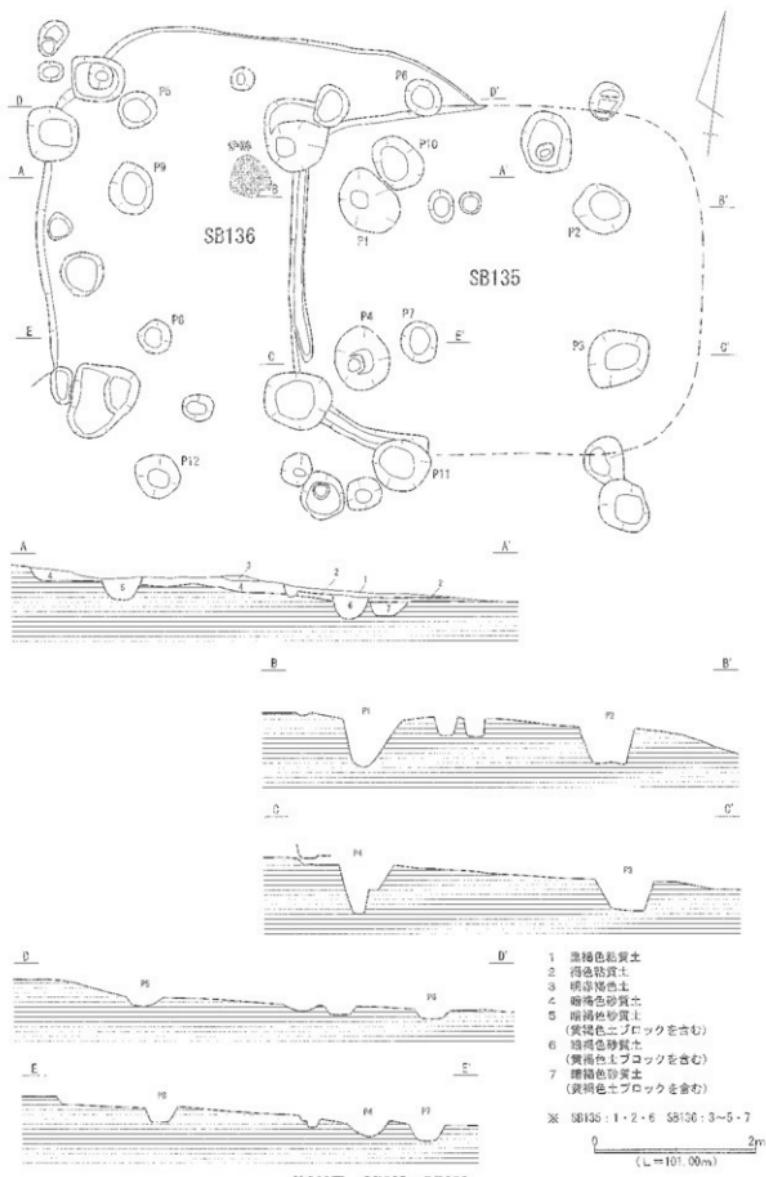


1 細褐色砂質土 (礫石多々含む)
2 黄褐色砂質土 (礫石多々含む)

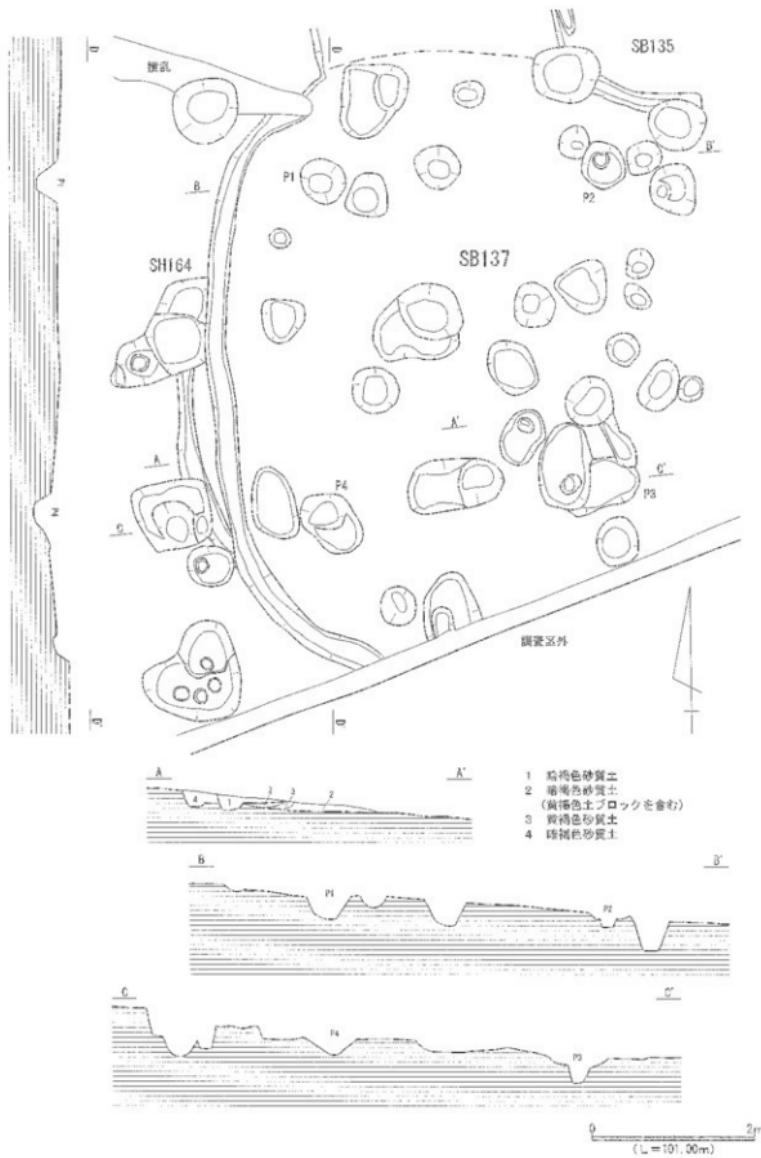


0 2m
(1 = 100.40m)

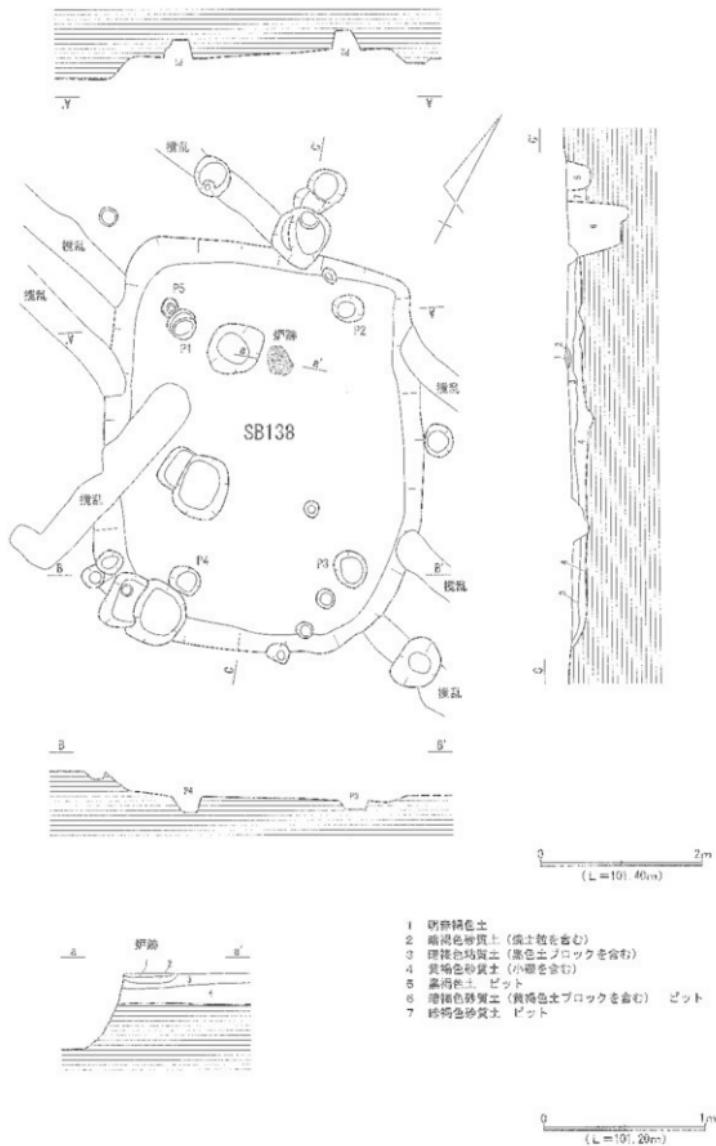
第127図 SB134

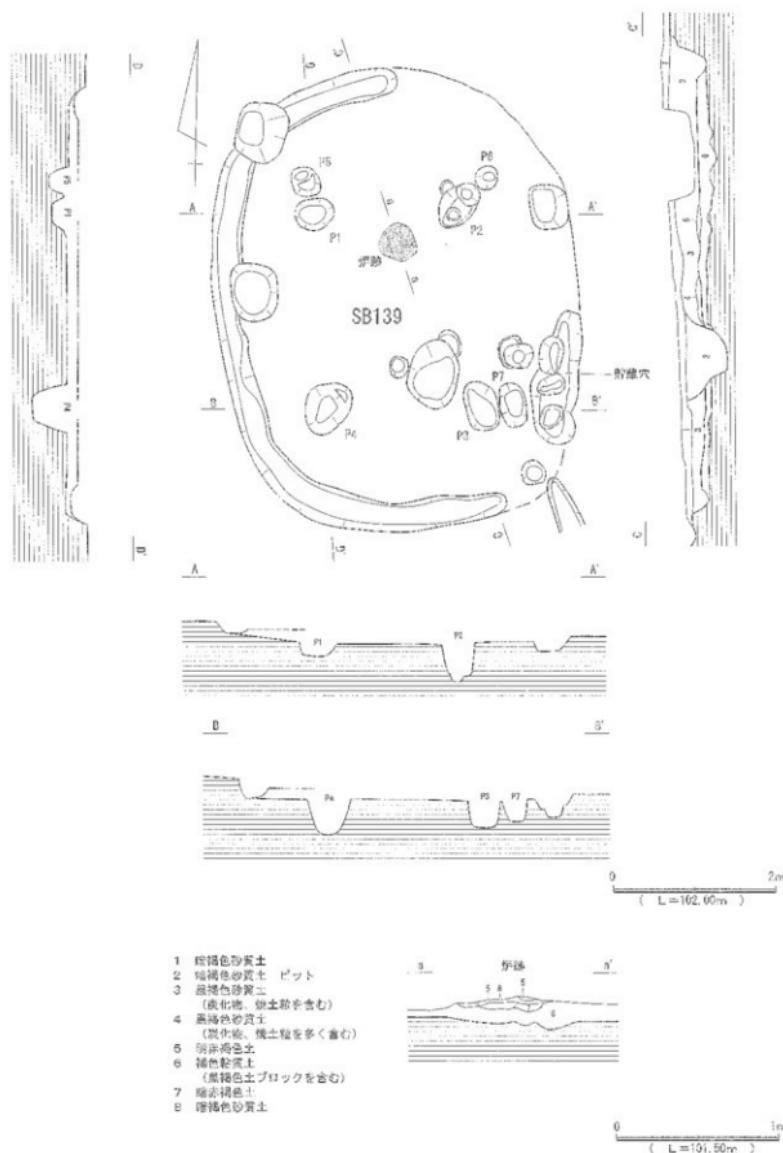


第128圖 SB135・SB136

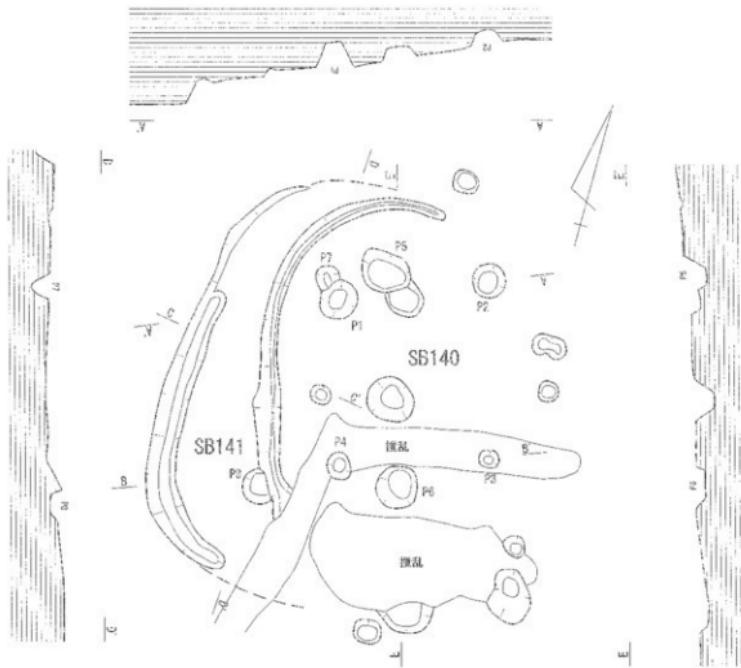


第129圖 SB137





第131図 SB139

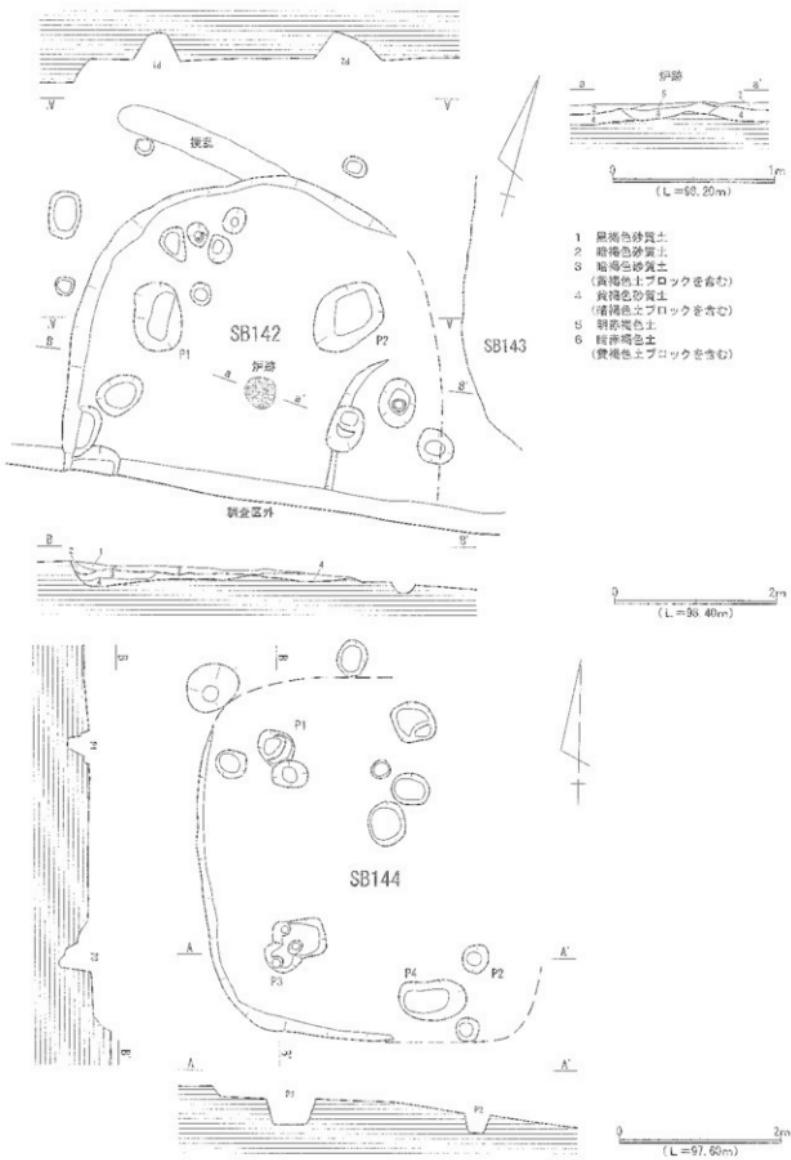


- 1 緑褐色砂質土
(堆土質を多く含む。炭化物を含む)
- 2 灰褐色砂質土
(灰褐色エバロックを含む)
- 3 離緑色砂質土
(炭化物を含む)
- 4 脱色砂質土
(灰褐色土ブロックを含む)

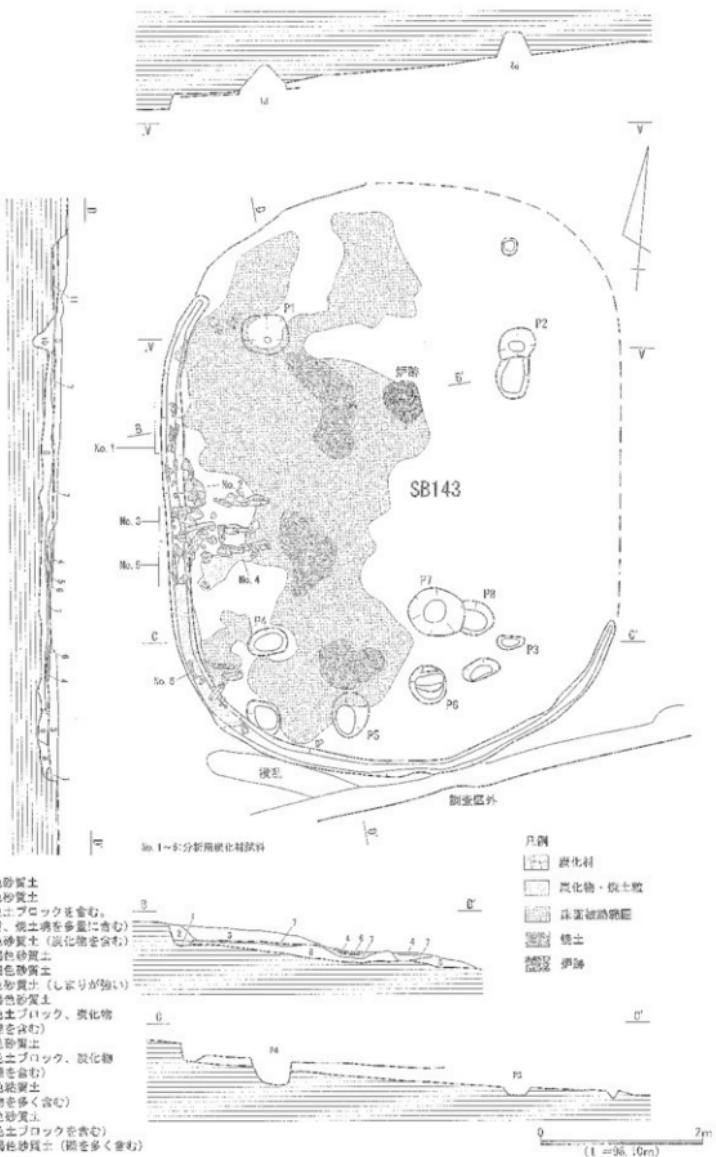
※ SB140 : 1・2 SB141 : 3・4

0 2m
(L = 99.29m)

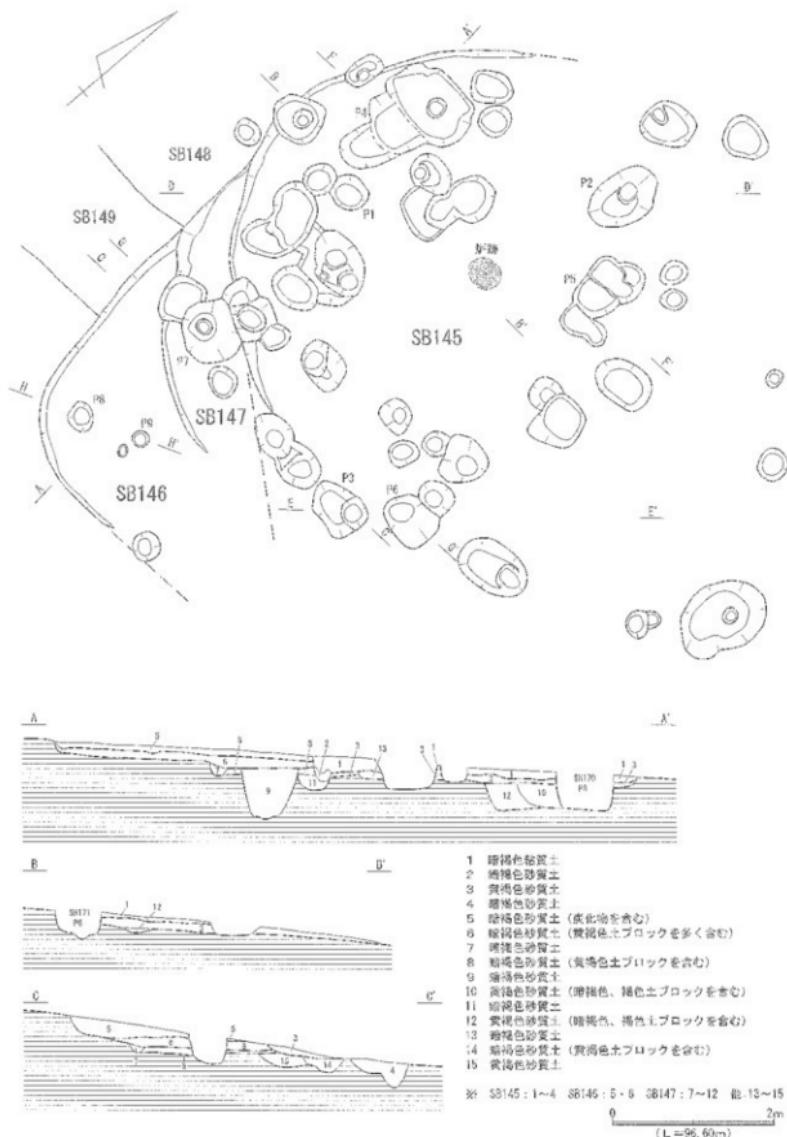
第132図 SB140・SB141



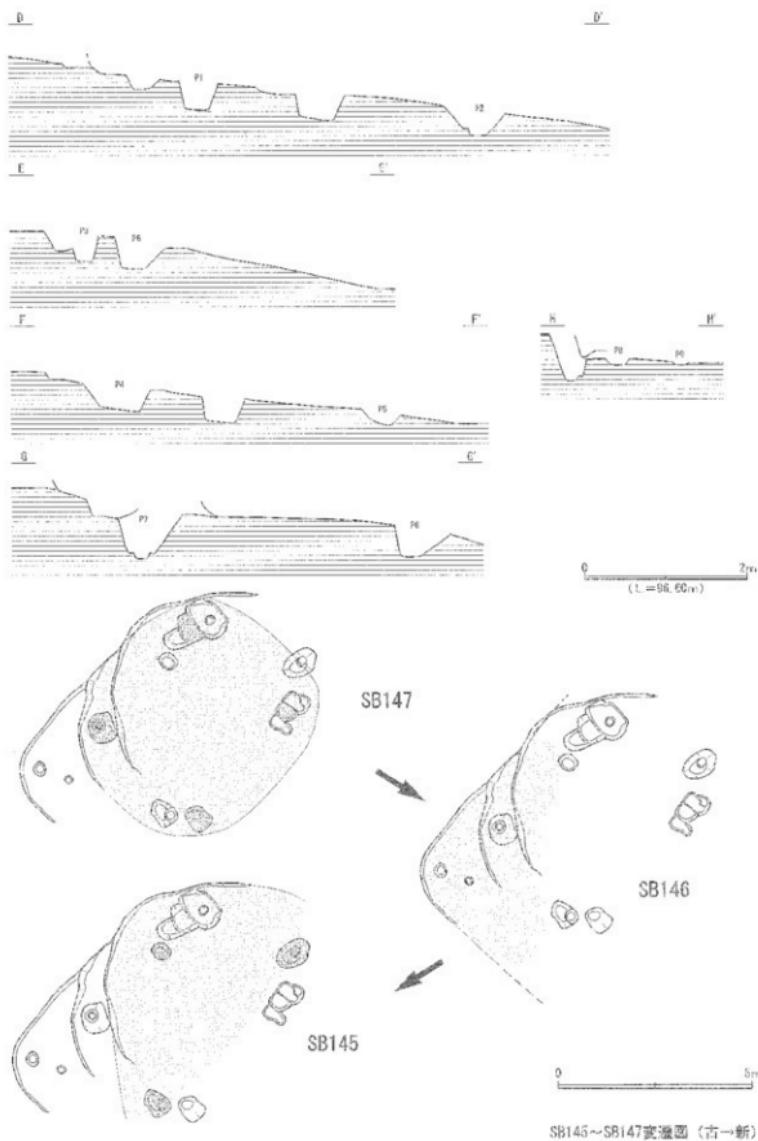
第133図 SB142, SB144



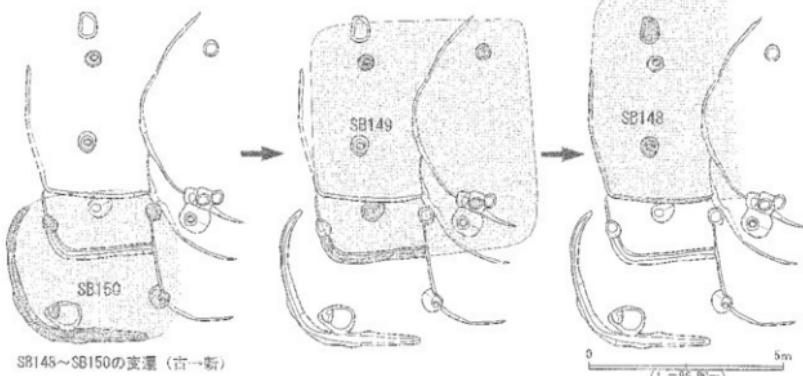
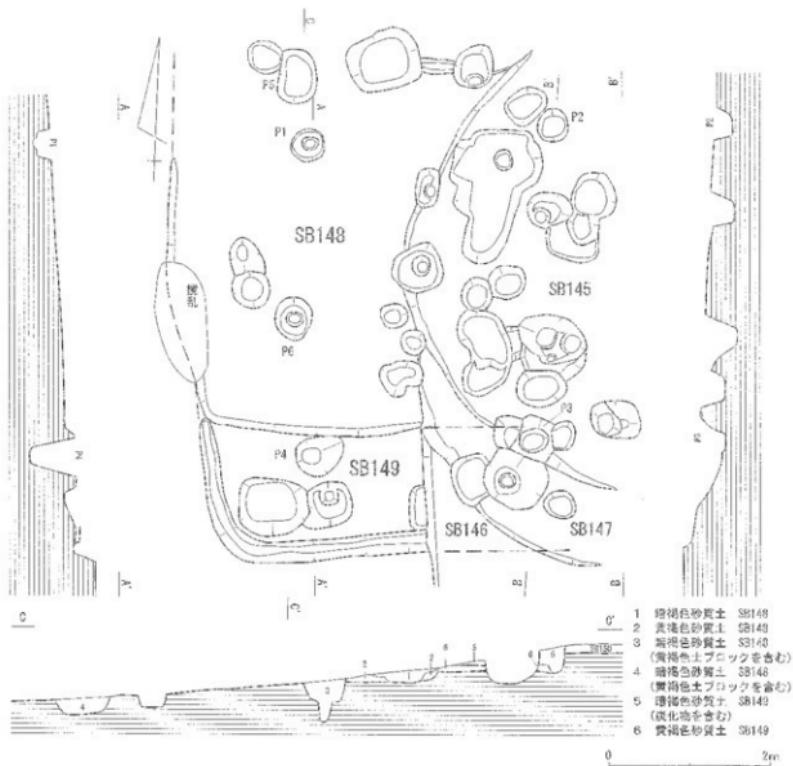
第134図 SB143



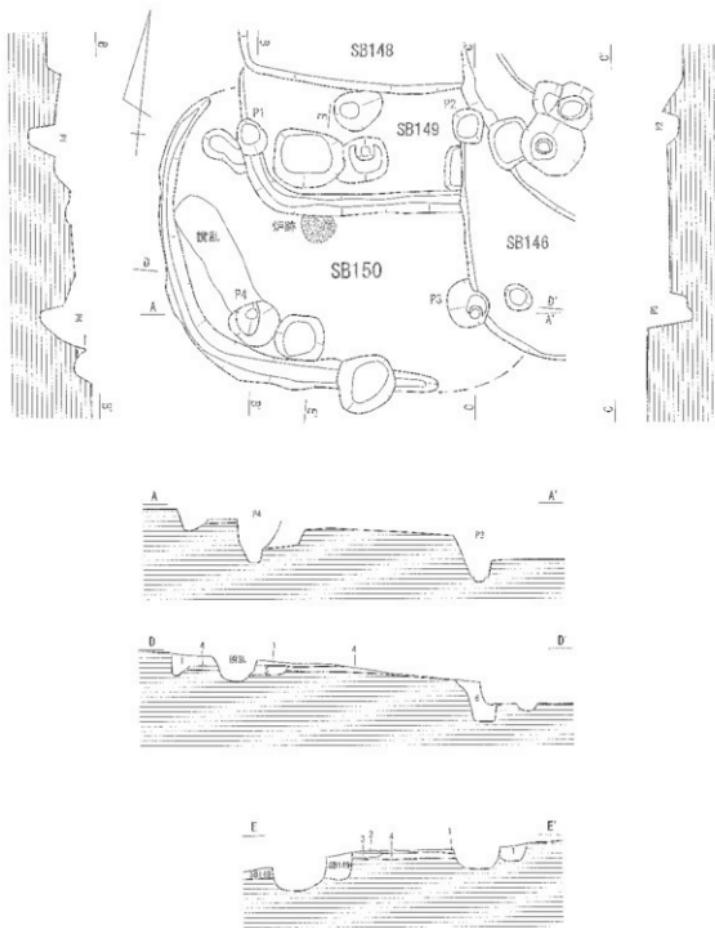
第135図 SB145~SB147 ①



第136図 SB145～SB147 ②



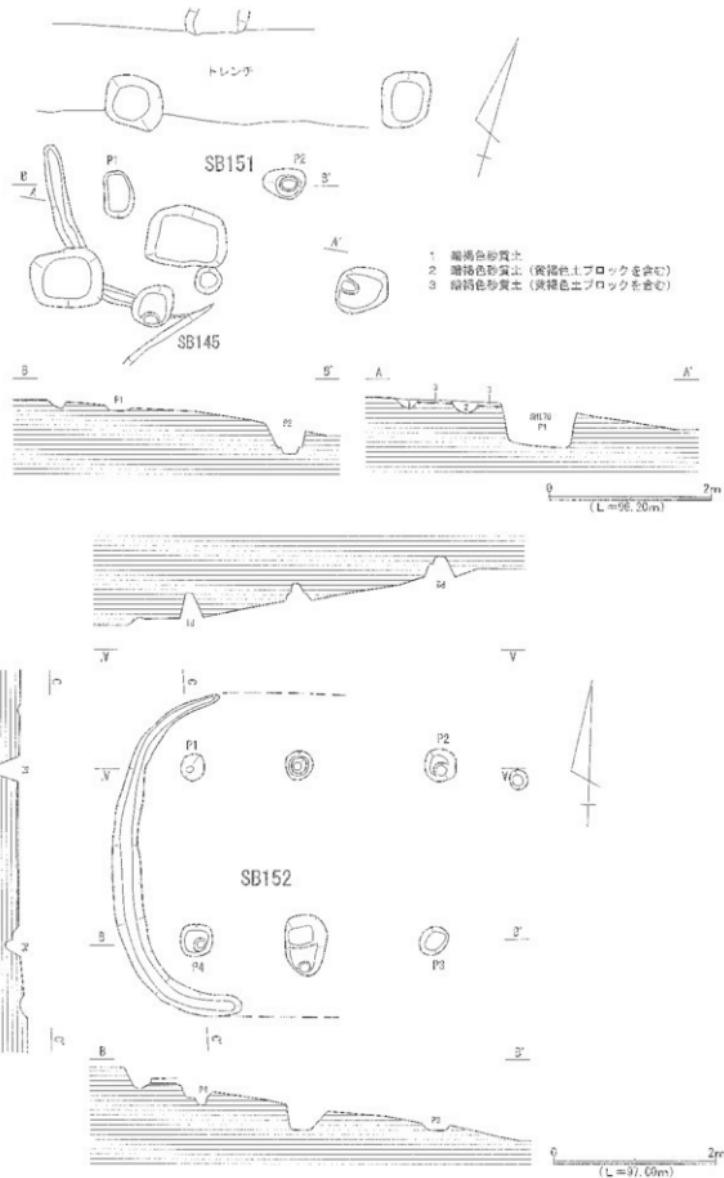
第137図 SB148・SB149



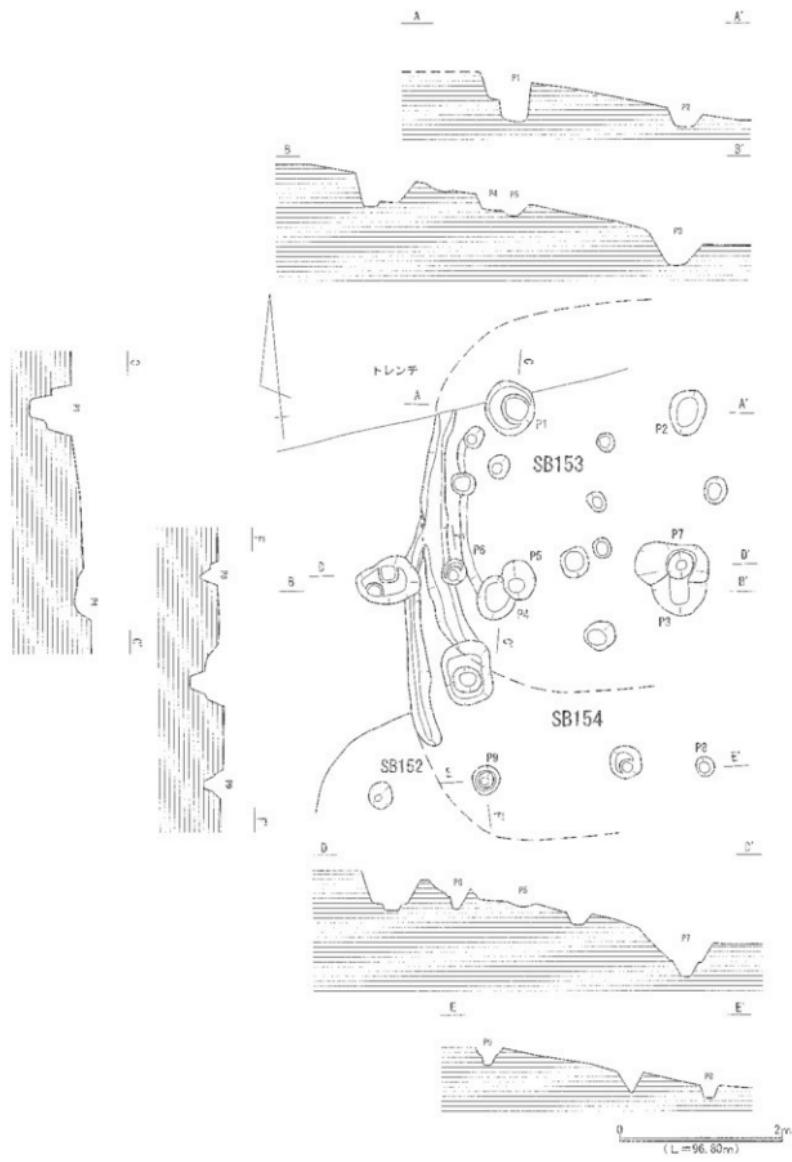
- 1 黑褐色沙質土
- 2 明褐色土
- 3 細粒褐色土
- 4 黑褐色沙質土 (褐褐色土ブロックを含む)
- 5 褐褐色沙質土 (褐褐色土ブロックを多く含む)
- 6 暗褐色沙質土 (褐褐色土ブロックを多く含む)

0 2m
(L=90.60m)

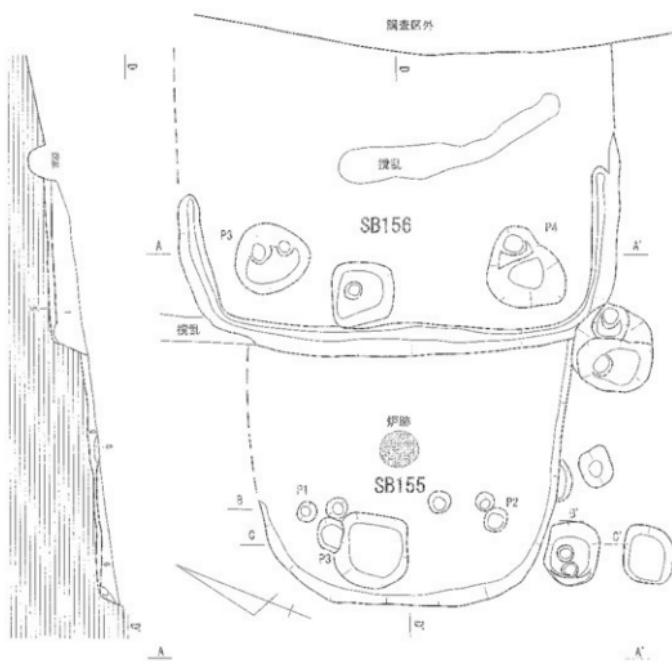
第138図 SB150



第139図 SB151, SB152



第140図 SB153・SB154

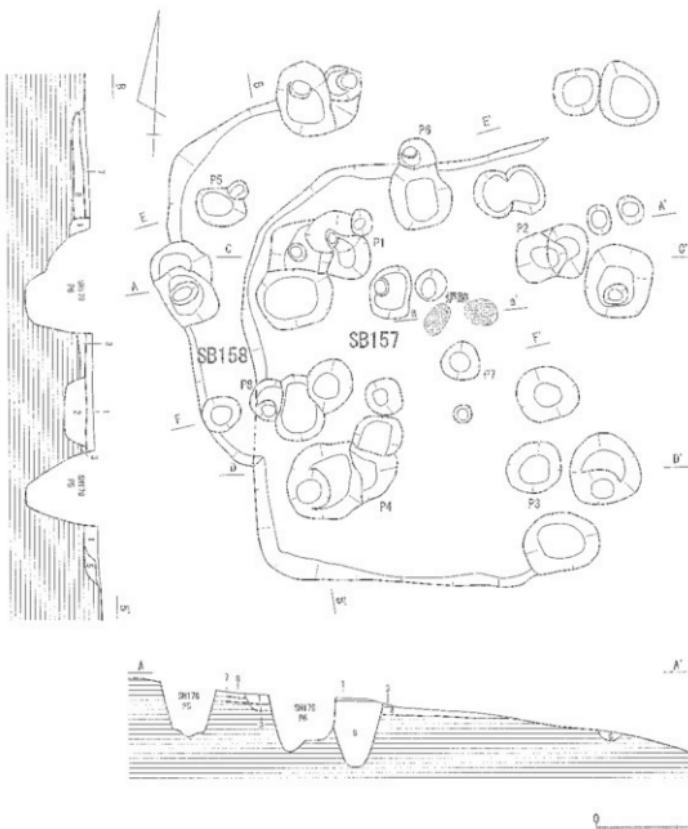


- 1 黄褐色砂質土（炭化物を含む）
- 2 線褐色砂質土
- 3 灰褐色砂質土
(黄褐色土ブロックを含む)
- 4 灰褐色砂質土
(黄褐色土ブロックを多く含む)
- 5 灰褐色砂質土
- 6 線褐色砂質土
(黄褐色土ブロックを含む)
- 7 黄褐色砂質土
(鉛灰岩土ブロックを含む)
- 8 明赤褐色土
- 9 黄褐色粘質土
(離析巣土ブロックを含む)
- 10 灰褐色砂質土
(黄褐色土ブロックを含む)

※ SB155 : 6~10 SB156 : 1~5

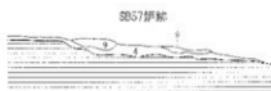
0 2m
(L = 94.50m)

第141図 SB155・SB156



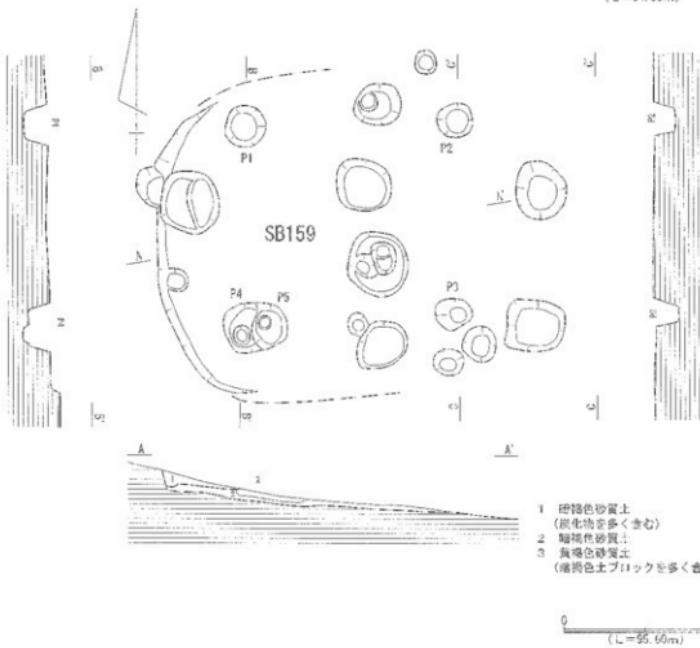
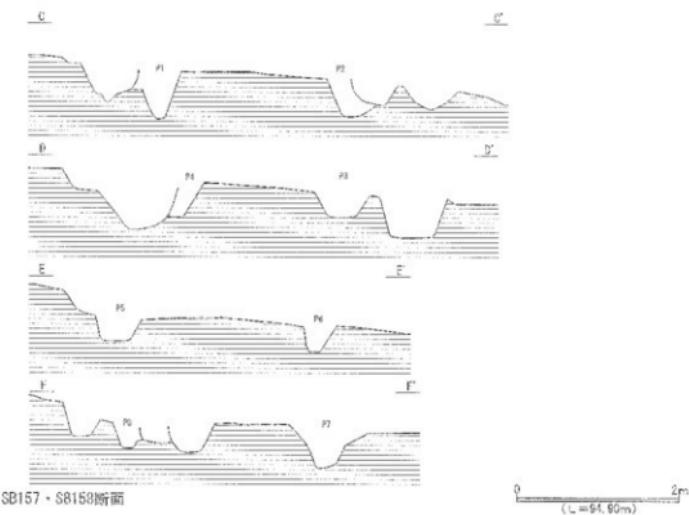
- 1 底褐色砂質土
- 2 褐褐色砂質土（黃褐色土ブロックを含む）
- 3 黄褐色砂質土（底褐色土ブロックを含む）
- 4 細褐色砂質土
- 5 黄褐色砂質土
- 6 細褐色砂質土
- 7 細褐色砂質土（炭化物を含む）
- 8 黄褐色砂質土（底褐色土ブロックを含む）
- 9 明赤褐色土

* SB157 : 1-6 + 9 SB158 : 7-8

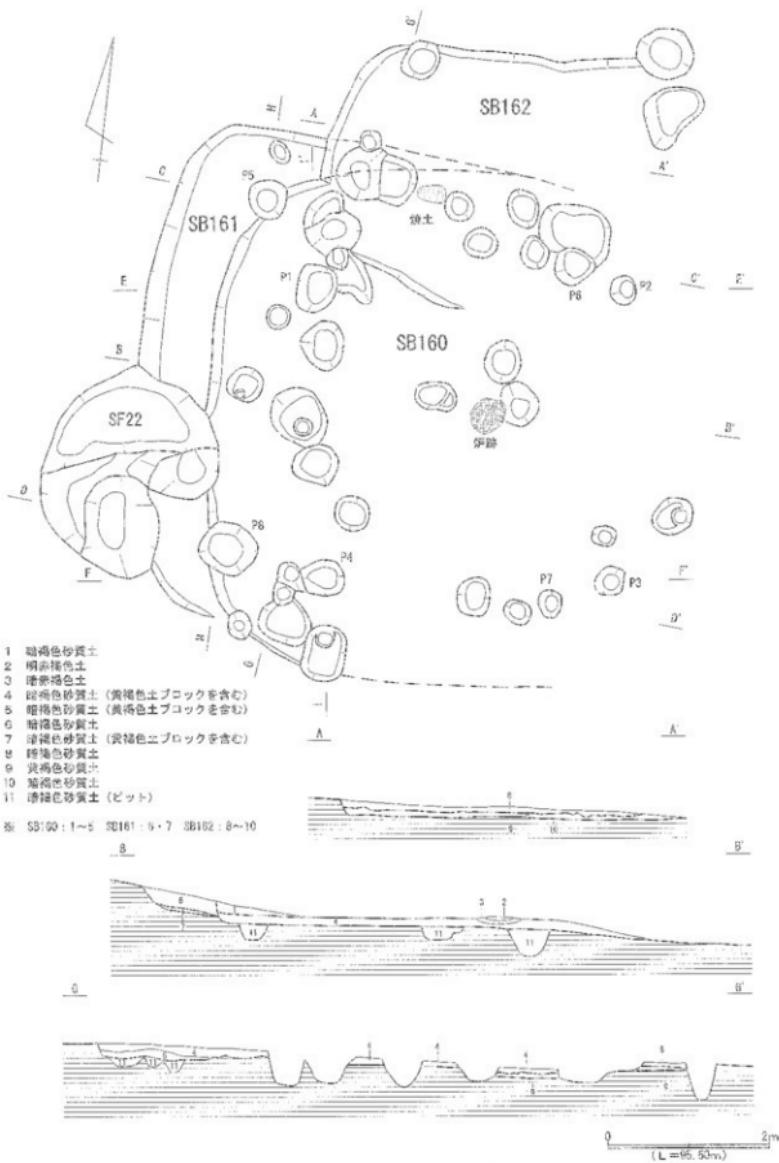


0 1m
(1 = 64.90m)

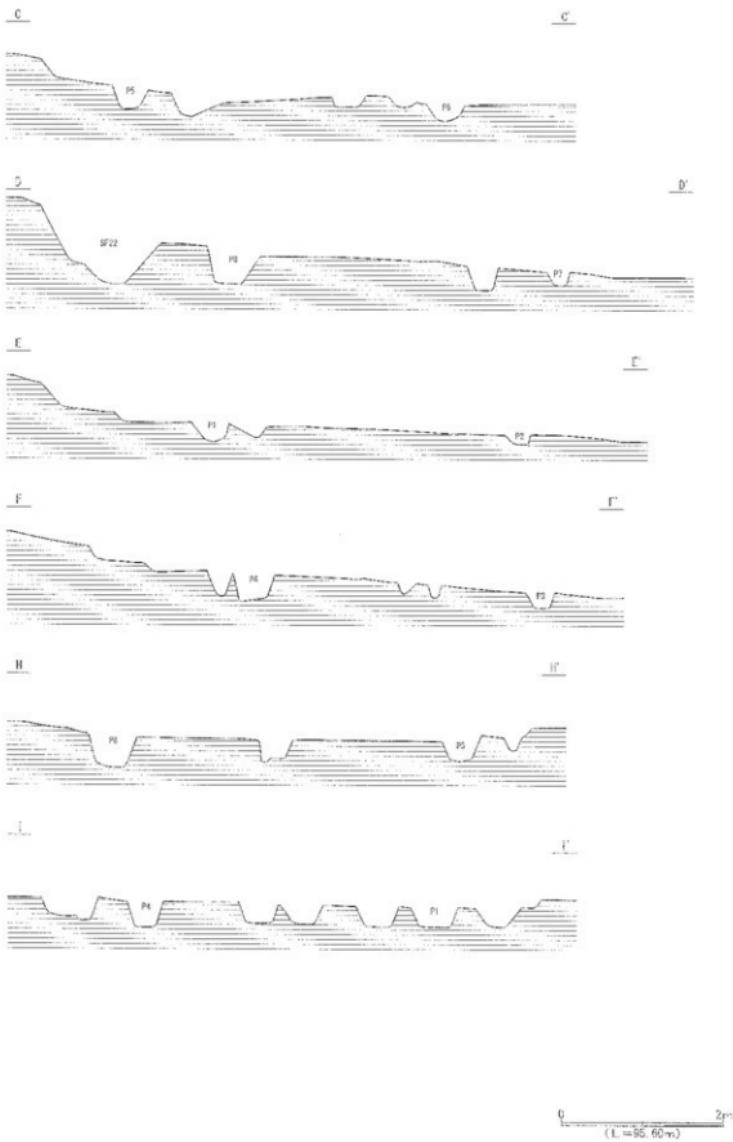
第142図 SB157・SB158



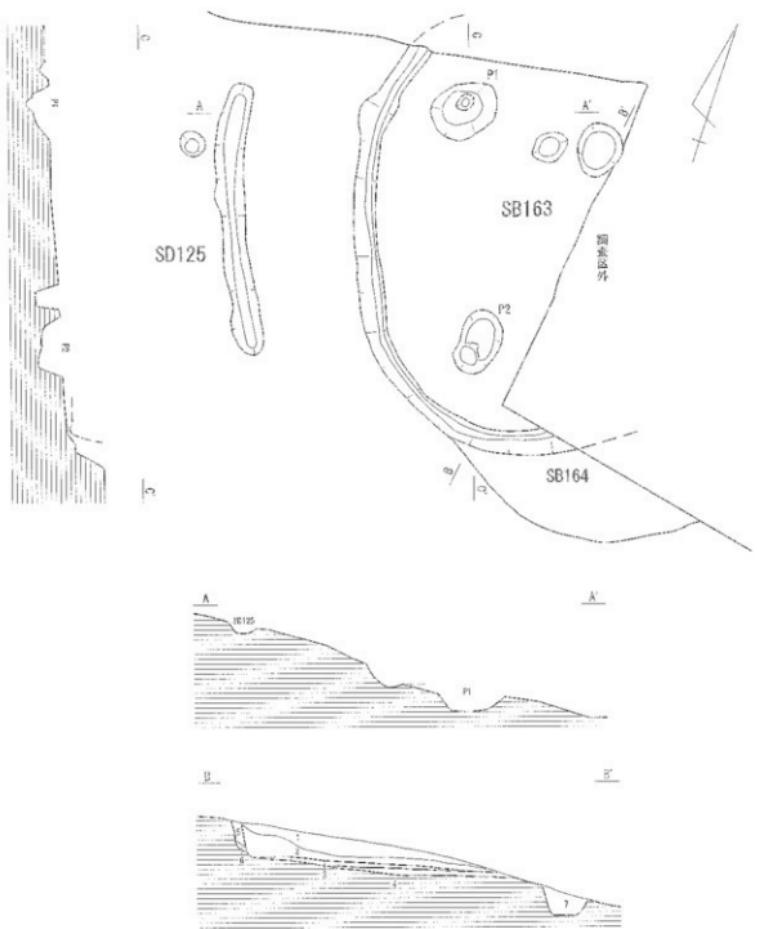
第143図 SB157 + SB158, SB159



第144圖 SB160~SB162 ①



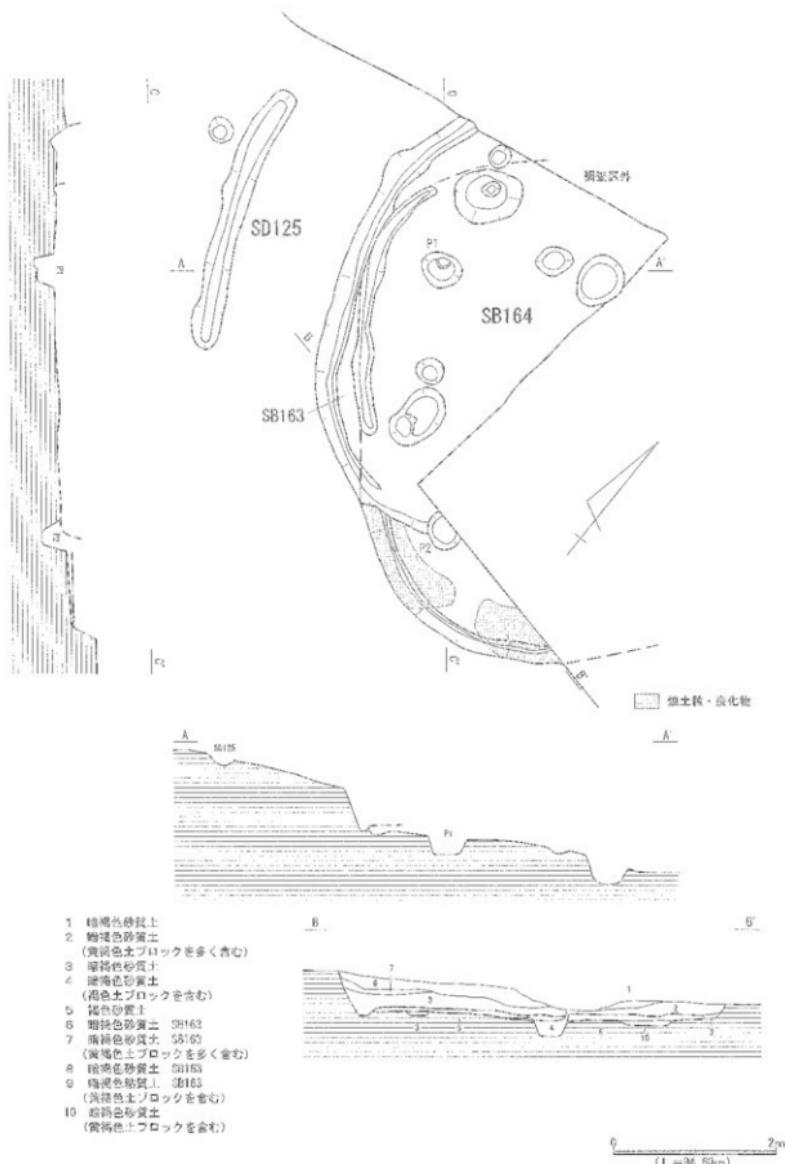
第145図 SB160～SB162 ②



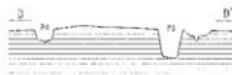
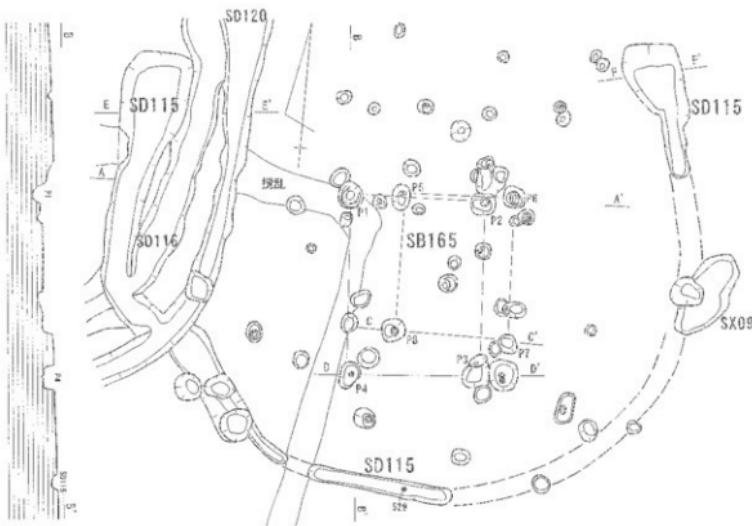
- 1 塔緑色砂質土
- 2 鈍褐色砂質土
- 3 暗褐色砂質土
(黄緑色砂質土含む)
- 4 深褐色砂質土
- 5 褐褐色砂質土 SB164
(黄褐色砂質土を多く含む、焼土塊、炭化物を含む)
- 6 細褐色砂質土 SB164
- 7 雄褐色砂質土 ピット

0 2m
(L=94.50m)

第146図 SB163・SD125



第147図 SB164・SD125



- 1 暗褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
- 2 褐灰色砂質土 (褐色、黃褐色土ブロックを含む)
- 3 脳褐色粘質土 (炭化物を多く含む)
- 4 黄褐色砂質土

0 5m
(1 = 161.70cm)

第148図 SB165・SD115

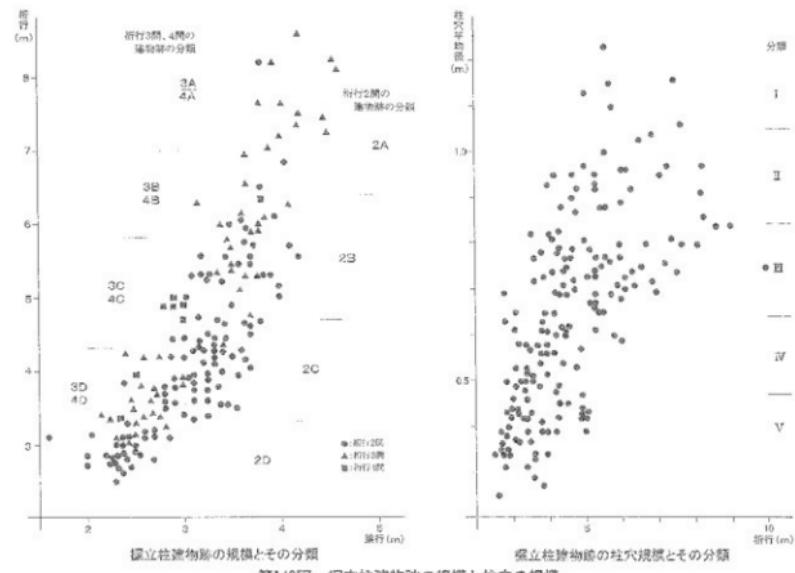
第3節 挖立柱建物跡

1. 種類と分類

間数 挖立柱建物跡とした遺構は、全部で190を数える。梁行は1間のものが多く、桁行には1間・2間・3間・4間が認められる。桁行1間のものは10棟あるが、多くは住居跡の柱穴である可能性が考慮される。桁行2間の建物跡が最多の114棟、次いで桁行3間の建物跡が55棟を数える。桁行4間の建物跡は8棟と少ない。桁行3間の建物跡の中には、布掘りの建物跡1棟が含まれる。また、一部に独立軸持柱などが伴っていた可能性が考慮できる建物跡もある（第248図）。これらのほかに、 2×3 間や 3×4 間の建物跡が3~4棟ある。

規模 建物跡の規模は、間数に関係なく大小様々である（第149図）。そこで、間数などの要素のほかに規模の差異を示す必要があることから、桁行長を基準として、桁行間数ごとにA~Dの規範別に分類した。桁行3間の場合には、桁行長7.0m以上を3 A、5.8~7.0mを3 B、4.3~5.8mを3 C、4.3m以下を3 Dとした。桁行2間の場合には、桁行長6.4m以上を2 A、4.7~6.4mを2 B、3.3~4.7mを2 C、3.3m以下を2 Dとした。桁行4間の場合には、桁行3間における分類に順じた。ただし、このグラフから建物寸法の規格性をうかがうことはできず、明らかな規格の境界があるわけではない。分類の詳細は規範ごとに後述するが、厳密でない部分も少なくない。

なお、柱穴にも大小がある（第149図）。全ての建物跡について、平均径による柱穴規模をI~Vに分類したが、これについても明らかな境界があるわけではない。



第149図 挖立柱建物跡の規模と柱穴の規模

2. 種別ごとの諸特徴

(1) 梁行2・3間の建物跡

総柱の建物跡 総柱の可能性が指摘できる建物跡は、西部に1棟(SH66)、東部に1棟(SH188)ある。しかし、SH66については、 2×3 間の総柱建物跡の可能性も指摘できるが、梁間の柱間が広く、左右の柱間が若干異なることから、 1×3 間の建物跡(3B)2棟が接したものである可能性が考慮される。SB67を切り、SH67に切られる。また、弥生時代後期中葉以降に位置づけできる土器片が出土している。

SH188は全ての柱間距離が類似しており、 2×3 間の総柱建物跡であると判断できる。SB133・134を切る。本遺跡において特異的であることから、弥生・古墳時代より新しい可能性が考慮される。

3×4 間の建物跡 東部に2棟(SH135・187)ある。柱間距離や建物の方向などは、SH188に類似する。しかし、 3×4 間の大型になるにも関わらず、総柱として検出することはできなかった。いずれの建物跡も、周囲の住居跡・建物跡の中で最も新しい遺構であり、本遺跡において特異的であることなどから、SH188を含めて古代の建物跡である可能性が指摘できる(第7章参照)。

(2) 衍行4間の建物跡

分布と建物規模 東部では大型(4B)1棟(SH129)が分布するのに対して、西部では中・小型(4C・D)が7棟分布する。東西における建物構成の差異を見出すことができる。互いに切り合う場合はない。なお、SH81・129は独立複持柱を伴う可能性があるとして第248図に示したが、断定はできない。

建物方向と時期的傾向 長軸を北西に向けるものが6棟、それらと直交する方向のものが2棟ある。建物方向に統一性を認めることができ、衍行4間の建物跡8棟については、同時期に存在していた可能性が考慮される。なお、竪穴住居跡を切るものが多くある一方で、住居の周溝や中・大型建物跡には切られている場合が多い。時期の特定できる遺物の出土はない。

(3) 衍行2・3間の大規模建物跡(3A、2A)

分布と建物方向 3Aに該当する建物跡は建て替えを含めて12棟、2Aに該当する建物跡は3棟ある。東西における数のかたよりはない。建物の方向は、長軸を概ね南北としている点で共通している。

建物・柱穴の規模と構造 衍行長や柱穴について詳細にみると、東西の差異を見出すこともできる。衍行長が梁行の1.9倍以上になる建物跡は、西部に限られる。また、柱穴の規模は西部の方が大きい傾向にある。なお、SH150は独立複持柱を伴う可能性があるとして第248図に示したが、断定はできない。また、SD76~79はSH82・83に伴う区画溝の可能性が指摘できるが、これも断定はできない。

時期的傾向 出土遺物から時期の詳細を検討することは難しいが、焼ね弥生時代後期後葉あたりに位置づけできる土器片の出土が目立つ。

切り合い関係からは、弥生時代の竪穴住居跡や周溝をもつ建物跡よりも新しいことが確認できる一方、SH25はSH26に、SH113はSH114に、SH150はSH183・184に切られており、2Bの建物跡より3Aの大規模建物跡の方が古いと判断できる場合が目立つ。また、SH148・149は古墳時代前期の竪穴住居跡(SB122)に切られている。SH130はSH129(4B)・134(3B)を切るが、 3×4 間のSH135には切られている。

SH80(2A)はSH79(3A)を切り、SH148(3A)はSH146(2A)を切る。同じ大型建物跡の中の衍行2間と衍行3間の違いについては、時期差として把握できる可能性は低い。

(4) 衍行3間の中型建物跡(3B・C)

分布と建物方向 3Bに該当する建物跡は、建て替えを含めて10棟ある。先述したようにSH66を2棟

の竪なりと判断するならば、3 Bは12棟になる。建物の方向は、全て長軸を南北としている。西部に4棟、東部に6棟が分布するが、西部の4棟が分散しているのに対して、東部の6棟は互いに切り合う場合が目立つ。同時並存について検討する場合、その棟数は西側にかたよる可能性が指摘できる。

3 Cの建物跡は12棟ある。東部に多く、西部は4棟だけである。ただし、東部には互いに切り合うものも多い。長軸方向は概ね南北で占められるが、SH136だけは平行4間のSH129と平行して北西を向く。

建物・柱穴の規模と構造　航行長における3 Bと3 Cの差はほとんどない。また、柱穴規模についても概ね同様であるといえる。両者の違いは、航行の柱間距離にあるといえる。3 BのSH111は、本遺跡で唯一の布張の掘立柱建物跡である。他と異なる構造の施物跡であり、特異な存在として位置づけることができる。さらに、独立棟持柱を伴う可能性があるとして第248図に示したが、既定はできない。

時期的傾向　出土遺物は、一部に弥生時代後期中葉以降の土器片があるだけである。

3 Bの施物跡は、竪穴住居跡を切る場合が多く、SH133・134はSH135（3×4間の建物跡）に、SH60はSZ01・02（周溝墓）に切られている。3 Aの建物跡との關係は、切る場合（SH48）と切られる場合（SH83）がある。SH83については、SH82（3 Aの建物跡）に建て替えられた可能性が考慮される。また、周溝を伴う住居跡との関係についても、切る場合（SH34・83）と切られる場合（SH111・SH48）がある。以上から、竪穴住居跡よりも新しく、周溝墓よりは古い可能性が指摘でき、大型掘立柱建物跡や周溝をもつ建物跡とは概ね併行して展開した可能性が指摘できる。

3 Cの施物跡は、周溝をもつ建物跡や大型掘立柱建物跡に切られる場合が多く、3 Bの施物跡にも切られている（SH127）。一方、竪穴住居跡や2 Cの施物跡を切る場合も確認できている（SH161・167）。竪穴住居跡よりは新しいが、3 Bよりは古い傾向にあることがわかる。方向の異なるものが1棟ある点についても、時期的傾向の違いが影響している可能性が考慮できる。

（5）平行2間の中型建物跡（2 B・C）

分布と建物方向　2 Bに該当する建物跡は、建て替えを含めて28棟ある。東西における分布のかたよりは認め難いが、東部の斜面地に展開するものと、東部～西部の平坦地に並ぶものとに大別ができる。建物の方向は南北に近いものが圧倒的に多い。ただし、大型掘立柱建物跡や3 B・Cの建物跡のように、厳密に統一されているわけではない。場所によって、西や東に傾くものが認められる。

2 Cに該当する建物跡は、建て替えを含めて54棟ある。東西における分布のかたよりはないが、I 9グリッド周辺やF18グリッド周辺などに空白域があり、とくに西部においては環状の分布を認めることができる。建物の方向は、南北に近いものが多く、東西に傾くものは少數混じる程度である。

建物・柱穴の規模と構造　相対的には2 Bよりも2 Cの方が航行長は短く、柱穴は小さい。しかし、歷然とした差として把握することはできない。2 Bと変わらない航行長・柱穴規模の2 Cも少なくない。なお、独立棟持柱を伴う可能性が考慮できるものは、2 B・2 Cともにない。

時期的傾向　2 Bと2 Cの棟数は多く、とくに2 Cの数の多さは群を抜く。ただし、互いに直なり合う場合が少なくなく、SH72～74のように建て替えを繰り返す場合も認められる。同じ種別であっても、全てが同時段階であったとは限らず、ある程度長い期間を把握する必要があると判断できる。

いくつかの建物跡で、土壙片が出土している。SH74（2 B）では台石と石器、SH185（2 C）ではガラス小玉も出土している。出土土器片については、全体的に弥生時代後期中葉～末の中に位置づけできるものが目立つ。2 Cの出土土器に上げ底状の底部をもつ壺などがある一方、2 Bの出土土器に刻みのない壺の口縁部や結節縄文を多用した壺の破片などがあることから、2 Bの方に新しい傾向を見出すこともできる。ただし、全体的に遺物出土量は少なく、遺物のみから詳細な時期を確定することはできない。

切り合い関係をみると、2 Bは弥生時代の竪穴住居跡を切るだけでなく、大型掘立柱建物跡（3 A）

などを切る場合も多く認められる (SH26・53・67・114・183・184)。以上から、2Bは大型建物跡より新しい傾向にあるといえる。ただし、SH144は古墳時代前期の窪穴住跡 (SB120) に切られている。

一方の2Cは、局溝基に切られている(SH61・63)ほか、大型掘立柱建物跡などにも切られる場合が多く認められる(SH47-112)。3Bの建物跡との関係は、切られる場合(SH109)と切る場合(SH112)がある。また、局溝をもつ建物跡との関係は、切る場合(SH23)もあるが、多くは切られている(SH18・30・43など)。以上から、2Cは大型掘立柱建物跡などより古い傾向にあり、局溝をもつ建物跡や3Bの掘立柱建物跡が廃闢する段階までの期間に設けられた可能性が指摘できる。

(6) 衍行2・3間の小型建物跡(3D、2D)

分布と建物方向 3Dに該当する建物跡は21棟ある。分布は西部にかたよる。東部に分布するのは2棟だけであり、それらも調査区中央寄りに位置する。建物の方向は、長崎が北東を向くものが8棟、それらと直交する方向を向くものが13棟あり、大・中型壠立柱建物跡とは異なる方向を示す。以上の特徴は、桁行4間の建物跡と共通している。また、3Dと桁行4間の建物跡を合わせてみると、互いに重なり合うのはSH40とSH41だけである。

2 D の建物跡は28棟ある。数の東西差は少ない。西部では平坦地中央に集中するが、東部では斜面に現状に分布する。建物方向は、斜面地では傾斜に沿う場合が多いが、平坦地では3 D と同様である。

建物・柱穴の規模と構造 柱行数については、長めのものも複数あるが、全体的には中型建物跡との差が比較的明瞭であると把握できる。柱穴の規模についても同様であり、大・中型建物跡のように大きな掘方や明確な柱痕が確認できる場合はない。すなわち、規模Cと規模Dとでは、桁行間数に関係なく、建物の規模・構造・方向・分布において明瞭な差異があると把握できる。

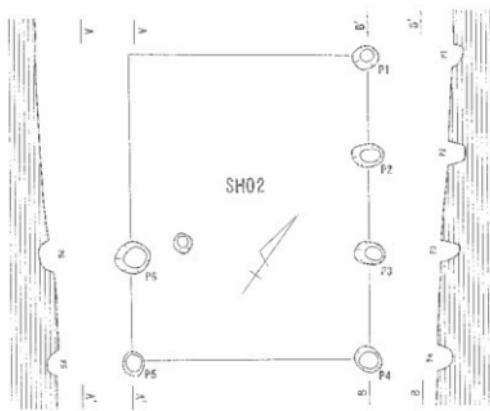
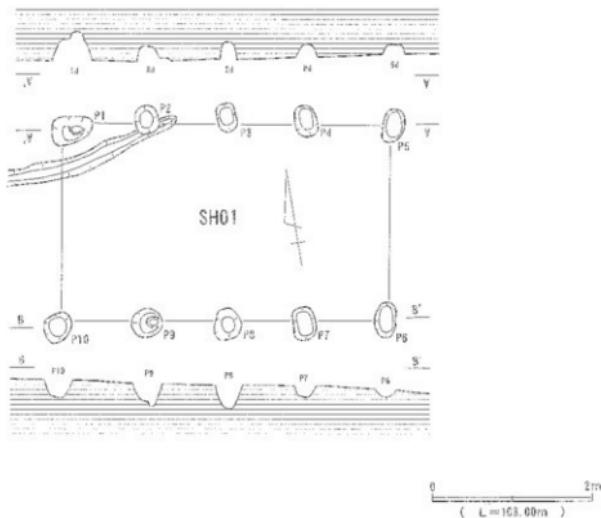
時期的傾向 出土遺物は非常に少なく、一部に弥生時代後期に位置づけができる土器片が認められる程度である。時期の詳細を出土遺物から特定することは難しい。

切り合い関係については、大・中型掘立柱建物跡や周溝をもつ建物跡には切られる傾向にある。豊穴住居跡との関係については、切る場合（SHI10・36・143）がある一方、2Dの中に切られる場合（SHI66・I89）が認められる。全体的に豊穴住居跡との切り合いが少なく、分布域を異にしていることがわかる。以上から、3D・2Dの建物跡は大・中型掘立柱建物跡や周溝をもつ建物跡よりも古く、豊穴住居跡とともに展開した可能性が指摘できる。さらに、3Dに比べて2Dの方が古い傾向にある可能性が考慮される。

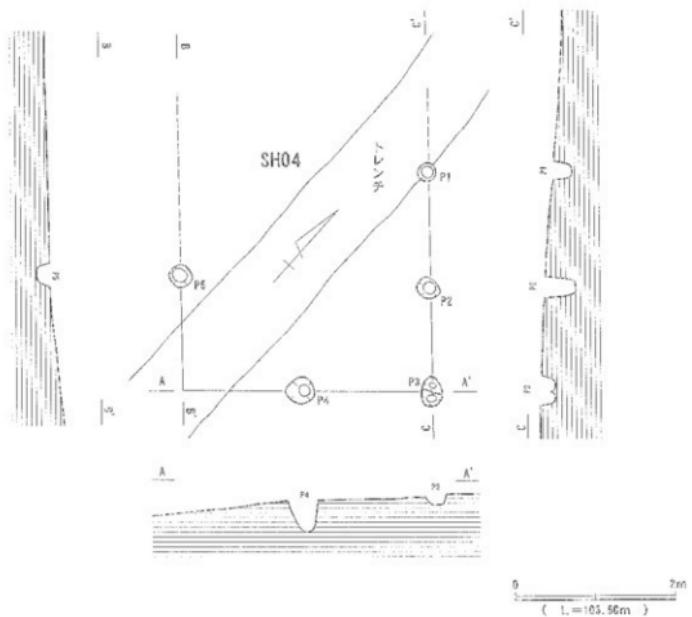
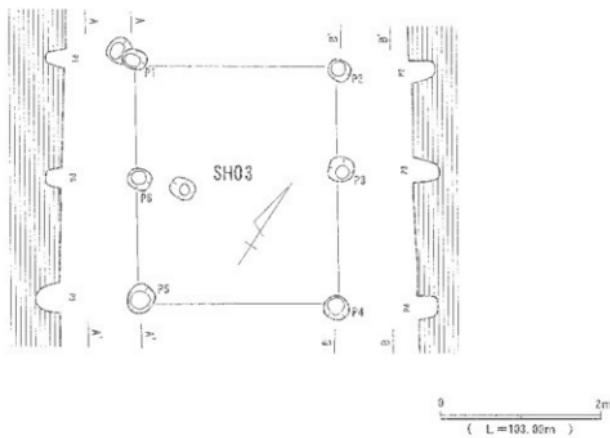
第4表 据立柱建筑物一览

選択名	グリッド	測量方向	測定				標高(m)	傾斜度(度)	北	平均傾斜度(度)	測量時間	測定場所
			高	低	西	東						
S001	D 4	N $45^{\circ}15'$ -E	1	4	2.50	2.95	D	1.25	9.0	1.11	V	
S002	D 4	N $30^{\circ}30'$ -W	1	2	2.05	3.00	D	1.25	11.3	0.45	V	
S003	E 4	N $45^{\circ}15'$ -E	1	2	2.00	2.50	D	1.20	7.3	0.35	V	
S004	E 5	N $45^{\circ}15'$ -E	1	3	2.70	3.94	D	1.32	10.4	0.27	V	
S005	D 5	N $45^{\circ}15'$ -E	1	2	2.00	3.10	D	1.20	7.4	0.45	V	
S006	E 6	N $45^{\circ}15'$ -E	1	2	2.65	2.80	D	1.18	6.5	0.54	V	
S007	E 6	N $30^{\circ}30'$ -W	1	1	2.65	2.80	D	1.14	6.5	0.47	V	
S008	F 5	N $45^{\circ}15'$ -E	1	2	2.93	3.00	O	1.20	6.9	0.61	V	
S009	P 6	N $30^{\circ}30'$ -W	1	5	2.75	3.40	D	1.24	8.4	0.30	V	
S010	G 6	N $45^{\circ}15'$ -E	1	3	2.60	3.40	D	1.11	8.8	0.57	V	
S011	G 6	N $30^{\circ}30'$ -W	1	3	2.10	3.15	C	1.27	18.2	0.84	V	○
S012	G 7	N $45^{\circ}15'$ -E	1	5	2.70	3.59	D	1.20	8.2	0.46	V	
S013	G 7	N $30^{\circ}30'$ -W	1	2	2.40	4.25	C	1.23	14.5	0.78	V	○
S014	G 7	H $30^{\circ}30'$ -W	1	1	2.85	2.95	D	1.01	8.4	0.84	B	○
S015	G 7	J $30^{\circ}30'$ -E	2	3	2.20	4.10	C	1.20	15.1	0.81	B	○
S016	H 8	H $30^{\circ}30'$ -E	3	3	2.75	4.20	D	1.30	11.7	0.50	B	
S017	H 7	H $30^{\circ}30'$ -E	3	3	2.90	4.25	D	1.20	11.8	0.45	B	

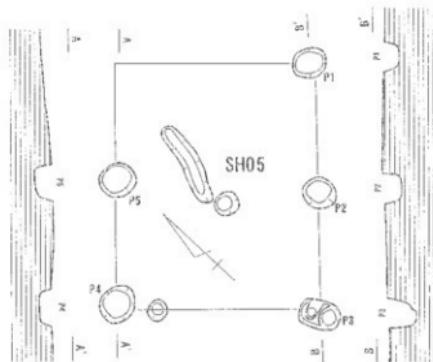
説明語	タグID	費用の内訳	内訳		積算(m)		測定 (m)	積算 (m) （単位 分岐）	取組	該当初回を記している報道	備考
			地	施	面積	通行量 区分					
S0101	Q16	N-2-W	1	2	2.00	3.25	1.43	6.7	0.30 V		
S0105	H18	N-2-W	1	2	2.35	2.00	D	1.20	7.1	0.40 V	新規登録
S0106	G14	N-2-W	1	2	1.06	3.12	D	1.95	5.0	0.43 V	新規登録
C0107	G16	N-2-W	1	2	2.70	3.69	C	1.30	10.1	0.31 IV	
S0107	G15	N-2-W	1	2	2.75	4.31	D	1.52	15.6	0.46 IV	
S0108	P15	N-2-W	1	2	3.65	4.15	C	1.10	15.1	0.36 IV	SB111
S0110	F15	N-2-W	1	2	3.60	6.10	E	1.00	25.0	0.77 IV	SB112
S0111	G15	N-2-W	1	2	3.00	6.00	B	1.20	22.0	0.60 IV	○ SB112 - SB102
S0112	G15	N-2-W	1	2	2.55	6.00	B	1.40	17.1	0.50 IV	○ SB112
S0113	G15	N-2-W	1	2	2.45	2.35	A	1.75	30.0	0.03 IV	SB114
S0114	G15	N-2-W	1	2	3.65	2.95	B	1.02	17.1	0.56 IV	○
S0115	C16	N-2-W	1	2	2.75	3.85	C	1.11	11.0	0.50 IV	○
S0116	G15	N-2-W	1	2	2.49	2.70	D	1.25	5.4	0.36 V	
S0117	G15	N-2-W	1	2	2.49	4.50	C	1.2	7	0.45 V	
S0118	D16	N-2-E	1	2	2.25	2.80	D	1.24	6.5	0.21 V	
S0119	H16	N-2-E	1	2	2.15	3.00	D	1.58	7.5	0.31 V	
S0120	B16	N-2-E	1	2	2.15	3.00	C	1.23	12.6	0.39 V	
S0121	E16	N-2-E	1	2	2.40	2.84	C	1.60	9.5	0.39 V	
S0122	F16	N-2-E	1	2	2.25	3.75	C	1.15	12.0	0.54 IV	○
S0123	G16	N-2-E	1	2	2.55	3.80	C	1.07	11.1	0.53 IV	○
S0124	H16	N-2-E	1	2	2.75	3.90	C	1.04	14.6	0.66 III	
S0125	G17	N-2-V	1	3	3.00	8.55	B	1.77	24.5	0.75 III	○
S0126	F17	N-2-V	1	3	3.60	9.95	B	1.61	21.7	0.77 III	○
S0127	H17	N-2-V	1	3	2.00	9.00	C	1.27	19.0	0.77 III	SB132
S0128	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.45	C	1.60	17.1	0.90 III	
S0129	F17	N-2-V	1	3	2.40	9.35	C	1.67	24.1	0.77 III	○
S0130	H17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	16.0	0.72 III	○
S0131	G17	N-2-V	1	3	2.50	9.05	B	1.61	19.6	0.75 III	○ SB136
S0132	H17	N-2-V	1	3	2.80	9.34	B	1.62	22.5	0.80 III	○
S0133	G17	N-2-V	1	3	3.00	9.00	B	1.76	20.4	0.68 III	○ SB134 - SB135
S0134	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.05	B	1.90	24.4	0.80 III	○ SB135
S0135	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.05	B	1.90	24.4	0.80 III	○ SB135
S0136	H17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	19.0	0.77 III	○
S0137	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0138	F17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0139	H17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0140	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0141	H17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0142	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0143	H17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0144	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0145	G17	N-2-V	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0146	C18	N-2-W	1	3	2.40	9.00	C	1.24	17.1	0.90 III	○
S0147	B16	N-2-W	1	2	3.65	4.65	C	1.27	17.0	0.80 III	○ SB148
S0148	S16	N-2-W	1	2	4.05	9.95	A	1.60	27.7	1.04 III	
S0149	D18	N-2-W	1	3	3.80	2.05	A	1.63	27.5	0.80 III	SB112
S0150	D18	N-2-W	1	3	4.50	7.25	A	1.61	32.6	0.87 III	○ SB112
S0151	G19	N-2-W	1	3	4.20	7.69	A	1.75	31.5	0.74 III	○ SB110 - SB114
S0152	C20	N-2-W	1	2	2.40	3.80	C	1.31	11.0	0.78 III	○
S0153	C20	N-2-E	1	1	2.40	3.80	D	1.45	12.0	0.80 III	○
S0154	C18	N-2-E	1	1	2.40	5.45	B	1.73	41.6	0.86 E	○ SB180
S0155	C18	N-2-E	1	1	2.40	5.55	B	1.30	40.5	0.77 III	
S0156	B16	N-2-E	1	2	3.65	4.65	C	1.27	17.0	0.80 III	○ SB148
S0157	P16	N-2-E	1	2	3.65	5.79	C	1.68	20.0	0.90 IV	
S0158	E16	N-2-E	1	2	3.80	5.30	C	1.29	20.1	0.67 IV	○
S0159	F17	N-2-W	1	2	3.95	6.10	B	1.54	34.1	0.80 IV	SB114
S0160	A16	N-2-W	1	2	3.25	4.80	C	1.45	14.3	0.69 IV	○
S0161	C16	N-2-W	1	2	3.25	5.30	C	1.54	17.8	0.74 IV	○
S0162	H16	N-2-W	1	2	3.25	5.30	C	1.57	17.0	0.74 IV	○
S0163	G15	N-2-E	1	2	3.95	5.70	C	1.60	26.0	0.76 E	○ SB158
S0164	H16	N-2-E	1	2	3.95	5.60	B	1.61	19.1	1.00 E	○
S0165	C19	N-2-E	2	3	4.45	5.60	B	1.81	19.1	1.00 E	○
S0166	C20	N-2-E	1	2	3.90	2.50	D	1.15	5.6	0.34 V	
S0167	C20	N-2-E	1	2	3.90	2.50	D	1.15	5.6	0.34 V	
S0168	P16	N-2-E	1	2	3.65	5.79	C	1.68	20.0	0.90 IV	
S0169	S16	N-2-E	1	2	3.80	5.30	C	1.29	20.1	0.67 IV	○
S0170	E16	N-2-E	1	2	3.80	5.30	C	1.29	20.1	0.67 IV	○
S0171	D17	N-2-E	1	2	4.00	5.15	H	1.55	26.0	0.70 III	○
S0172	E17	N-2-E	1	2	3.70	5.70	B	1.52	21.0	0.69 IV	
S0173	R17	N-2-E	1	2	3.80	4.40	C	1.55	24.5	0.55 IV	○
S0174	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.40	C	1.55	24.5	0.55 IV	○
S0175	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.55	C	1.57	13.2	0.62 IV	
S0176	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.55	C	1.57	16.4	0.56 IV	
S0177	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	C	1.57	12.2	0.53 V	
S0178	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0179	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0180	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0181	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0182	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0183	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0184	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0185	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0186	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0187	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0188	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0189	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0190	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0191	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0192	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0193	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0194	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0195	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0196	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0197	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0198	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0199	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0200	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0201	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0202	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0203	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0204	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0205	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0206	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0207	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0208	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0209	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0210	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0211	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0212	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0213	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0214	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0215	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0216	E17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0217	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0218	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0219	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0220	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0221	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0222	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0223	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57	12.2	0.53 V	
S0224	D17	N-2-E	1	2	3.80	4.60	B	1.57</			



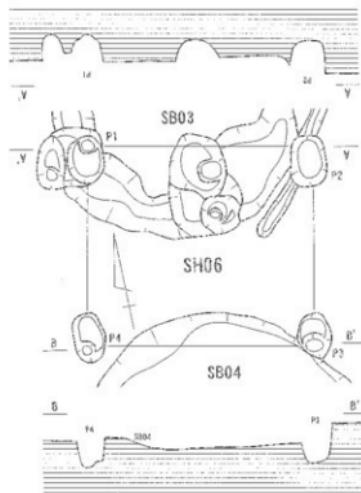
第150図 SH01, SH02



第151図 SH03, SH04

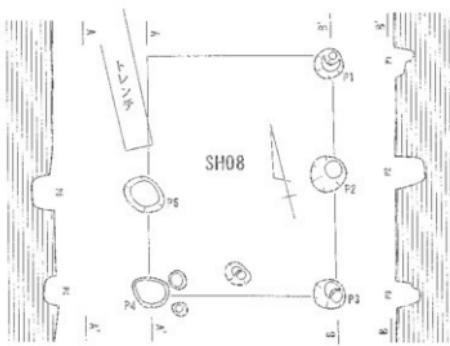
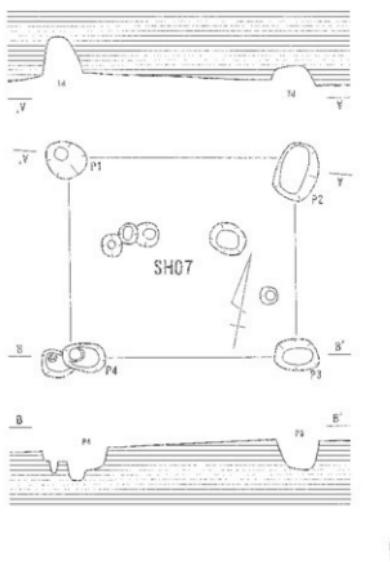


0
(L = 103.60m) 2m

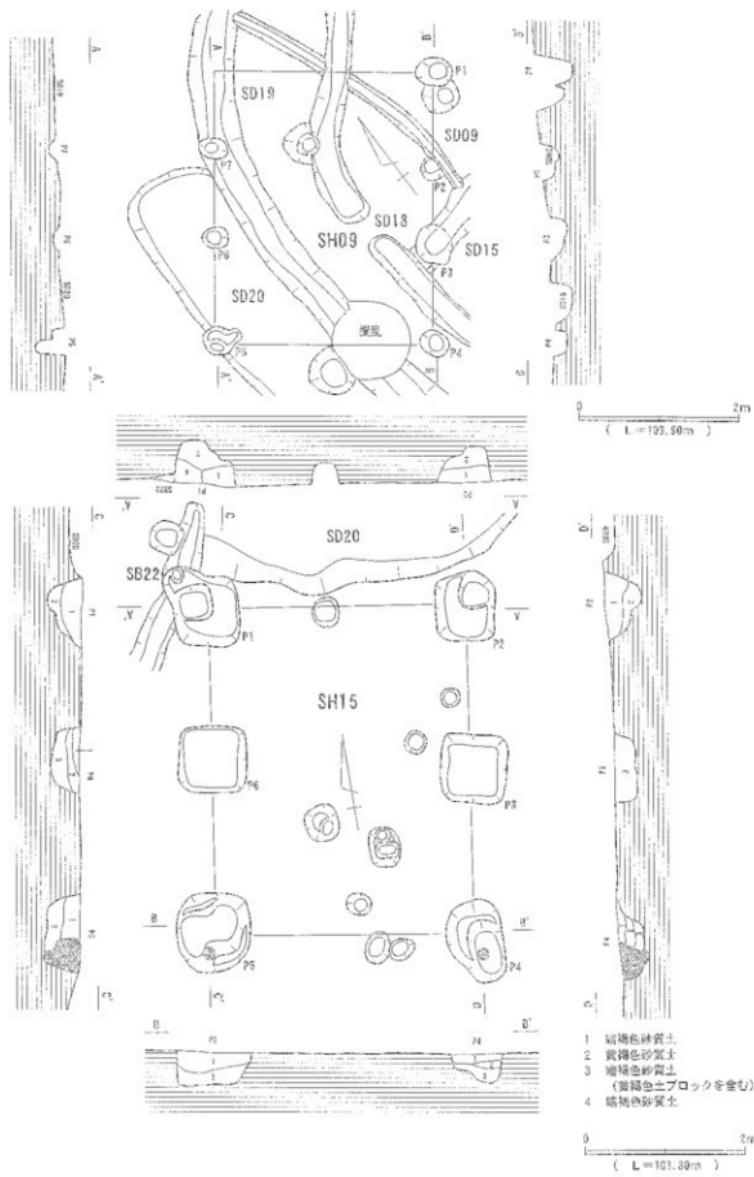


0
(L = 153.76m) 2m

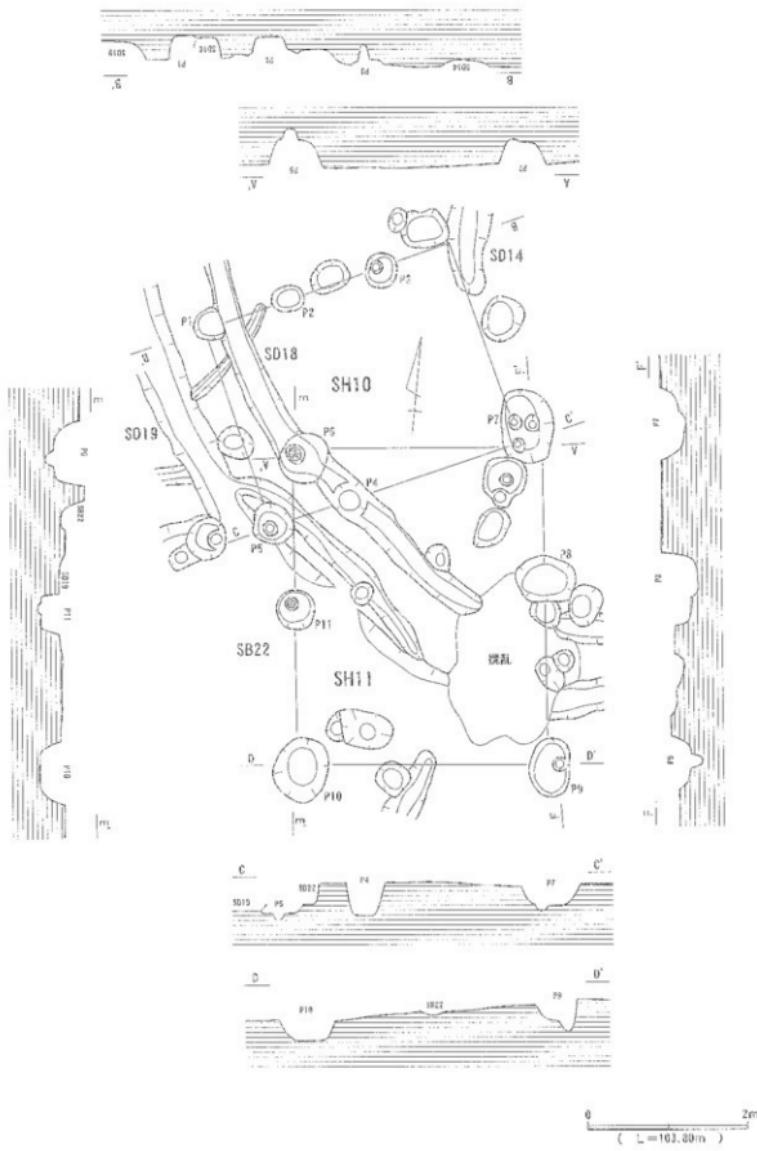
第152図 SH05, SH06



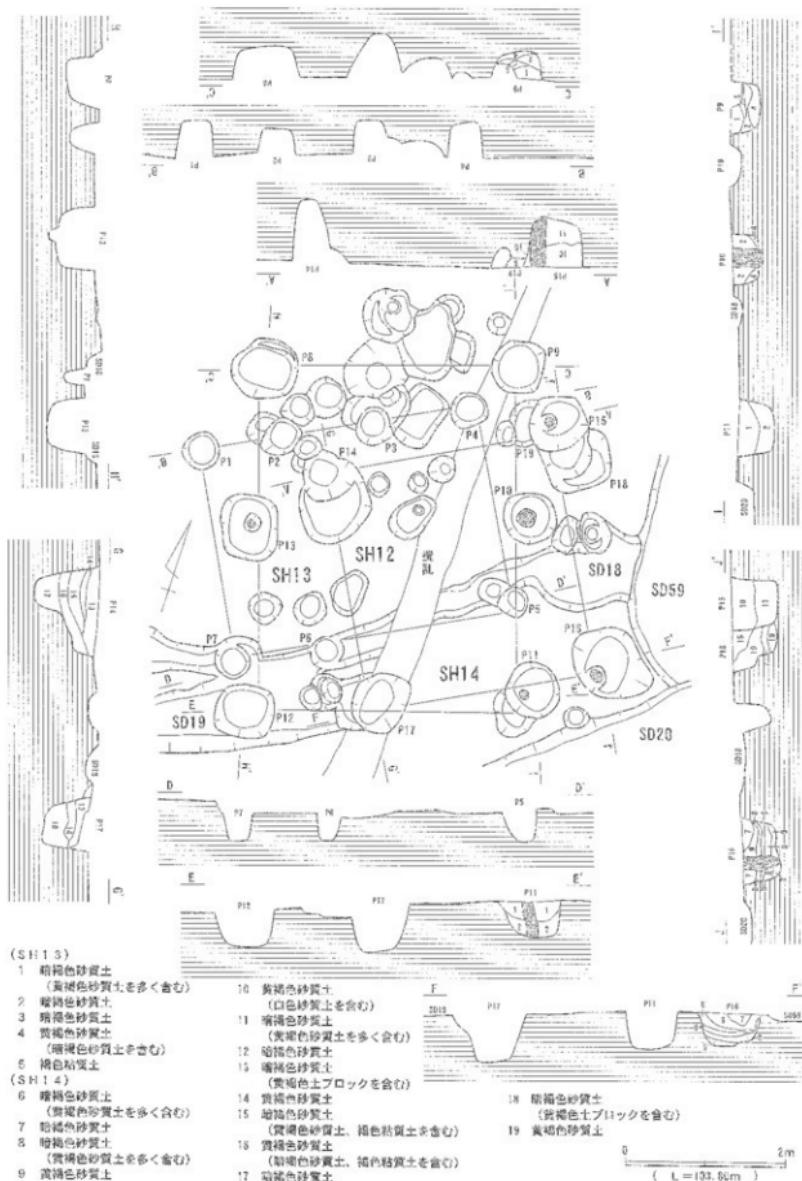
第153図 SH07, SH08



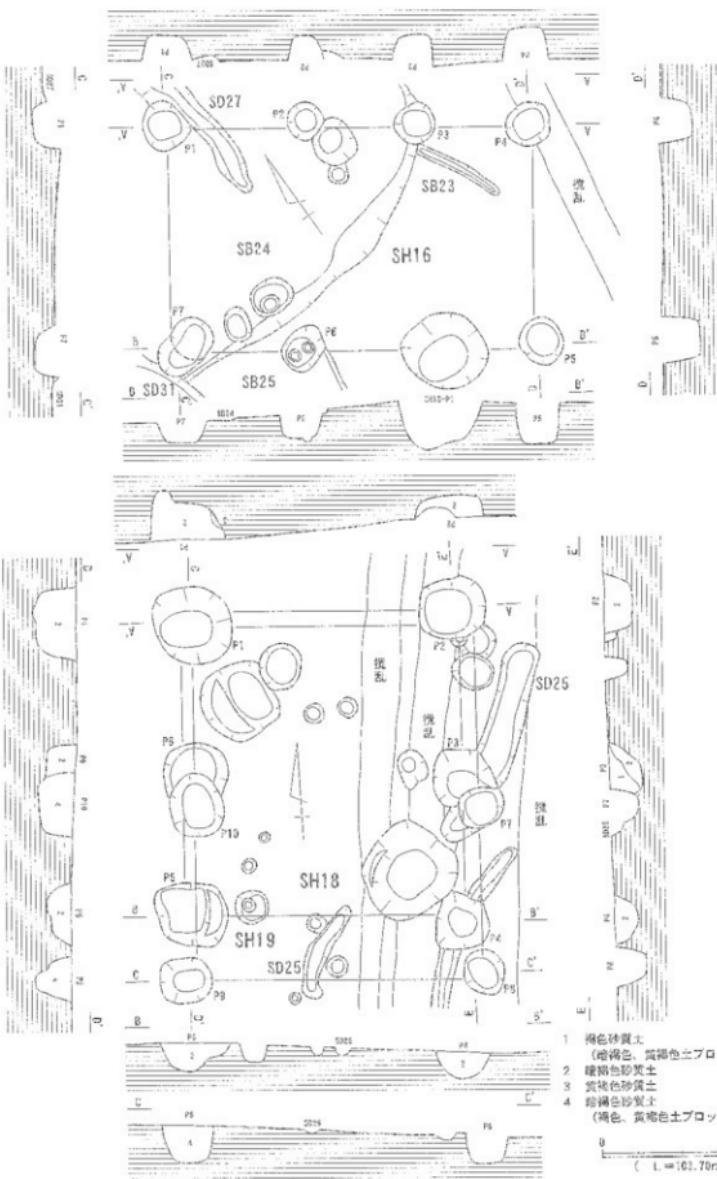
第154回 SH09, SH15



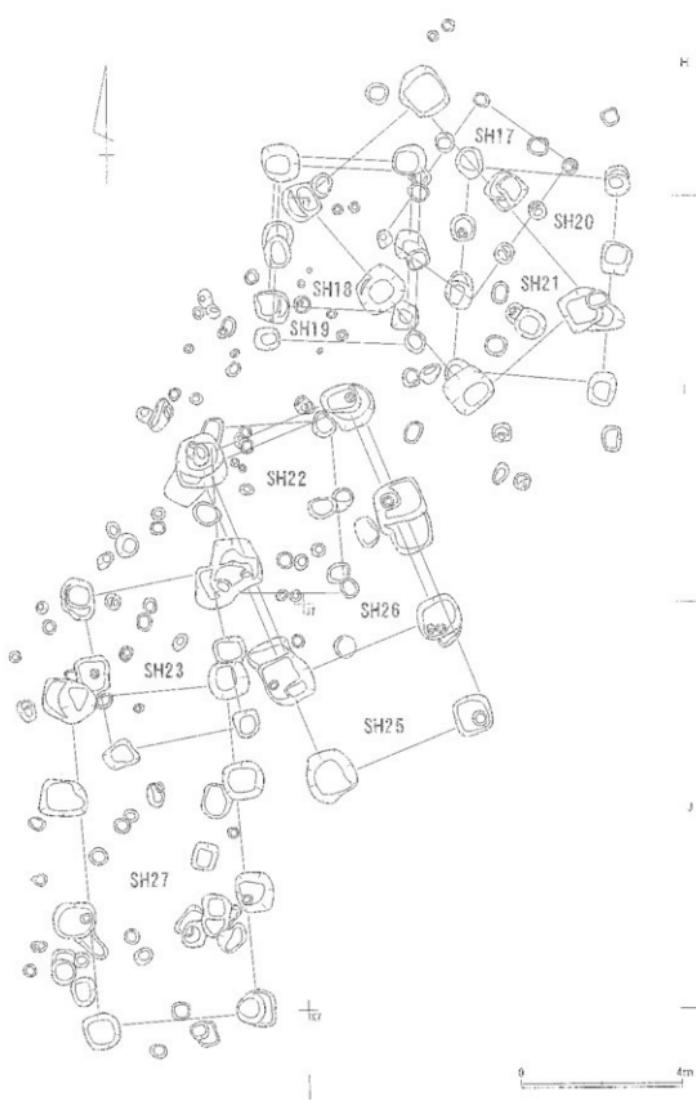
第155図 SH10・SH11



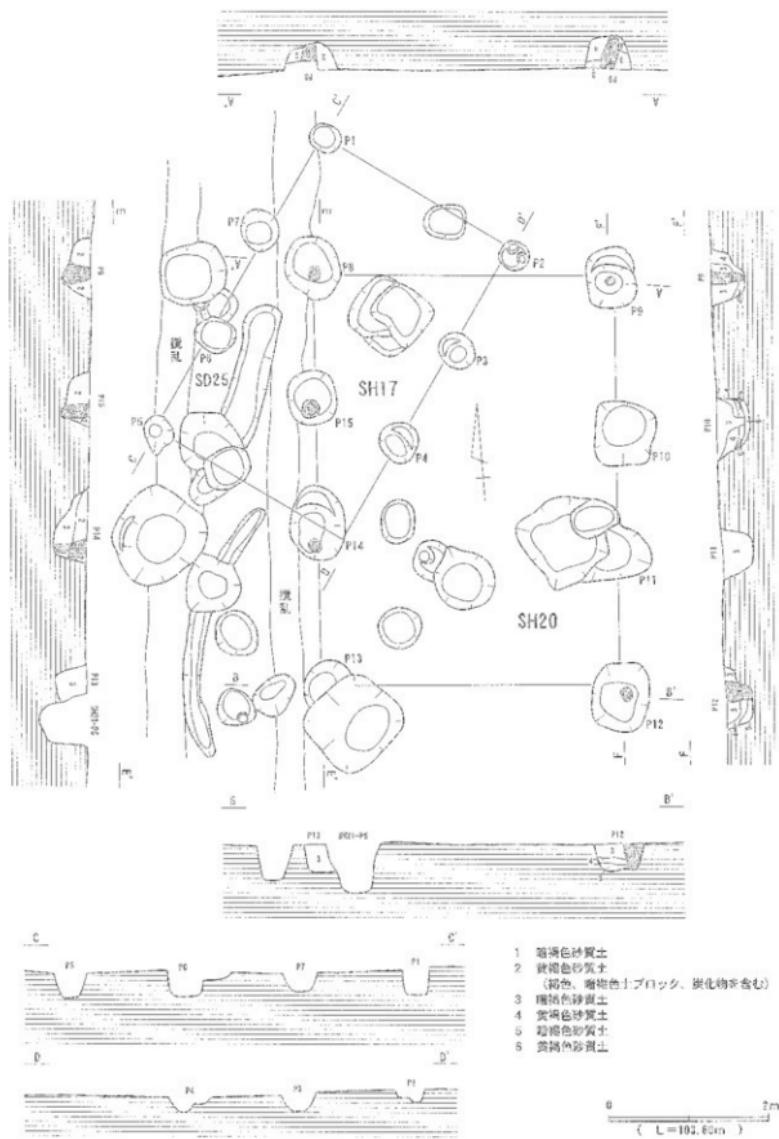
第156図 SH12～SH14



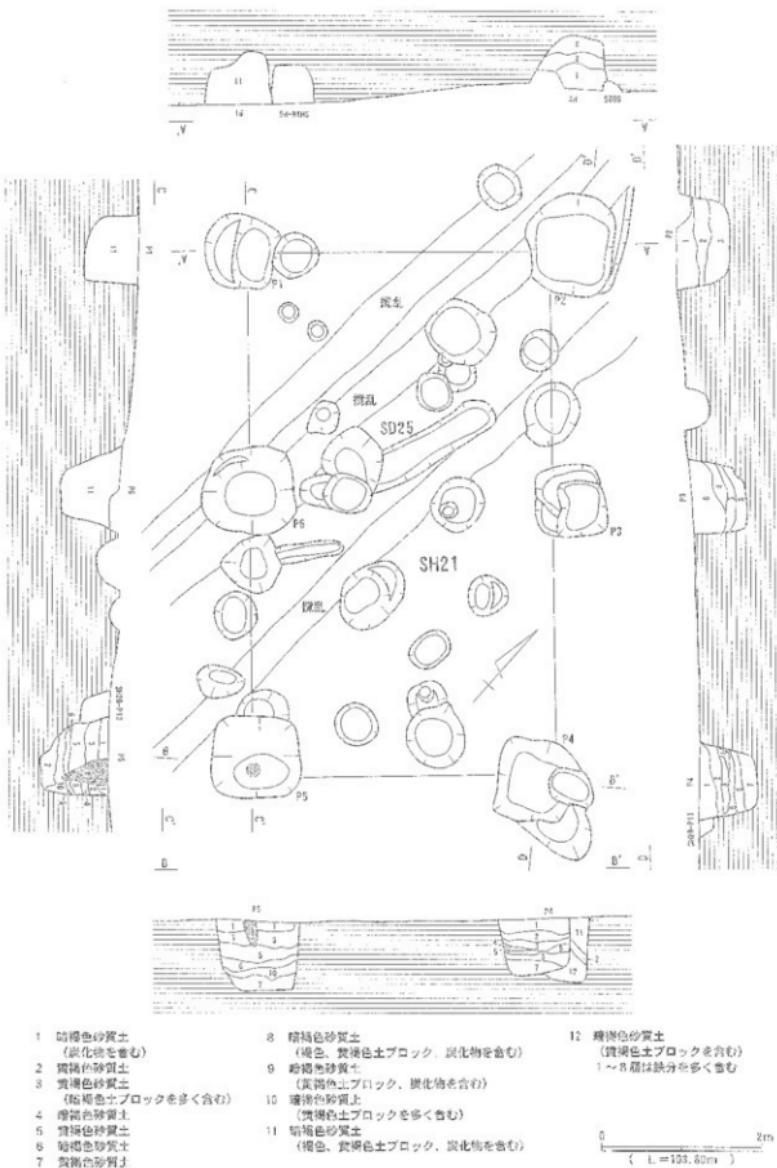
第157図 SH16, SH18 - SH19



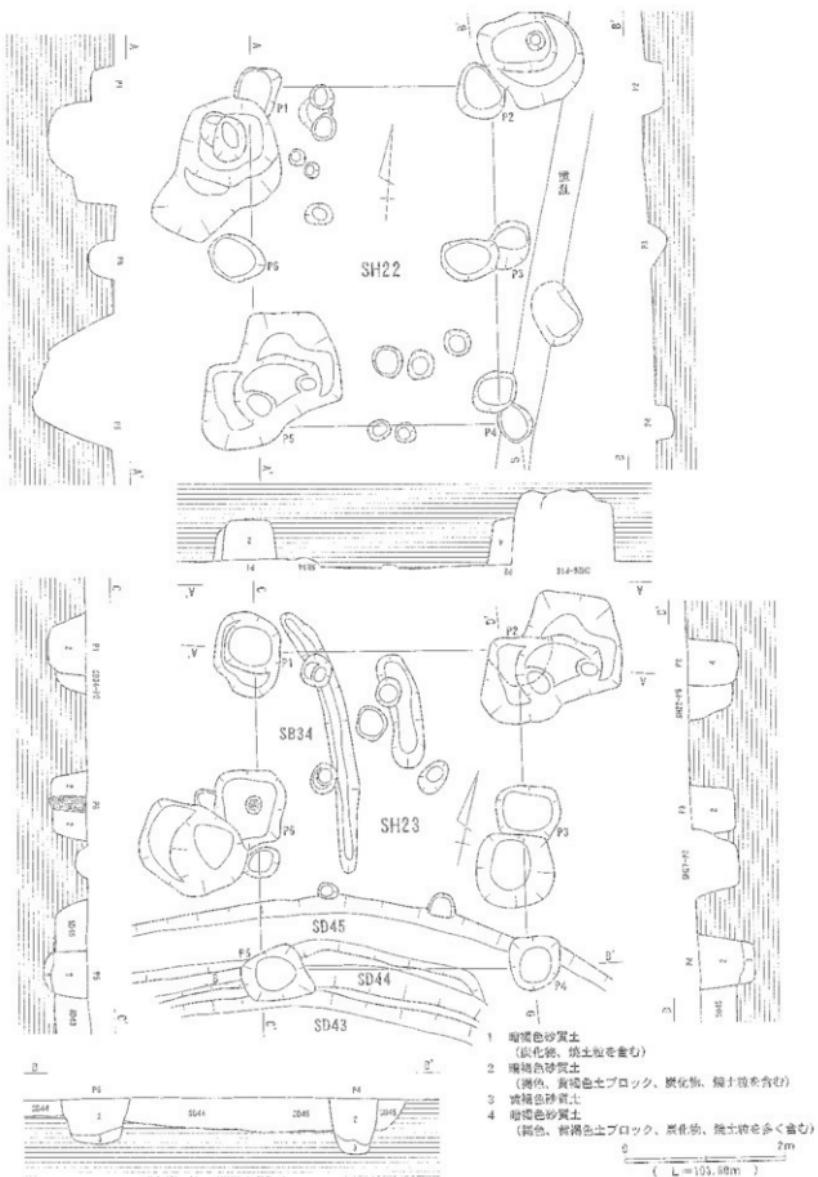
第158図 SH17~SH23・SH25~SH27



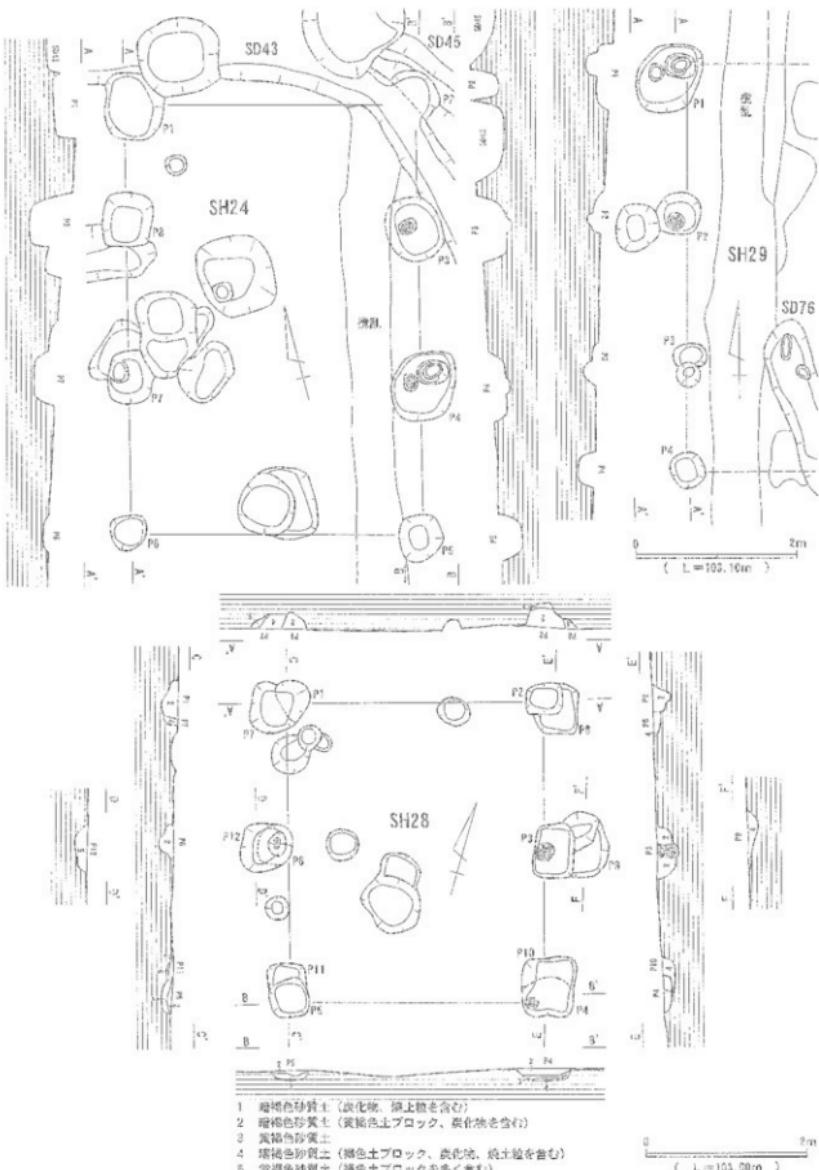
第159図 SH17・SH20



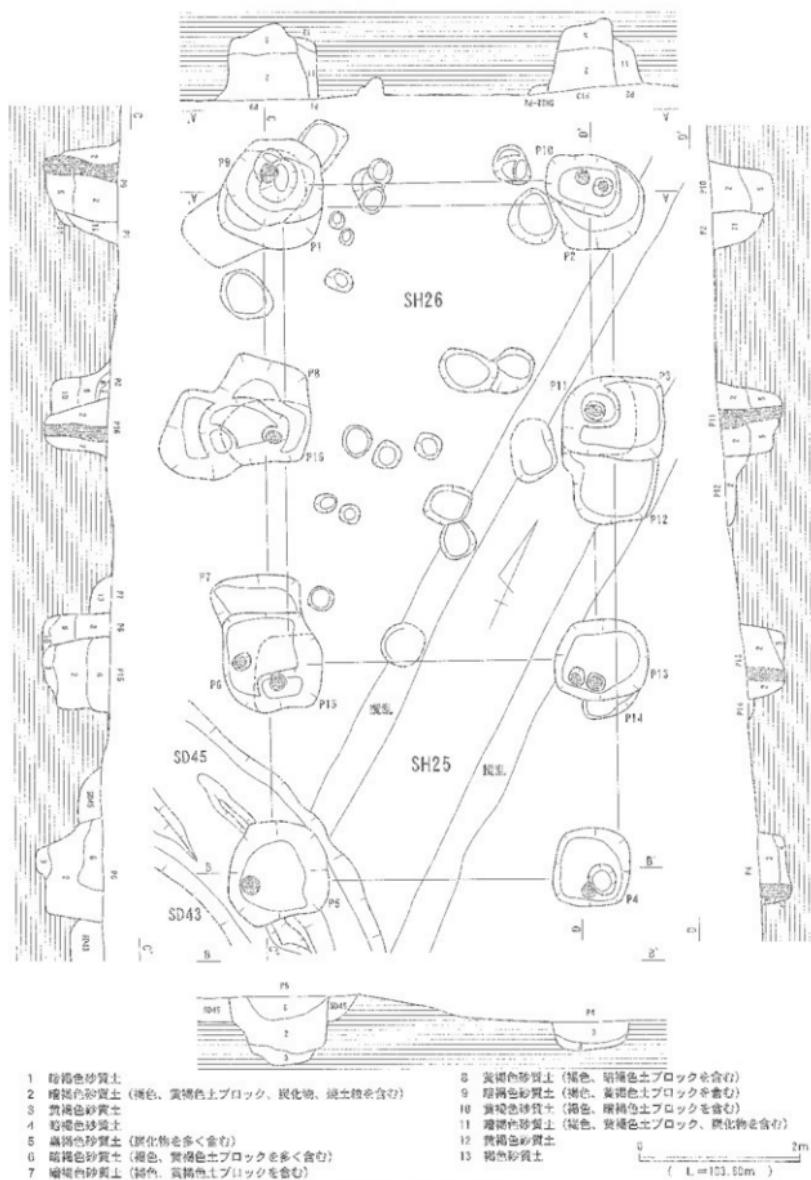
第160図 SH21



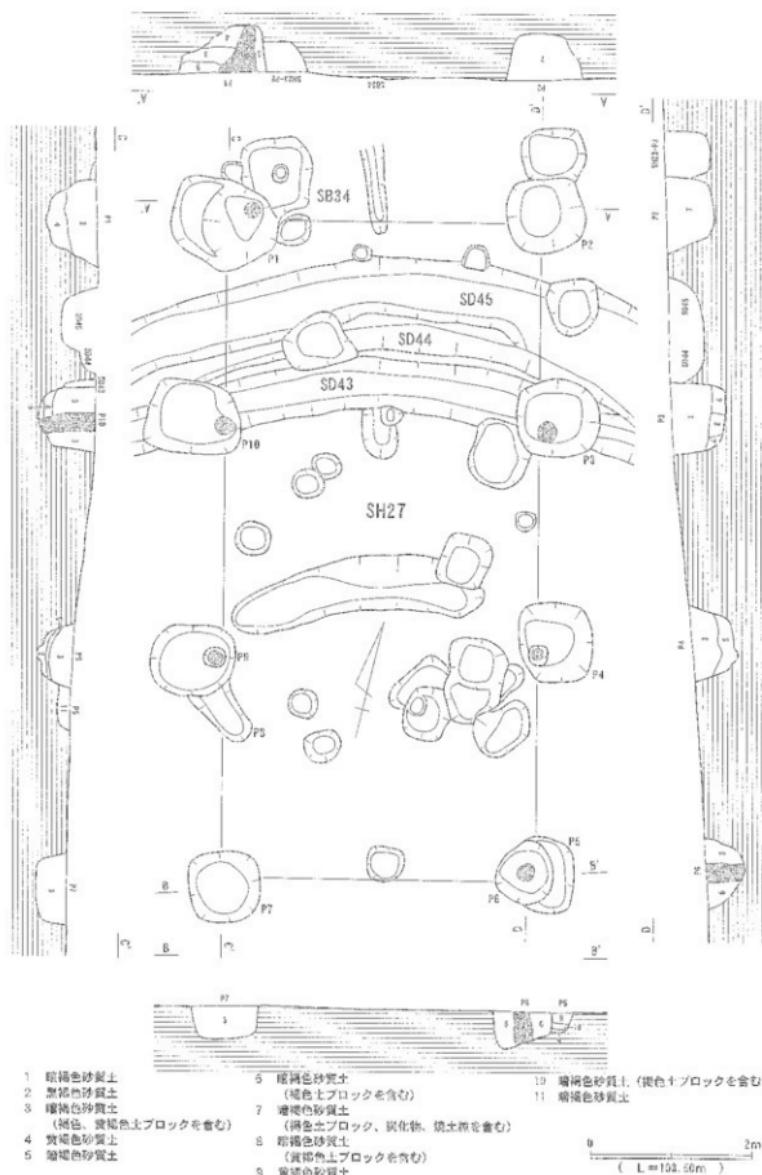
第161図 SH22, SH23



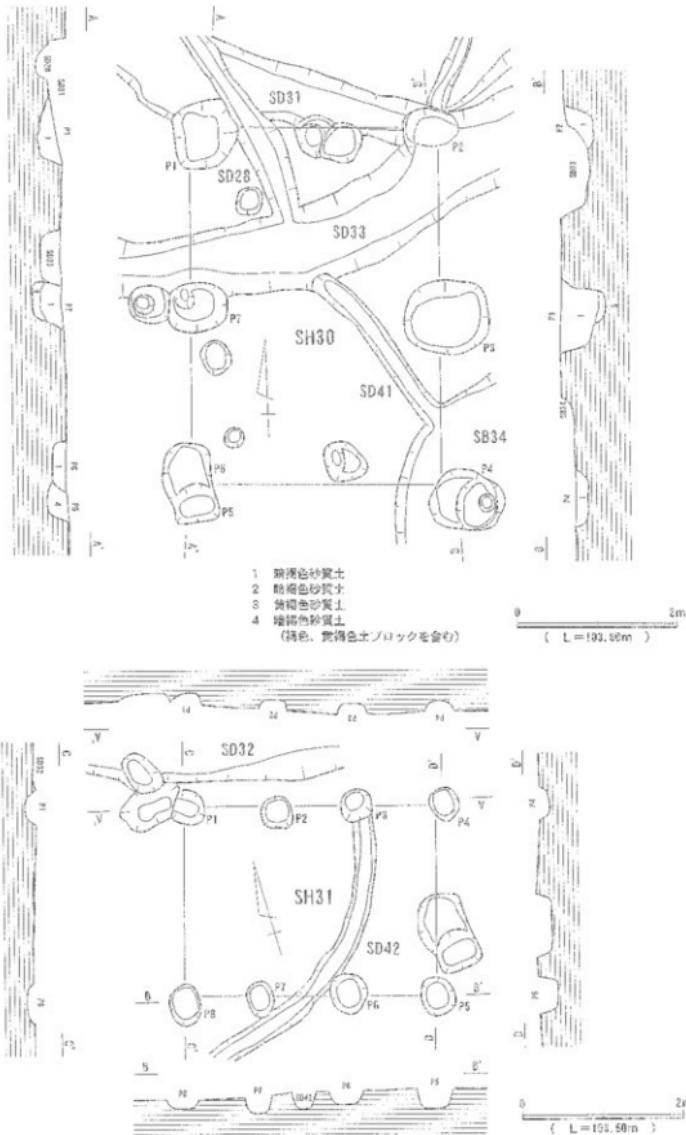
第162図 SH24, SH28, SH29



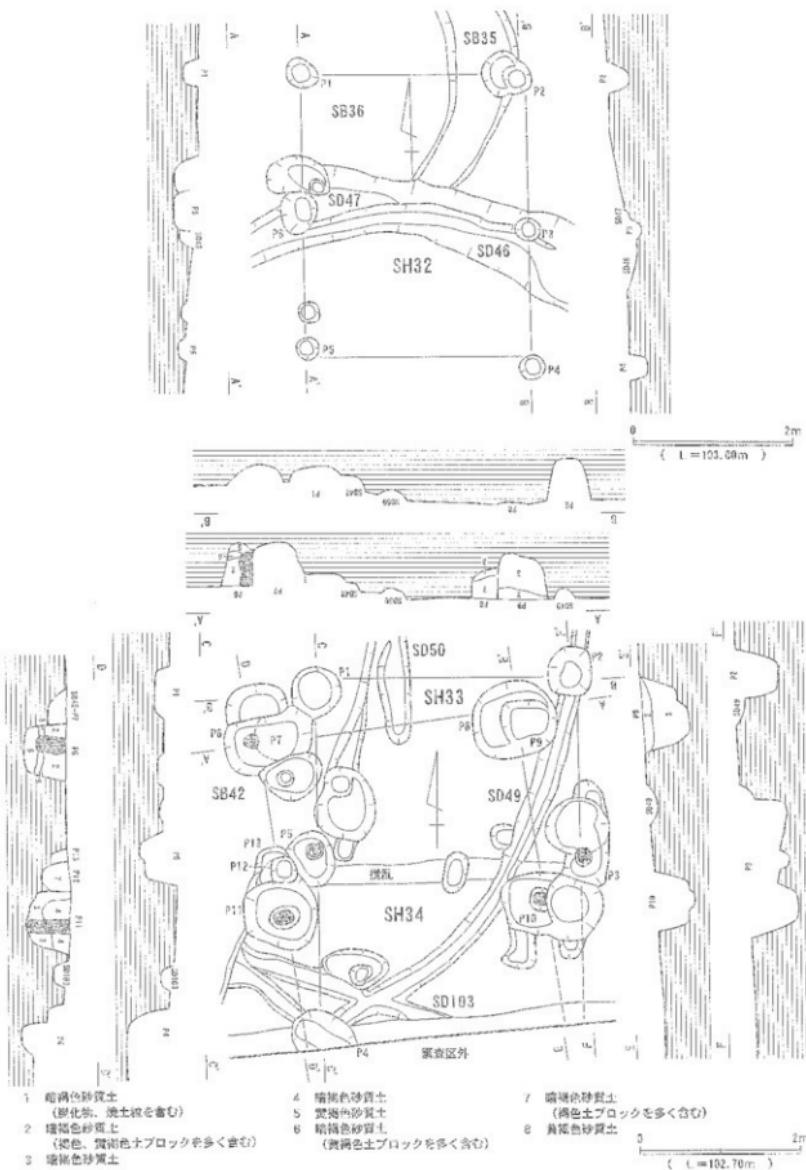
第163図 SH25・SH26



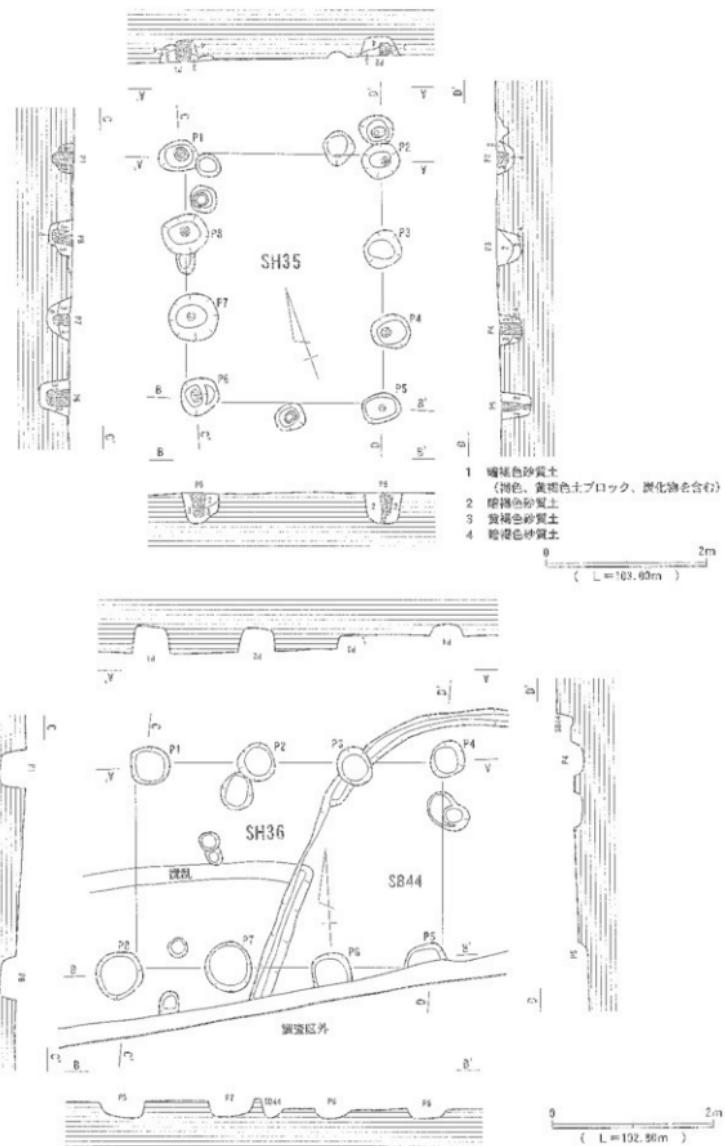
第164図 SH27



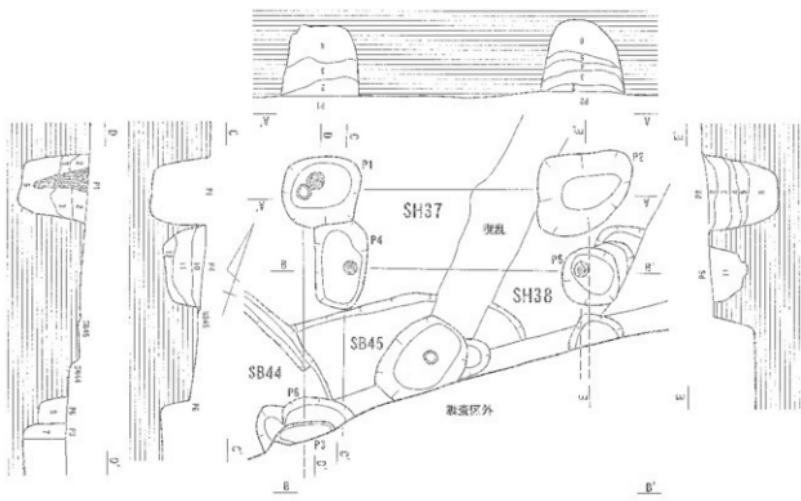
第165図 SH30, SH31



第166図 SH32, SH33・SH34



第167図 SH35, SH36



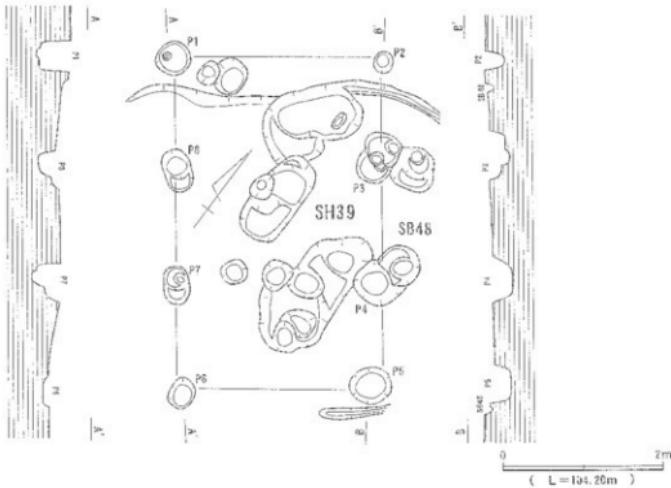
(SH37)

- 1 深褐色砂質土
- 2 軽褐色砂質土
- 3 深褐色砂質土
- 4 貫褐色砂質土
(褐綠色、褐色土ブロックを多く含む)
- 5 細褐色砂質土
(褐色、褐色土ブロックを含む)
- 6 黃褐色砂質土
- 7 軽褐色砂質土
- 8 墓褐色砂質土

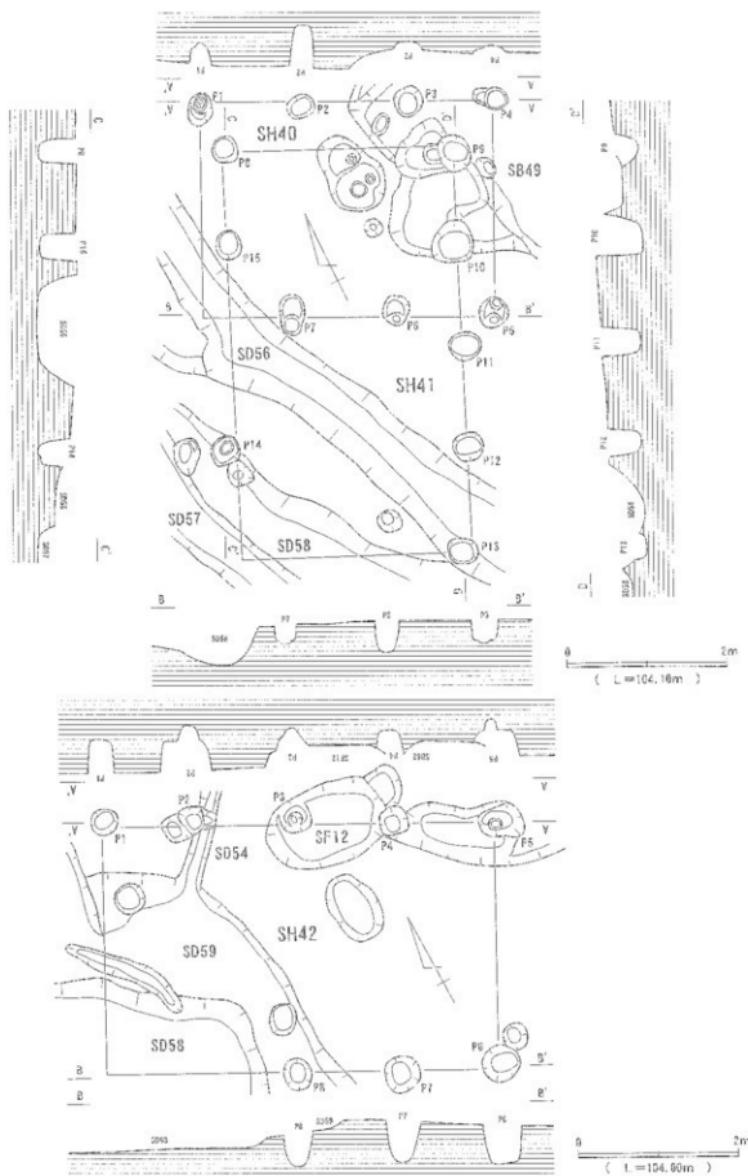
(SH38)

- 9 深褐色砂質土 (炭化物を含む)
- 10 軽褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
- 11 深褐色砂質土 (褐色、貫褐色土ブロック、炭化物、板土粒を含む)
- 12 黃褐色砂質土

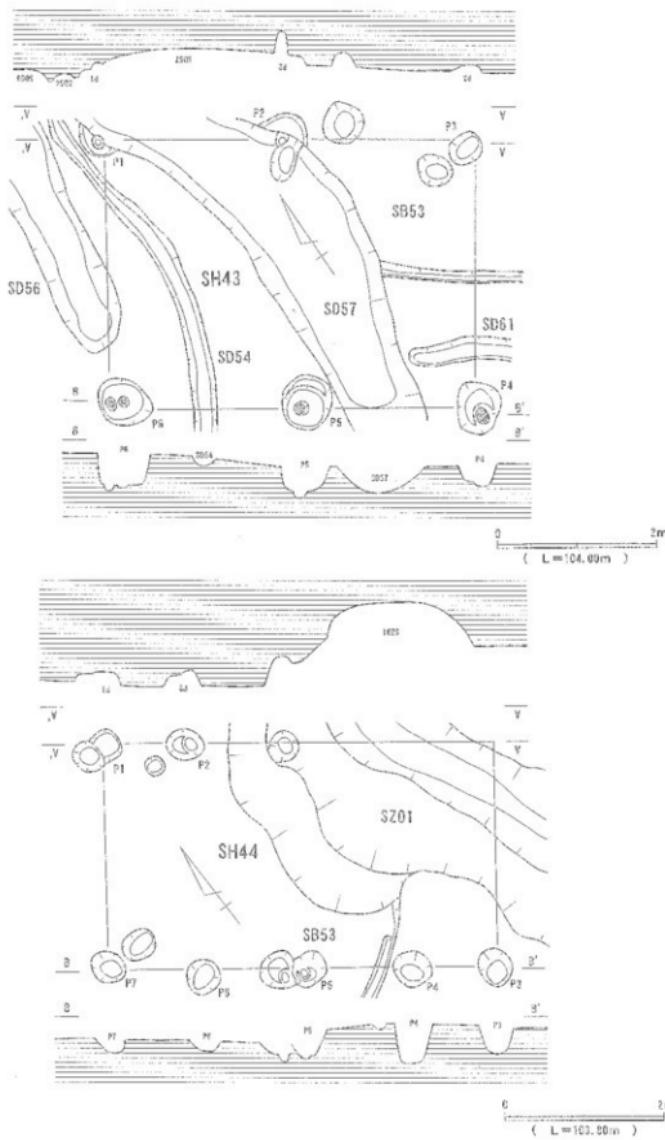
0 (L = 162.35m) 2m



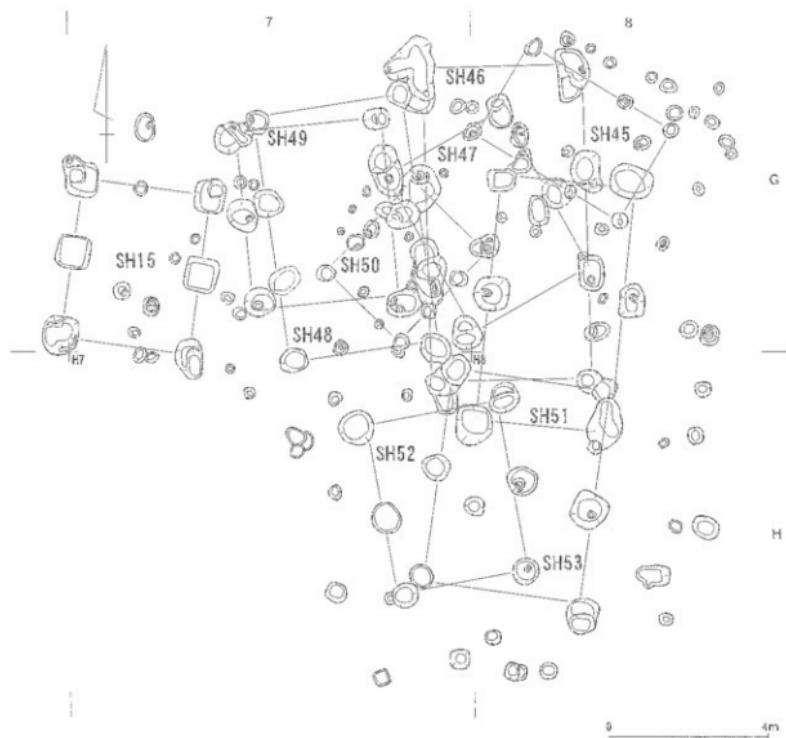
第168図 SH37・SH38, SH39



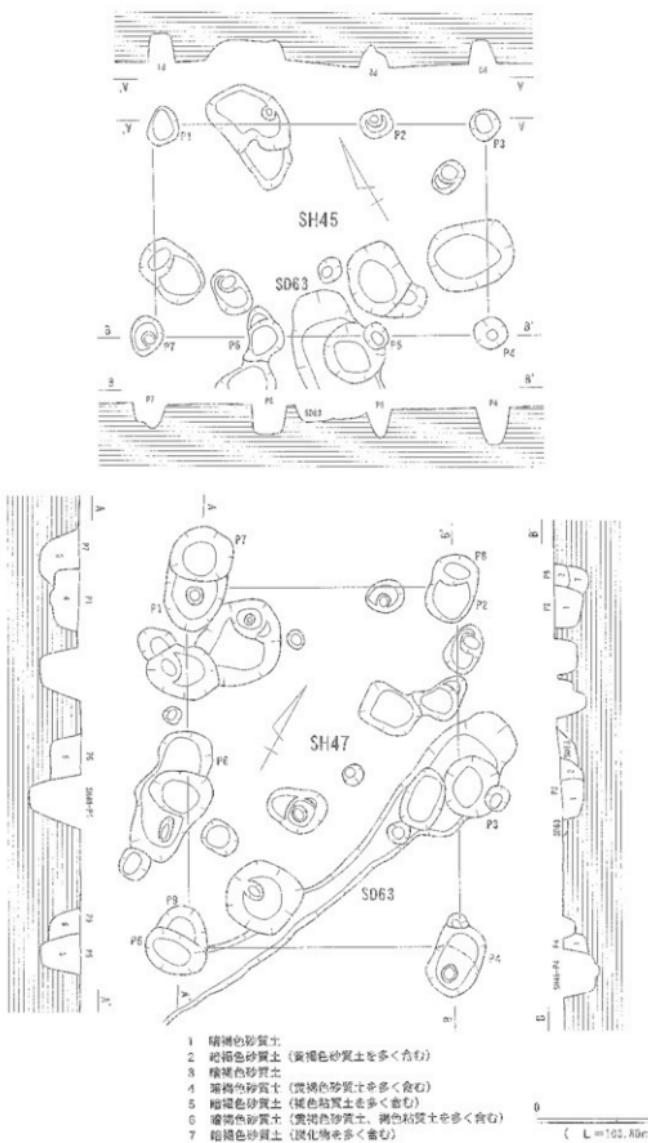
第169図 SH40~SH42



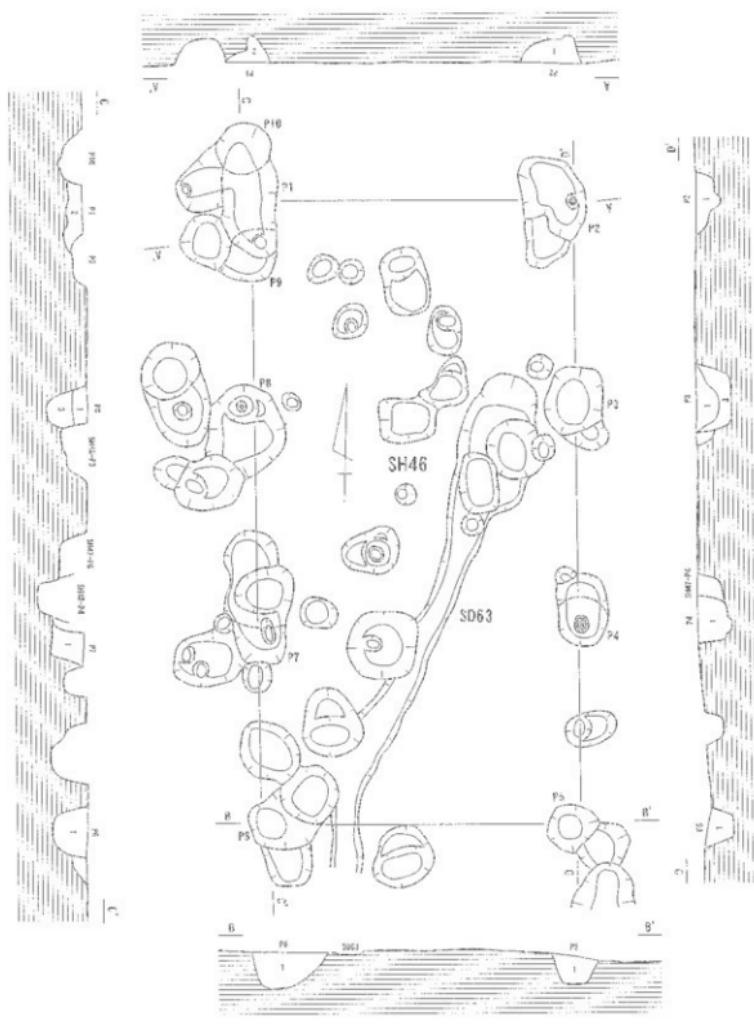
第170図 SH43, SH44



第171図 SH45～SH53



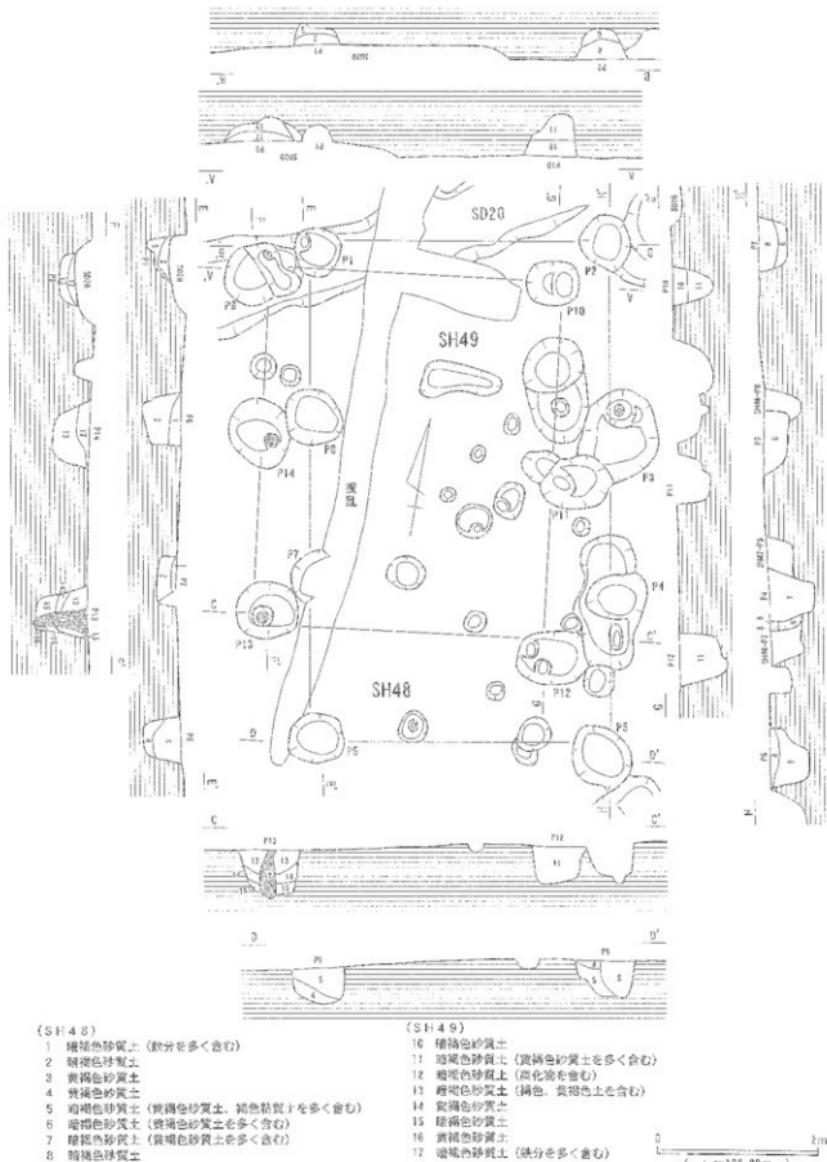
第172図 SH45, SH47



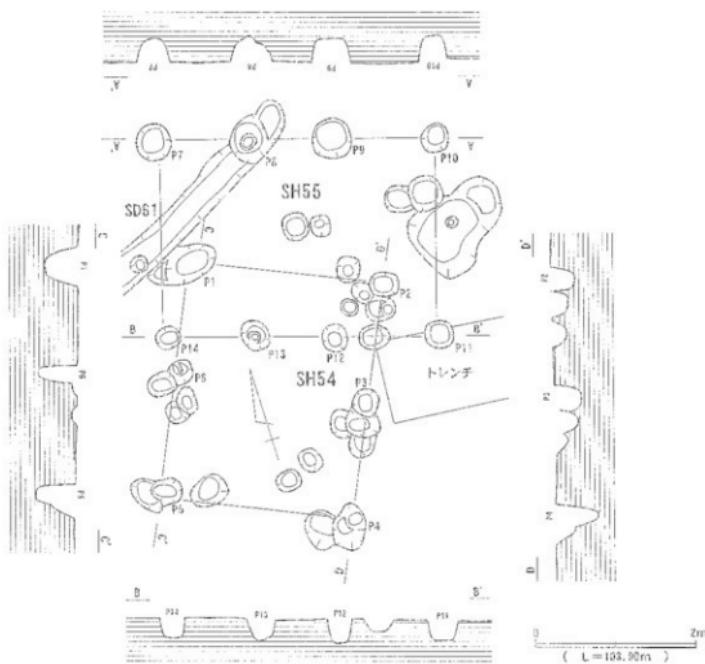
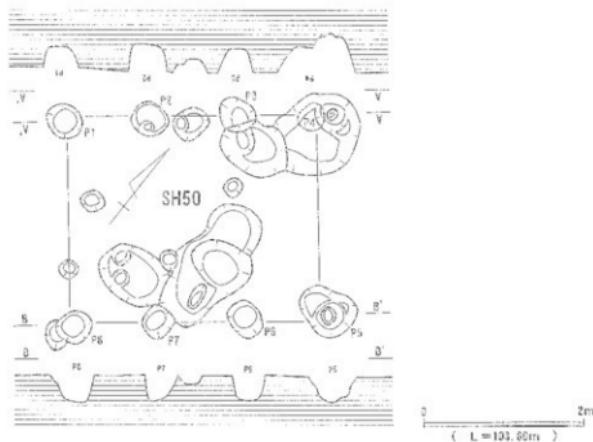
- 1 灰褐色沙質土
- 2 灰褐色沙質土
- 3 灰褐色沙質土(灰褐色沙質土含多量貝殼)

L = 100.80 m 2m

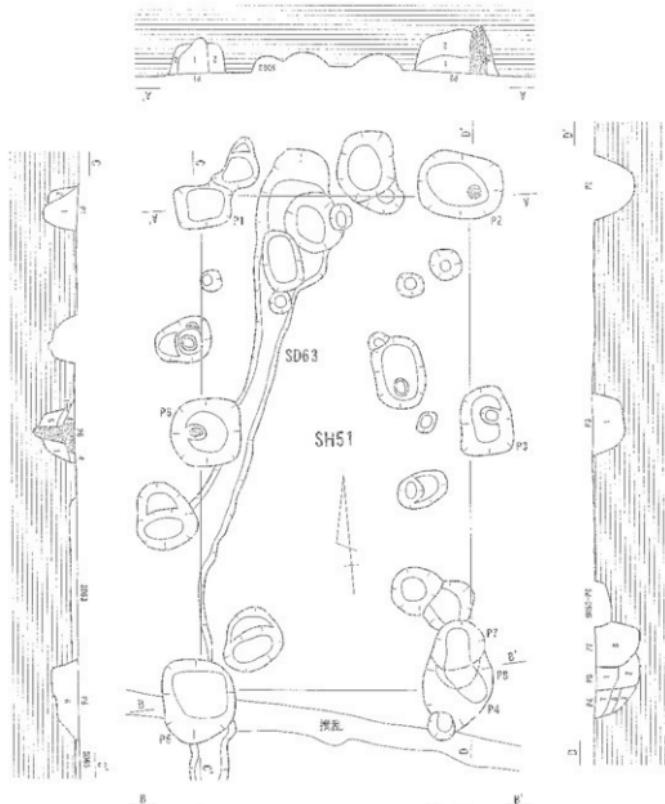
第173圖 SH46



卷174圖 SH42 - SH49



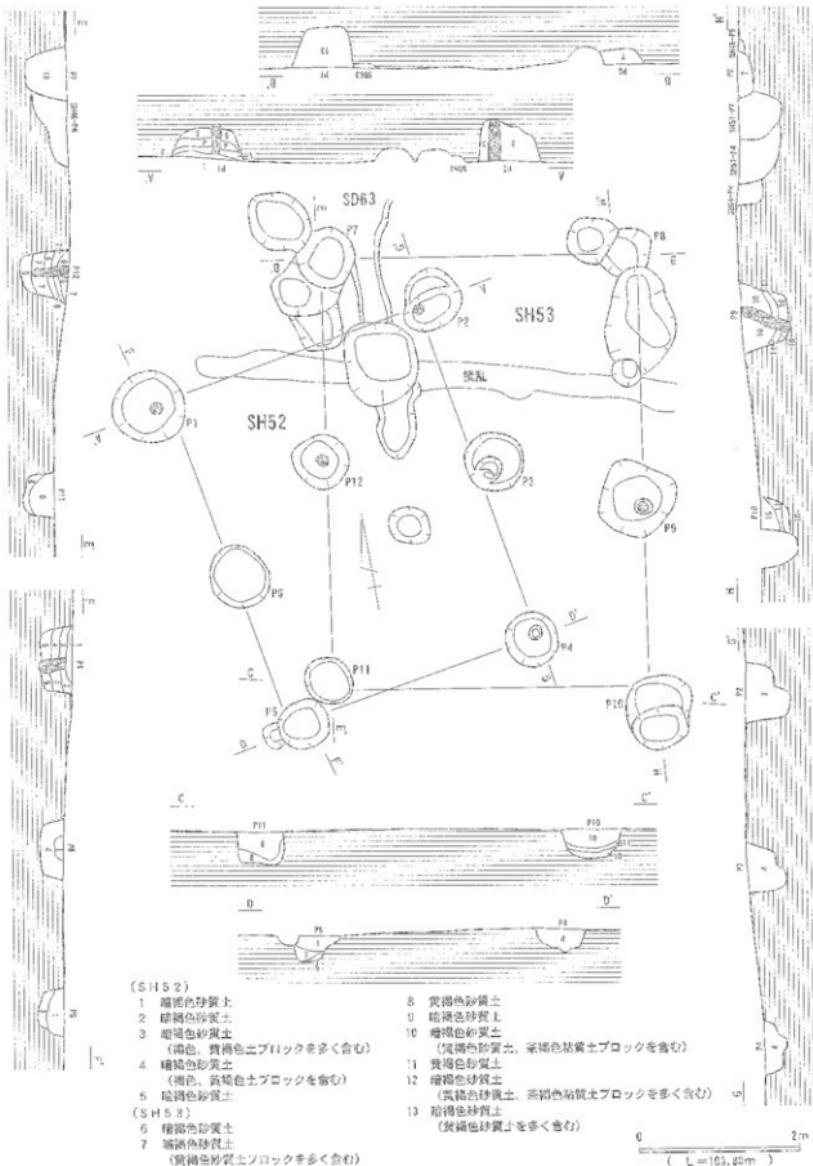
第175圖 SH50, SH54・SH55



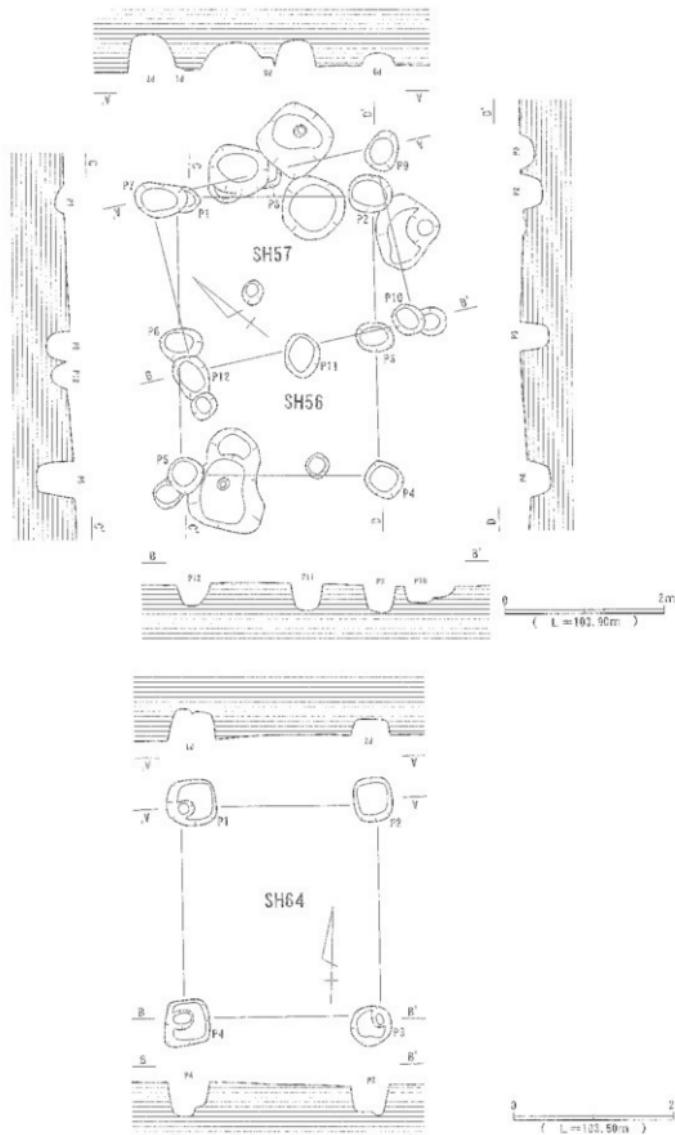
- 1 増殖色砂質土
(黃褐色砂質土を多く含む)
- 2 糜褐色砂質土
(黄褐色砂質土を多く含む)
- 3 糜褐色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 暗褐色砂質土
- 6 糜褐色砂質土
(暗褐色砂質土、褐色粘質土を多く含む)
- 7 増殖色砂質土
(黄褐色砂質土を多く含む)
- 8 糜褐色砂質土

0 2m
(L = 163.89m)

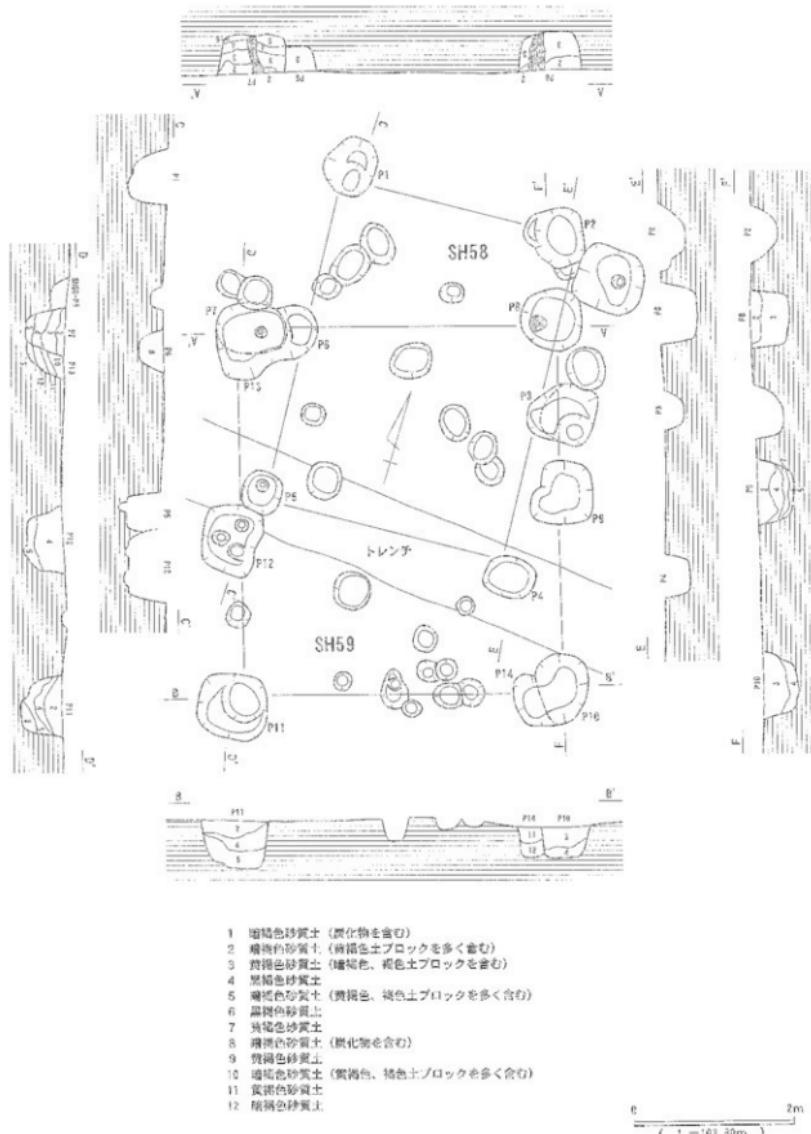
第176圖 SH51



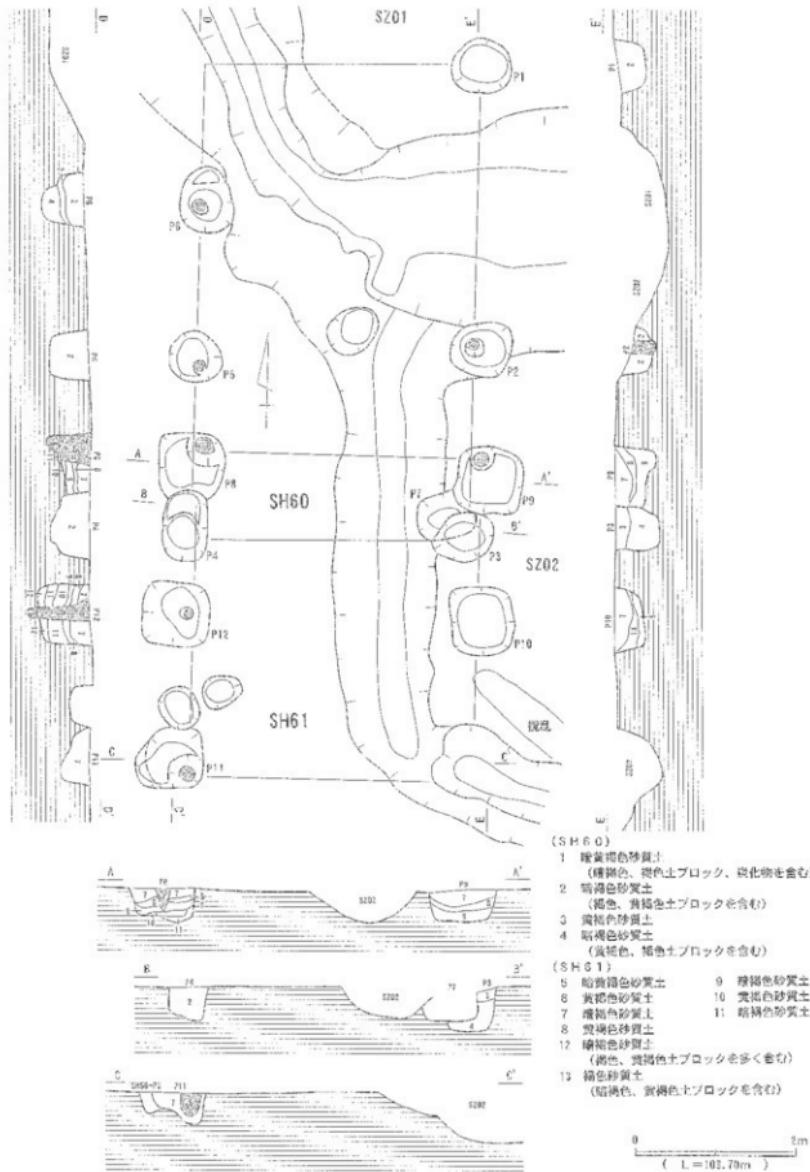
第177図 SH52・SH53



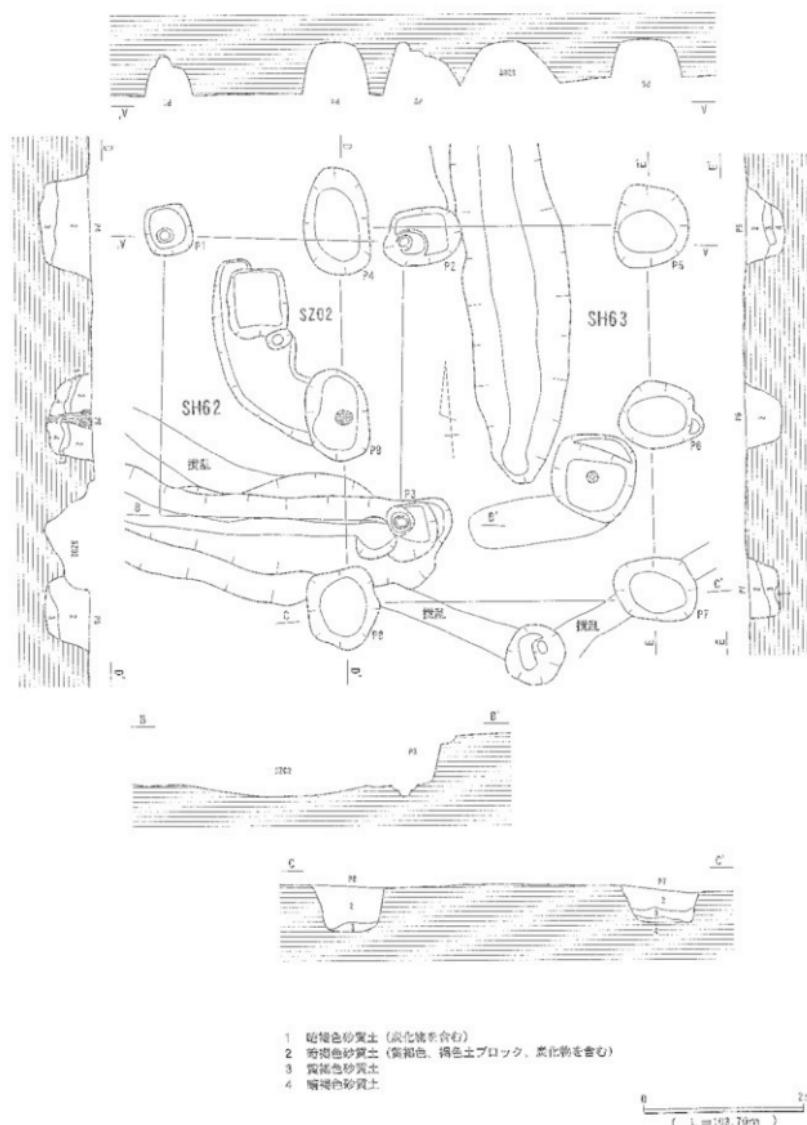
第178図 SH56・SH57, SH64



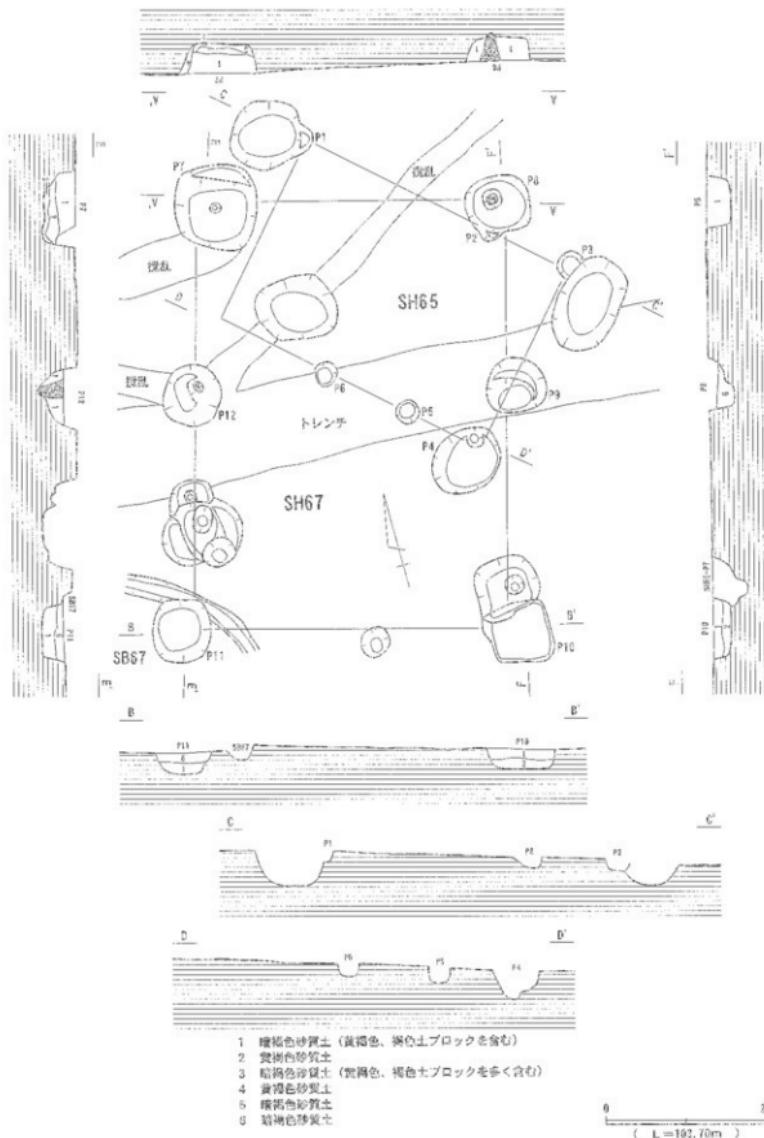
第179図 SH58・SH59



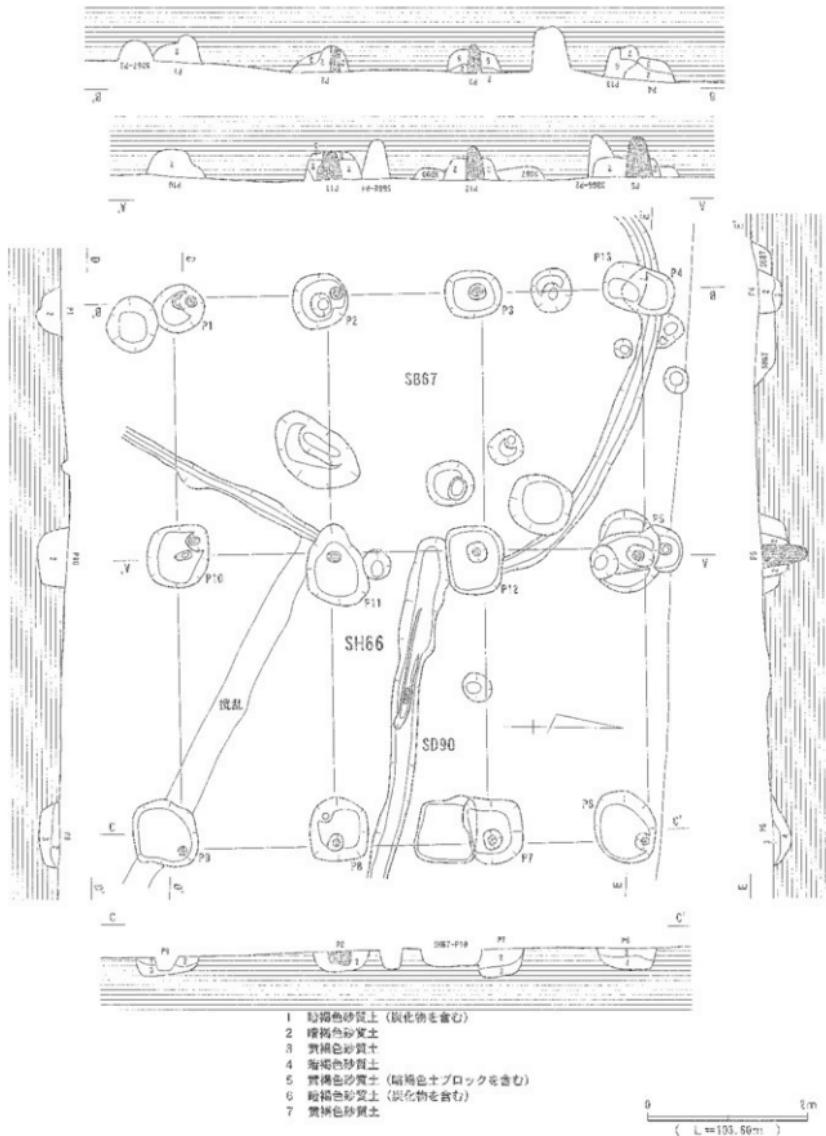
第180図 SH60・SH61



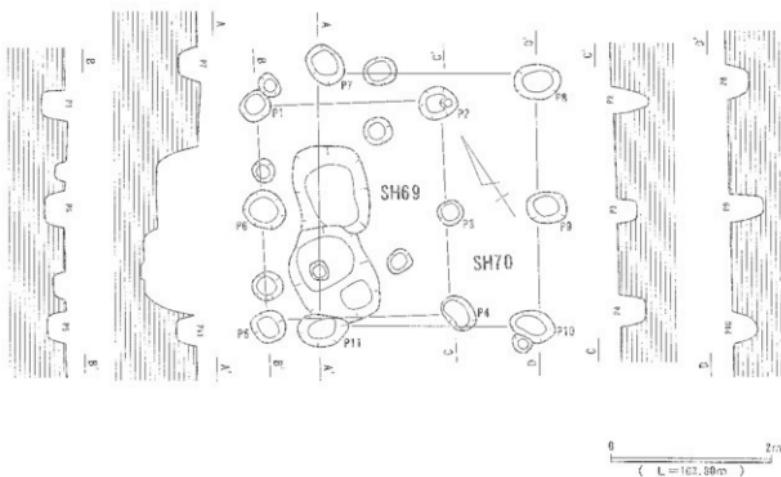
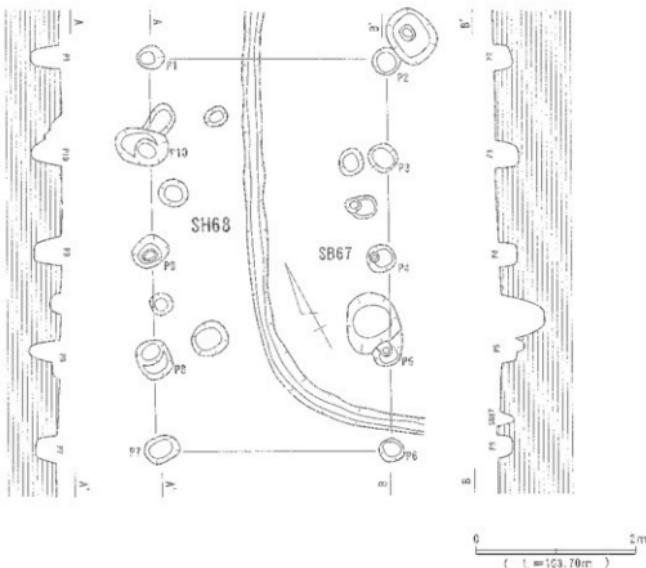
第181図 SH62・SH63



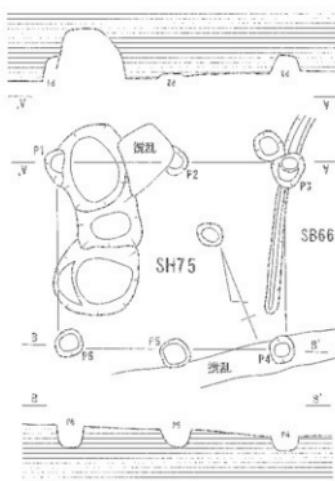
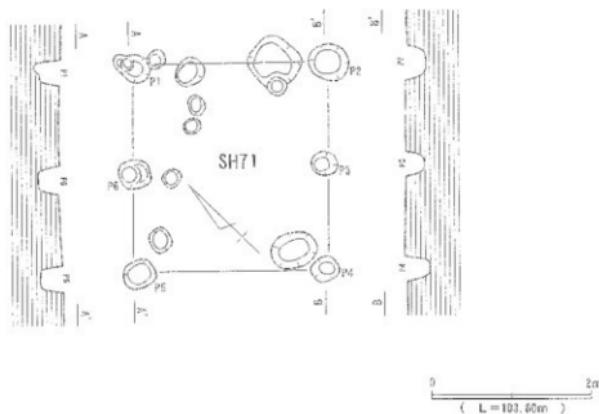
第182図 SH65・SH67



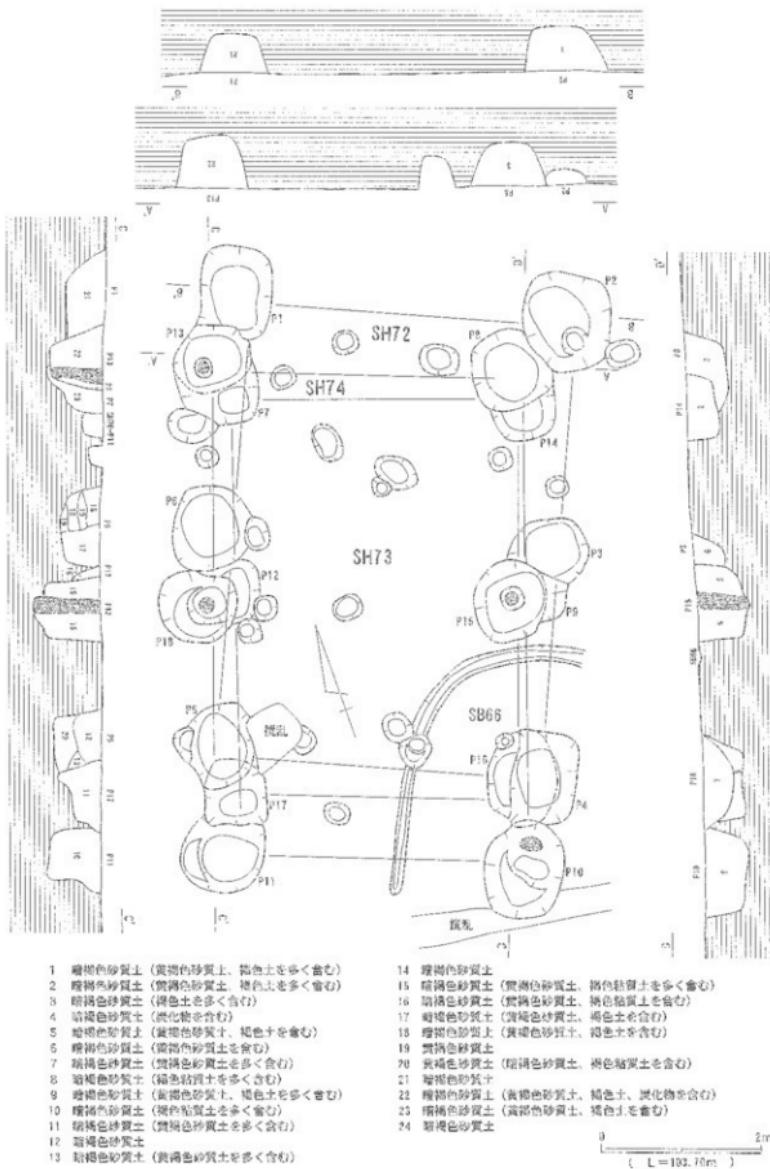
第183図 SH-166



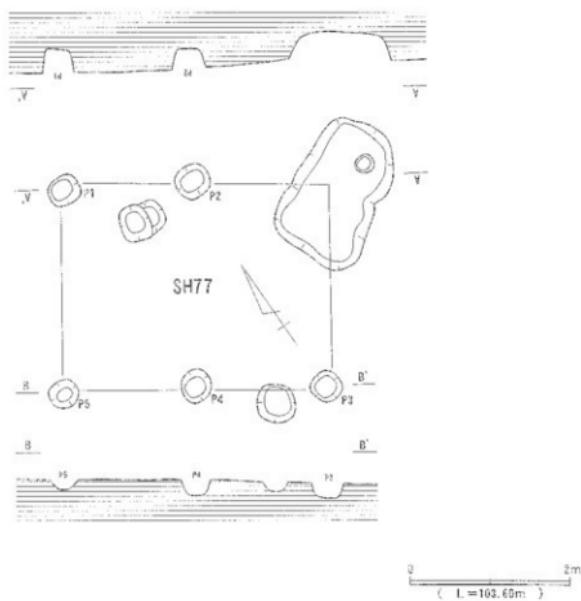
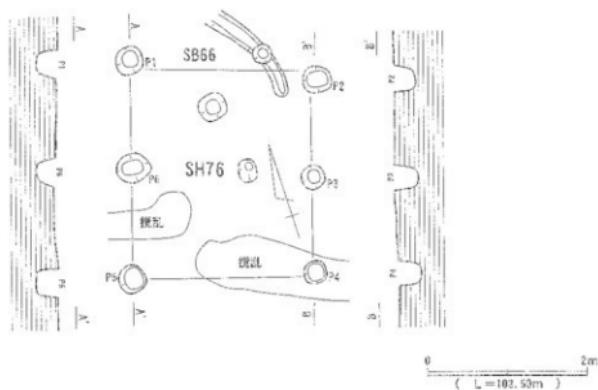
第184圖 SH68, SH69・SH70



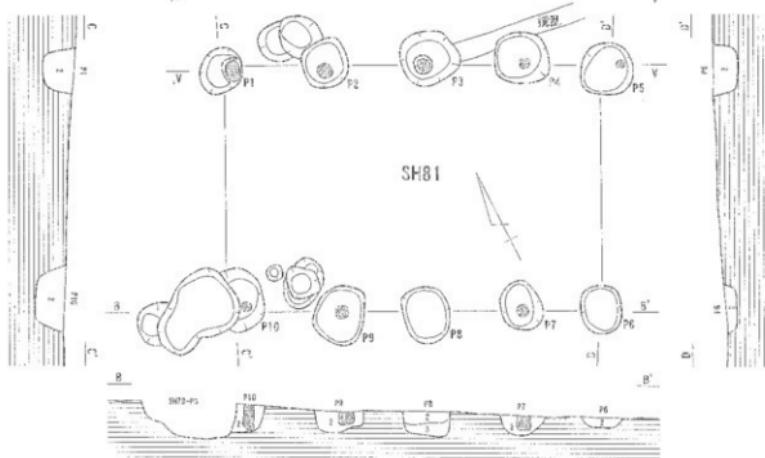
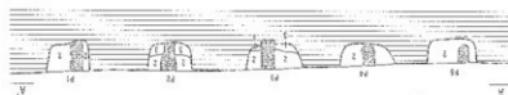
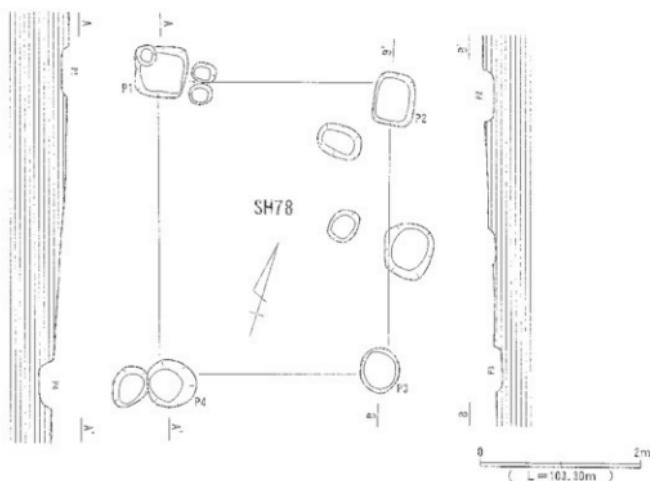
第185図 SH71, SH75



第186圖 SH72~SH74



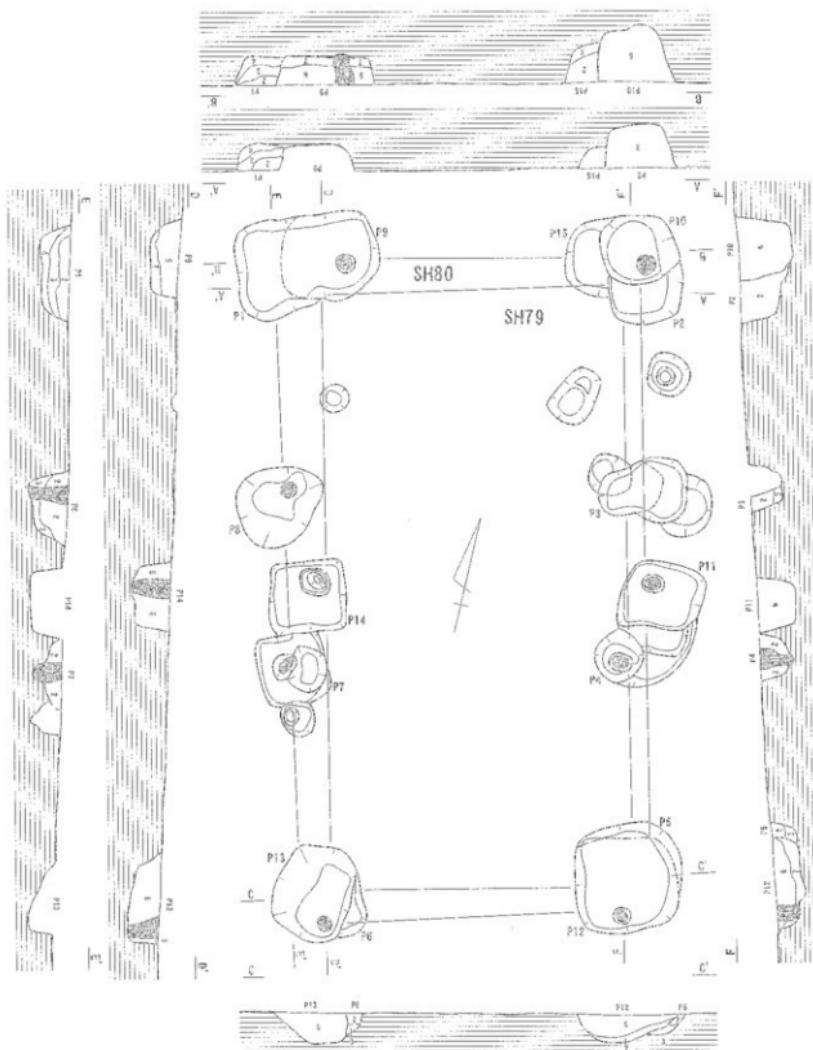
第187図 SH76, SH77



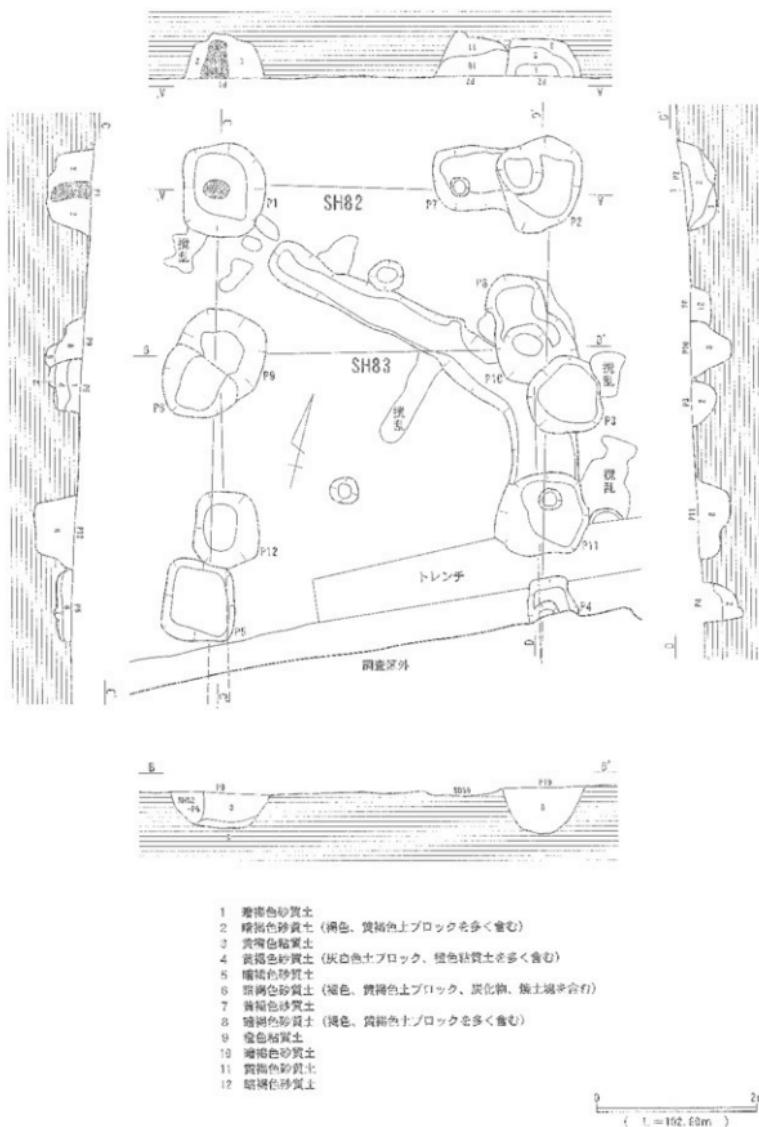
- 1 緑褐色砂質土
- 2 緑褐色砂質土(褐色、黄褐色土ブロックを多く含む)
- 3 黄褐色砂質土

0 2m
(L = 103.40m)

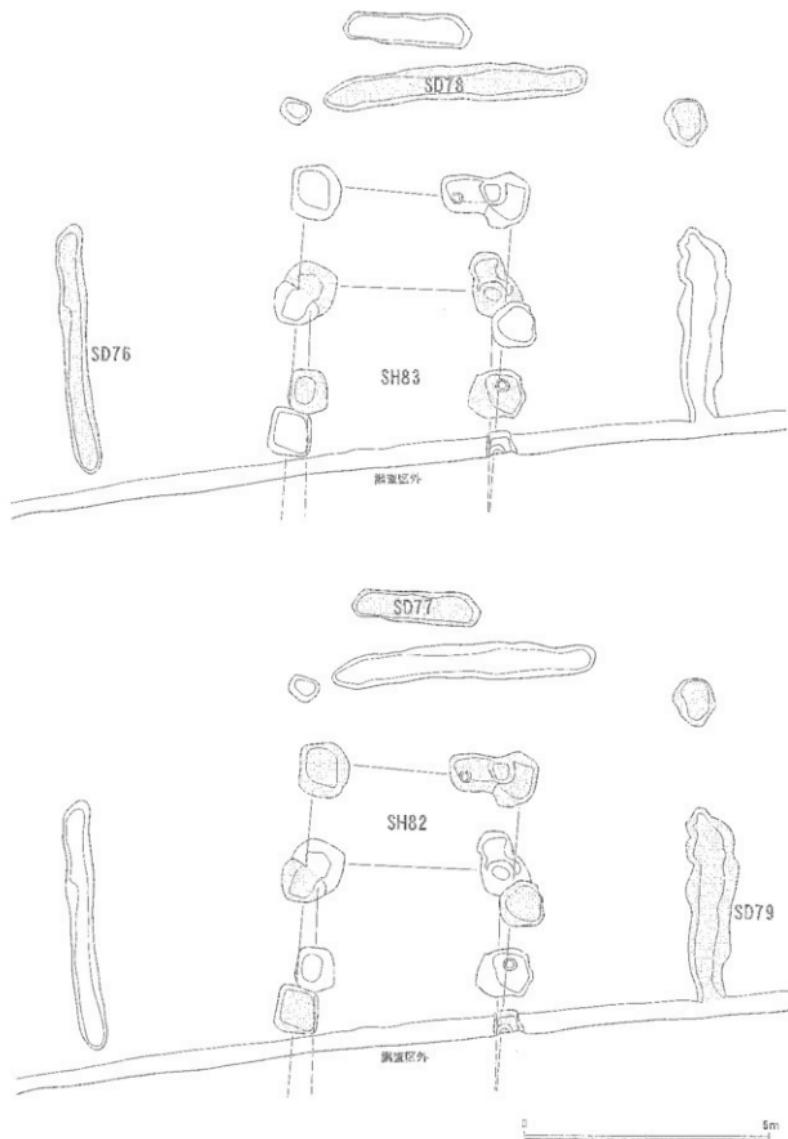
第188図 SH78, SH81



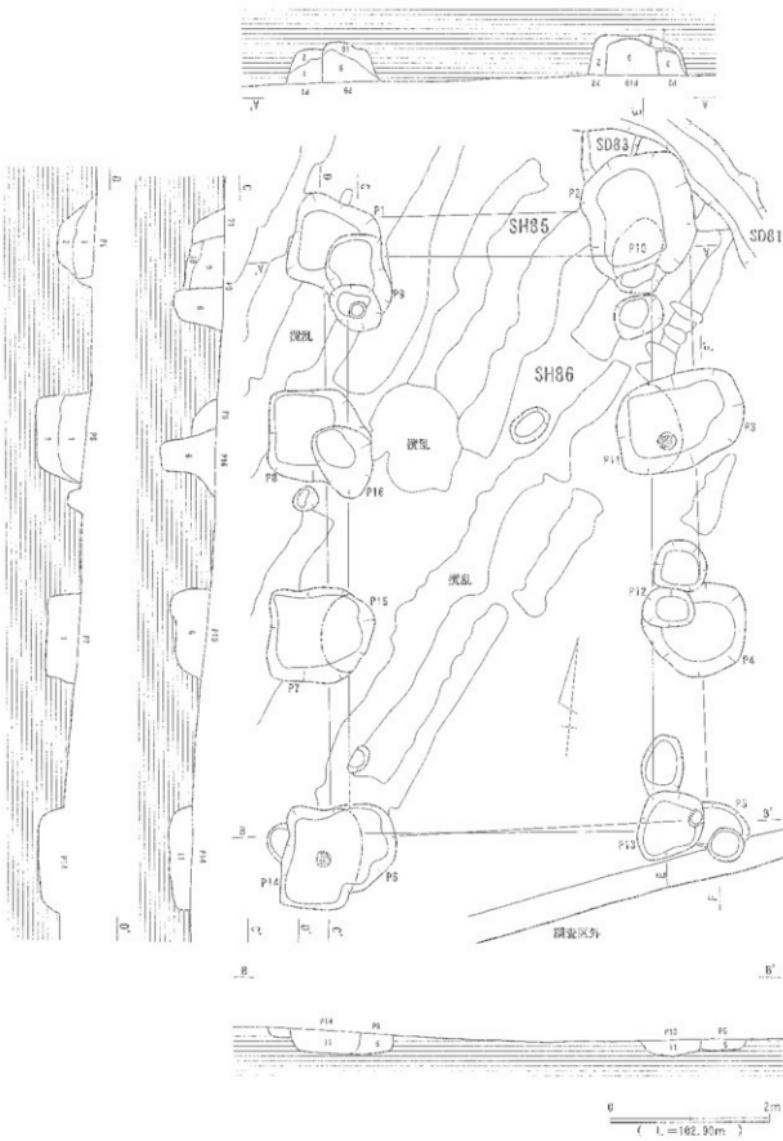
第189圖 SH79・SH80



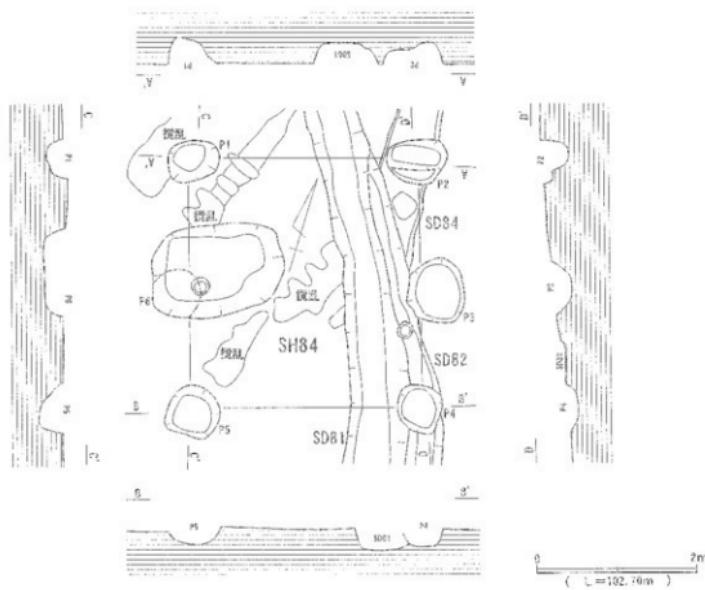
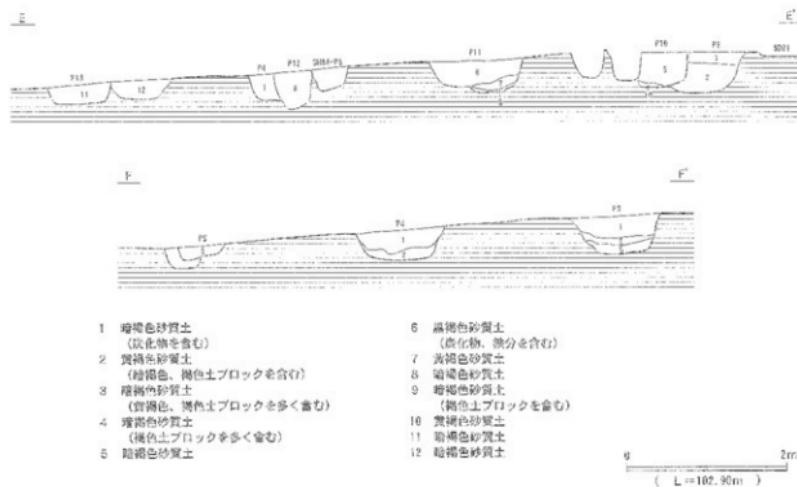
第190回 SH82・SH83



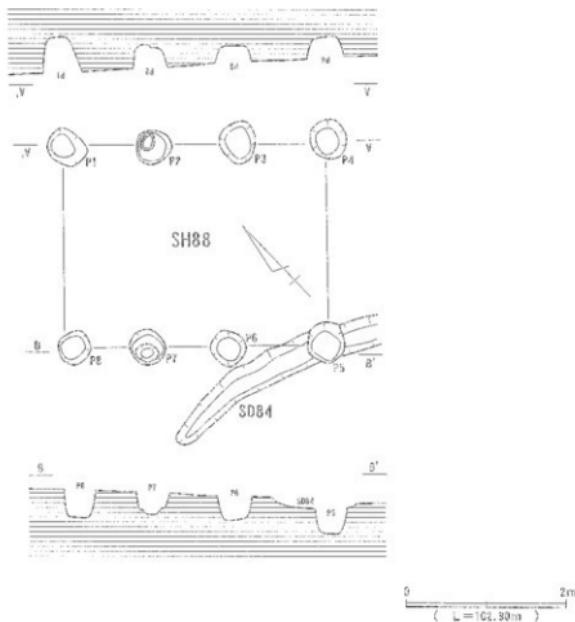
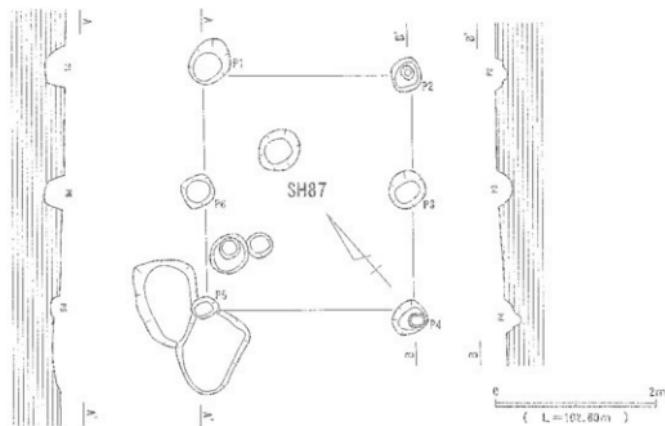
第191図 SH82・SH83, SD76～SD79



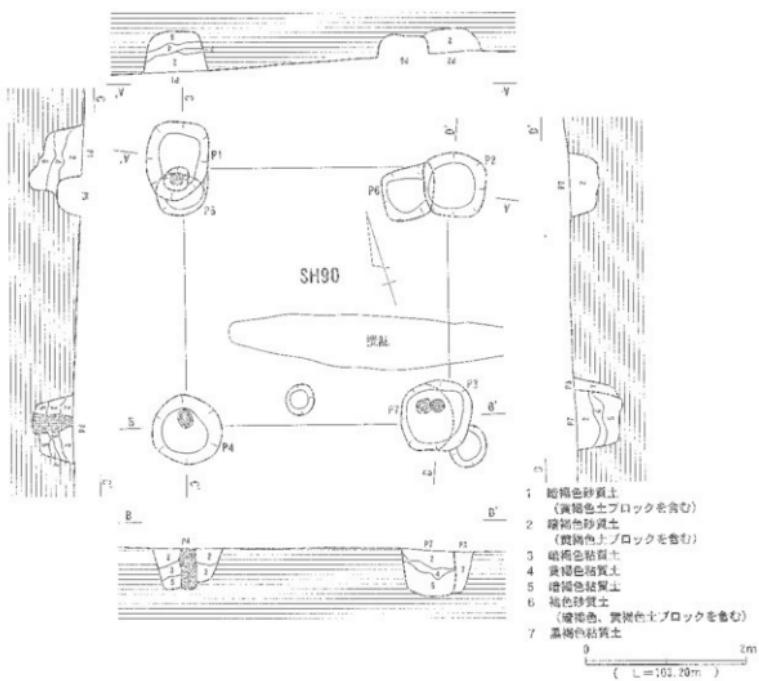
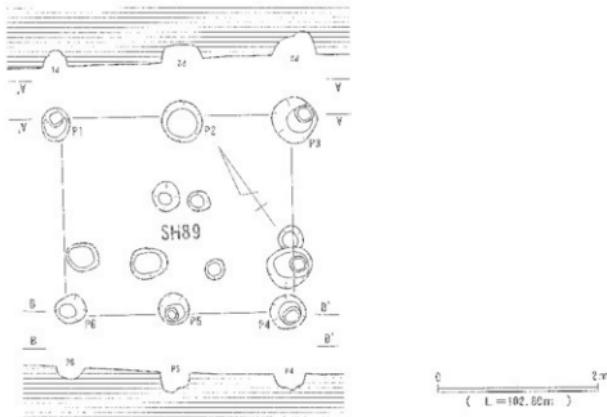
第192圖 SH85・SH86



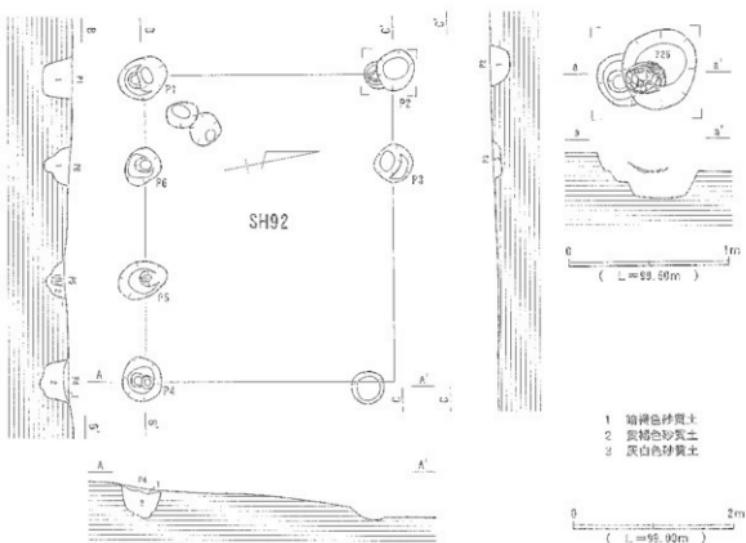
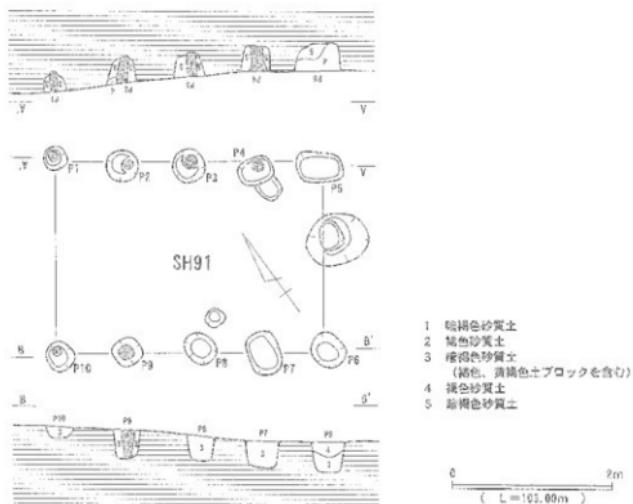
第193図 SH84, SH85・SH86



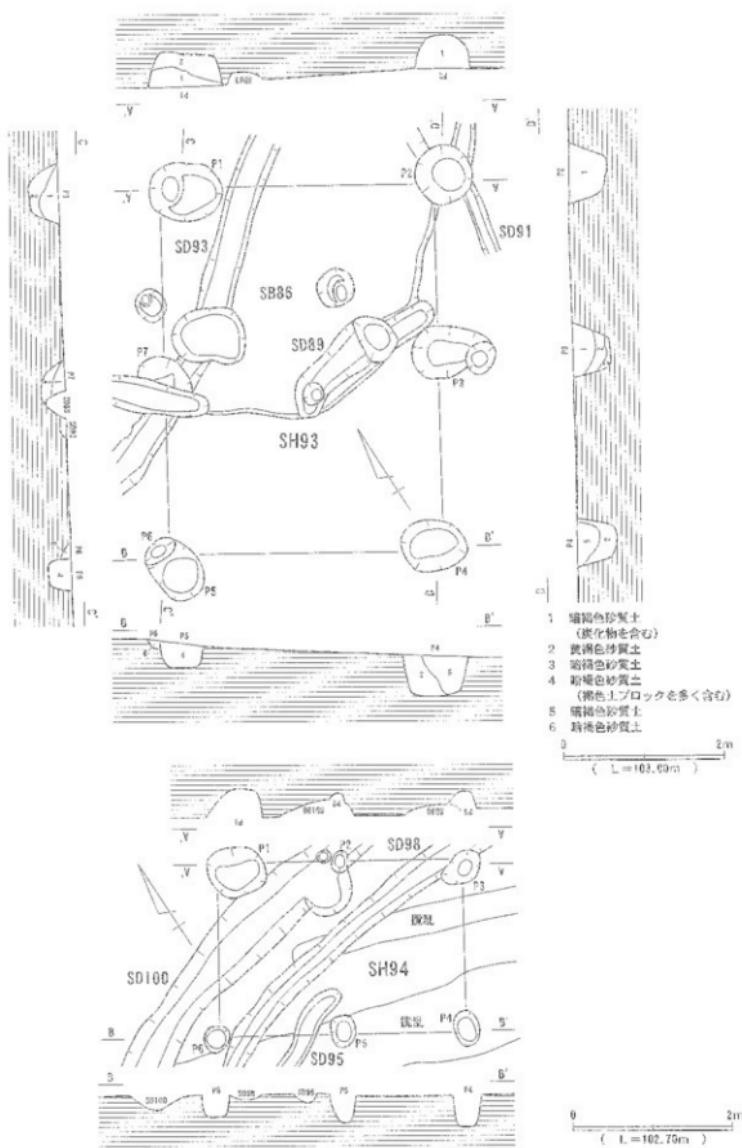
第194図 SH87, SH88



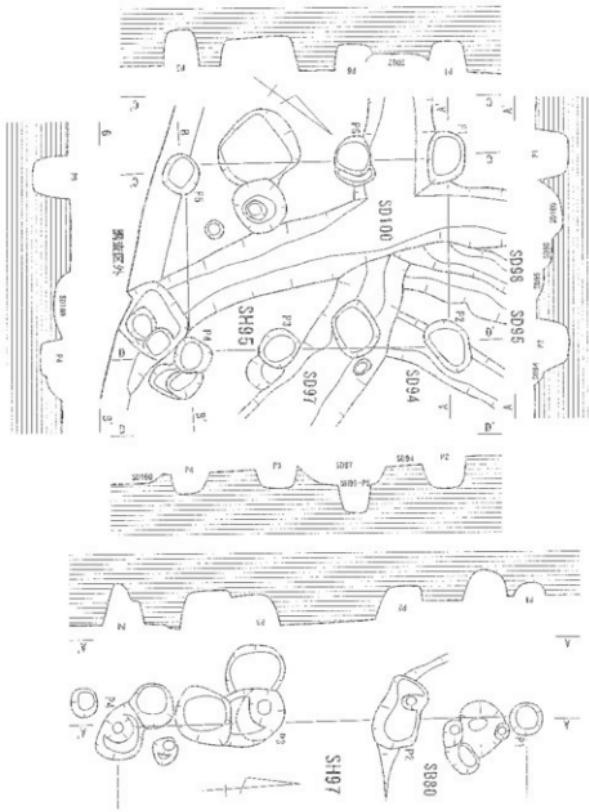
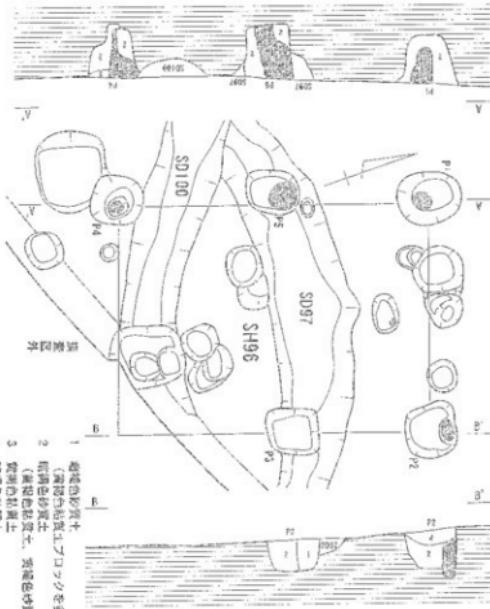
第195図 SH89, SH90



第196図 SH91, SH92

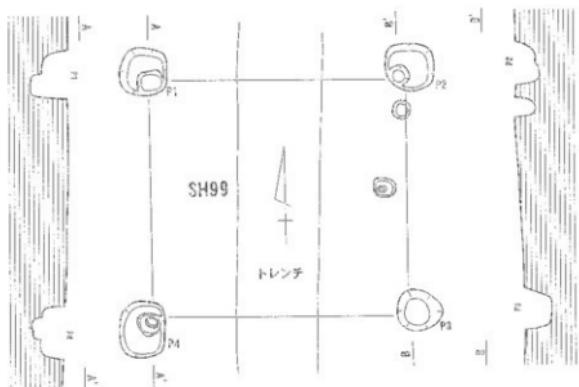
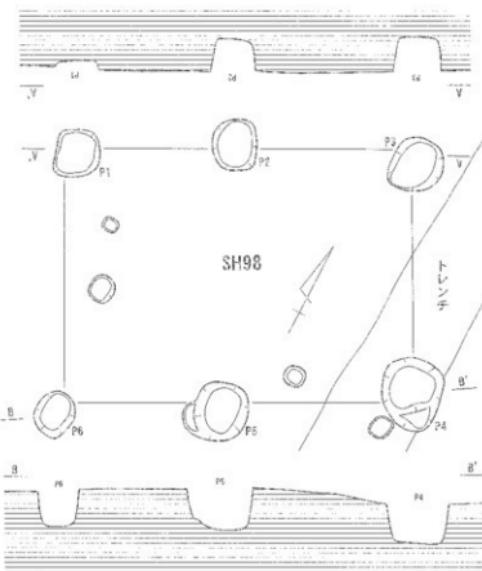


第197図 SH93, SH94



第198回 SH95, SH96, SH97

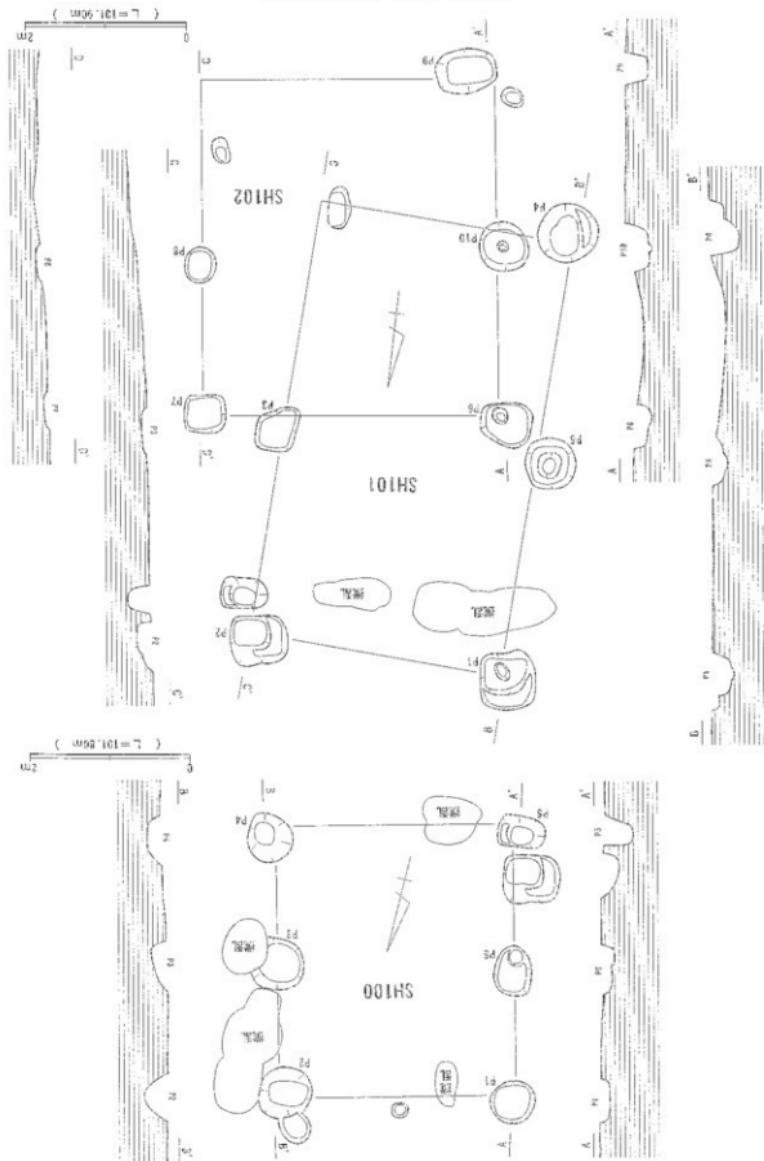
(薄褐色白粘土) ブロックを多く含む
暗褐色砂質土
（薄褐色粘土、黄褐色砂質土を多く含む）
暗褐色砂質土
暗褐色砂質土
(薄褐色土) ブロックを多く含む

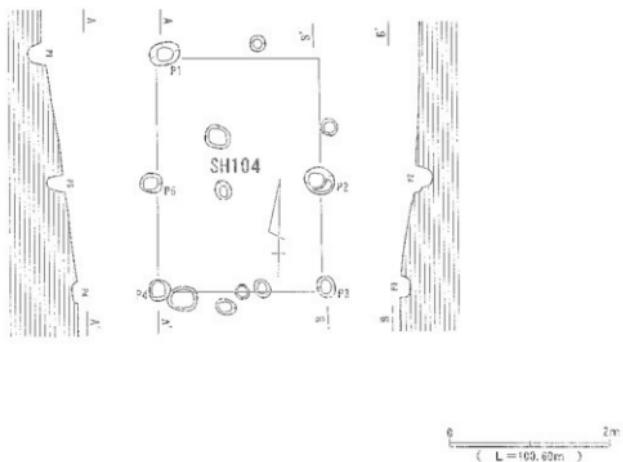
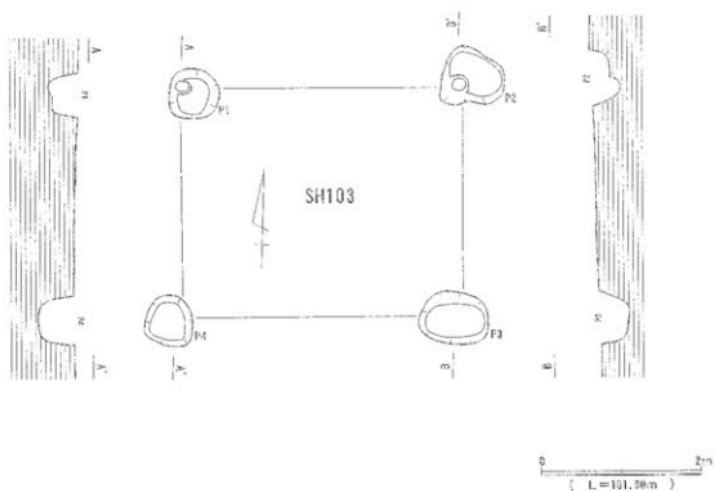


0 2m
(L = 102.30m)

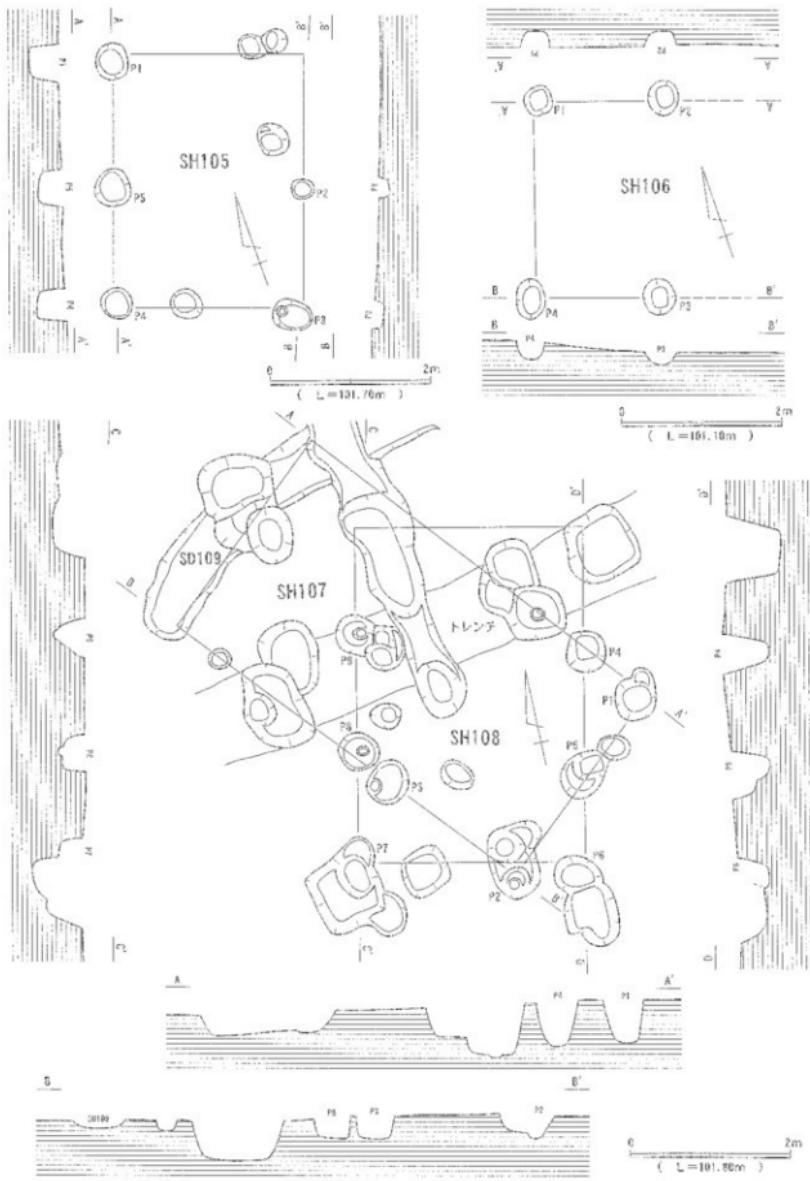
第199図 SH98, SH99

第200回 SH100・SH101・SH102

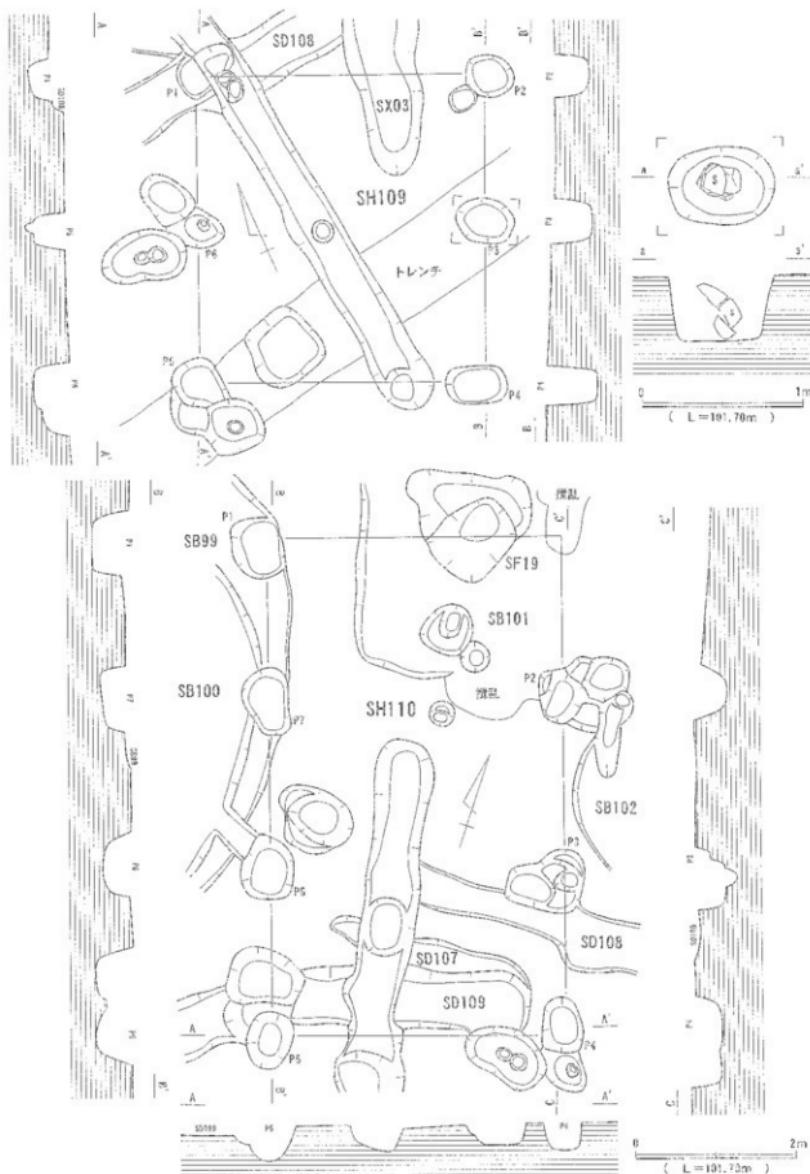




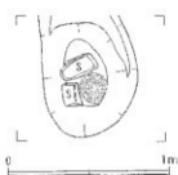
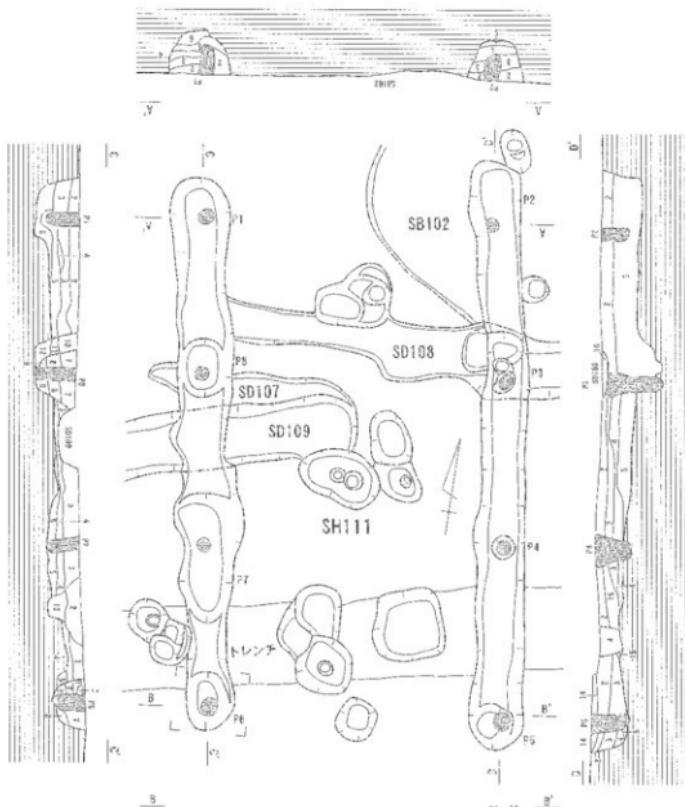
第201図 SH103, SH104



第202図 SH105~SH108



第203図 SH109, SH110



- 1 棕褐色砂質土
2 褐褐色砂質土
3 黄褐色砂質土
4 棕褐色砂質土
5 黄褐色砂質土
6 黄褐色砂質土
7 黄褐色砂質土 (褐色、黄褐色+ブロックを含む)
8 黄褐色砂質土 (褐色、暗褐色土ブロックを含む)

- 9 棕褐色砂質土
10 硅消生砂質土
11 黄褐色砂質土
12 棕褐色砂質土
13 黄褐色砂質土
14 硅消生砂質土
15 黄褐色砂質土
16 棕褐色砂質土

0 1m
0 2m
(L = 161.00m)

第204図 SH111

圖205圖 SH112, SH117

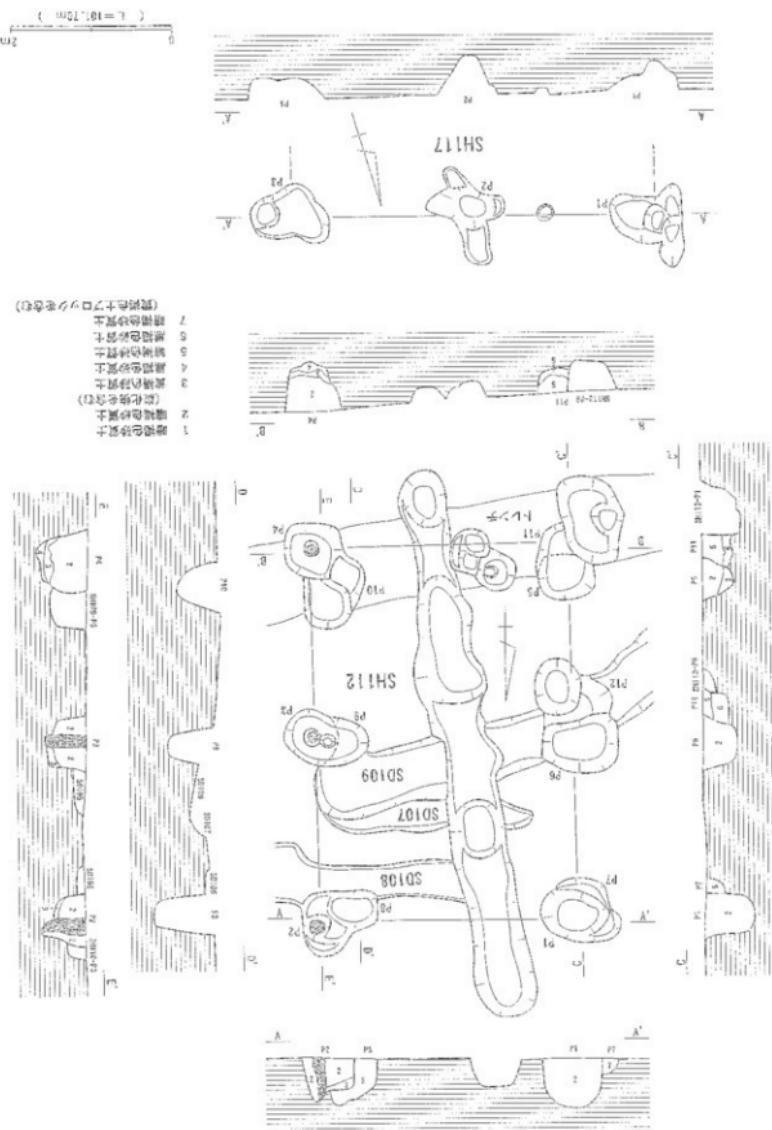
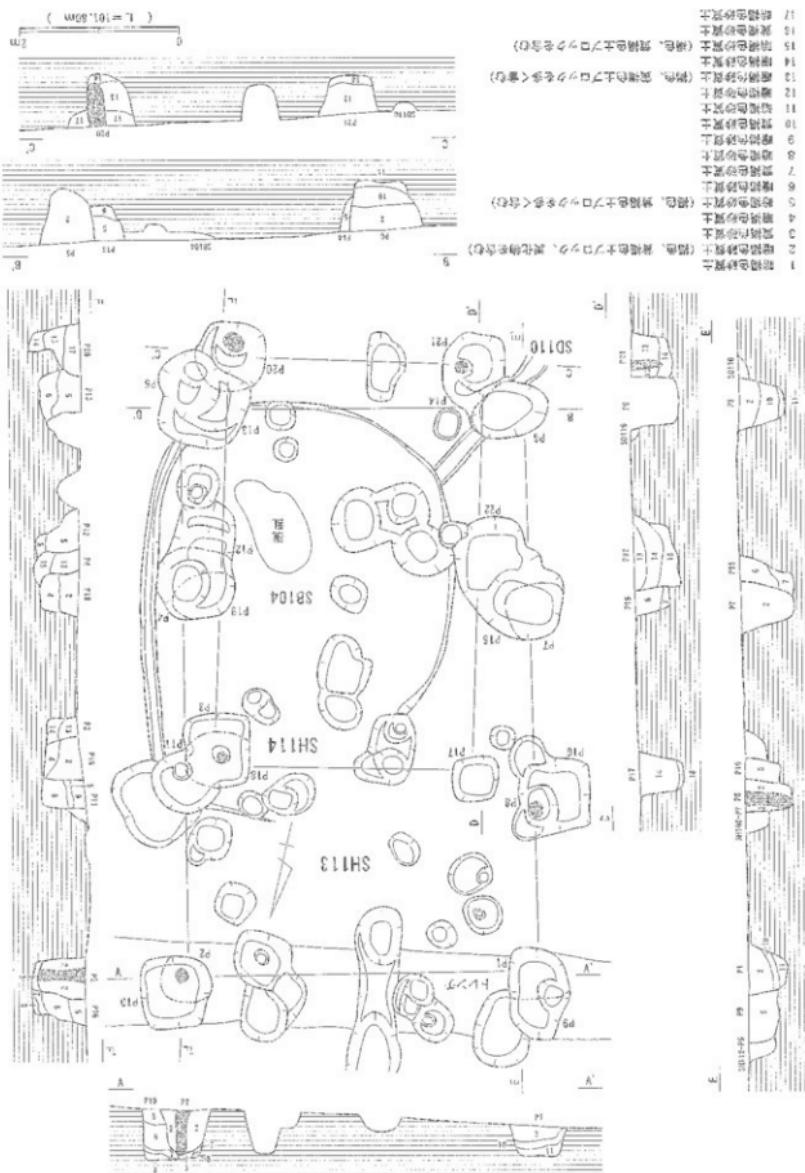
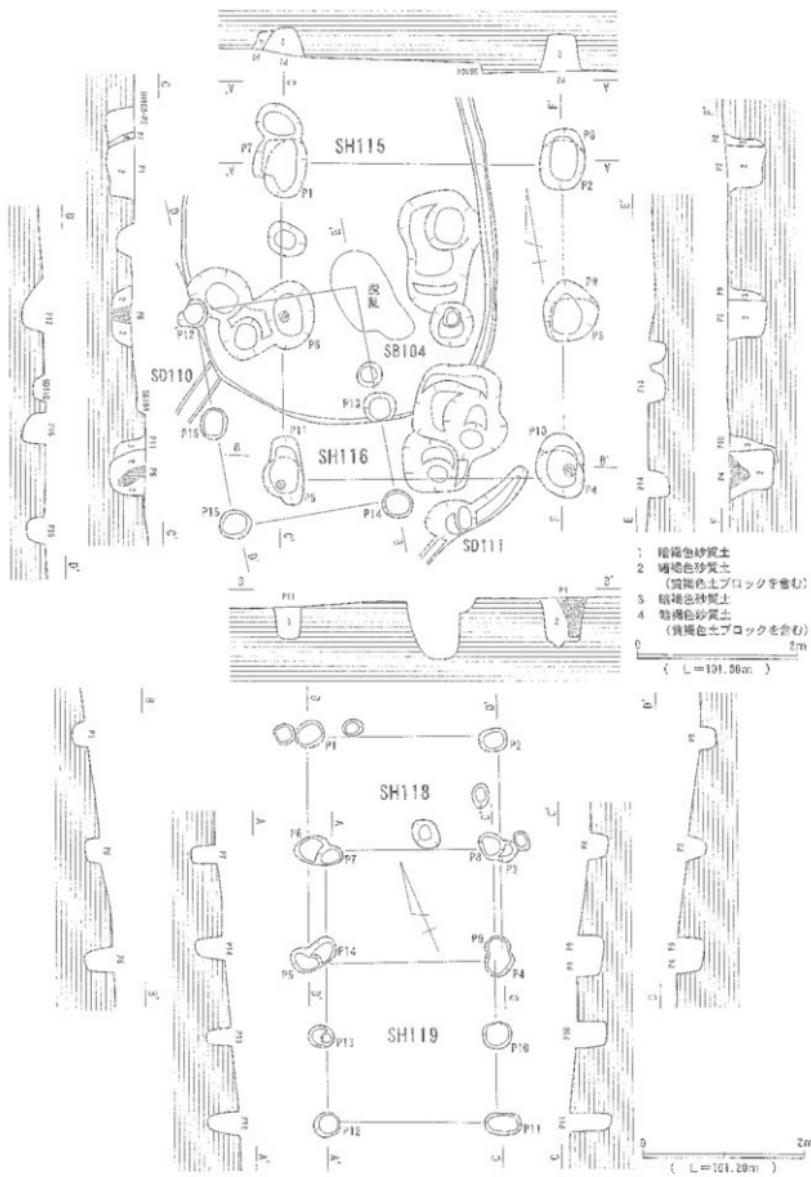
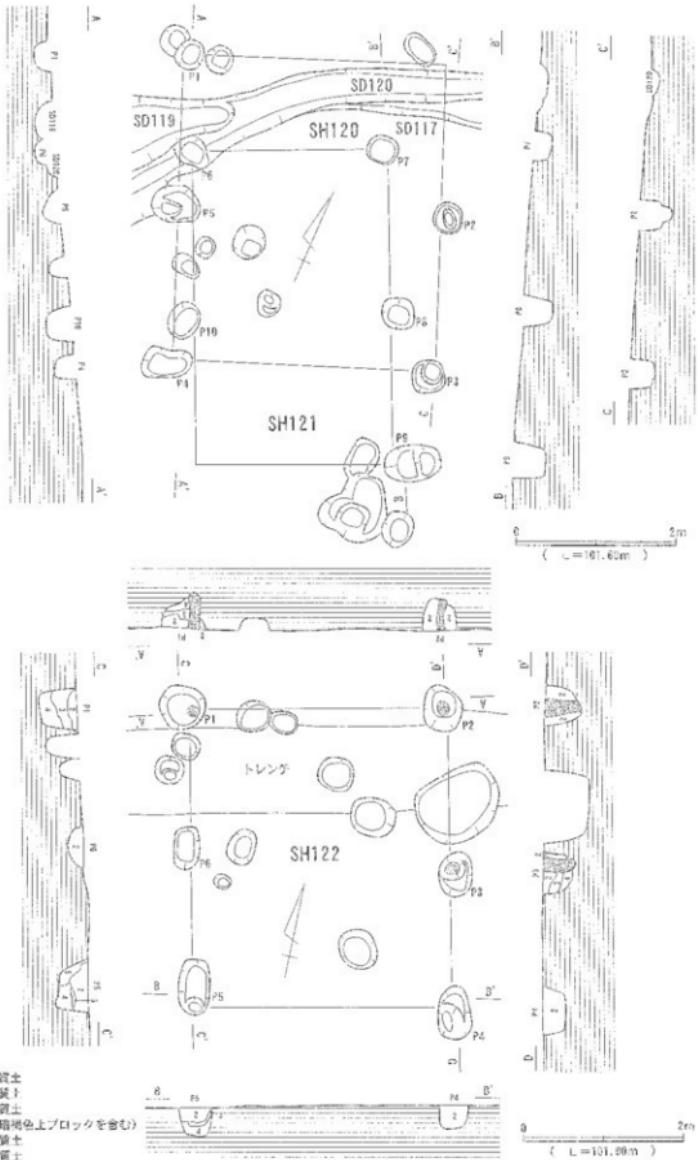


图206图 SH113·SH114

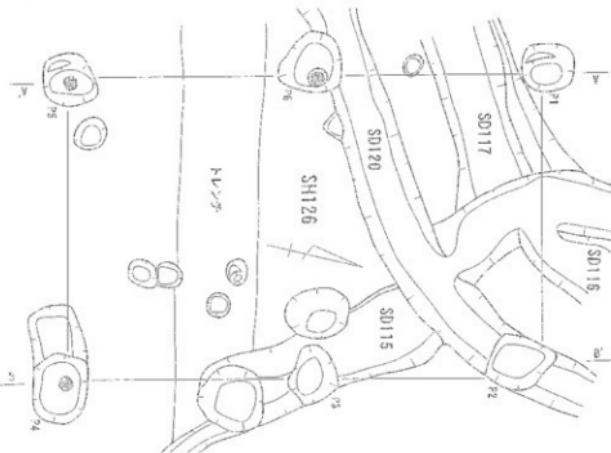
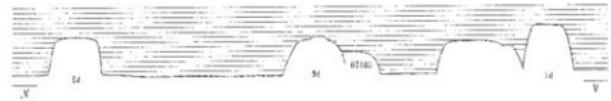




第207図 SH115・SH116, SH118・SH119

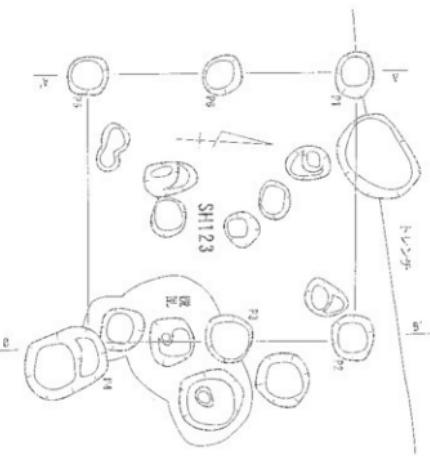


第208回 SH120~SH122



1. 深灰色砂質土
2. 褐褐色砂質土
3. 黄褐色砂質土
(褐色化質土、黄褐色化質土が多く含む)

第209図 SH123, SH125



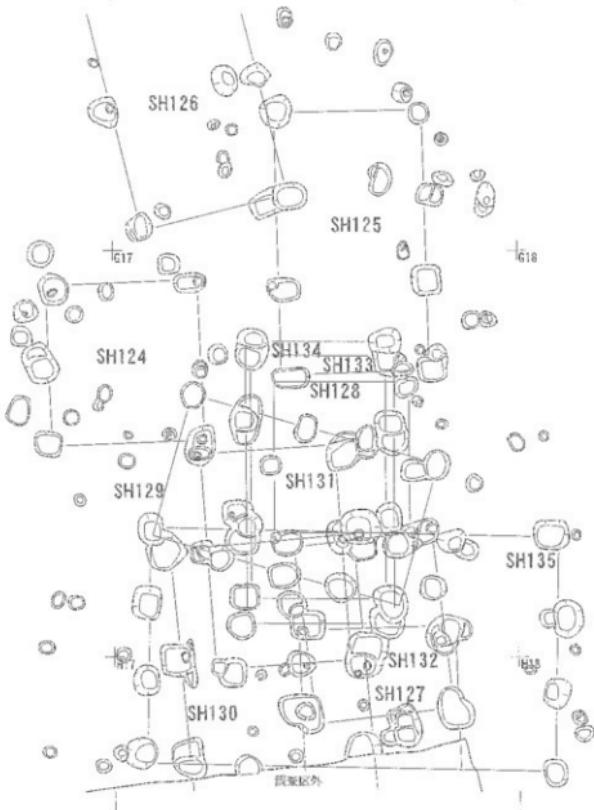
- 0
(L = 102.60m)
2m

16

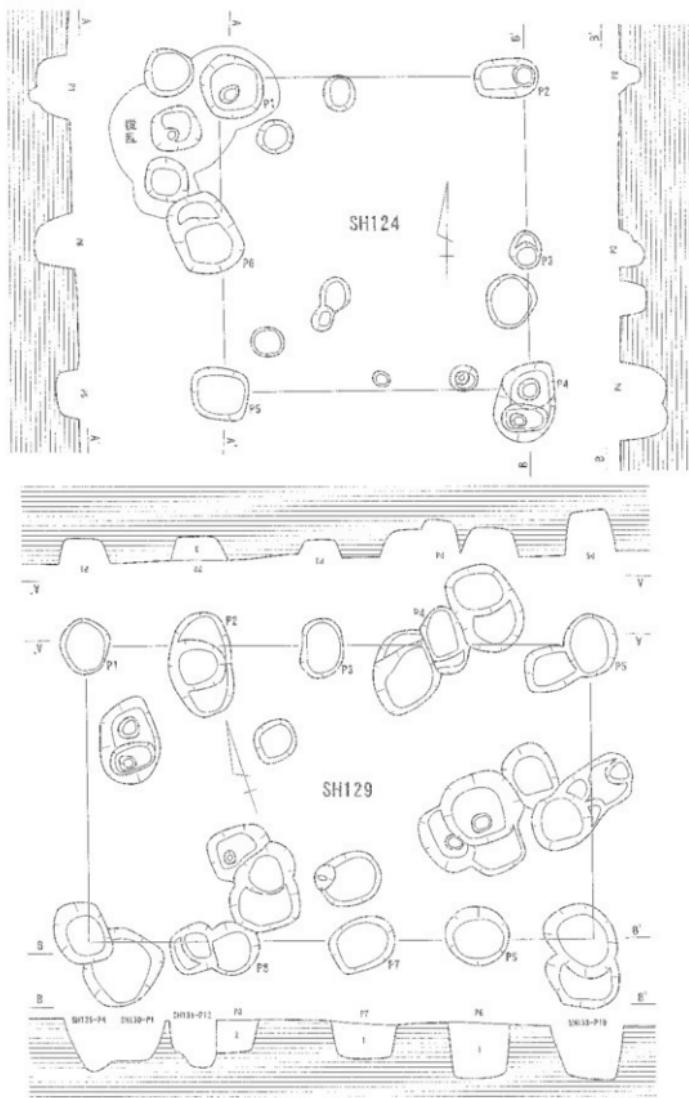
17

18

—



第210図 SH124~SH135



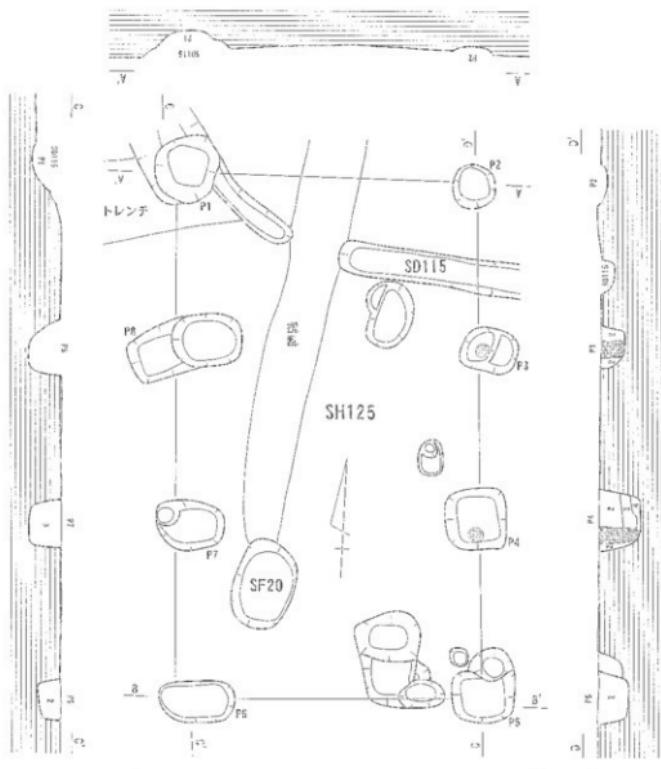
1 褐褐色砂質土 (褐色砂質土、黄褐色砂質土を多く含む)

2 黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土を多く含む)

3 褐色砂質土 (褐色砂質土を多く含む)

0 2m
(L = 101.98m)

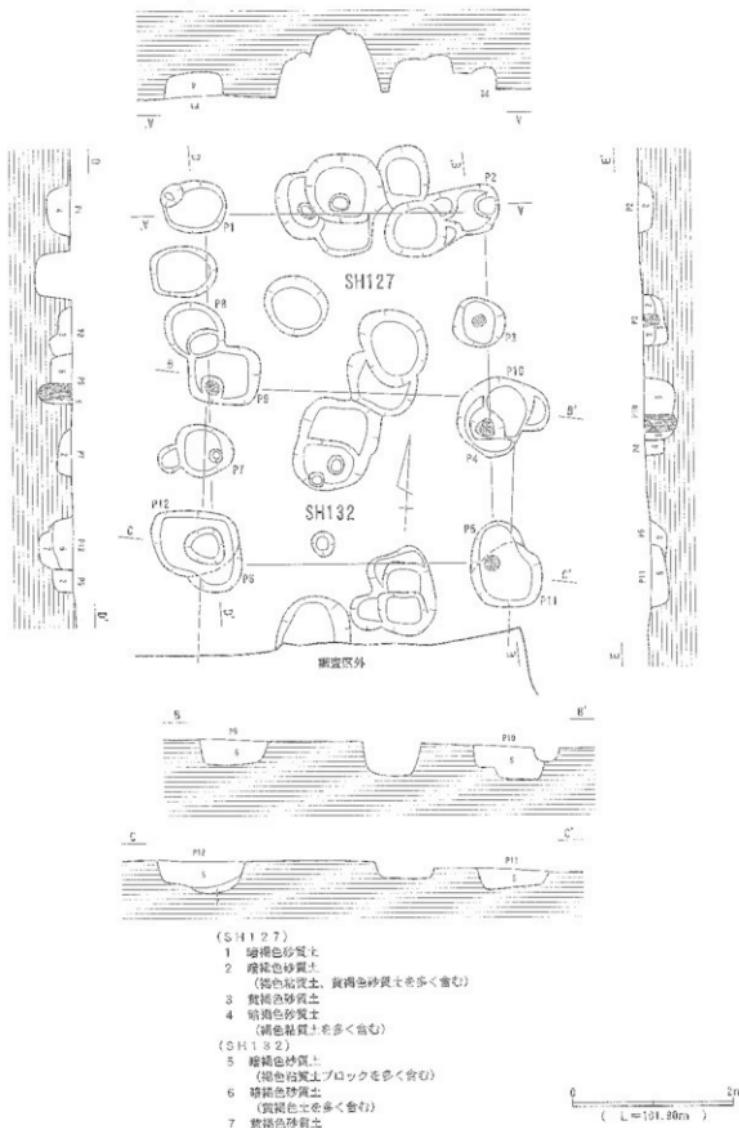
第211図 SH124, SH129



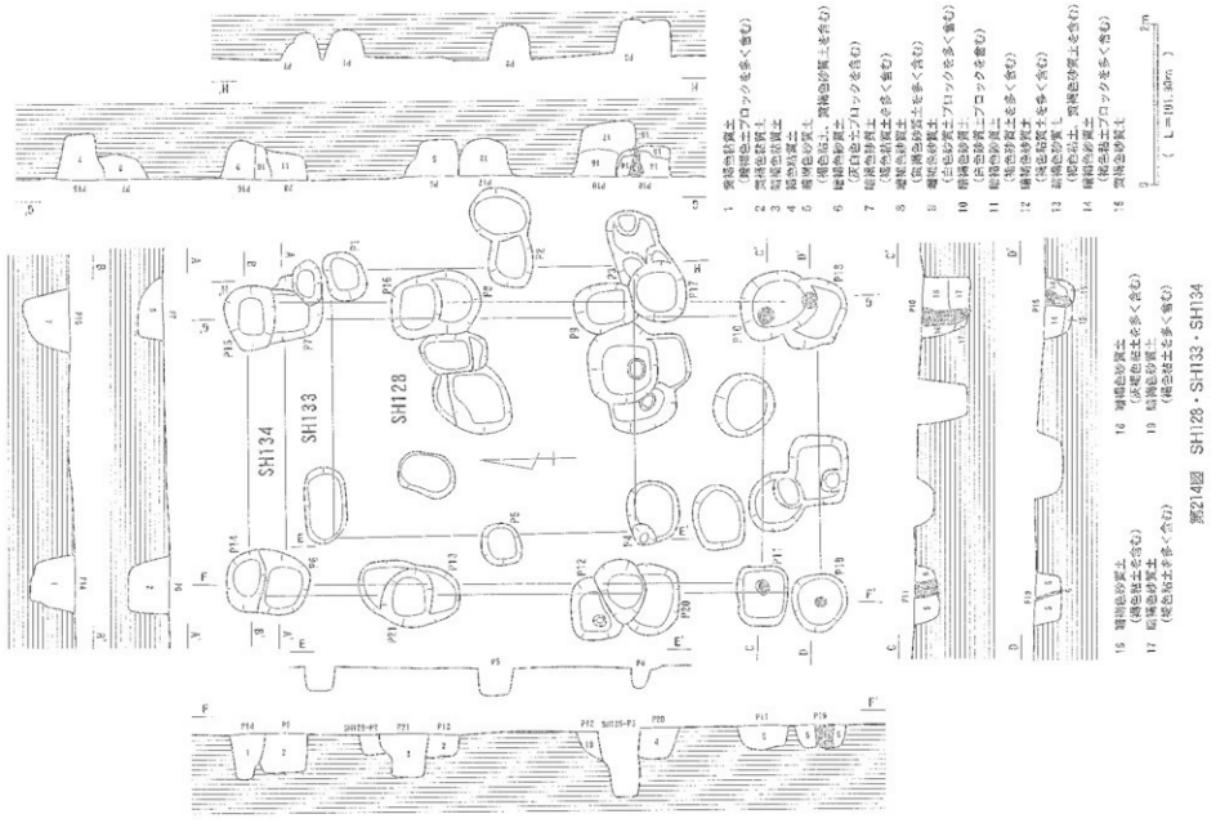
- 1 通赤色砂質土
(褐色砂質土ブロックを含む)
- 2 暗褐色砂質土
(紫褐色砂質土、褐色砂質土ブロックを多く含む)
- 3 黄褐色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 霧灰色砂質土
(黄褐色、褐色上ブロックを含む)
- 6 紫褐色砂質土
(褐色砂質土ブロックを多く含む)

0 2m
(1:1 = 101.50m)

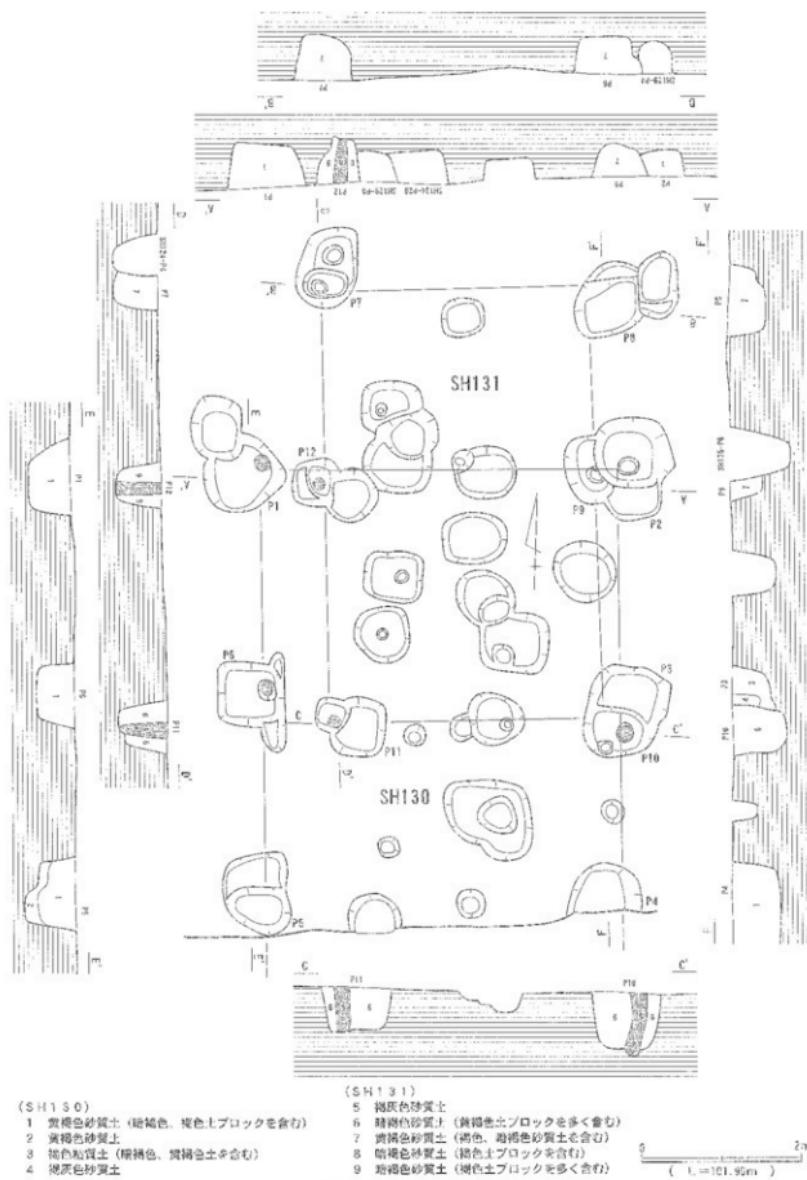
第212図 SH125



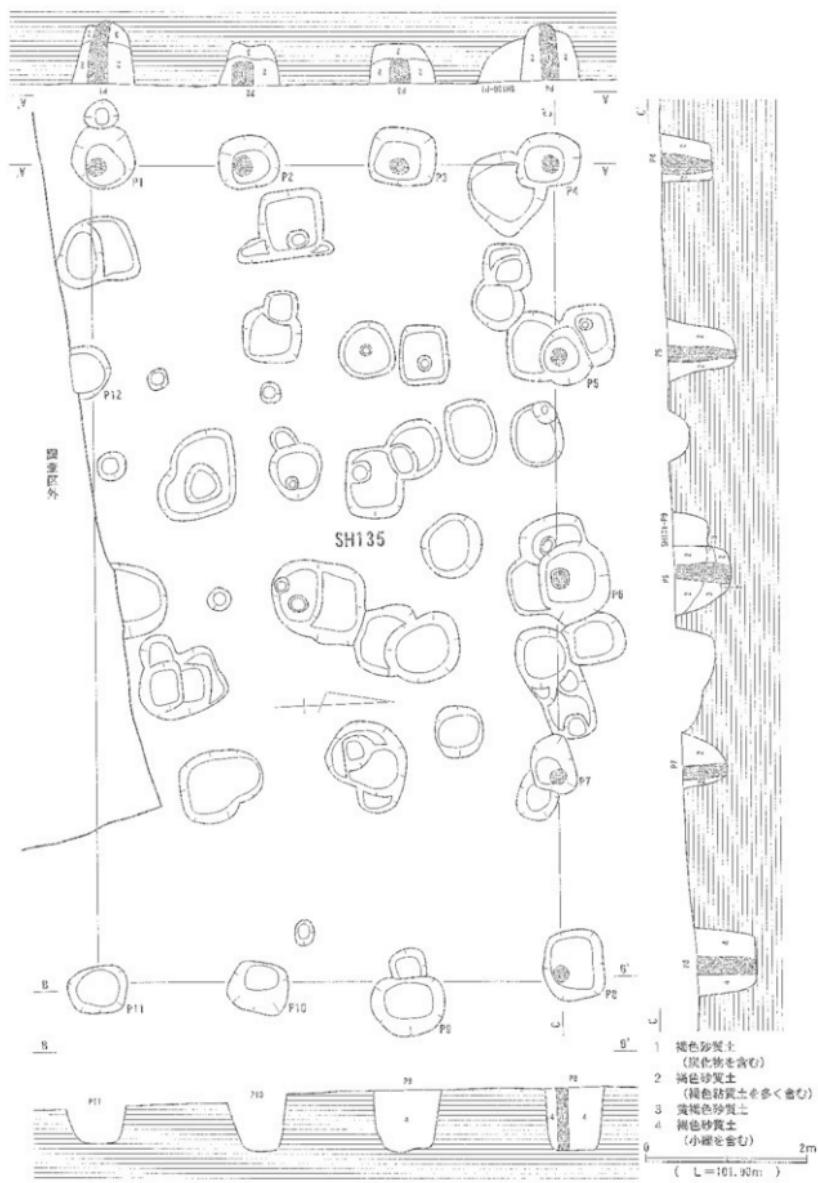
第213図 SH127・SH132



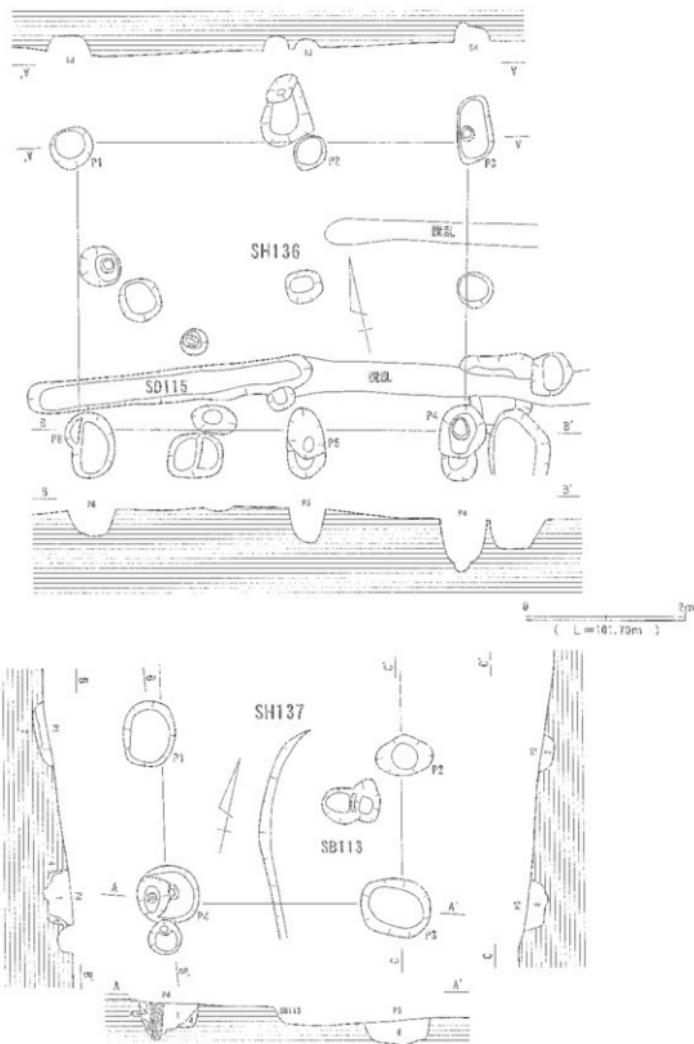
第214回 SH128・SH133・SH134



第215図 SH130・SH131

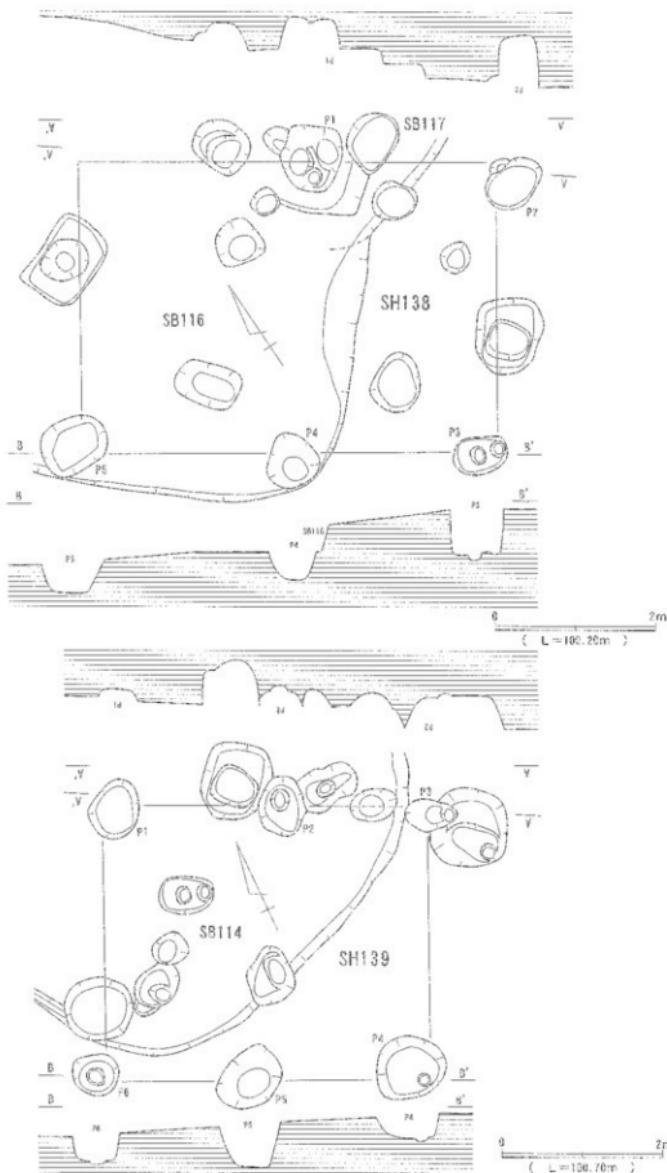


第216図 SH135

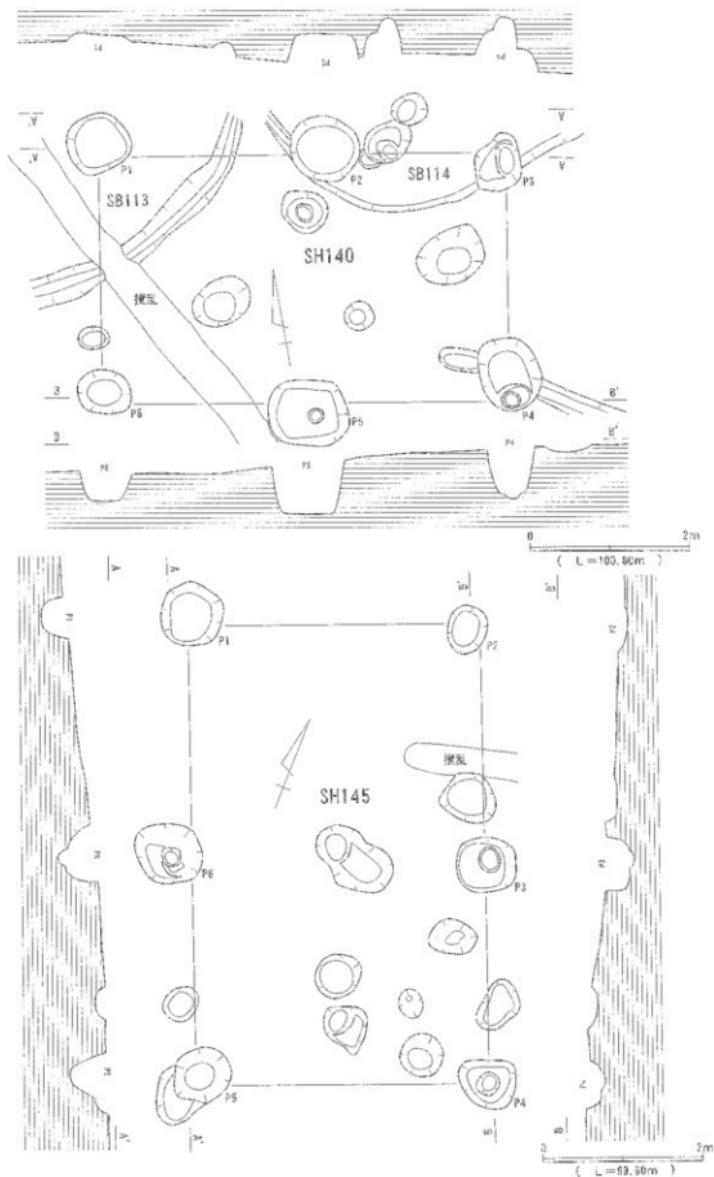


- 1 暗褐色砂質土 (褐色土ブロックを含む)
- 2 暗褐色砂質土
- 3 灰褐色砂質土
- 4 褐色粘質土
- 5 暗褐色粘質土
- 6 暗褐色砂質土 (褐色、黄褐色土ブロック、炭化物を多く含む)

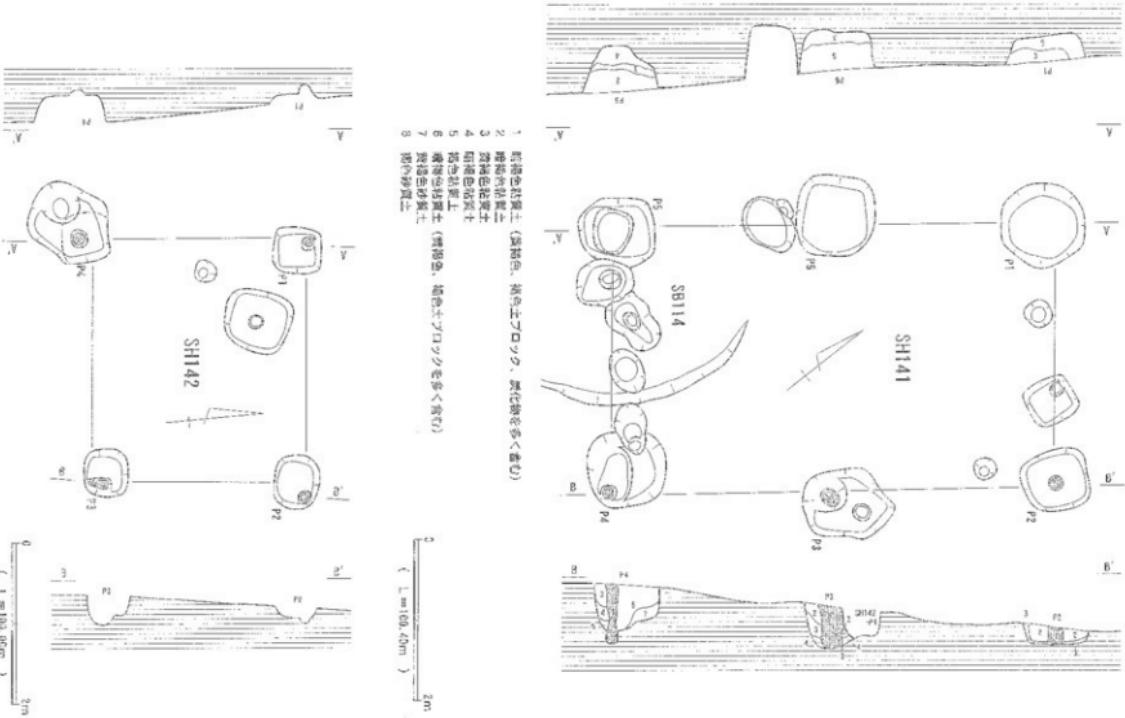
第217図 SH136, SH137



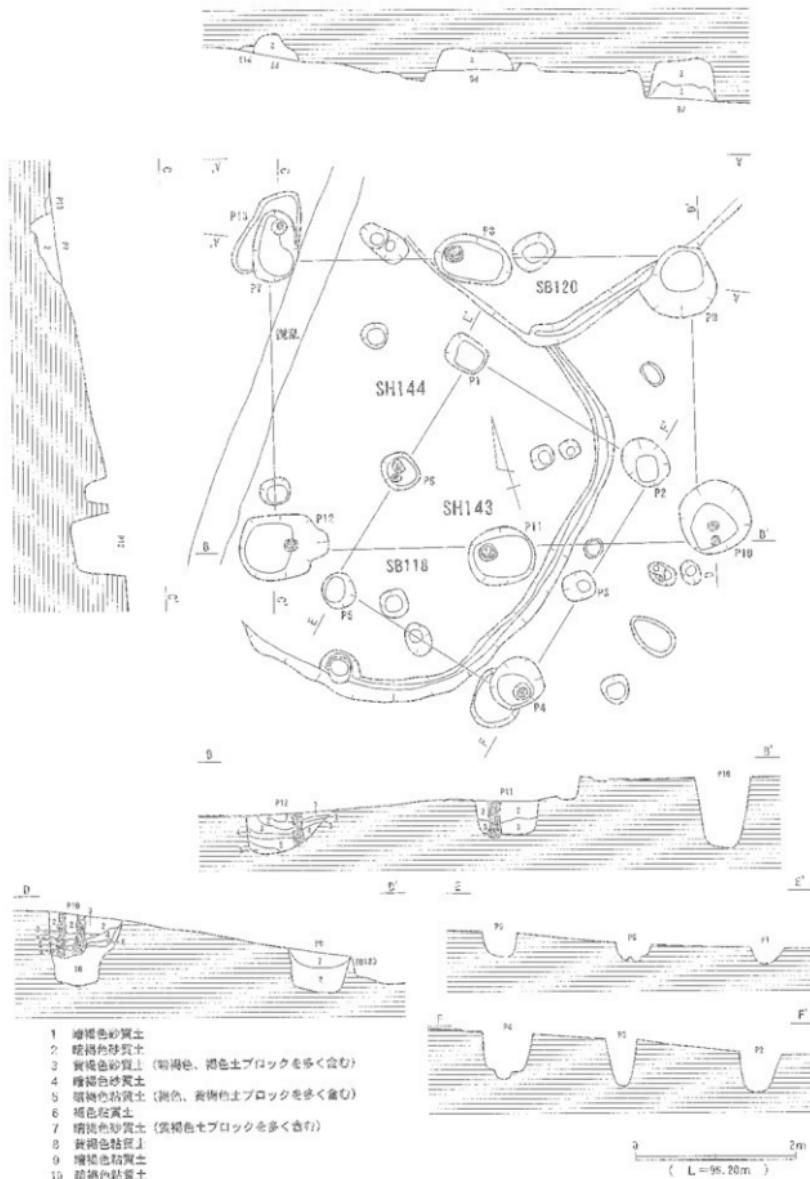
第218回 SH138, SH139



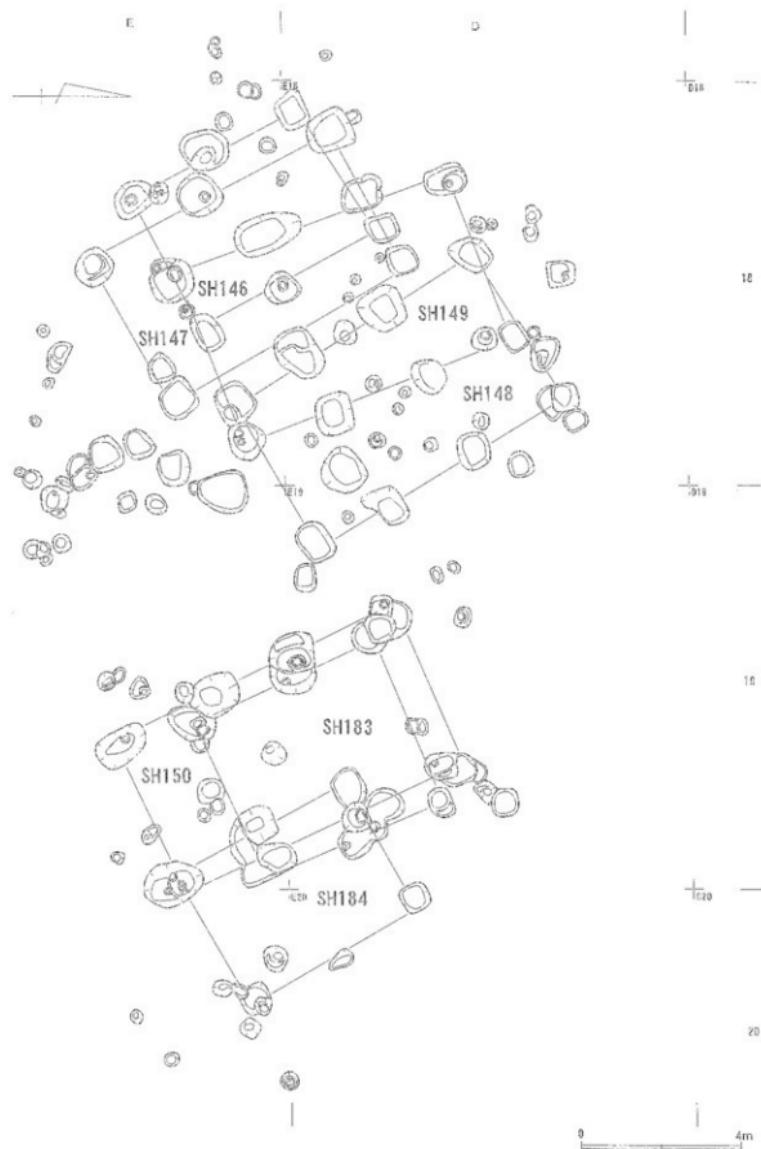
第219図 SH140, SH145



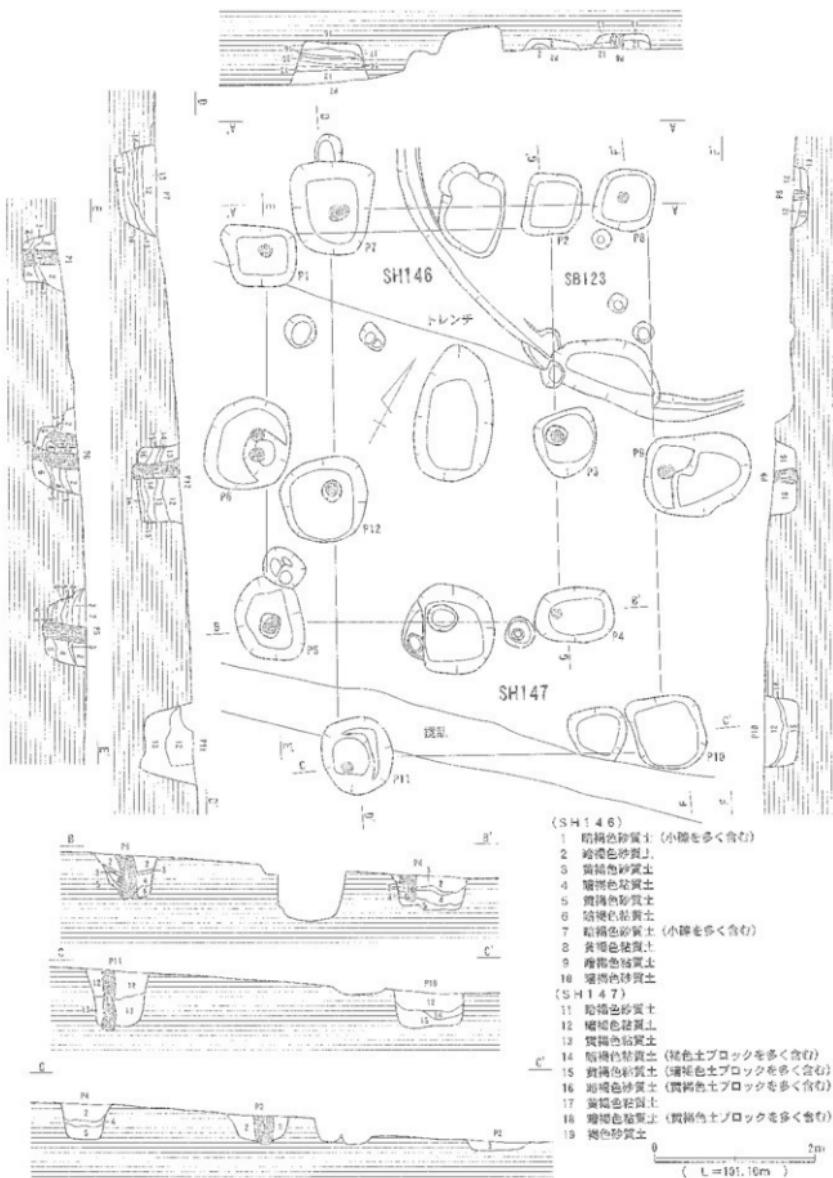
第220図 SH141, SH142



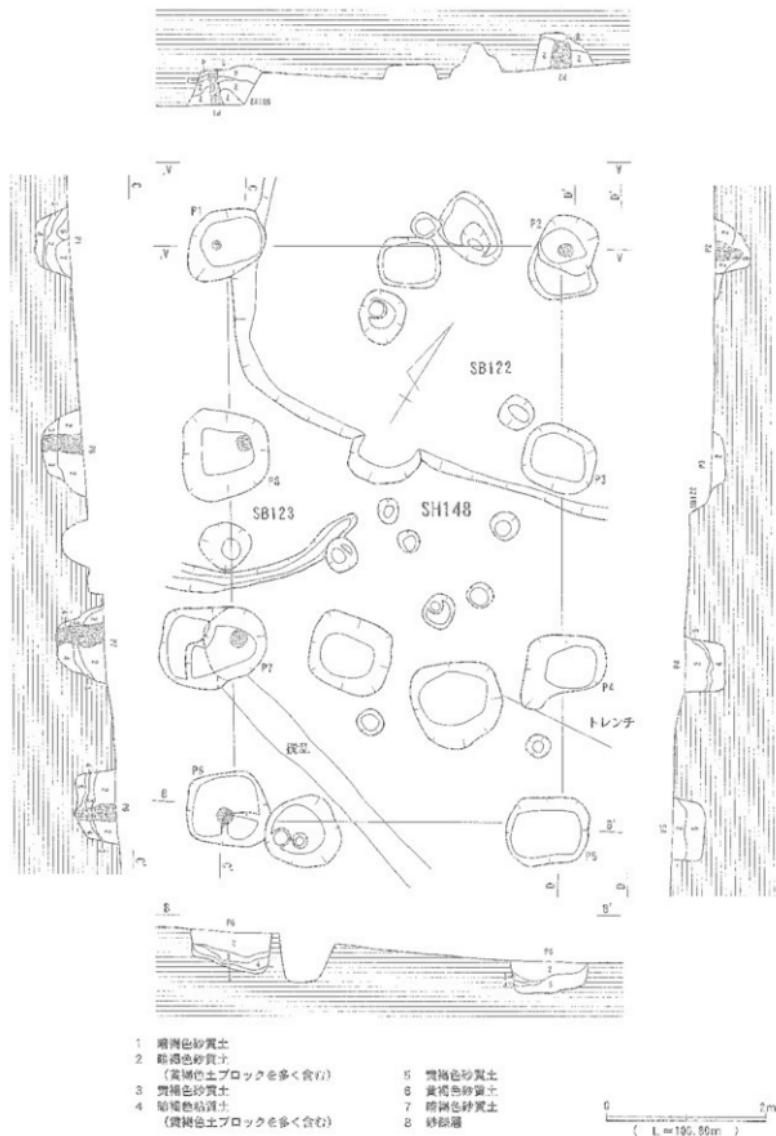
第221圖 SH143 - SH144



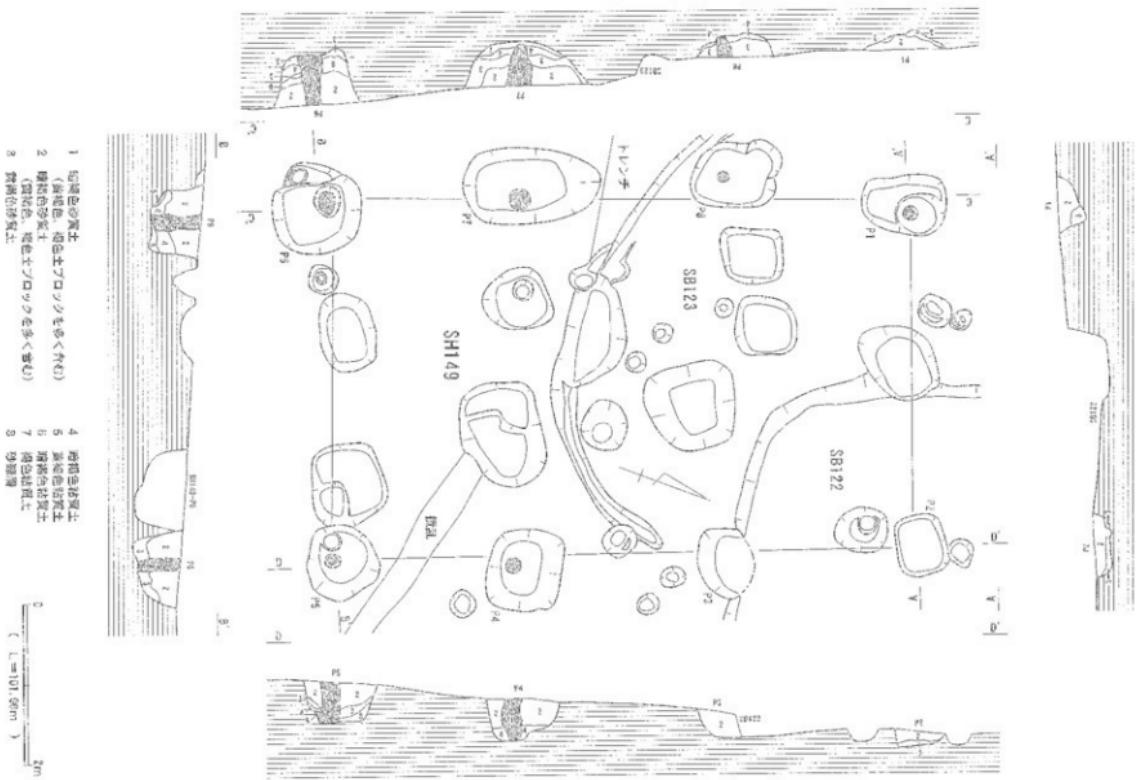
第222図 SH146~SH150・SH183・SH184



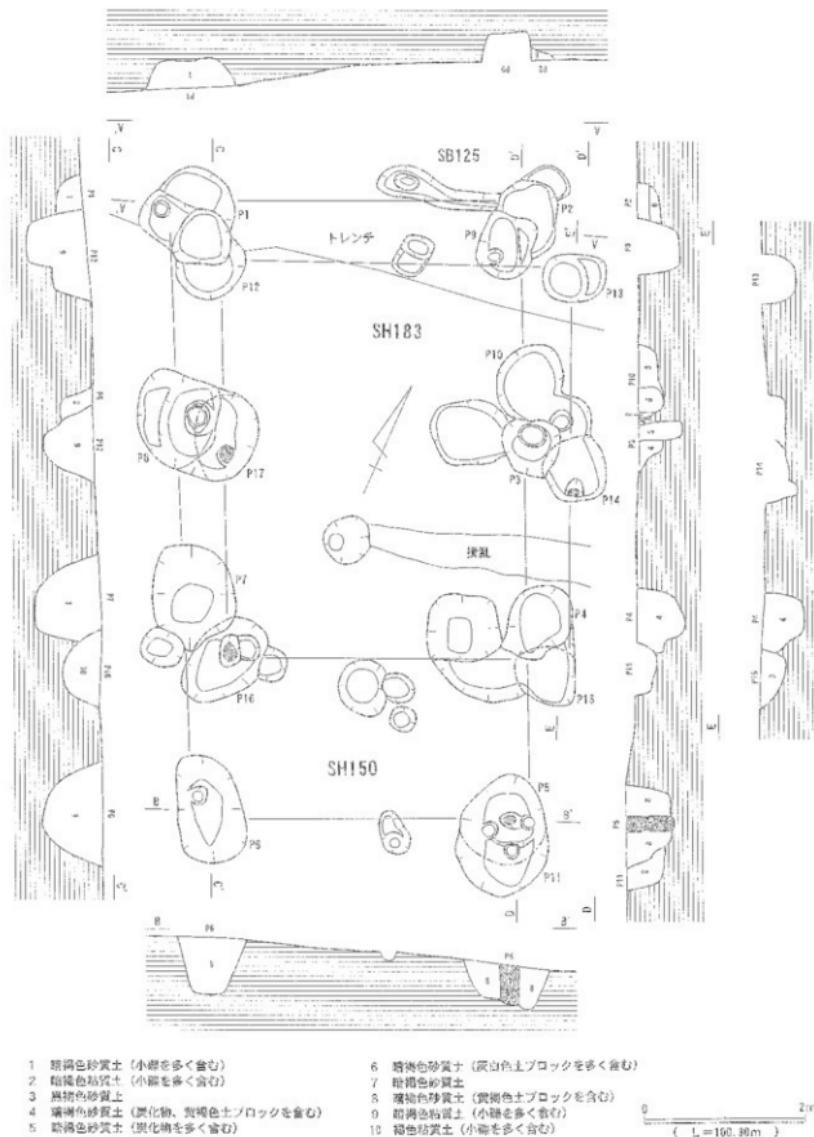
第223図 SH146・SH147



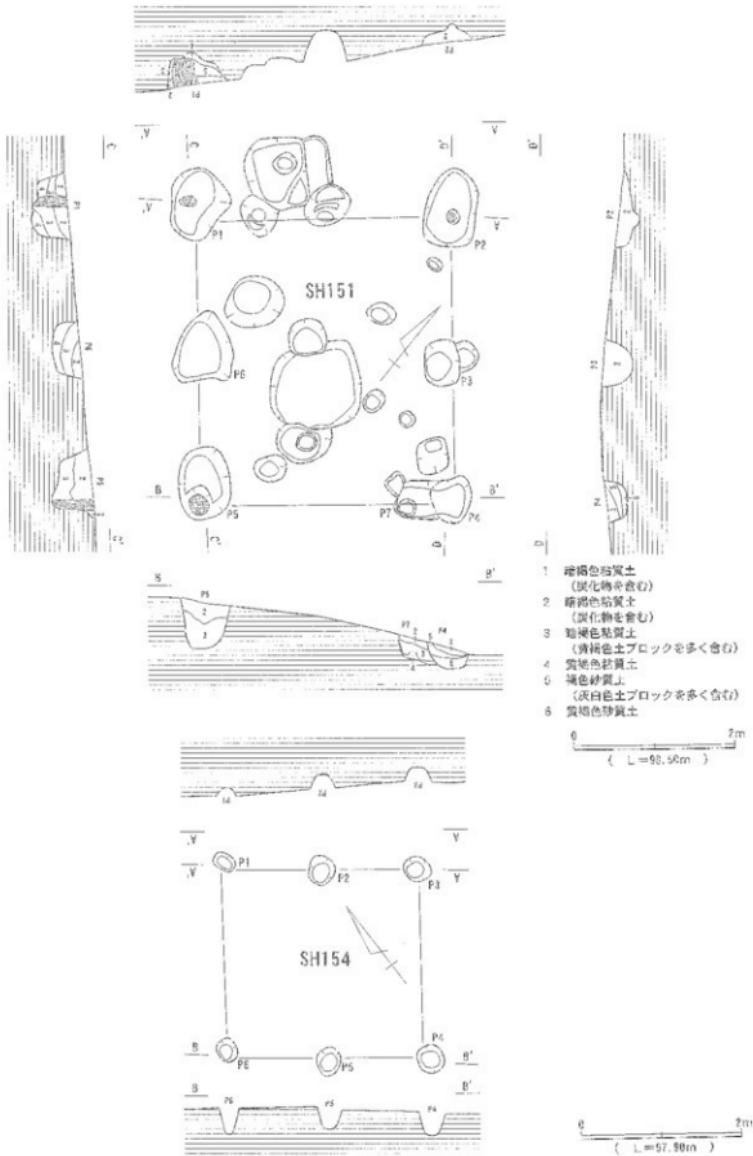
第224図 SH148



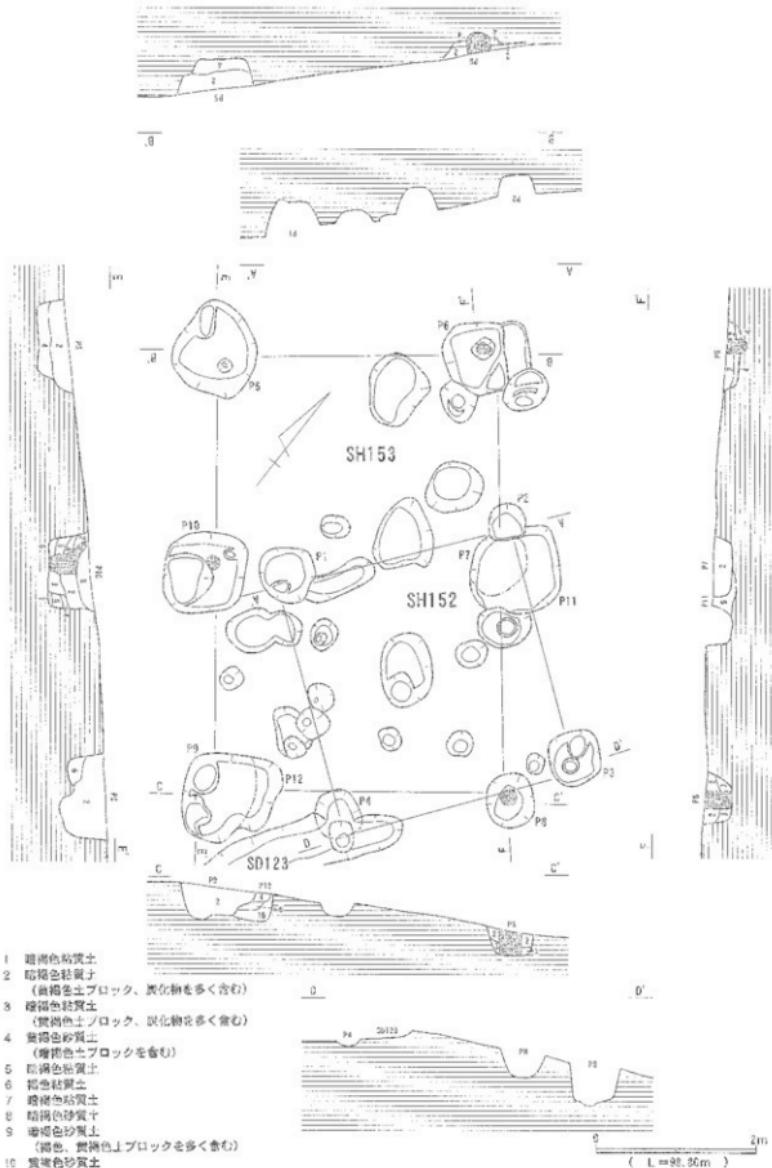
第225圖 SH149



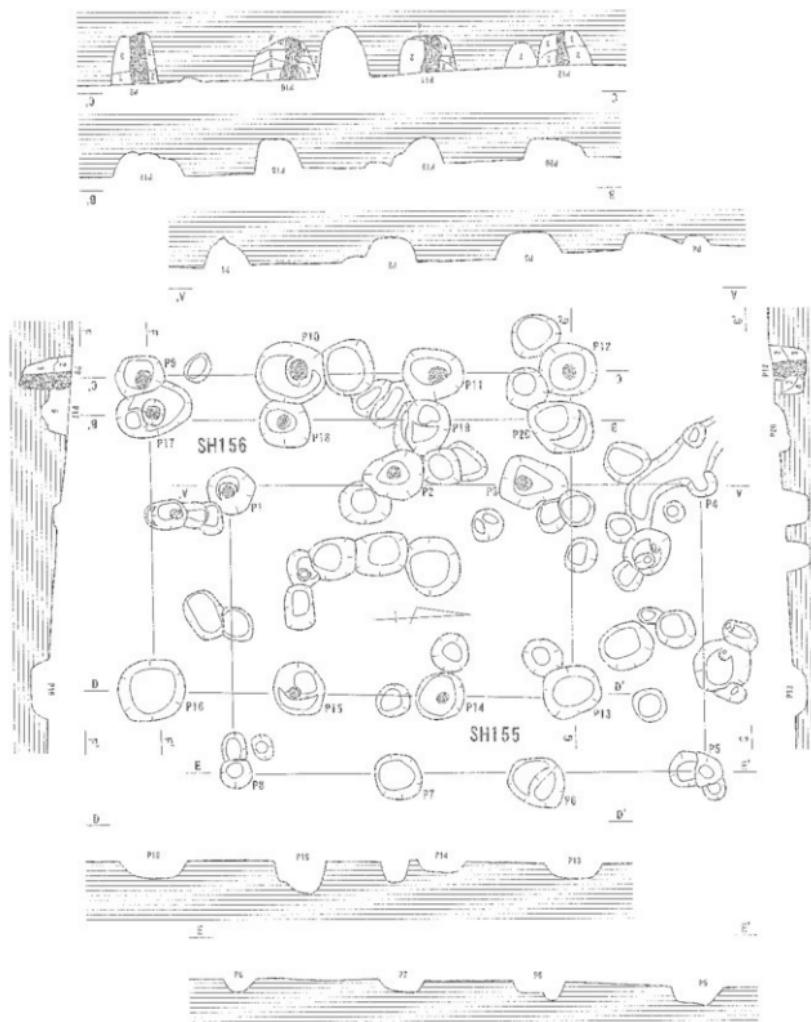
第226図 SH150・SH183



第227図 SH151, SH154



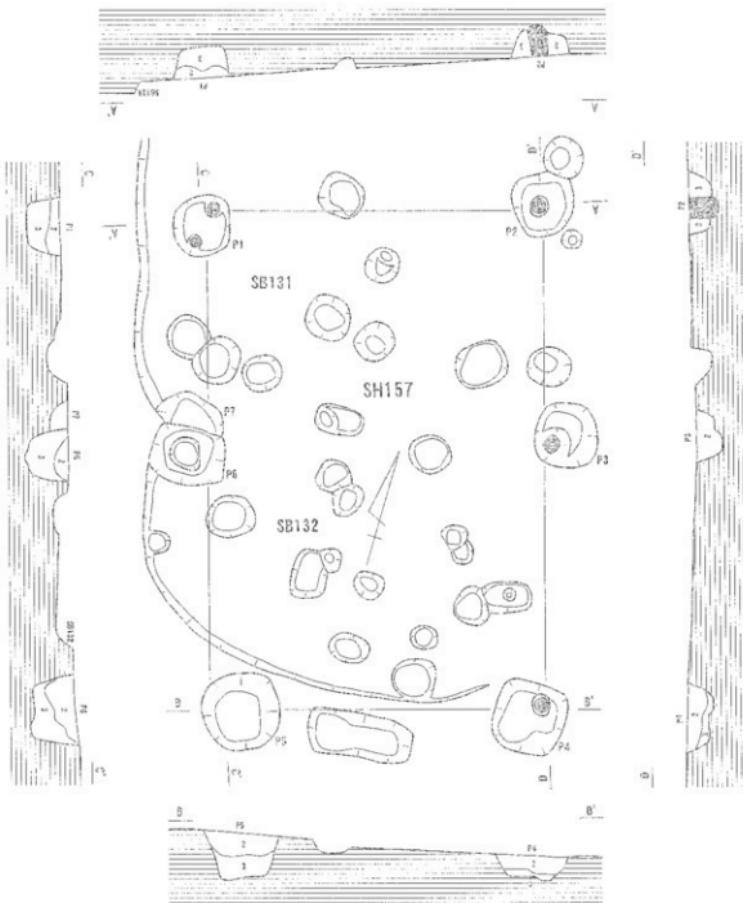
第228図 SH152・SH153



- 1 黄褐色粘質土
- 2 線色粘土 (暗褐色土ブロックを含む)
- 3 廉褐色粘質土 (含褐色土ブロックを含む)
- 4 黄褐色砂質土
- 5 粒状褐色粘質土
- 6 線褐色粘質土
- 7 混褐色砂質土

0 2m
(L = 101.30m)

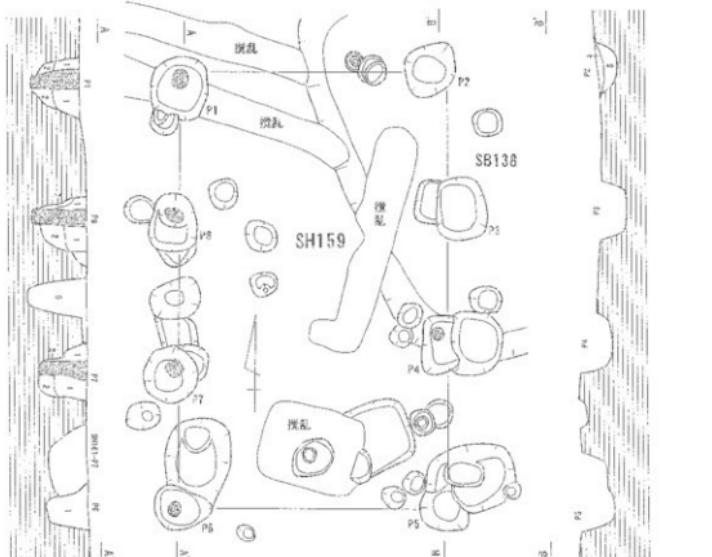
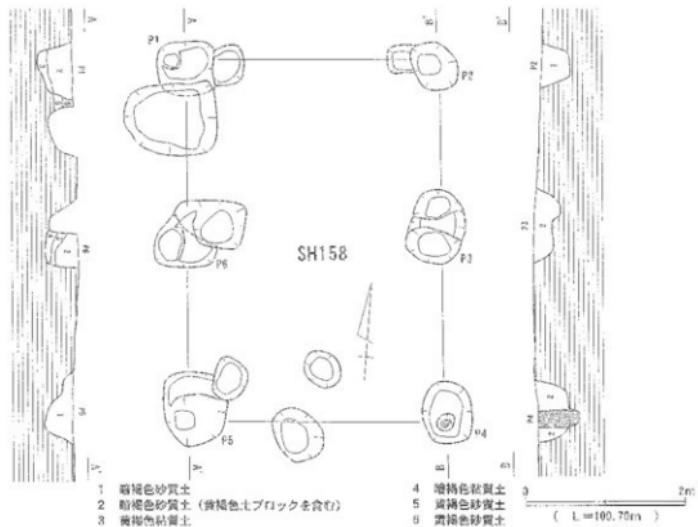
第229圖 SH155・SH156



- 1 細粒砂質土
 2 磨耗白色質土（白色土ブロックを含む）
 3 磨耗角質質土（黄褐色土ブロックを多く含む）

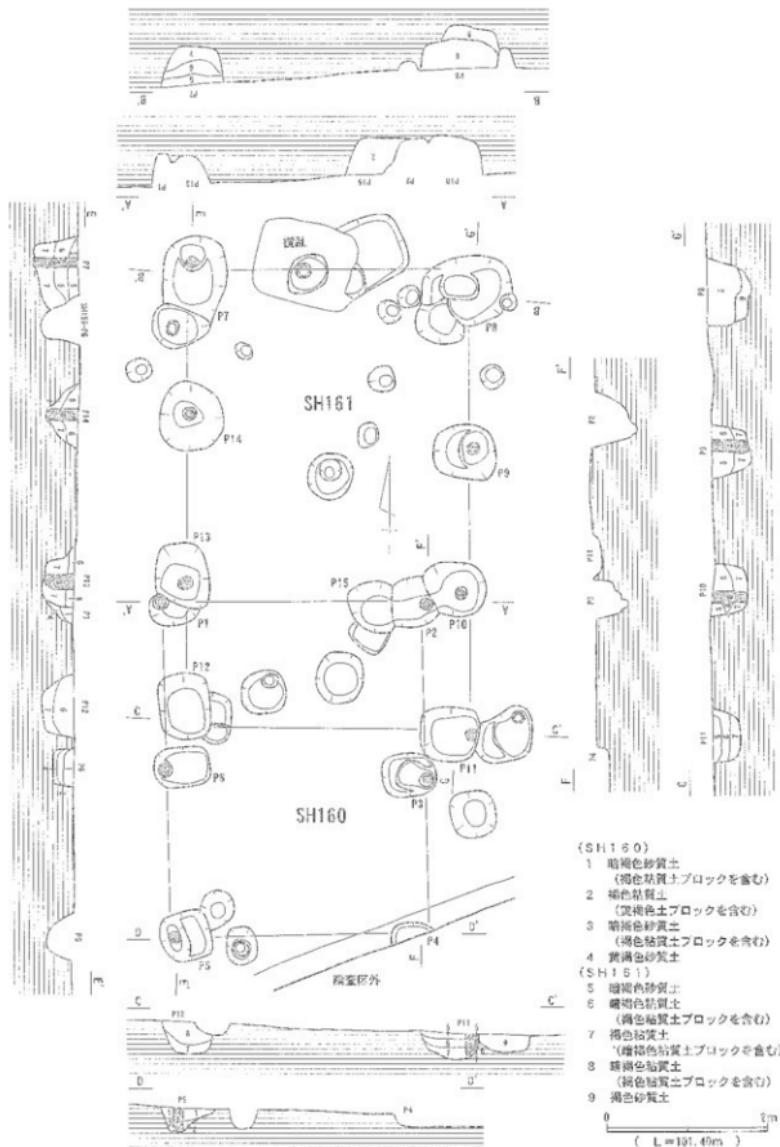
0 2m
 (L = 100.70m)

第230図 SH157



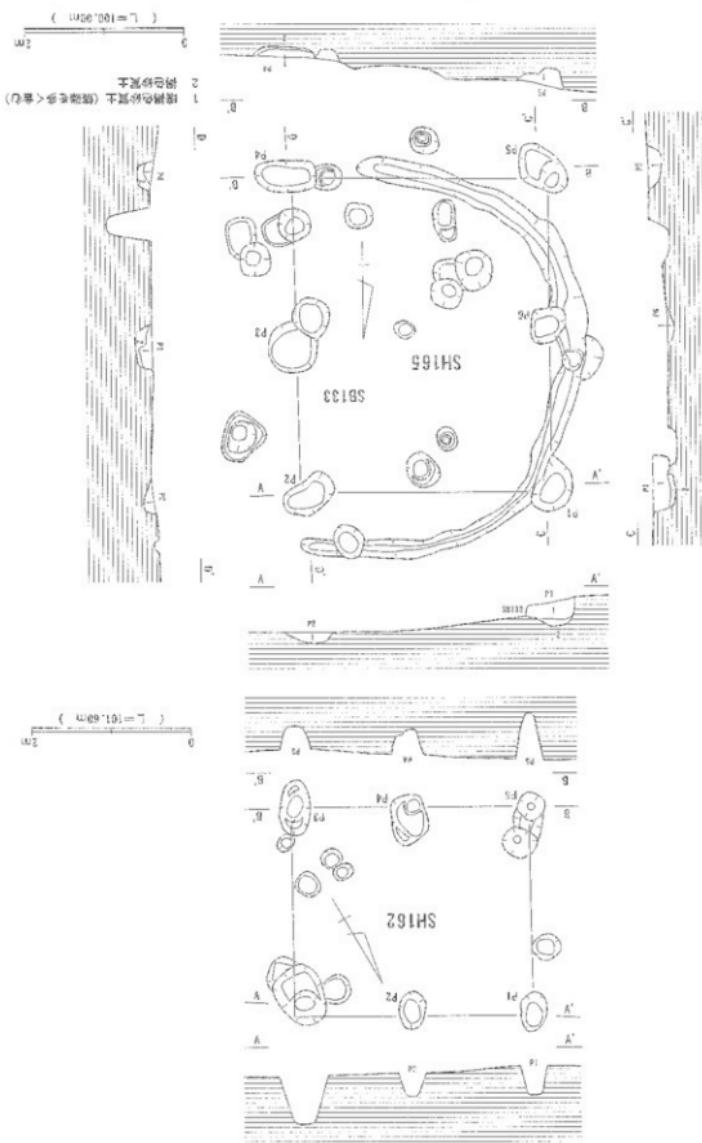
1. 黄褐色粘質土
(褐色土ブロックを含む)
2. 粘色粘質土
3. 黄褐色粘質土
(褐色土ブロックを多く含む)
4. 増粘色砂質土
(炭化物、焼土粒を多く含む)
5. 黄褐色砂質土
6. 黄褐色砂質土
(褐色土ブロックを多く含む)

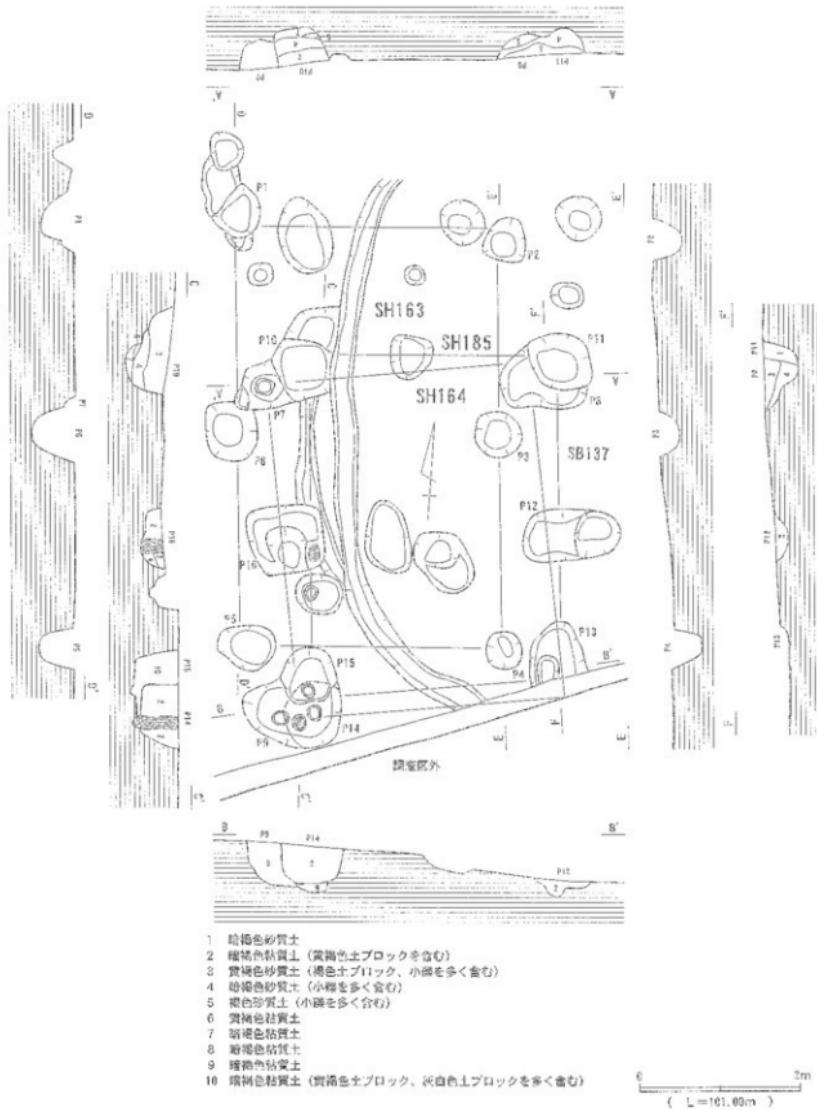
第231図 SH158, SH159



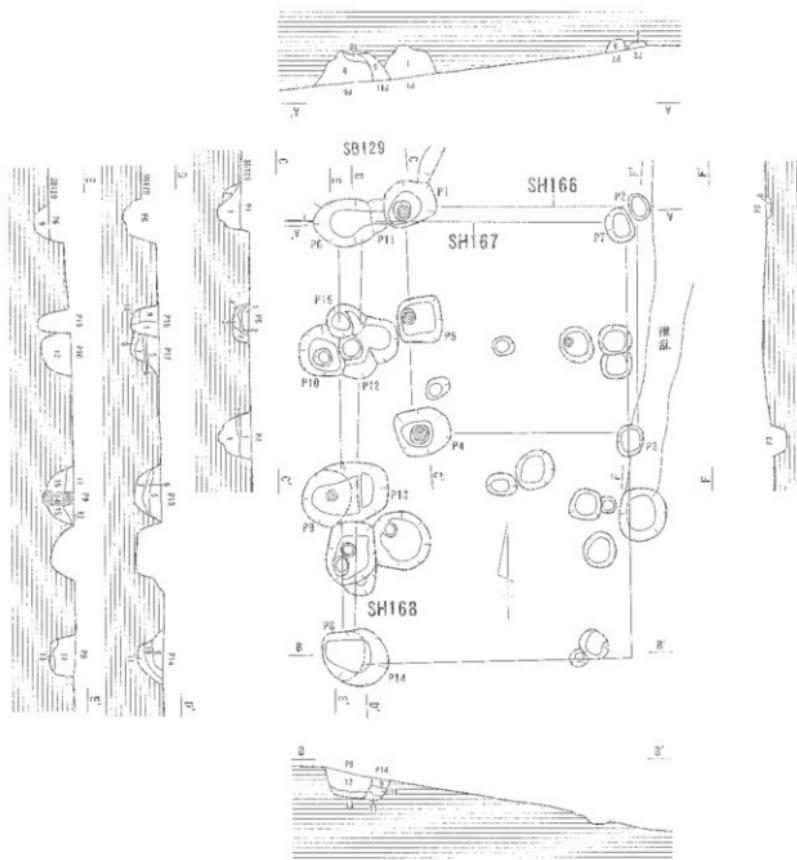
第232図 SH160・SH161

圖233 圖 SH162, SH165



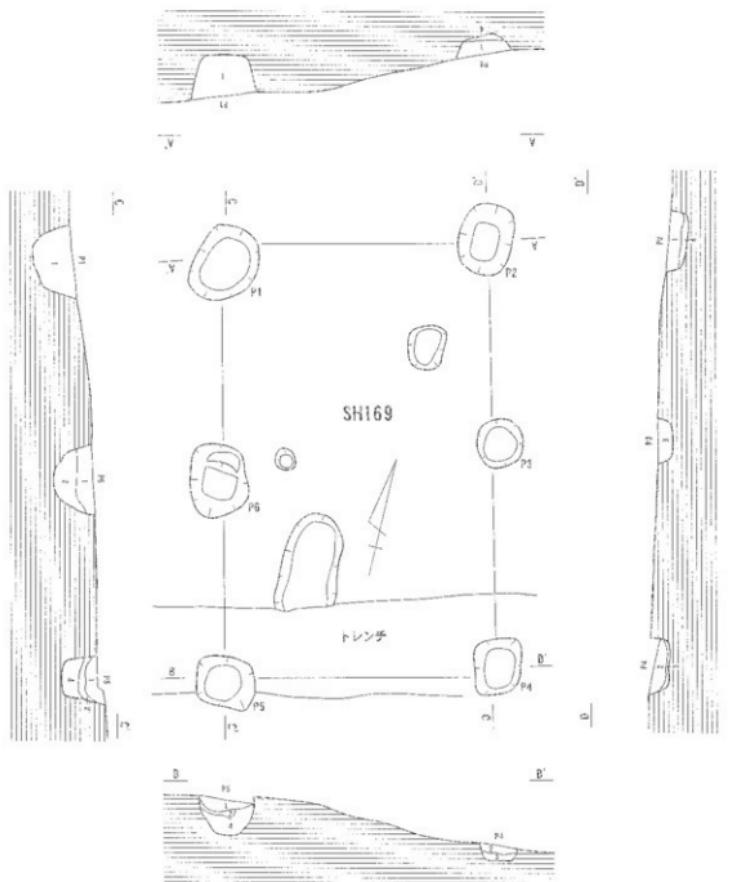


第234図 SH163・SH164・SH185



- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 褐褐色粘質土 | 9 褐褐色粘質土 |
| 2 黄褐色粘質土（暗褐色土ブロックを含む） | 10 黄褐色粘質土（暗褐色土ブロックを含む） |
| 3 褐褐色粘質土 | 11 黄褐色粘質土 |
| 4 墓色粘質土（新褐色土ブロックを多く含む） | 12 褐褐色粘質土 |
| 5 褐褐色粘質土 | 13 黄褐色砂質土 |
| 6 黄褐色粘質土 | 14 褐褐色砂質土 |
| 7 褐褐色粘質土（褐色、黄褐色土ブロックを含む） | 15 褐褐色砂質土（黄褐色土ブロックを含む） |
| 8 黄褐色粘質土（黄褐色土ブロックを多く含む） | |

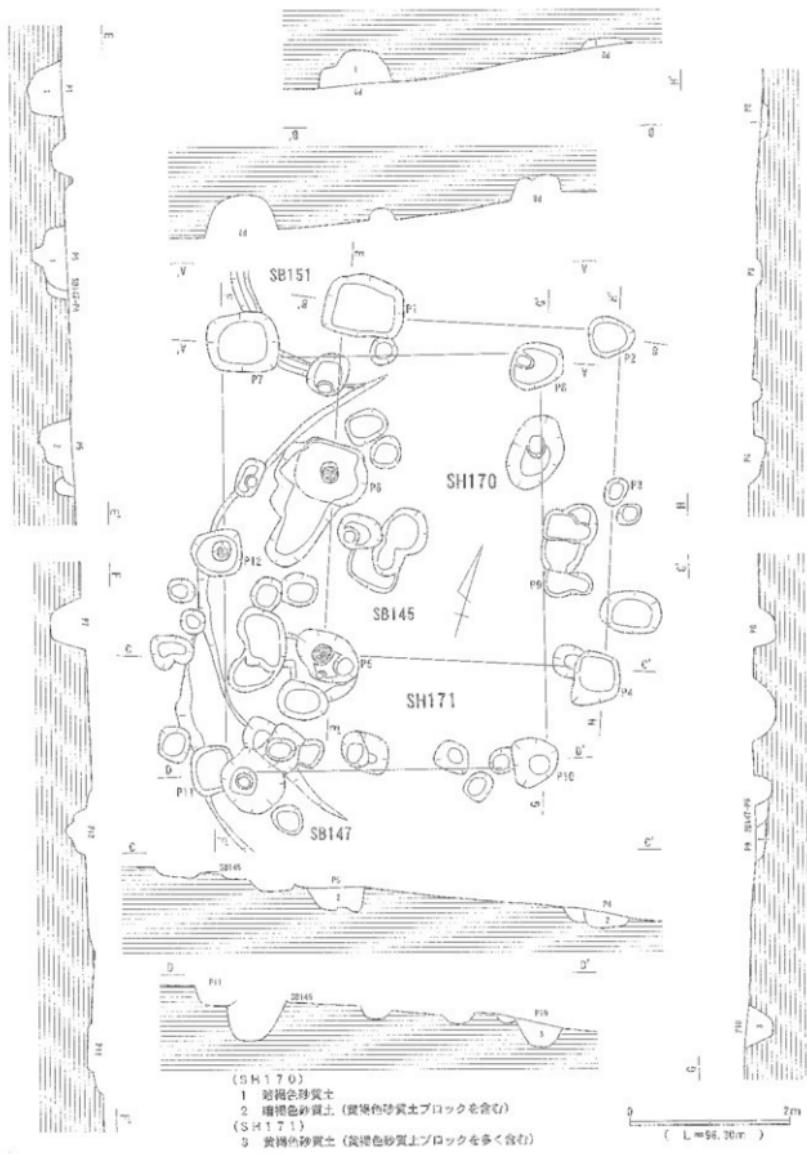
第235図 SH166～SH168



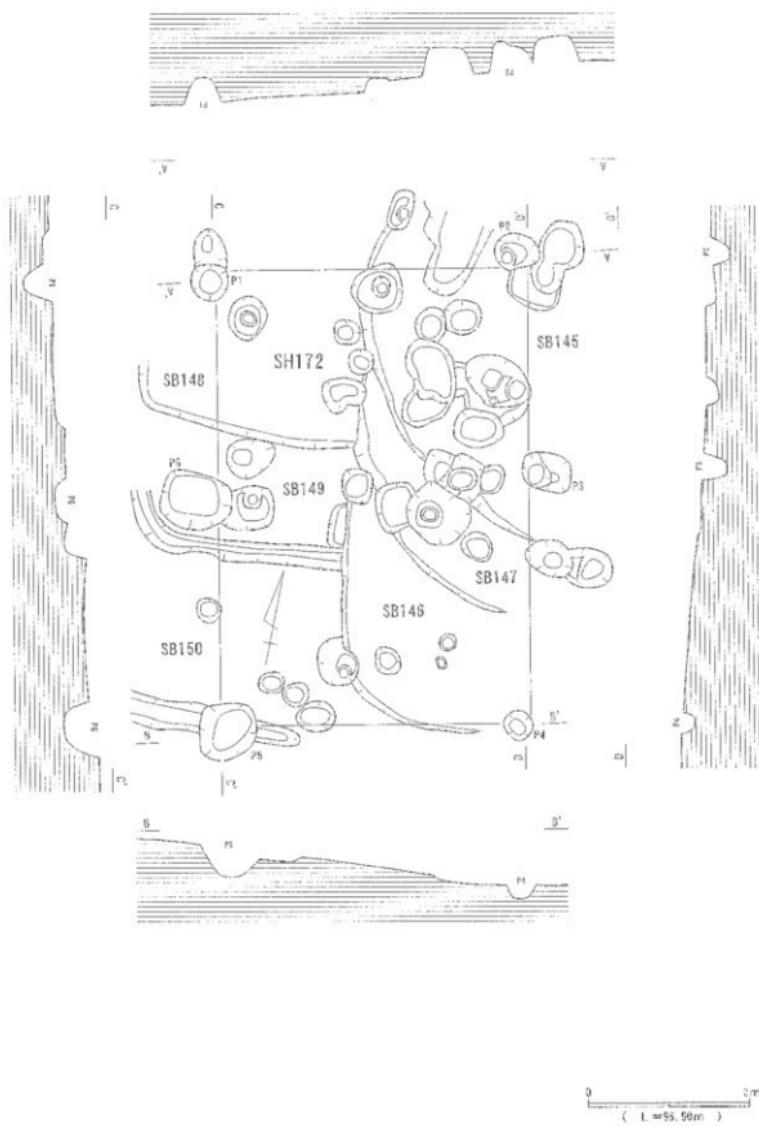
1. 褐褐色粘質土(黄褐色土ブロックを含む)
 2. 増粘色粘質土
 3. 實拘色粘質土
 4. 細褐色粘質土

0 2m
(L = 55.00m)

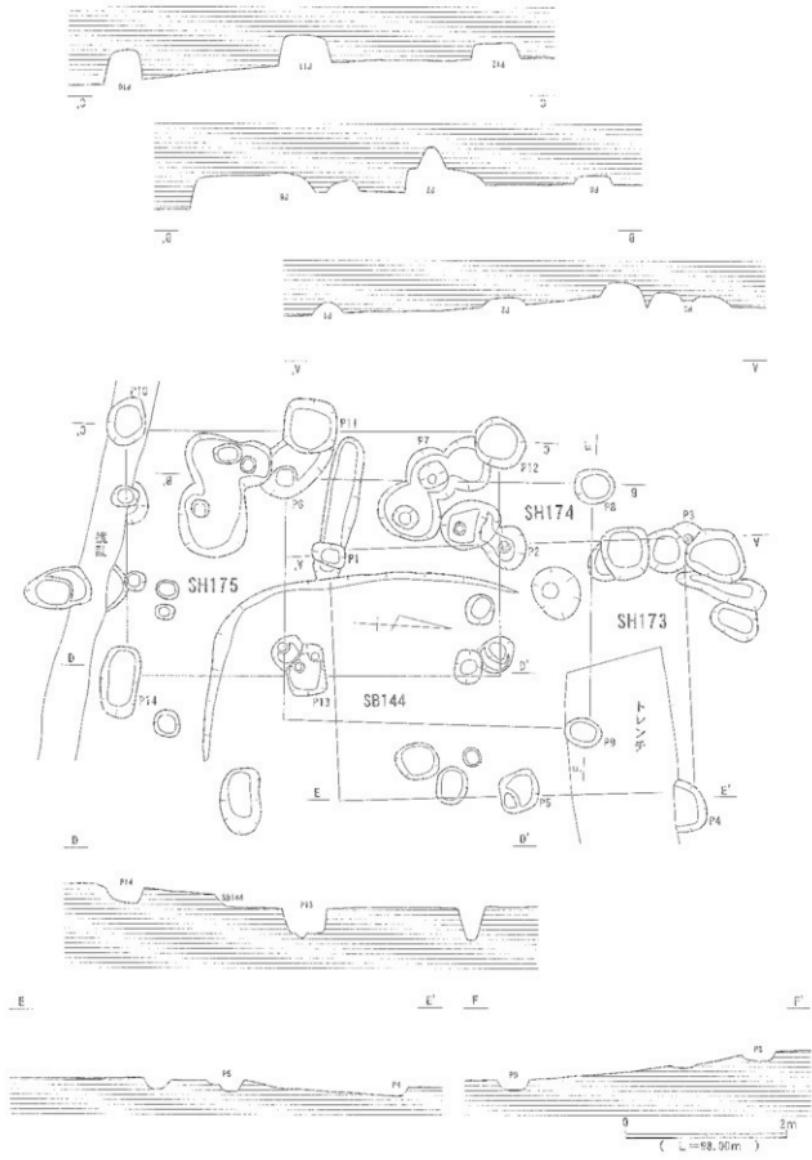
第236図 SH169



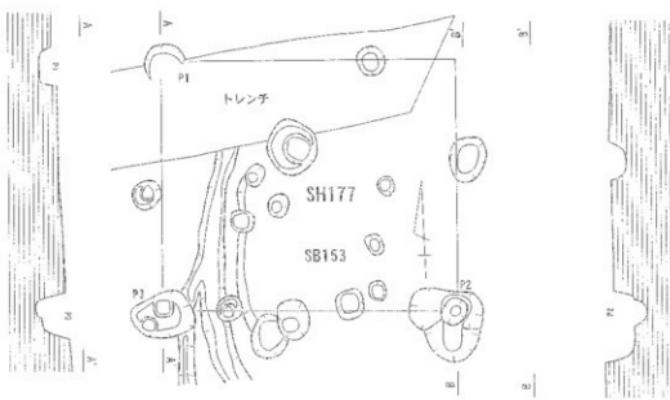
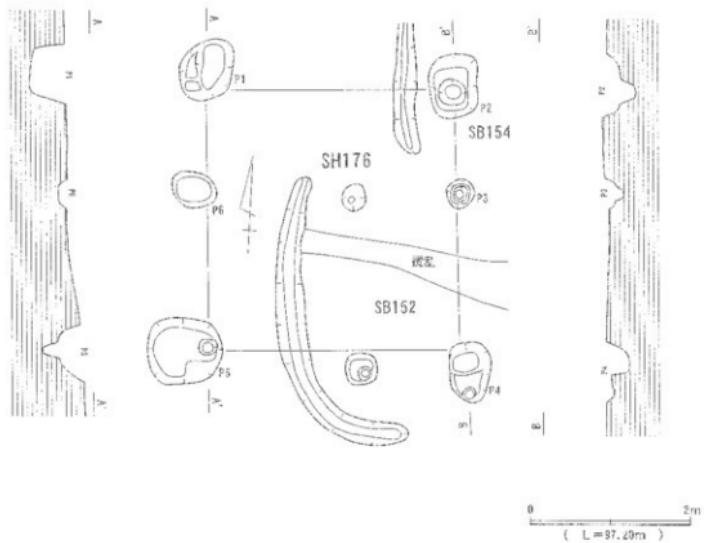
第237図 SH170・SH171



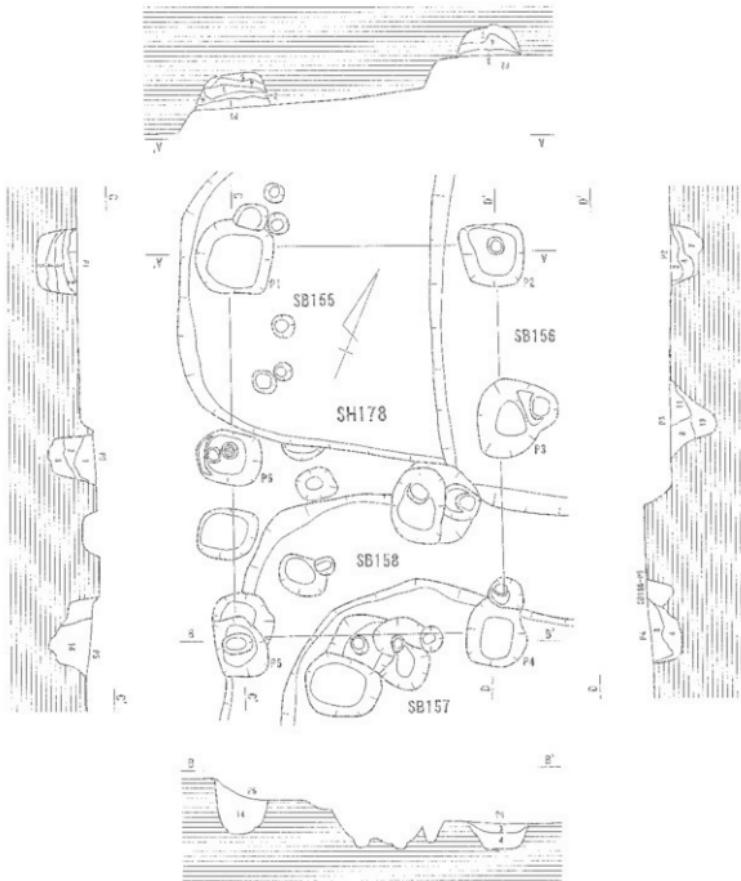
第238図 SH172



第239図 SH173~SH175

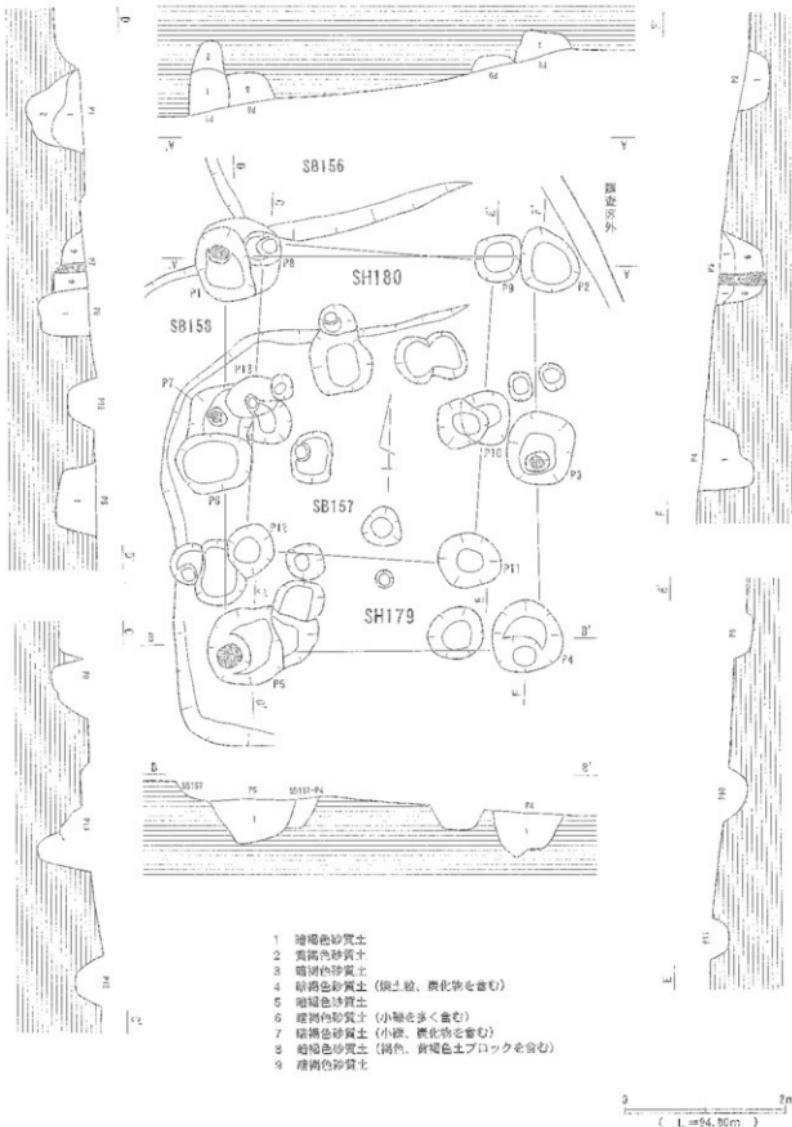


第240図 SH176、SH177

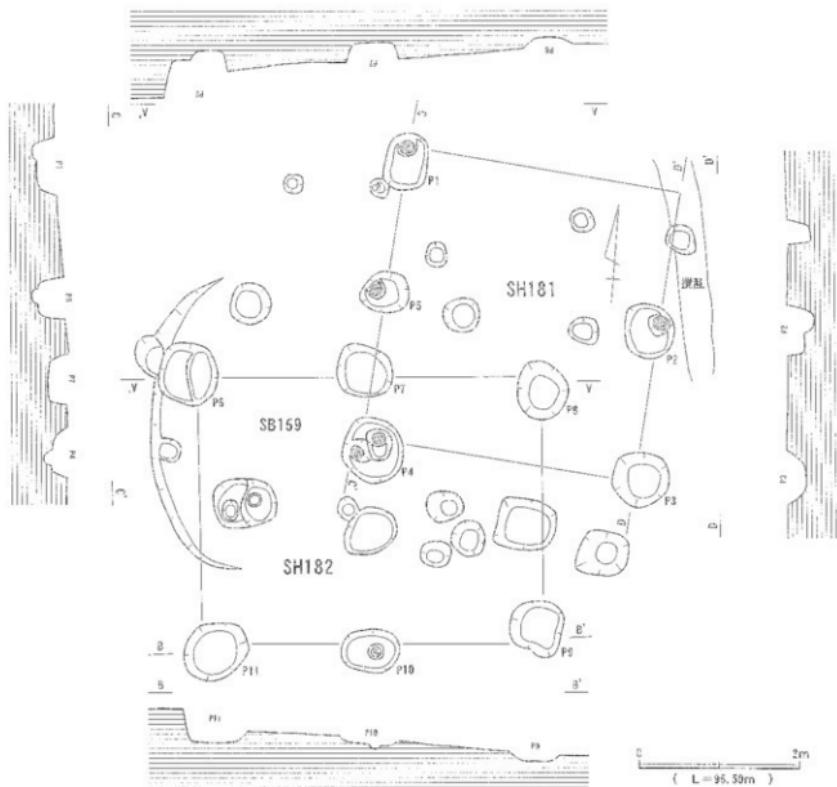


- | | |
|----------|--------------------------|
| 1 灰褐色砂質土 | 8 短褐色砂質土 (炭化物ナブロックを多く含む) |
| 2 黑褐色砂質土 | 9 短褐色砂質土 |
| 3 短褐色砂質土 | 10 灰白色砂質土 |
| 4 黑褐色砂質土 | 11 灰褐色砂質土 |
| 5 短褐色砂質土 | 12 黄褐色砂質土 |
| 6 黑褐色砂質土 | 13 黄褐色砂質土 |
| 7 黑褐色粘質土 | 14 短褐色砂質土 (炭化物を含む) |

第241図 SH178



第242図 SH179・SH180

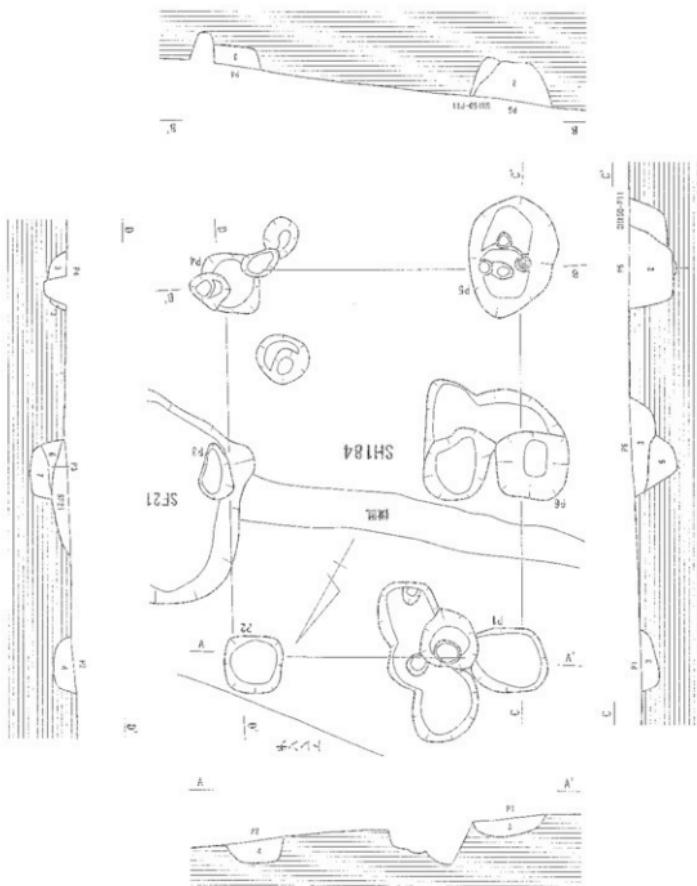


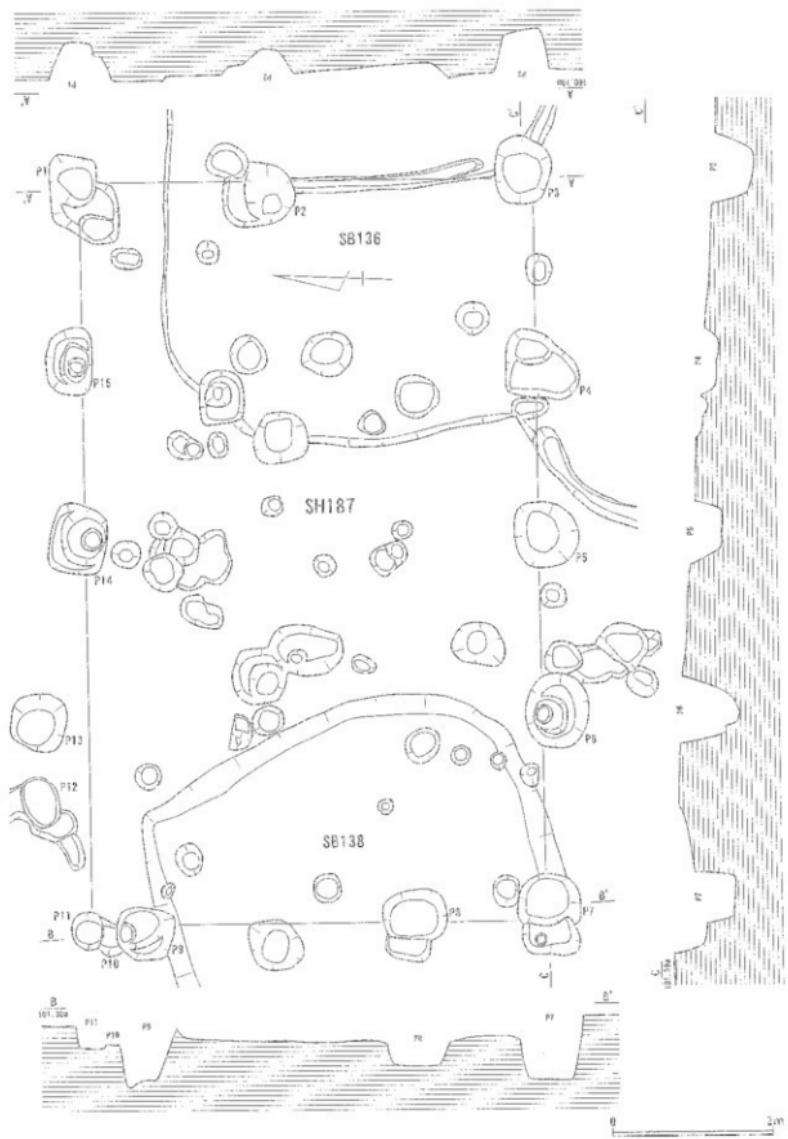
第243図 SH181・SH182, SH186

卷之三

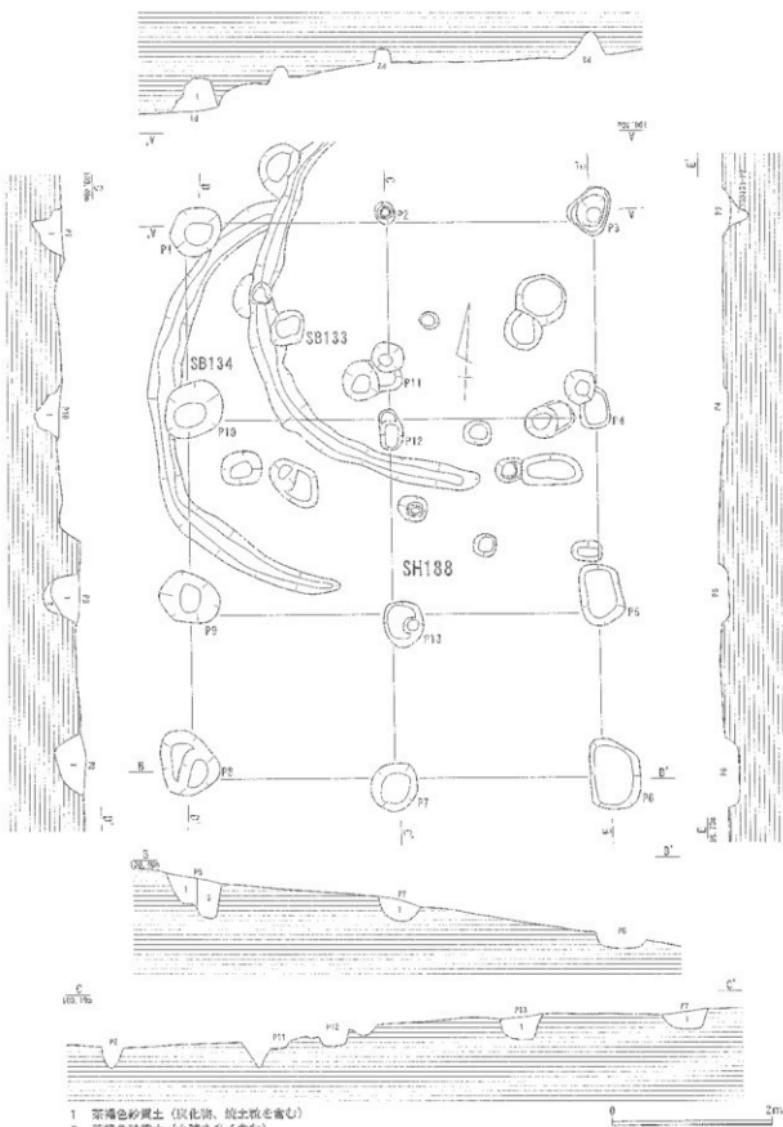
（ 100m = 1km ）

（註）此處指的不是「子房」，而是指的「子房」的子房壁。子房壁在受精後會膨脹變大，形成種子的果皮。

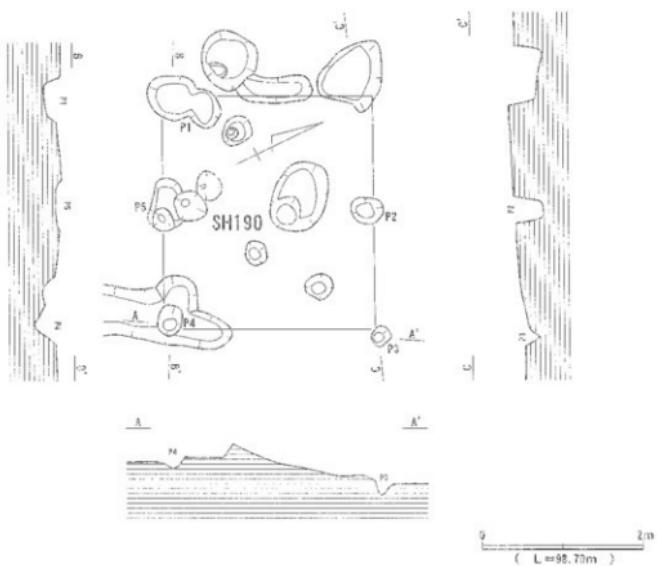
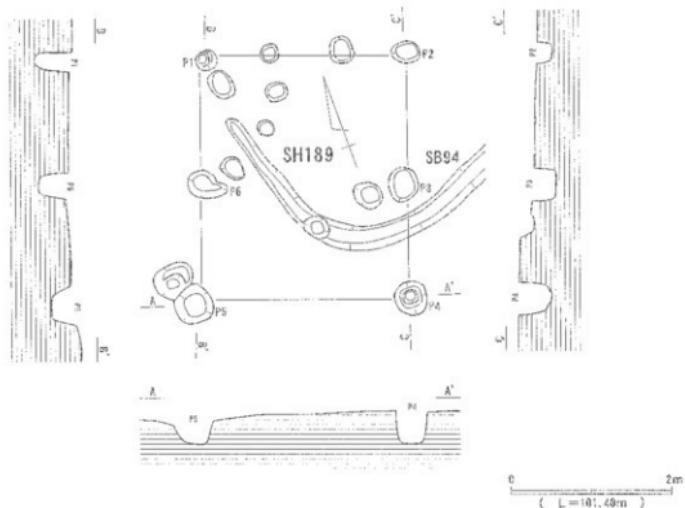




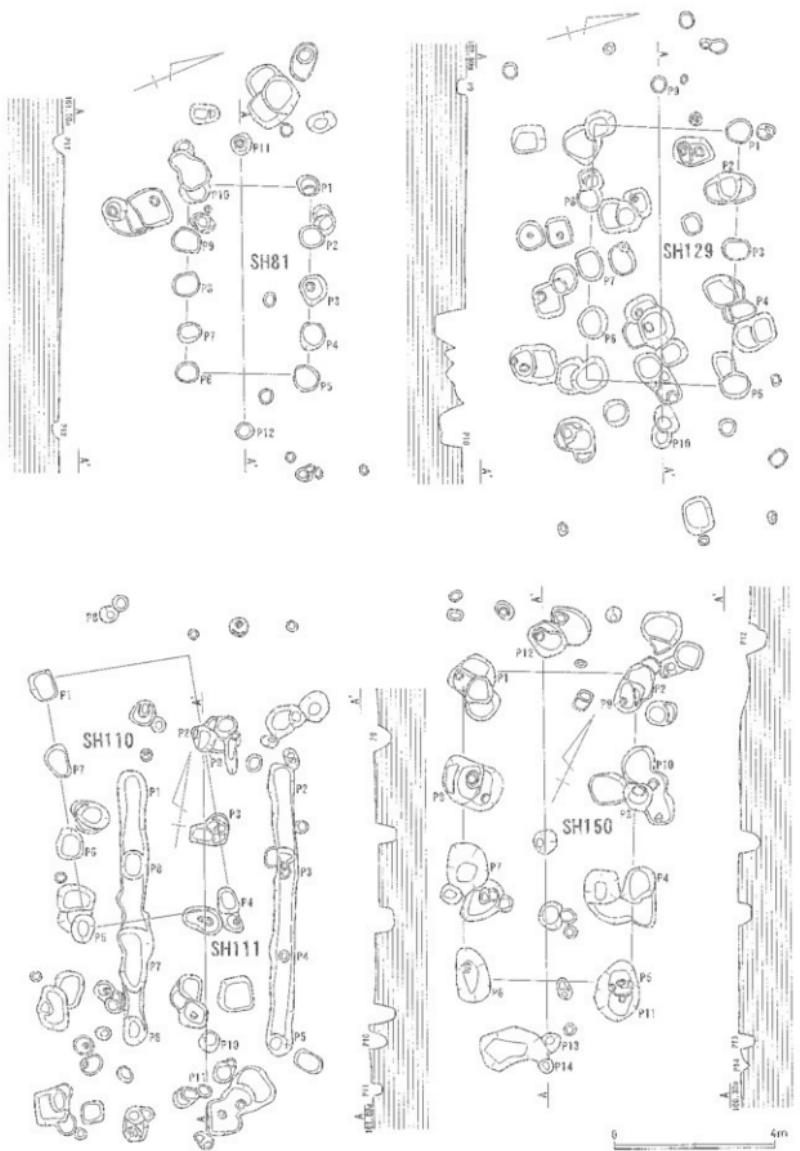
第245図 SH187



第246図 SH188



第247図 SH189, SH190



第248図 独立株持柱の可能性

第4節 土坑・不明遺構

(1) 編文時代の落し穴

西部に位置するSF01～05、SF09～11、SF15～17は、平面形が円形もしくは楕円形であり、径0.7～1.6m、深さ0.6～1.4mの比較的深い土坑である。これらの分布をみると、丘陵上平坦面の周縁部や尾根の付け根などに配置されていることがわかる。このような形状・配置の特徴などから、落し穴であると判断できる。底面中央の小穴は、逆茂木の痕跡であると判断できる。

出土遺物は非常に少ないが、SF03から石鏃、SF16から繩文土器片が出土している。弥生時代の堅穴住居跡と分布範囲が重複しており、住居跡に多く切られている。遺構の特徴なども考慮すると、これらは縄文時代の遺構である可能性が高いと把握できる。なお、SF06・07・12・13・14・20などについても、縄文時代の落し穴である可能性が考慮できる。

(2) 古墳時代前期の土坑・不明遺構

東部に位置するSF21・22、SX04・05は、菊川様式最新段階の土器や古式土器片が出土していることから、古墳時代前期の遺構であると判断することができる。SF21はSH184を切る。

SF21では、多くの土器片が出土していることから、土坑内への廻棄行為が把握できる。出土土器から儀礼的な様相を見出すことは難しいが、他に類似する遺構がないことから、一般的に行われていた廻棄であったとも判断し難い。SF22は、倒木痕である可能性が高く、出土遺物は古墳時代前期の堅穴住居跡(SB160・161)のものであった可能性が考慮される。ただし、SF22底面の焼土塊について、住居跡のものであったかはわからない。

SX04は方形の堅穴遺構である。柱穴は判然としないが、遺構の形状や壁面の存在から、何らかの建物施設であった可能性が指摘できる。SX05は不整形の細長い土坑であり、機能などは不明である。

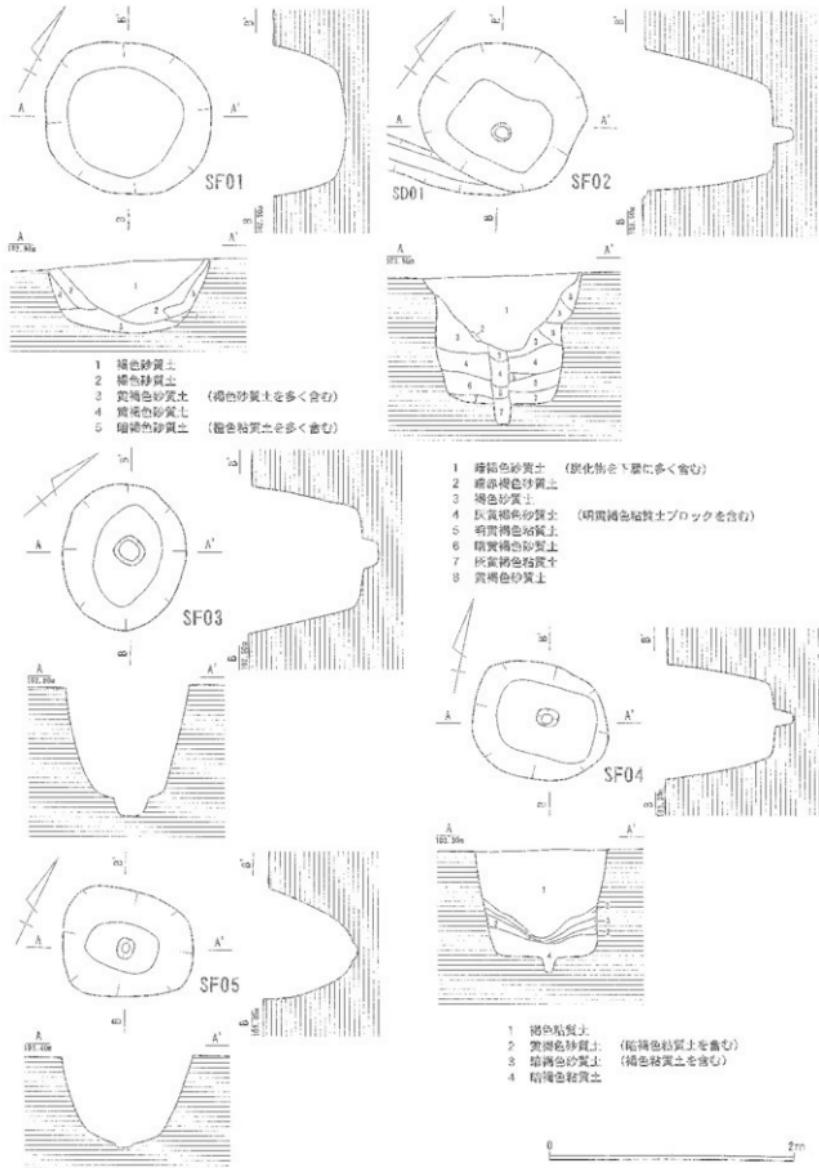
(3) その他の土坑・不明遺構

SX02とSX06～08は、堅穴住居跡の一部である可能性がある。形状や出土遺物から、SX06は弥生時代後期の楕円形、その他の方形や四角長方形を呈するものと復元できる。

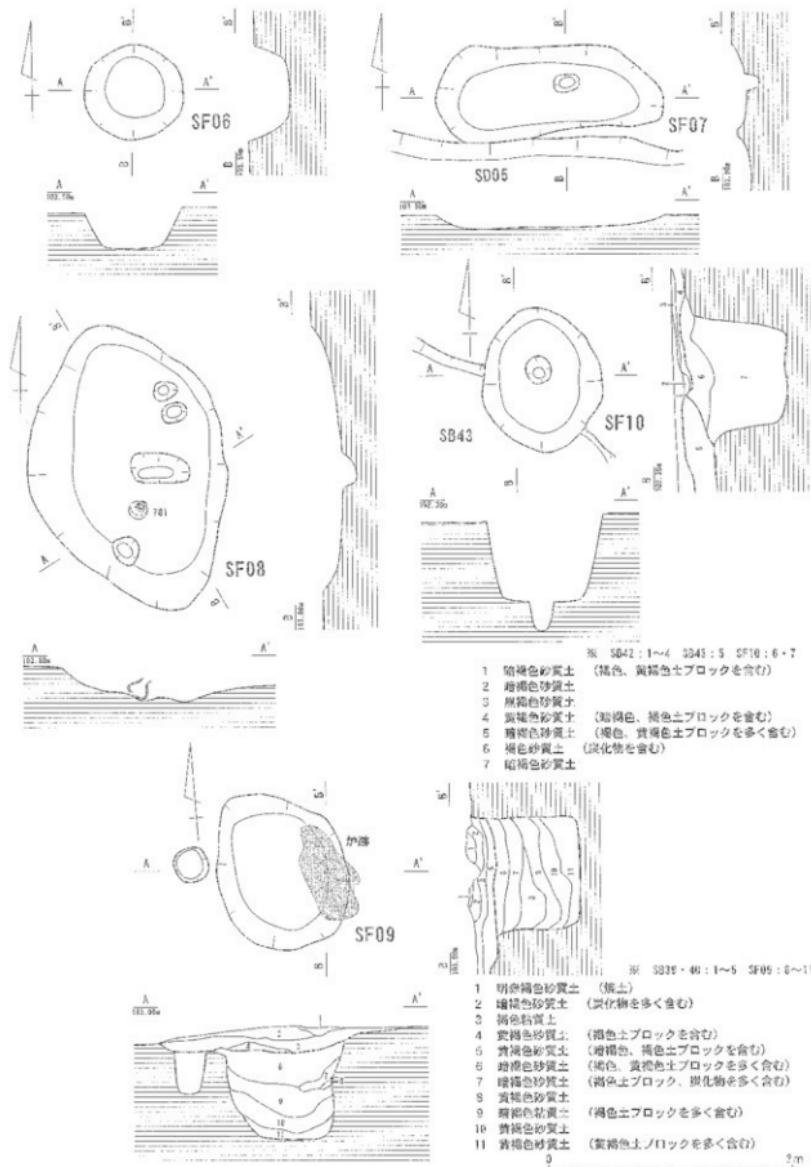
SF08は、出土遺物から弥生時代後期頃の遺構であると判断できる。ただし、不整形で浅い形状を呈しており、その性格などは明確にできない。SF14は細長く浅い土坑であり、壁面に被熱が認められる。しかし、時期・機能などは不明である。SF19やSX01・03・09の時期・性格なども判断し難い。

第5表 土坑・不明遺構一覧

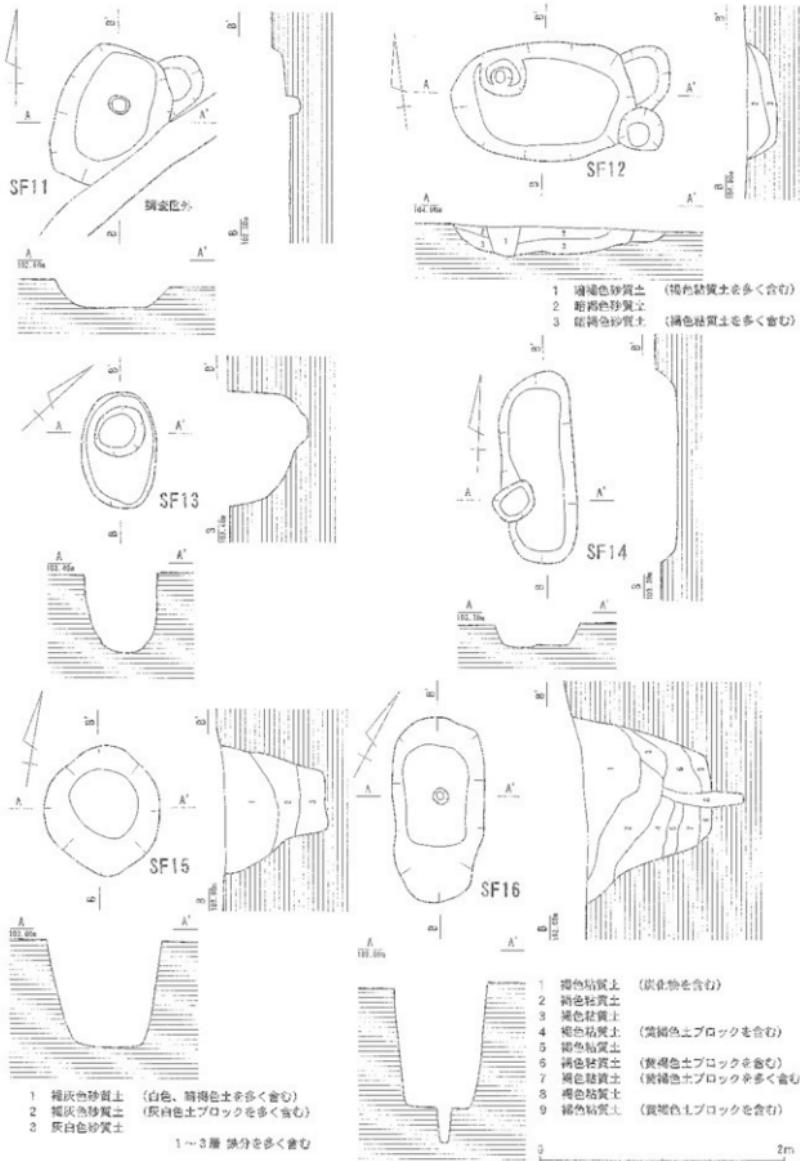
遺構 名	グリ ッド (m)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	深さ (m)	備考	遺構 名	グリ ッド (m)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	深さ (m)	備考									
SF01	△ 4.4	1.40	1.28	0.93	落し穴	SF12	F 9	1.44	0.98	0.25	落し穴?	SF22	E 23	1.80	—	—	0.98	倒木痕?		
SF02	△ 5.5	1.28	1.15	1.26	落し穴	SF13	H 8	0.96	0.80	0.06	落し穴?	SX03	I 6	2.00	1.74	0.25	—	—		
SF03	△ 4.4	1.18	1.00	1.60	落し穴	SF14	I 8	1.60	0.60	0.20	堅穴施設	SX07	D 11	—	—	—	0.30	柱穴?		
SX04	E 5	1.12	0.94	1.06	落し穴	SX15	I 7	1.05	0.96	0.89	落し穴	SX09	P 15	2.00	0.60	0.21	—	—		
SX05	E 6	1.00	0.98	0.76	落し穴	SF16	J 0	1.51	0.96	1.30	落し穴	SX04	E 10	3.30	3.00	0.95	—	方墳の蓋穴施設?		
SX06	C 6	0.88	0.76	0.33	落し穴?	SF17	H 11	1.18	0.82	0.07	落し穴	SX05	E 10	7.20	1.98	0.51	—	250mE切6E6N。		
SF07	E 7	1.05	0.79	0.72	落し穴?	SF18	H 11	1.62	1.30	0.68	落し穴?	SX06	C 9	—	—	0.28	—	柱穴?		
SF08	G 6	2.42	1.93	0.20	—	SF19	I 6	1.02	0.65	0.48	—	SX07	C 10	—	—	0.45	—	倒木痕?		
SX09	K 5	1.40	1.10	0.99	落し穴	SF20	G 17	1.10	0.40	0.02	落し穴?	SX08	P 21	—	—	0.11	—	倒木痕?		
SX10	I 5	1.26	1.02	1.06	落し穴	SF21	D 20	2.62	2.35	0.69	土器の痕跡	SX09	P 16	2.24	1.00	0.39	—	—		
SF11	Z 6	1.35	0.90	1.34	落し穴															



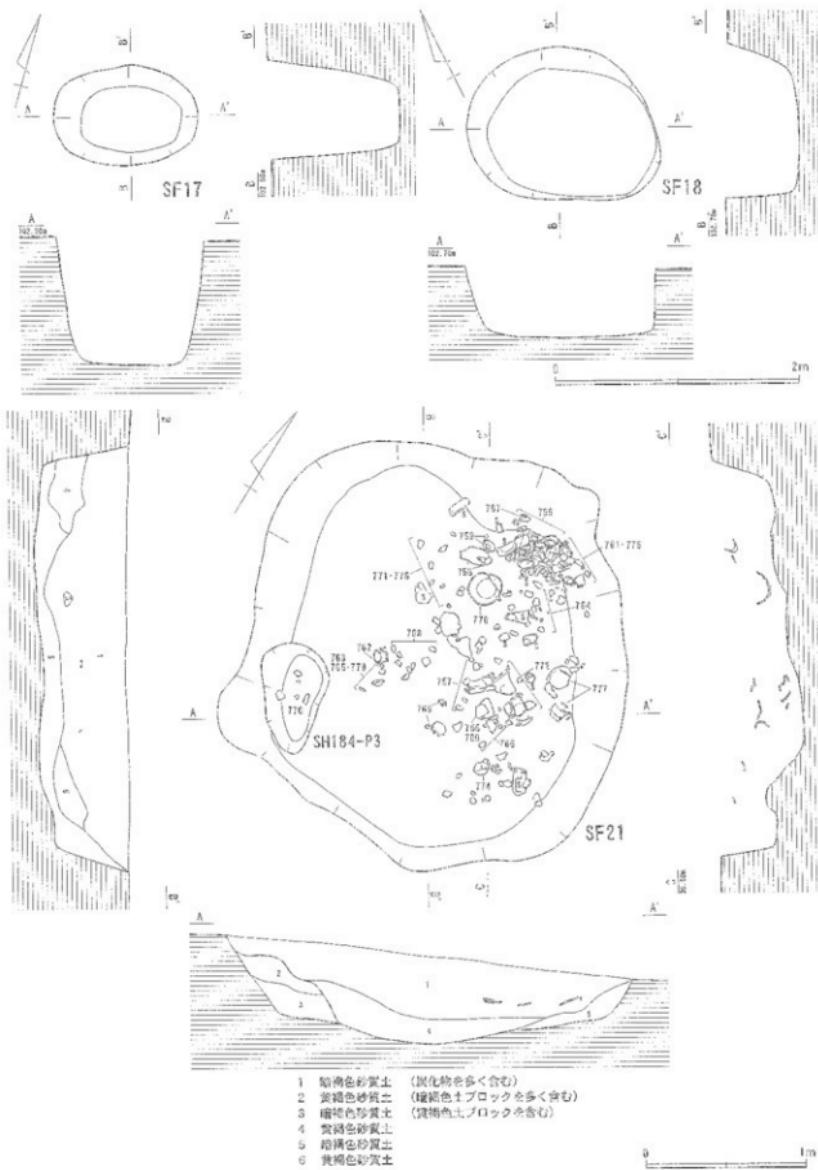
第249図 SF01～SF05



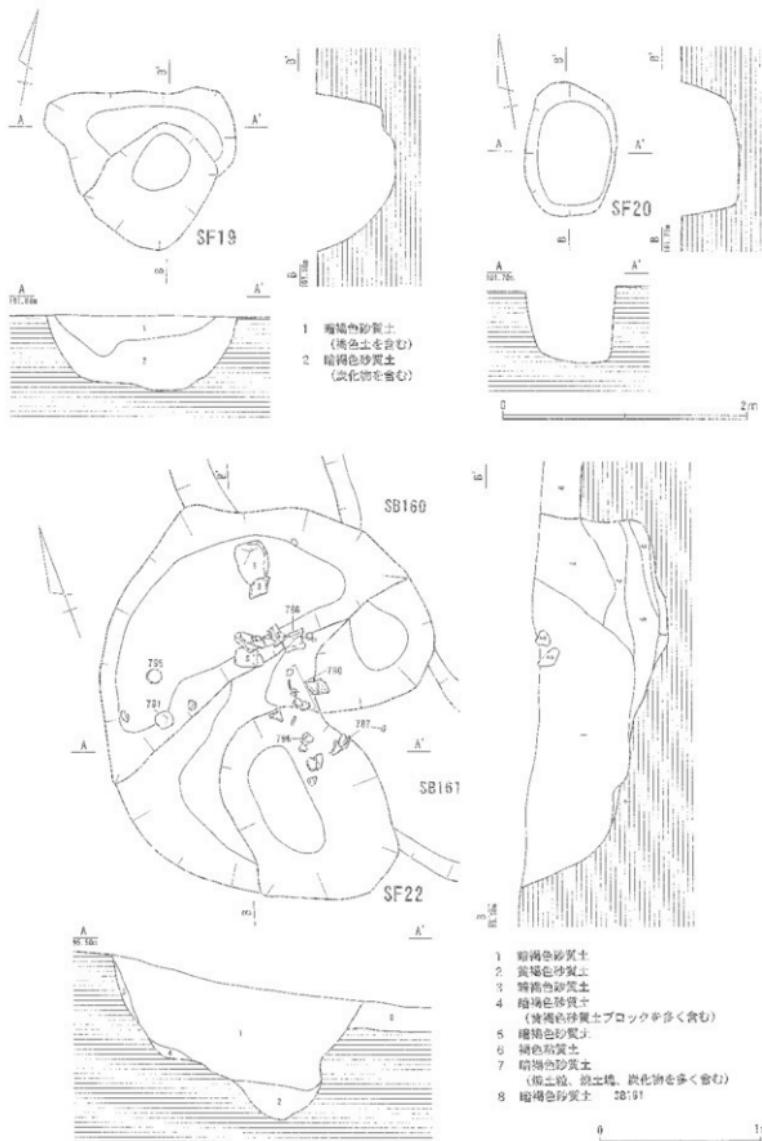
第250図 SF06~SF10



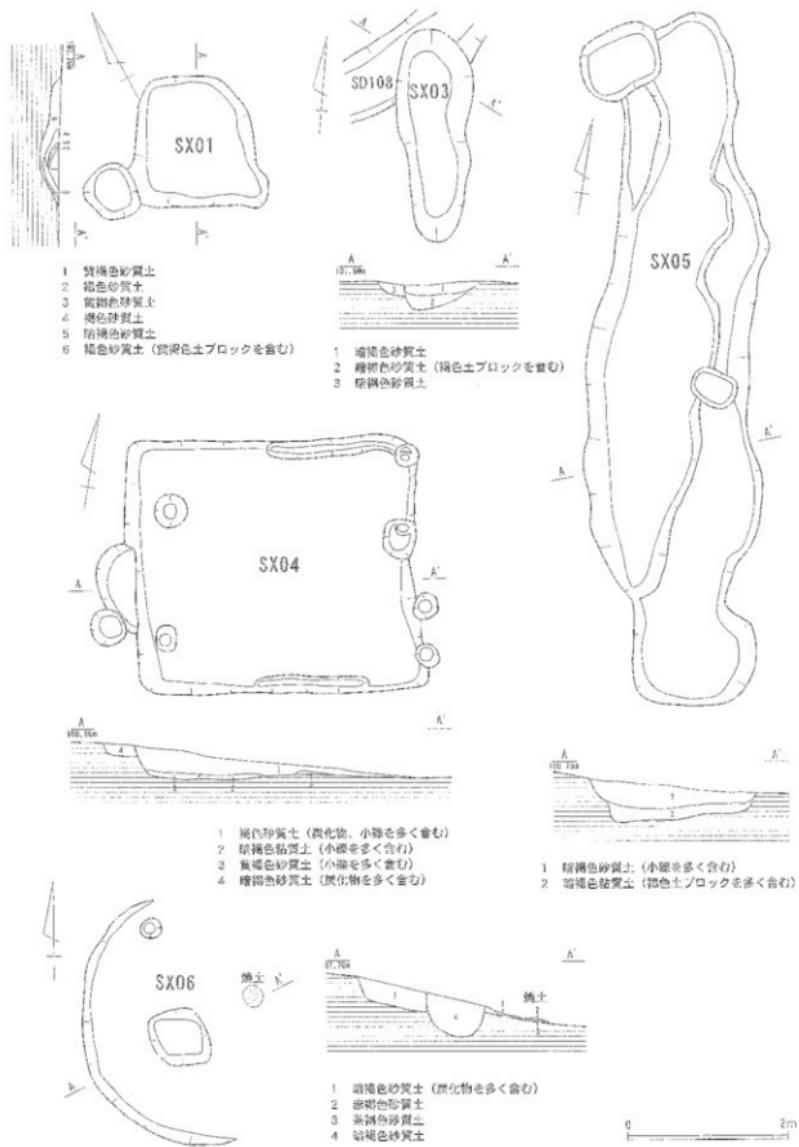
第251図 SF11~SF16



第252図 SF17, SF18, SF21



第253図 SF19, SF20, SF22



第254図 SX01, SX03~SX06

第5節 方形周溝墓

E・F10グリッド付近において、方形にめぐる周溝が南北に2つ並ぶ（北：SZ01、南：SZ02）。

これらの溝を周溝とする住居跡は認められない。削平のために住居跡が消失した可能性もあるが、周溝が深く断面U～V字形になる場所がある点、整った形状の方台部をつくっている点などは、周囲に分布する住居跡に伴う周溝とは異なる特徴である。以上から、SZ01・SZ02は住居跡ではなく、方形周溝墓の周溝である可能性が評価できる。

（1）SZ01（第255・256図）

周溝 方形にめぐる溝の西辺と南辺、東辺南半を検出した。北辺から東辺北半は、崩落した斜面になっている。周溝を含む規模は東西最大16.8m、南北最大16.4m、主軸はほぼ方位に沿う。検出範囲において、周溝が途切れる事はない。ただし、斜面の崩落や削平などによって消失した可能性が高い未検出範囲において、溝が途切れる場所があった可能性は否定できない。

溝の幅は0.6～3.2m、深さは0.3～1.0mである。西辺南半が最も深く、そこから南辺・東辺へは徐々に浅くなる。逆に、西辺北半へは段を伴って浅くなる。覆土は自然堆積によるものと判断でき、故意に埋め戻されたとする根拠は得られない。下層では多くの土器が出土している。底部穿孔・胴部穿孔は認められないが、口縁部を欠く壺が目立つ。その他、石器、骨片やガラス質の滓などの出土があった。

方台部 周溝底面の内側によって把握できる方台部の規模は、東西約12.7m、南北約14.7mである。方台部上には多くの住居跡が認められるが、SZ01周溝との切り合いが多く、主軸方向が北西や北東に傾くことから、SZ01に関連する遺構ではないと判断できる。地形や住居跡の残存状況などから、埋葬施設などのSZ01に伴う方台部上の遺構については、削平によって消失している可能性が指摘できる。

時期 出土土器には菊川様式新段階～最新段階に位置づけできるものが多い。ただし、古式土器型であると明確に判断できる土器の出土はない。西辺からは縄文時代の遺物が多く出土しているが、部分的に流入したものと判断できる。以上から、SZ01は弥生時代後期後葉～末葉の周溝墓である可能性が高い。なお、住居跡や建物跡を全て切るが、SZ02には切られている。

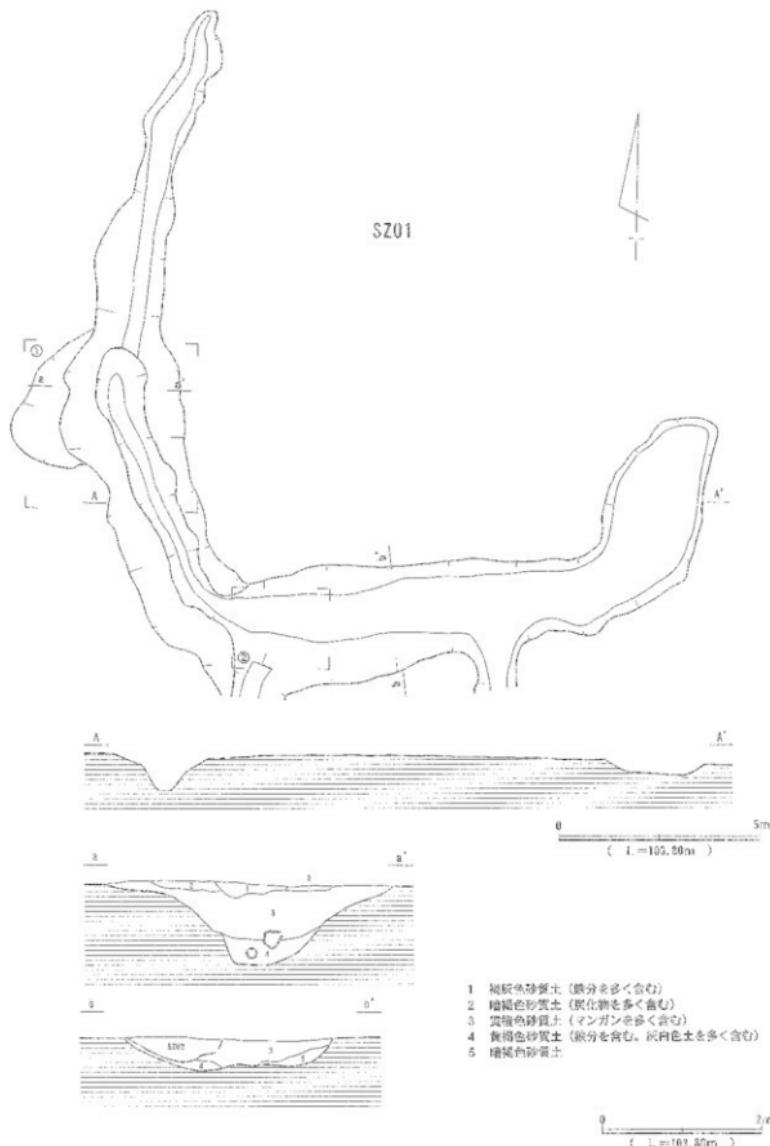
（2）SZ02（第257図）

周溝 方形にめぐる溝のはば全体が残る。周溝を含む規模は東西最大7.4m、南北最大8.1mである。主軸方向は、概ね方位に沿う。南東隅で溝が途切れている。溝の罐部が明確に立ち上がることから、本来より南東隅は途切っていた可能性が高い。南西隅は途切れないと、幅が狭くなり、浅くなる。北西隅は幅が狭くなるが、浅くはない。

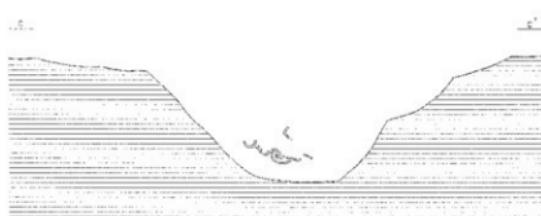
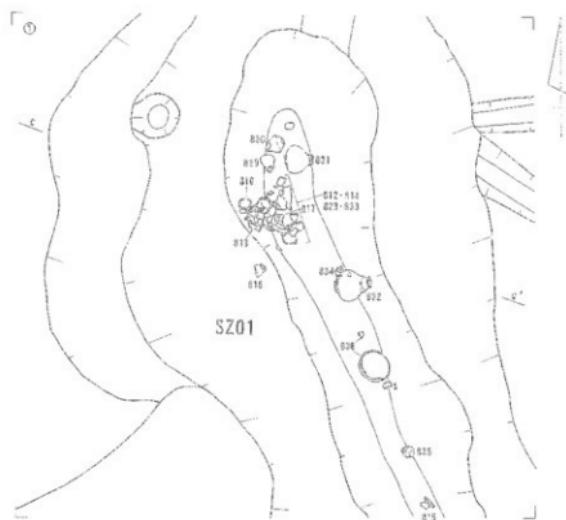
東西辺および北辺の深さは概ね一定であるが、浅くなる南西隅を介して南辺に至ると深くなる。南辺の深さは約0.8m、その他の深さは0.3～0.5mである。覆土は自然堆積によるものと判断できる。溝内からは土器、石器、骨片、ガラス質の滓などが出土している。土器の出土は南辺が比較的多い。

方台部 周溝底面の内側によって把握できる方台部の規模は、東西約5.6m、南北5.6～6.6mである。方台部上には柱穴が多く分布するが、SZ02に関連する遺構はない。地形や周辺遺構の残存状況から、埋葬施設などのSZ02に伴う方台部上の遺構については、削平によって消失した可能性が指摘できる。

時期 出土土器は少ないが、菊川様式に該当する土器片で概ね占められる。縄文時代の遺物も出土しているが、部分的に流入したものと判断できる。以上から、SZ02は弥生時代後期後葉～末葉の周溝墓である可能性が高い。なお、建物跡やSZ01を切っている。

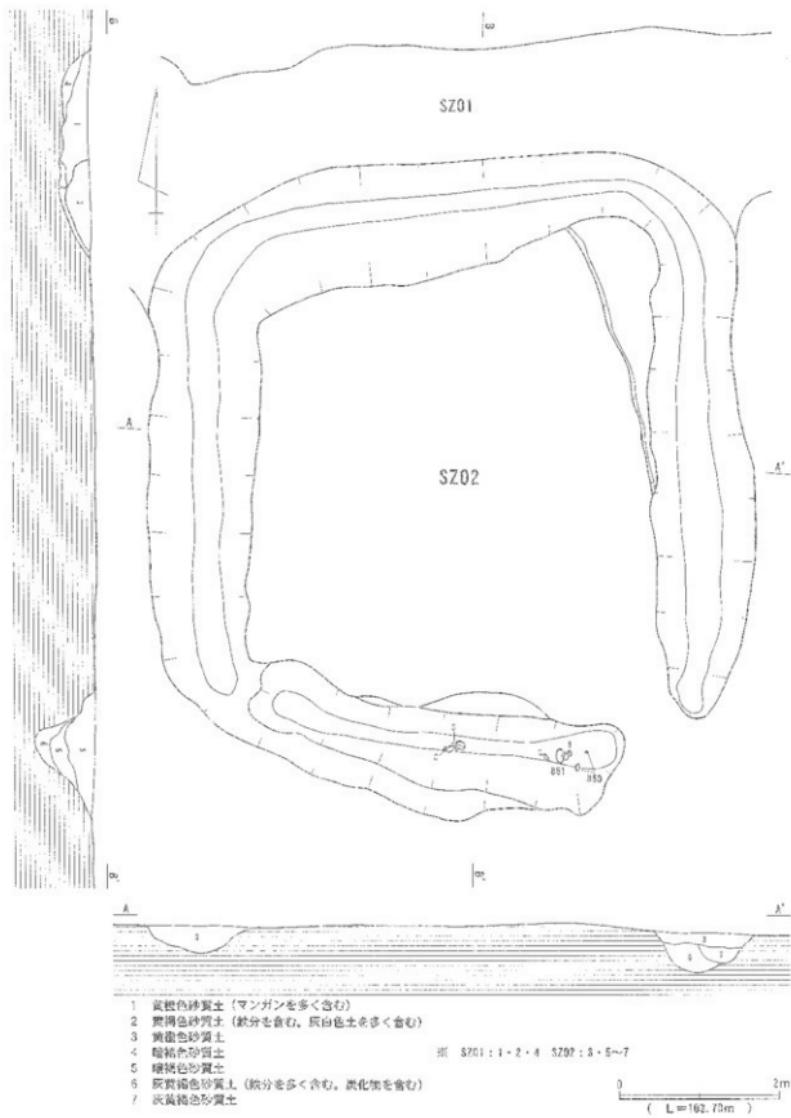


第255図 SZ01



$$\text{Scale: } 1 \text{ cm} = 193.39 \text{ m}$$

第256圖 SZ01遺物出土狀況



第257圖 SZ02

報告書抄録

ふりがな	うえのたいらいせき					
書名	上ノ平遺跡					
調査名	第二東名建設事業に伴う静岡文化財発掘調査報告書					
登次	掛川市-2(第1分野)					
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告					
シリーズ番号	第187集					
著者名	田村隆人郎(編集)、西井 幸					
叢書機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所					
所在地	〒422-8002 静岡県掛川市駿河区谷口23-20 TEL 054-262-4261(代)					
発行年月日	2008年3月31日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 近隣番号	経緯度(世界測地系) 北緯 東經	調査期間	調査面積	調査原因
うえのたいらいせき 上ノ平遺跡	静岡県掛川市 守島字上ノ平	22213	31 34° 49' 45"	137° 57' 21"	200604~ 200605 13,900m ²	道路建設(第二 東名建設に伴う 埋蔵文化財発掘 調査)
所取遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
上ノ平遺跡	集落	縄文時代中期	住居跡1、土坑(落し穴) 17	縄文土器、石器51、石錐 1、石砲4、スクレーパー 4、楔形石器1、石核1、 石斧2、円盤形石器1	符號と生活の 痕跡	
	集落	弥生時代後期 ~ 古墳時代前期	窓穴住居跡10、周溝をも つ遺物跡44、掘立柱建物 跡177、土坑など4、小穴、 溝、方形周溝墓2	弥生土器、土解器、石器 3、石斧5、石錐4、鐵 石10、磨石3、燧石8、 石器1、管玉1、小玉5	追跡密度の高 い居住域跡	
	集落	古墳時代終末期~ 奈良時代	掘立柱遺物跡3	土師器、須恵器	施物設置の可 能性	
	散布地	平安時代~ 鎌倉時代		灰陶陶器、山茶碗		
	散布地	江戸時代		かわらけ		
要約	<p>原野谷川上流域の丘陵上に立地する、弥生時代後期前葉から古墳時代前期に至る集落跡である。調査は、遺跡の北部を対象とする。調査区内の地形は中央の谷をはさんで東西に分かれる。</p> <p>弥生時代後葉前葉に、排水溝をもつ構造長方形の竪穴住居跡と小型の掘立柱建物によって集落がはじまる。弥生時代後期後葉になると、住居は周溝をもつ遺物が主体となり、掘立柱建物は大型化する。古墳時代前期になると、住居は方形の竪穴住居跡になり、住居跡が痕跡に限定されるようになる。古墳時代直前に受けられた方形周溝墓2基との関連によって、集落構造が変化したものと把握することができる。</p> <p>遺跡の広さや構築数・複数、形成期間の長さなどから、原野谷川上流域における主要集落として位置づけることができる。また、周溝をもつ焼物や大型掘立柱建物などは、丘陵上の集落としては特徴的であるといえる。さらに、住居構造や無蓋構造における変遷過程や、分布の埋立柱建物跡や鉄石斧の管玉などから、原野谷川流域を越えた社会的動向との関連を把握することができる。</p>					

静岡県埋蔵文化財調査研究所備考報告 第187集

上ノ平遺跡

第二東名高速事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

掛川市 - 2 (第1分冊)

平成20年3月31日

編集・発行 財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422-8002 静岡県掛川市駿河区谷田23-20
TEL (054) 262-4261㈹
FAX (054) 262-4266

印刷所 松本印刷株式会社
〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL (0548) 32-0851㈹

